

高岡市埋蔵文化財調査報告 第23冊

下佐野遺跡調査報告Ⅱ

— 県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査 —

2011年3月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査報告 第23冊

下佐野遺跡調査報告Ⅱ

—県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査—

2011年3月

高岡市教育委員会

序

下佐野遺跡は、高岡市市街地南西部の佐野地区に所在します。

周辺は庄川水系が形成した扇状地の末端にあたり、集落等の形成に適した佐野台地と、肥沃な耕地とにより構成されています。

我々の祖先が、この地に最初に生活の痕跡を残したのは縄文時代の後期とみられます。弥生時代中期からは継続的な生活の痕跡がみとめられ、多くの遺跡が集中します。

このたび報告をしますのは、県道高岡環状線の建設にともない調査をした、下佐野遺跡の発掘調査成果です。弥生時代の首長墓にも採用される方形周溝墓をはじめ、古代の掘立柱建物や井戸などを検出しています。

本書を郷土における歴史探求や学術研究にご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、発掘調査の実施にご協力いただきました、関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

高岡市教育委員会

教育長 水見 哲正

例　言

1. 本書は、主要地方道高岡環状線の建設にともなう、下佐野遺跡の発掘調査報告である。
2. 調査主体者は、富山県高岡土木センターから委託を受けた高岡市教育委員会である。
3. 試掘調査については、平成15年度に高岡市教育委員会直営にて実施した。
4. 屋外本発掘調査は、高岡市教育委員会による監理のもと、株式会社人間文化都市研究所が業務委託により平成16年度に実施した。また、平成18年度には有限会社毛野考古学研究所に業務委託し、上記の補足のため確認調査を行った。
5. 整理調査及び報告書作成作業は平成19年度より実施した。19年度から21年度までは高岡市教育委員会の監理のもと、株式会社エイ・テックが遺構図版等を作成した。同様に、22年度においては株式会社アーキジオに業務委託し、遺物図版のほか、報告書原案等の作成を実施した。

凡　例

1. 本書に掲載した遺構図の方位は座標北であり、水平基準は海拔高である。
2. 座標は世界測地系を使用した。
3. 本書においては、各遺構に対し次のような記号を付してその種別を表した。

S A : 樹　　S B : 捄立柱建物　　S D : 溝状遺構　　S E : 井戸　　S K : 土坑
S X : 凹地及び性格不明遺構　　S Z : 方形周溝墓

4. 遺構図における平面図及び土層断面図の縮尺は、それぞれの図版に記載している。

高岡市埋蔵文化財調査報告第23冊

下佐野遺跡調査報告Ⅱ

目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 周辺地域の概要等

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 周辺の環境	1
第3節 周辺の遺跡	3

第2章 遺跡の概要と過去の発掘調査歴

第1節 下佐野遺跡の概要	8
第2節 下佐野遺跡における既往の調査成果	8

第3章 調査の概要

第1節 概要	18
第2節 遷構	20
第3節 遺物	32

第4章 まとめ	40
---------	----

参考・引用文献

图面目次

图面 01 遗構実測図	調査地区全体図
图面 02 遺構実測図	1区全体図
图面 03 遺構実測図	2区全体図
图面 04 遺構実測図	3区・4区全体図
图面 05 遺構実測図	調査地区遺構配置図
图面 06 遺構実測図	調査地区遺構図〔1〕
图面 07 遺構実測図	調査地区遺構図〔2〕
图面 08 遺構実測図	調査地区遺構図〔3〕
图面 09 遺構実測図	調査地区遺構図〔4〕
图面 10 遺構実測図	調査地区遺構図〔5〕
图面 11 遺構実測図	調査地区遺構図〔6〕
图面 12 遺構実測図	方形周溝墓 S Z01 実測図
图面 13 遺構実測図	方形周溝墓 S Z02 実測図
图面 14 遺構実測図	方形周溝墓 S Z03 実測図
图面 15 遺構実測図	掘立柱建物 S B01・05 実測図
图面 16 遺構実測図	掘立柱建物 S B02・03 実測図
图面 17 遺構実測図	掘立柱建物 S B04・06 実測図
图面 18 遺構実測図	掘立柱建物 S B07 実測図
图面 19 遺構実測図	掘立柱建物 S B08・09 実測図
图面 20 遺構実測図	掘立柱建物 S B10・11、横 S A01 実測図
图面 21 遺構実測図	横 S A02～04、井戸 S E01～03 実測図
图面 22 遺構実測図	土坑実測図〔1〕：S K01～08
图面 23 遺構実測図	土坑実測図〔2〕：S K09～17
图面 24 遺構実測図	土坑実測図〔3〕：S K18～23
图面 25 遺構実測図	土坑実測図〔4〕：S K24～35
图面 26 遺構実測図	土坑実測図〔5〕：S K36～47
图面 27 遺構実測図	土坑実測図〔6〕：S K48～57
图面 28 遺構実測図	土坑実測図〔7〕：S K58～67
图面 29 遺構実測図	土坑実測図〔8〕：S K68～78
图面 30 遺構実測図	土坑実測図〔9〕：S K79～90
图面 31 遺構実測図	土坑実測図〔10〕：S K91～102
图面 32 遺構実測図	溝状遺構実測図〔1〕：S D02～06
图面 33 遺構実測図	溝状遺構実測図〔2〕：S D02
图面 34 遺構実測図	溝状遺構実測図〔3〕：S D08～09
图面 35 遺構実測図	溝状遺構実測図〔4〕：S D17～18・21
图面 36 遺構実測図	溝状遺構実測図〔5〕：S D22～23・25
图面 37 遺構実測図	溝状遺構実測図〔6〕：S D27～28・33
图面 38 遺構実測図	溝状遺構実測図〔7〕：S D32～35～37・39・40

図面 39	遺構実測図	溝状遺構実測図〔8〕: S D41
図面 40	遺構実測図	溝状遺構実測図〔9〕: S D42・44~47
図面 41	遺構実測図	溝状遺構実測図〔10〕: S D49~51・53・54
図面 42	遺構実測図	凹地 S X02 実測図
図面 43	遺構実測図	凹地 S X03 実測図
図面 44	遺物実測図	弥生時代
図面 45	遺物実測図	弥生時代
図面 46	遺物実測図	弥生時代・古墳時代・古代
図面 47	遺物実測図	古代
図面 48	遺物実測図	古代
図面 49	遺物実測図	古代
図面 50	遺物実測図	古代
図面 51	遺物実測図	古代
図面 52	遺物実測図	古代
図面 53	遺物実測図	古代・中世
図面 54	遺物実測図	中世
図面 55	遺物実測図	中世
図面 56	遺物実測図	中世・近世
図面 57	遺物実測図	木製品

図版目次

図版 01	遺構写真	1. 大遠景 南 2. 遠景 北西
図版 02	遺構写真	1. 調査地区全景 直上 2. 1区全景 直上
図版 03	遺構写真	1. 2区全景 直上 2. 3・4区全景 直上
図版 04	遺構写真	1. 1区検出状況 東南東 2. 1区検出状況 西西南
図版 05	遺構写真	1. 1区掘削状況 南西 2. 1区掘削状況 東南東
図版 06	遺構写真	1. 2区検出状況 西西北 2. 2区検出状況 東南東
図版 07	遺構写真	1. 2区掘削状況 東南東 2. 2区掘削状況 北西
図版 08	遺構写真	1. 3区検出状況 北西 2. 4区検出状況 南東
図版 09	遺構写真	1. 3・4区掘削状況 北西 2. 3・4区掘削状況 東南東

- 図版 10 遺構写真 1. 方形周溝墓 S Z01 挖削状況 北東
2. 方形周溝墓 S Z01 挖削状況 北西
- 図版 11 遺構写真 1. 方形周溝墓 S Z02 検出状況 東南東
2. 方形周溝墓 S Z02 検出状況 西北西
- 図版 12 遺構写真 1. 方形周溝墓 S Z02 挖削状況 西北西
2. 方形周溝墓 S Z02 挖削状況 北西
- 図版 13 遺構写真 1. 方形周溝墓 S Z03 検出状況 北東
2. 方形周溝墓 S Z03 検出状況 南
- 図版 14 遺構写真 1. 方形周溝墓 S Z03 挖削状況 北西
2. 方形周溝墓 S Z03 挖削状況 南
- 図版 15 遺構写真 1. 据立柱建物 S B01 完掘状況 北
2. 据立柱建物 S B01 完掘状況 北東
- 図版 16 遺構写真 1. 据立柱建物 S B04 検出状況 北東
2. 据立柱建物 S B04 完掘状況 北東
- 図版 17 遺構写真 1. 据立柱建物 S B05・06 検出状況 北東
2. 据立柱建物 S B05 完掘状況 北東
- 図版 18 遺構写真 1. 据立柱建物 S B07 完掘状況 南東
2. 据立柱建物 S B08 完掘状況 南東
- 図版 19 遺構写真 1. 井戸 S E01~03 完掘状況 東
2. 井戸 S E01~03 断ち割り状況 北東
- 図版 20 遺構写真 1. 井戸 S E01 完掘状況 北東
2. 井戸 S E02 遺物出土状況 北
- 図版 21 遺構写真 1. 土坑 S K07 完掘状況 南
2. 土坑 S K14 完掘状況 北
- 図版 22 遺構写真 1. 土坑 S K18 完掘状況 北
2. 土坑 S K18 完掘状況 北東
- 図版 23 遺構写真 1. 土坑 S K18 遺物出土状況 南南東
2. 土坑 S K18 遺物出土状況 東南東
- 図版 24 遺構写真 1. 土坑 S K73 完掘状況 西
2. 土坑 S K74 完掘状況 西
3. 土坑 S K76 完掘状況 西
- 図版 25 遺構写真 1. 溝状遺構 S D02・05・06 挖削状況 北東
2. 溝状遺構 S D05~09、土坑 S K08 完掘状況 北東
- 図版 26 遺構写真 1. 溝状遺構 S D02 墓確認状況 北西
2. 溝状遺構 S D02 墓近景 北西
3. 溝状遺構 S D02 墓近景 北
- 図版 27 1. 溝状遺構 S D01 遺物出土状況 東
2. 溝状遺構 S D32 遺物出土状況 南東
3. 溝状遺構 S D51 遺物出土状況 南東

図版 28

1. ピット P01 遺物出土状況 北西
2. ピット P02 遺物出土状況 南
3. ピット P03 遺物出土状況 北北西

図版 29 遺構写真

1. 凹地 S X03 全景 西北西
2. 凹地 S X03 全景 東南東

図版 30

1. 溝状遺構 S D32 遺物出土状況 北西
2. 凹地 S X03 遺物出土状況 南
3. 凹地 S X03 遺物出土状況 北北西

図版 31

1. 作業風景 東
2. 作業風景 東
3. 作業風景 西北西

図版 32 遺物写真 弥生時代

図版 33 遺物写真 弥生時代・古墳時代・古代

図版 34 遺物写真 古代

図版 35 遺物写真 古代

図版 36 遺物写真 古代

図版 37 遺物写真 古代

図版 38 遺物写真 古代

図版 39 遺物写真 古代

図版 40 遺物写真 古代

図版 41 遺物写真 古代

図版 42 遺物写真 古代

図版 43 遺物写真 古代

図版 44 遺物写真 古代・中世

図版 45 遺物写真 中世

図版 46 遺物写真 中世

図版 47 遺物写真 中世・近世

図版 48 遺物写真 木製品

挿図目次

第1図 庄川脛状地の地積地図

第2図 周辺遺跡

第3図 高岡市の遺跡

第4図 下佐野遺跡の過去の調査区

- 第5図 下佐野遺跡各調査区 1
第6図 下佐野遺跡各調査区 2
第7図 下佐野遺跡各調査区 3
第8図 下佐野遺跡各調査区 4
第9図 下佐野遺跡各調査区 5
第10図 下佐野遺跡出土の弥生～古墳時代初頭の土器
第11図 基本層序
第12図 時代別遺構配置図
第13図 方形周溝墓概略図 1
第14図 方形周溝墓概略図 2
第15図 掘立建物群概略図
第16図 出土遺物の時期区分表
第17図 方形周溝墓

挿表目次

- 第1表 遺跡一覧
第2表 過去の調査区一覧表

別表目次

- 別表1 遺構一覧表
別表2 遺物観察表

第1章 周辺地域の概要等

第1節 調査にいたる経緯

平成15年度、富山県高岡土木センターより県道高岡環状線の建設にかかる埋蔵文化財包蔵地の照会が高岡市教育委員会に打診された。しかし、当該地は下佐野遺跡の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、協議の結果、同年度に約30,000m²の試掘調査を実施することで合意した。

その結果、弥生時代や古代をはじめとする遺構や遺物が検出されたため、両者間の協議により、翌年度以降に本発掘調査を実施することで合意がなされ、平成16年度にこれを行った。

屋外本発掘調査については、高岡市教育委員会の監理のもと、株式会社人間文化都市研究所に業務委託し作業を行った。しかし、調査天候等の影響を受け十分な調査を実施できなかつたため、18年度には毛野考古学研究所に業務委託をし、可能な限りの確認調査を行い上記の補足につとめ、これにより本件にかかる全ての屋外発掘調査を終了した。

なお、整理調査については、一部を屋外発掘調査等と並行し実施してきたが、19年度以降に本格的な作業を再開し、22年度事業をもって本番作成にいたった。

第2節 周辺の環境

下佐野遺跡の立地

下佐野遺跡の所在する高岡市街地南西は、庄川水系により形成された扇状地と、東西を北流する千保川と祖父川により浸食・形成された標高約10~20mを呈する「佐野台地」からなる。

同台地上には、下佐野遺跡を含む複数の遺跡が密集して一つの遺跡群を形成する。存続年代としては、いまのところ縄文時代後期が最古となる。続いて弥生時代中期後半の様相が根を下ろし、以後、継続的に各時代の様相が展開され今日に至る。

なお、下佐野遺跡については、当初に弥生時代後期の遺物が出土したことから、近隣に所在する石塚遺跡との対比もあり弥生時代後期の遺跡としての印象が強かったようである。しかし、近年における大規模発掘調査の成果により、複数の様相が重層的に展開される複合遺跡であることが判明している。ことに古代においては官衙的な様相も所在したことが判明しており、上記のように遺跡群としての把握が必要な状況にあるといえる。

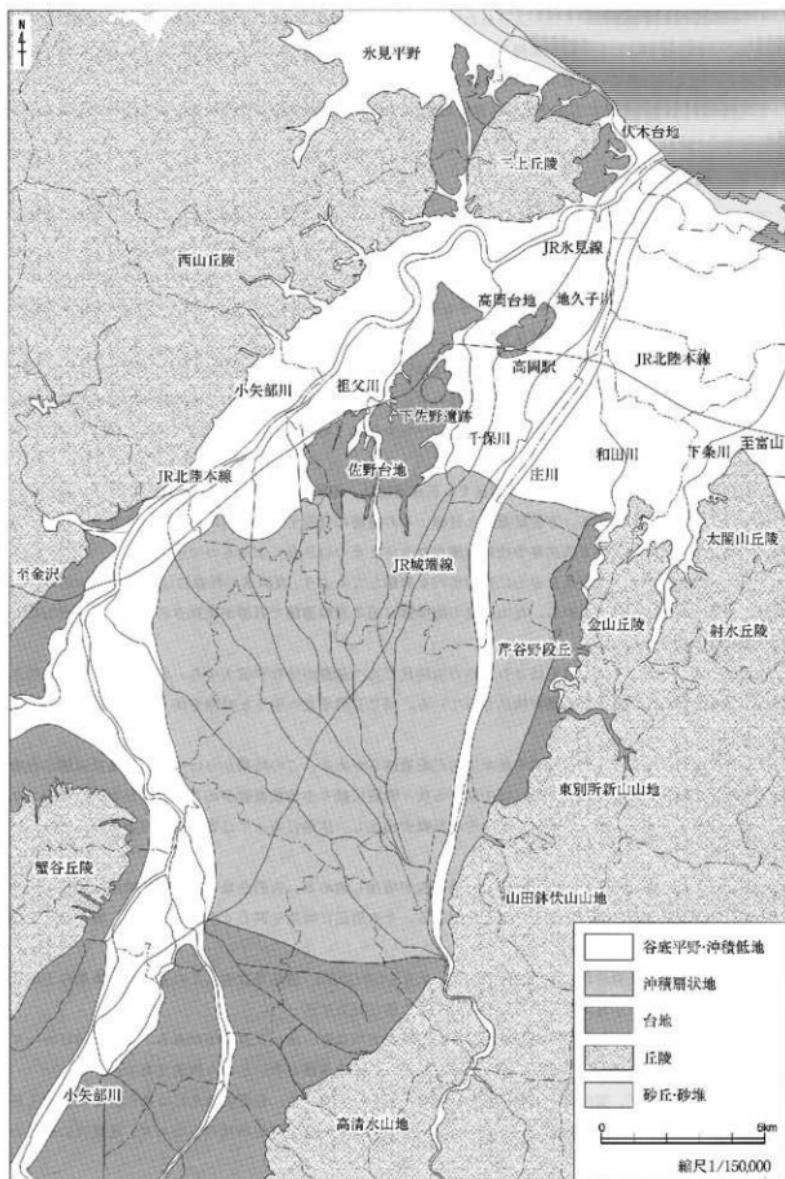
下佐野遺跡周辺の地理的環境

飛騨高地の中央部、岐阜県高山市烏帽子岳(標高1,625m)を源とする庄川により形成された扇状地である。県内最大の規模をはかり、西側を流れる小矢部川はこの勢いに押され、西山丘陵の山麓線沿いを流れる。

庄川は、岐阜県から富山県に入り南砺市小牧付近で利賀川を合わせたち砺波平野に出て、射水市大門で和田川と合わせて日本海に注いでいる、延長115km、流域面積1,189km²の一級河川である。この川は、古来より、大洪水や大地震で幾度も流路を変え、扇状地に大小の流れが網の目のように広がり、川筋を残した。遺跡の東方を北流する千保川は、江戸時代までこの庄川の本流として豊富な水量を誇るものであった。

下佐野遺跡を含む石塚遺跡群の西方を流れる祖父川は、庄川と異なり庄川扇状地上の湧水を源とする。この祖父川と千保川(旧庄川)が長期にわたり大蛇を浸食し、佐野台地を形成する。

庄川扇状地扇端部には、下佐野遺跡の所在する佐野台地のほかにも高岡台地が存在する。



第1図 庄川扇状地の地形図

前者は東西を流れる河川により形成された標高10~20mの台地である。台地の中央を切る旧河道は、庄川層状地の旧河道と連続し庄川の旧流路を示している。また佐野台地は層状地の端部に位置するため湧水が豊富であり、台地縁辺部には伏流水による浸食谷が形成されている。

なお、千保川を挟む東側に形成される高岡台地は、佐野台地とは本来連続する台地であったと考えられる。

第3節 周辺の遺跡

下佐野遺跡の所在する佐野台地上には、図20及び3に示すとおり多くの遺跡が所在する。とりわけ弥生時代中期から古墳時代前期と、古代を中心とする計2時期における県内屈指の遺跡が集中する。

下佐野遺跡の西側では、弥生時代から古代にかけて営まれた石名瀬A遺跡や西佐野千代遺跡が所在する。北西側では縄文時代晩期と古墳時代後期~平安時代を中心とする泉ヶ丘遺跡がある。南側には弥生時代中期・後期と、古代の様相をもつ諏訪遺跡がある。

北側では東木津遺跡と一部隣接する。同遺跡は弥生時代から中世までの長期的様相が存続するが、古代を中心とし、木簡や墨書き器等、官衙的様相を窺わせる多量の遺物のほか、大型の掘立柱建物をはじめとする建物群が方位を擱え造営された。ちなみに、この一角からは「布忍（鄙）郷」と刻書された須恵器も検出されている。

下佐野遺跡から北西へ1kmの地点に所在する石塚遺跡は、昭和42年（1967）に発見された県下を代表する弥生時代中期の遺跡である。下佐野遺跡と同様、この遺跡の発見と研究は当時この地を主要なフィールドの一つとして活躍した高岡工芸高等学校地理歴史クラブとそのOB会によるものである。

さらに視線を広げて佐野台地を中心に高岡市内を俯瞰してみよう。高岡市の西側には150~300mの山々が連なる西山丘陵と平野部が広がる。西山丘陵の海岸線に迫る岩崎遺跡で石器が表採されているが、旧石器時代の遺跡数は希少である。

縄文時代になると、空白期間をはさむものの前時代に比べ遺跡の分布が拡大する。西山丘陵上には上野A遺跡があり前期後葉の遺物と遺構が検出されている。同じ丘陵を北へ沿うと時期を同じくする岩坪岡田島遺跡がある。

縄文時代中期になると、堂前遺跡や勝木原宮の前遺跡らがある。この時期からは庄川層状地端部の台地上にも遺跡が現れ始める。高岡台地には中期から後・晩期に統く小竹藪遺跡がある。この台地は低く小さな洪積層の段丘に過ぎないが、多数の土器片や石器類が出土し、高岡にあっては希少な縄文遺跡の代表格と評される。

しかしながら、縄文時代後・晩期になると遺跡数が増加し始める。佐野台地の最西端に晩期後葉から末葉の建物を伴う集落を検出した下老子並川遺跡がある。その周辺に時期を同じくする駒ケ遺跡、高田新芽遺跡、蓑島遺跡もある。

高岡台地北端には晩期前葉の中川遺跡がある。大正14年（1925）、道路建設中にこの遺跡から多数の土器片や石器類が出土したのが高岡における初めての縄文土器の発見であった。

他にも遺物の散布地としては、石塚精保遺跡、石塚江之戸遺跡、泉ヶ丘遺跡等がある。高岡市域にあっては縄文時代の遺跡は全般的に遺構が少なく、包含層からの出土遺物が多いという状況である。

高岡市域のみならず、富山県下の弥生時代は概ね中期から定着する。佐野台地上には富山県を代表する石塚遺跡がある。同遺跡は、昭和42年（1967）以来幾多の調査の結果、弥生時代のみならず、近現代にわたる様相が確認されている。

その他に、佐野台地上には中期後半頃の方形周溝墓が検出された石名瀬A遺跡、西佐野千代遺跡、荒見崎

北遺跡、後期後半の装飾器台を出土した藏野町東遺跡がある。また佐野台地西端には、縄文時代から弥生時代の移行期の建物や玉作集落等を検出した下老子篠川遺跡がある。

西山丘陵では、後期の土器溜まりを検出した石堤長光寺遺跡がある。小矢部川右岸には、多くの土器と木器と黒漆塗りの装飾付き木製短甲が出土した江尻遺跡がある。

古墳時代では、集落遺跡よりも数量的には古墳の占める割合が多くなる。広義としての西山丘陵には桜谷古墳群、城光寺古墳群、院内東横穴墓、板屋谷内B・C古墳群、頬川城ヶ平横穴墓群、古墳出現期とされる倉谷古墳群、馬場古墳群、下向田古墳群、上野古墳群、上五位神社古墳群等、他にも数多くの古墳が確認されている。概して円墳を主体とする群集墳や、横穴墓群も西山丘陵一帯には多く所在するが、集落遺跡の調査が少なく相関関係等の詳細は明らかではない。

なお、佐野台地では、石塚遺跡の北東部で前期から中期とみられる前方後方墳を含む古墳群が確認され、石名瀬A遺跡では古墳時代前期の堅穴住居などが、源訪遺跡や下黒田遺跡でも方形崩溝墓が検出されている。

古代になると遺跡が飛躍的に増加するようになる。佐野台地には、船着場とそれに伴う水路や倉庫群を検出し、古代水上交通の中繼点であると考えられた中保B遺跡がある。祖父川により二分される佐野台地の東方には東木津遺跡があり、両遺跡は官衙的様相を含むほか立地のうえでも対比される。

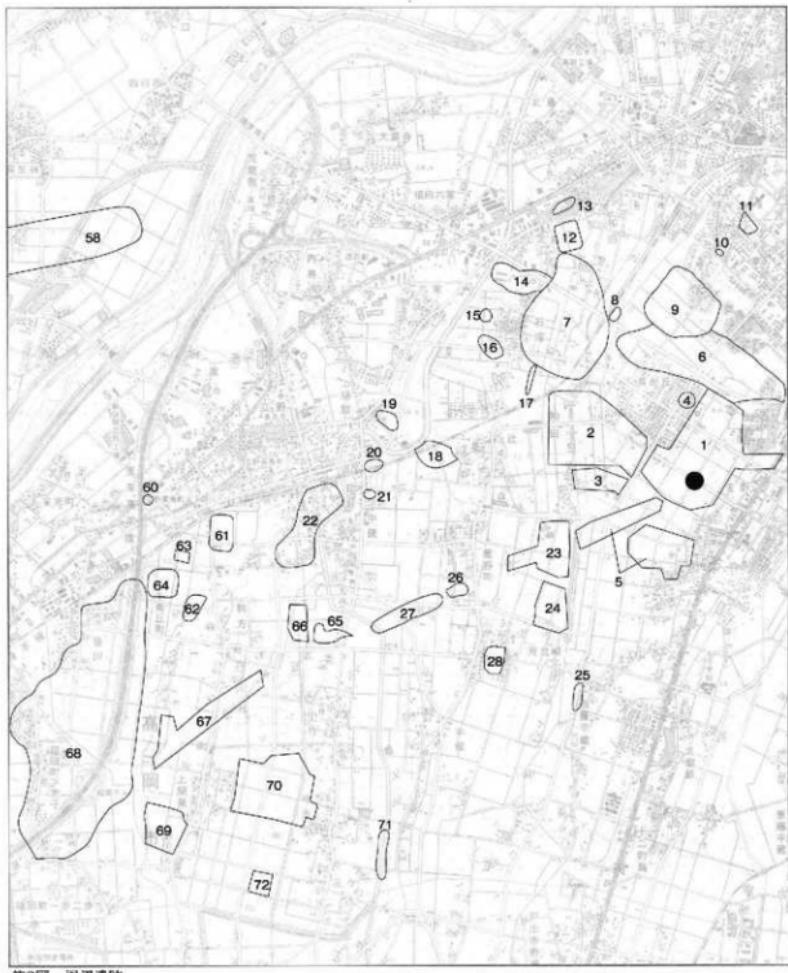
なおその他にも、小矢部川左岸では古代北陸道の川人（合）駅関連に比定する意見のある麻生谷遺跡や、延喜式段階の古代北陸道とされる道路遺構を検出した麻生谷新生園遺跡、東大寺領須加莊に比定する意見のある須田藤の木遺跡がある。伏木台地には、越中国府関連遺跡がある。

中世の遺跡は古代同様にはば全域でみられ、石黒氏が築城したといわれ天正地震(天正13年・1585)で崩壊した木舟城跡と、その城下町で16世紀後半の町屋群や堀闘連構等が検出された開軒大溝遺跡がある。西山丘陵周辺には岩坪岡田島遺跡や手洗野赤浦遺跡、守山城跡があるほか、山城や砦が分布する。

近世以降は加賀藩の支配下となり、高岡台地とその周辺には高岡城跡のほか、瑞龍寺遺跡、八丁道遺跡などがある。

時代が進むにつれて生活環境や様式が異なることで、西山丘陵沿いや庄川扇状地にある微高地、そして低地へと生活の場を広げている。そして次第に丘陵地と扇状地上で、墓域、生産地域、集落地域、山城などとして、土地を使い分けるようになってくる。

下佐野遺跡の所在する佐野台地は、この微高地を利用して多くの人々の活動の場となり、遺跡が多く展開している。縄文時代後・晚期、そして弥生時代以降、いまのところ微細な断続はあるとしても、地域全体としては連續と歴史的な様相が存続していたことがわかる。



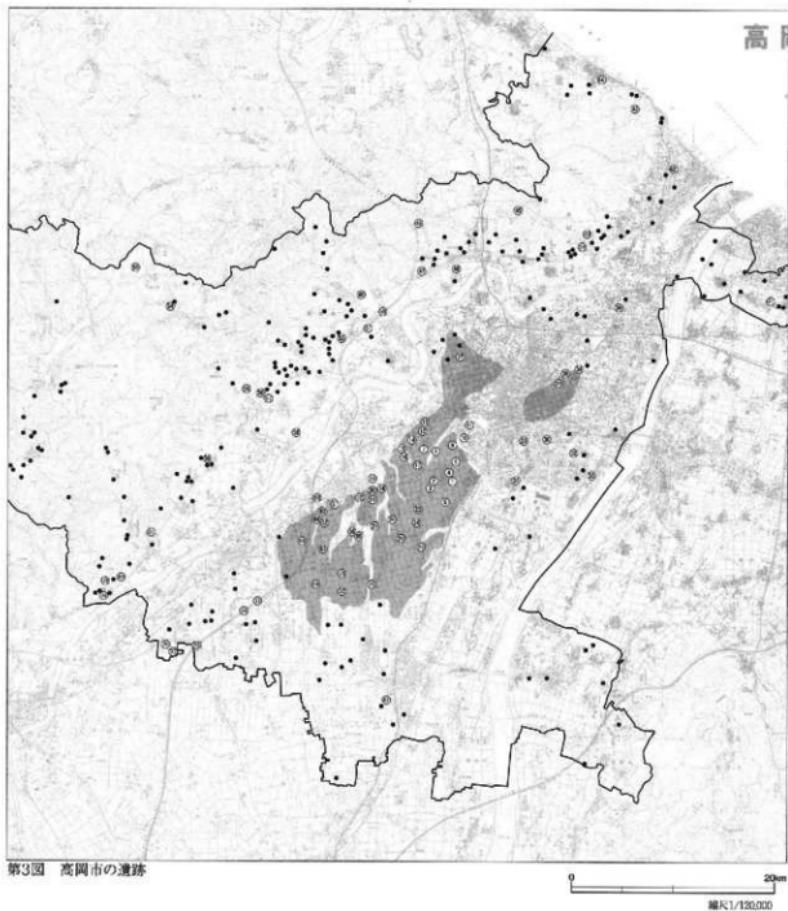
第2図 周辺遺跡

0 50 100m
縮尺1/30,000

精度±30cm

- | | | | |
|------------|-------------|------------|-------------|
| 1. 下佐野道跡 | 10. 西木津遺跡 | 19. 植谷遺跡 | 28. 荒見崎村内遺跡 |
| 2. 石名瀬A道跡 | 11. 北木津遺跡 | 20. 中保C道跡 | 58. 赤丸古村遺跡 |
| 3. 西佐野千代道跡 | 12. 上北島遺跡 | 21. 中保A道跡 | 60. 近世北陸道遺跡 |
| 4. 畜ヶ丘道跡 | 13. 下北島往古遺跡 | 22. 中保B道跡 | 61. 立野地頭田遺跡 |
| 5. 須訪道跡 | 14. 石塚江之戸遺跡 | 23. 汗南遺跡 | 62. 胸方道跡 |
| 6. 東木津道跡 | 15. 石塚五井田遺跡 | 24. 荒見崎北遺跡 | 63. 高田新宿後遺跡 |
| 7. 石塚道跡 | 16. 石塚納保遺跡 | 25. 西藤平藏遺跡 | 64. 高田新西後遺跡 |
| 8. 石名瀬B道跡 | 17. 石塚六方遺跡 | 26. 萩野町東遺跡 | 65. 小竹B道跡 |
| 9. 中木津道跡 | 18. 辻遺跡 | 27. 萩野町遺跡 | 66. 小竹C道跡 |

● 調査地点



第3図 高岡市の遺跡

0
20km
縮尺1/130,000

遺跡名	主な時代	種別	所在地	主な現状	備考
1 下村廻遊跡	伴生期、古墳前、古代、中世	集落	高岡市下村ほか	水田、宅地	
2 石名廻遊跡	伴生期、弥生後、古墳後、古代	聚落、散在地	西高岡石名郷	水田、宅地	
3 高佐廻遊跡	伴生期、弥生後、古墳後、古代	聚落、散在地	高岡市高佐代	水田、宅地	
4 烏ヶ丘遺跡	縄文後、古墳後、古代	散在地	西高岡烏ヶ丘	宅地	
5 銀原遺跡	古代、中世	散在地	高岡市銀原	水田、宅地	
6 大木津遺跡	伴生、古墳後、古代、中世	聚落、散在地	西高岡大木津ほか	水田、宅地	
7 井屋山遺跡	縄文後、古墳後、弥生中、弥生後、古墳後、古墳後	聚落、散在地	高岡市井屋山ほか	水田、宅地	
8 井名廻遊跡	動作、古墳	散在地	高岡市井名郷	水田、宅地	
9 小木津遺跡	古代、中世、近世	散在地	高岡市木津	水田、宅地	日本津特許道跡
10 西木津遺跡	中世、近世、古代	散在地	高岡市木津	水田、宅地	
11 北木津遺跡	古代、中世、近世	散在地	高岡市木津	水田、宅地	
12 上北条遺跡	古代、中世	散在地	高岡市上北条	水田、宅地	
13 上北条住吉遺跡	興玉、奈佐、当朝	散在地	高岡市下北条	水田、宅地	
14 石原山・戸戸廻遊跡	縄文後、古墳後、古墳後、古代、中世、近世	聚落、散在地	高岡市上北条ほか	水田、宅地	
15 右坂山廻遊跡	縄文後、中世	散在地	高岡市右坂山	水田、宅地	
16 右岸山廻遊跡	縄文後	散在地	高岡市右岸山	水田、宅地	
17 右坂小分遺跡	古代、中世	集落	高岡市右坂	水田、宅地	

遺跡名	主な時代	種別	所在地	主な現状	備考
18 士師跡	武文期、時代、平安	散布地	高岡市市	水山、宅地	
19 隆起部跡	古代、平安	散布地	高岡市西鶴仙	水山、宅地	
20 一ノ戸山古墳	古墳、古代	散布地	高岡市中坂	水山、宅地	
21 千曲八幡跡	海文期、奈良・平安、古代、平安	散布地	高岡市牛坂	古墳南側斜面等	
22 中村山遺跡	海文期、奈良・平安、古代、平安	散布地	高岡市中村	水山、宅地	
23 江戸城跡	土城、時代、平安	散存地	高岡市江戸城	水田、宅地	
24 玄鳳寺跡遺跡	古墳、奈良・平安	散存地	高岡市荒尾町	水田、宅地	
25 白鹿山古墳跡	古墳、古代	散布地	高岡市西白鹿山	水田、宅地	
26 長野原花園跡	古墳、古代、平安	集落	高岡市花園町	水田、宅地	昭和15・19追跡
27 朝倉町古跡	古墳、古代、中世	散存地	高岡市花園町	水田、宅地	
28 舟見谷内庭跡	古墳、奈良・平安、平安、平安	散存地	高岡市舟見谷	水田、宅地	
29 備後神社跡	古代、平安	散存地	高岡市舟見谷	水田、宅地	
30 八丁堀遺跡	古代、中世、近世	生遺跡	高岡市八丁堀	通路	
31 下出山遺跡	古墳、古代	散存地	高岡市下出山	水田、宅地	昭和5・9追跡
32 千秋北野神社跡	古墳、古代、平安	散存地	高岡市千秋北野	水田、宅地	
33 大手門古跡	古代、平安	集落	高岡市大手門	水田、宅地	
34 中手門古跡	海文期、奈良・平安、奈良	散存地	高岡市中手門	水田、琵琶湖	
35 小竹遺跡	海文期、奈良・平安、平安	集落	高岡市小竹城	公園	
36 高岡城跡	近世	近世城跡	高岡市大城	史跡、公園	系跡堂本跡
37 稲連町遺跡	古墳、古代、平安、中世、近世	散存地	高岡市稲連町	宅地	
38 稲北前田郡	古墳、古代、平安、中世、近世	集落	高岡市稻北町	宅地	
39 稲内東高穴墓	飛鳥古墳	散居聚落	高岡市稻内町	山陽北	
40 稲丸寺子屋跡	古墳	古墳群	高岡市稻丸寺	山陽北	
41 千骨塚古跡	古墳、奈良・平安、平安	散存地	高岡市牛骨塚	水田、宅地	
42 墓田山古墳遺跡	高文、承平期、平安後期、飛鳥・奈良、平安	散存地	高岡市大穴	宅地	系跡左岸跡
43 斎所遺跡	石器	散存地	高岡市斎所	田沢川	
44 敦谷寺跡群	興文化、平安後期、平安後期、奈良・平安、平安	散存地	高岡市大井	史跡、山腹、畠	系跡定光寺
45 守山城跡	中世、近世	城跡	高岡市二上	山陽北	
46 今之堀跡	海文期、飛鳥・白鳳	集落	高岡市今之堀	水山	昭和11・14追跡
47 橋原町のD.C.山塚跡	古墳	散存地	高岡市橋原	水田、宅地	
48 原土御の木津跡	古墳、古代	集落	高岡市三十石塚	水田、宅地	
49 滝川城・半隈大高塚	高文期、飛鳥・奈良、平安	散居聚落	高岡市滝川	山陽北	
50 扇谷跡山古跡	海文期、承平・平安、中世、近世	散居聚落	高岡市扇谷	水田、三島田原	昭和11・14追跡
51 子犯跡山古跡	中世	散居聚落	高岡市子犯	水田	昭和11・14追跡
52 金合古跡群	古石室、高文期、承平・平安、承平・平安、中世	散存地	高岡市中合	山陽北	
53 東大山古跡の古塚群	高文期、承平・平安、中世、近世	散存地	高岡市東大山	山陽北	
54 大宮跡	古文	散存地	高岡市大宮	史跡、山腹、畠	系跡定光寺
55 6号社社址遺跡	承平・平安、平安、中世、近世	散居聚落	高岡市六社	山陽北	
56 佐生井田生田山遺跡	高文、承平後期、平安、中世、近世	散居聚落	高岡市佐生井	水山、宅地	
57 佐生井田跡	高文、承平・平安、中世、近世	散居聚落	高岡市佐生井	水山、宅地	
58 佐丸・吉田井田跡	高文、平安、中世、近世	散居聚落	高岡市佐丸	水山、宅地	
59 高安生田井田跡	高文	散居聚落	高岡市高安	山陽北	
60 万世・北山遺跡	近世	古石器跡	高岡市万世	光地帯	
61 伊勢山古跡	海文期、古代、平安	散存地	高岡市伊勢山	水山	
62 駒形跡	海文期、古代、平安	散居聚落	高岡市駒形	水山	
63 五島守社址遺跡	高文期、古代、平安	散居聚落	高岡市五島守	高筋根跡付近定跡	系跡左新跡
64 久喜石井古跡	高文期、古代、平安	散居聚落	高岡市久喜石井	水田	
65 小字C山古跡	古文	散居聚落	高岡市小字C	水田	
66 牧方山古跡	海文期、古代、平安	散居聚落	高岡市牧方	水田	昭和5・21追跡
67 お子子強川源頭跡	高文期、飛鳥・奈良、承平・平安、承平・平安、中世	集落、散居地	高岡市お子子	水田、宅地	
68 上野熱海跡	中世、中世	散居地	高岡市上野熱海	水田	
70 内道跡	承平・平安、中世、平安、近世	散居地	高岡市内道	水田	
71 木床道跡	古文	散居地	高岡市木床	水田、宅地	
72 七ヶ道跡	古文、古代、平安	散居地	高岡市七ヶ	水田、宅地	
73 万葉道跡	高文、承平・平安、中世、近世	散居地	高岡市万葉町万葉	水田、宅地	
74 佐助道跡	高文、承平・平安、中世、中世、近世	集落	高岡市佐助町佐助	水田、宅地	
75 朝日大藏跡	古文、近世	集落	高岡市朝日町朝日	西条瀬野等	昭和12・14追跡
76 佐佐井古跡	佐佐井、承平・平安、鎌倉・高麗、平安	北跡	高岡市佐佐井町佐佐井	水田、宅地	昭和11・A.6.14.7.14.8.7.14.9.14.10.14.11.14.12.14.13.14.15.14.16.14.17.14.18.14.19.14.20.14.21.14.22.14.23.14.24.14.25.14.26.14.27.14.28.14.29.14.30.14.31.14.32.14.33.14.34.14.35.14.36.14.37.14.38.14.39.14.40.14.41.14.42.14.43.14.44.14.45.14.46.14.47.14.48.14.49.14.50.14.51.14.52.14.53.14.54.14.55.14.56.14.57.14.58.14.59.14.60.14.61.14.62.14.63.14.64.14.65.14.66.14.67.14.68.14.69.14.70.14.71.14.72.14.73.14.74.14.75.14.76.14.77.14.78.14.79.14.80.14.81.14.82.14.83.14.84.14.85.14.86.14.87.14.88.14.89.14.90.14.91.14.92.14.93.14.94.14.95.14.96.14.97.14.98.14.99.14.100.14.101.14.102.14.103.14.104.14.105.14.106.14.107.14.108.14.109.14.110.14.111.14.112.14.113.14.114.14.115.14.116.14.117.14.118.14.119.14.120.14.121.14.122.14.123.14.124.14.125.14.126.14.127.14.128.14.129.14.130.14.131.14.132.14.133.14.134.14.135.14.136.14.137.14.138.14.139.14.140.14.141.14.142.14.143.14.144.14.145.14.146.14.147.14.148.14.149.14.150.14.151.14.152.14.153.14.154.14.155.14.156.14.157.14.158.14.159.14.160.14.161.14.162.14.163.14.164.14.165.14.166.14.167.14.168.14.169.14.170.14.171.14.172.14.173.14.174.14.175.14.176.14.177.14.178.14.179.14.180.14.181.14.182.14.183.14.184.14.185.14.186.14.187.14.188.14.189.14.190.14.191.14.192.14.193.14.194.14.195.14.196.14.197.14.198.14.199.14.200.14.201.14.202.14.203.14.204.14.205.14.206.14.207.14.208.14.209.14.210.14.211.14.212.14.213.14.214.14.215.14.216.14.217.14.218.14.219.14.220.14.221.14.222.14.223.14.224.14.225.14.226.14.227.14.228.14.229.14.230.14.231.14.232.14.233.14.234.14.235.14.236.14.237.14.238.14.239.14.240.14.241.14.242.14.243.14.244.14.245.14.246.14.247.14.248.14.249.14.250.14.251.14.252.14.253.14.254.14.255.14.256.14.257.14.258.14.259.14.260.14.261.14.262.14.263.14.264.14.265.14.266.14.267.14.268.14.269.14.270.14.271.14.272.14.273.14.274.14.275.14.276.14.277.14.278.14.279.14.280.14.281.14.282.14.283.14.284.14.285.14.286.14.287.14.288.14.289.14.290.14.291.14.292.14.293.14.294.14.295.14.296.14.297.14.298.14.299.14.300.14.301.14.302.14.303.14.304.14.305.14.306.14.307.14.308.14.309.14.310.14.311.14.312.14.313.14.314.14.315.14.316.14.317.14.318.14.319.14.320.14.321.14.322.14.323.14.324.14.325.14.326.14.327.14.328.14.329.14.330.14.331.14.332.14.333.14.334.14.335.14.336.14.337.14.338.14.339.14.340.14.341.14.342.14.343.14.344.14.345.14.346.14.347.14.348.14.349.14.350.14.351.14.352.14.353.14.354.14.355.14.356.14.357.14.358.14.359.14.360.14.361.14.362.14.363.14.364.14.365.14.366.14.367.14.368.14.369.14.370.14.371.14.372.14.373.14.374.14.375.14.376.14.377.14.378.14.379.14.380.14.381.14.382.14.383.14.384.14.385.14.386.14.387.14.388.14.389.14.390.14.391.14.392.14.393.14.394.14.395.14.396.14.397.14.398.14.399.14.400.14.401.14.402.14.403.14.404.14.405.14.406.14.407.14.408.14.409.14.410.14.411.14.412.14.413.14.414.14.415.14.416.14.417.14.418.14.419.14.420.14.421.14.422.14.423.14.424.14.425.14.426.14.427.14.428.14.429.14.430.14.431.14.432.14.433.14.434.14.435.14.436.14.437.14.438.14.439.14.440.14.441.14.442.14.443.14.444.14.445.14.446.14.447.14.448.14.449.14.450.14.451.14.452.14.453.14.454.14.455.14.456.14.457.14.458.14.459.14.460.14.461.14.462.14.463.14.464.14.465.14.466.14.467.14.468.14.469.14.470.14.471.14.472.14.473.14.474.14.475.14.476.14.477.14.478.14.479.14.480.14.481.14.482.14.483.14.484.14.485.14.486.14.487.14.488.14.489.14.490.14.491.14.492.14.493.14.494.14.495.14.496.14.497.14.498.14.499.14.500.14.501.14.502.14.503.14.504.14.505.14.506.14.507.14.508.14.509.14.510.14.511.14.512.14.513.14.514.14.515.14.516.14.517.14.518.14.519.14.520.14.521.14.522.14.523.14.524.14.525.14.526.14.527.14.528.14.529.14.530.14.531.14.532.14.533.14.534.14.535.14.536.14.537.14.538.14.539.14.540.14.541.14.542.14.543.14.544.14.545.14.546.14.547.14.548.14.549.14.550.14.551.14.552.14.553.14.554.14.555.14.556.14.557.14.558.14.559.14.560.14.561.14.562.14.563.14.564.14.565.14.566.14.567.14.568.14.569.14.570.14.571.14.572.14.573.14.574.14.575.14.576.14.577.14.578.14.579.14.580.14.581.14.582.14.583.14.584.14.585.14.586.14.587.14.588.14.589.14.590.14.591.14.592.14.593.14.594.14.595.14.596.14.597.14.598.14.599.14.600.14.601.14.602.14.603.14.604.14.605.14.606.14.607.14.608.14.609.14.610.14.611.14.612.14.613.14.614.14.615.14.616.14.617.14.618.14.619.14.620.14.621.14.622.14.623.14.624.14.625.14.626.14.627.14.628.14.629.14.630.14.631.14.632.14.633.14.634.14.635.14.636.14.637.14.638.14.639.14.640.14.641.14.642.14.643.14.644.14.645.14.646.14.647.14.648.14.649.14.650.14.651.14.652.14.653.14.654.14.655.14.656.14.657.14.658.14.659.14.660.14.661.14.662.14.663.14.664.14.665.14.666.14.667.14.668.14.669.14.670.14.671.14.672.14.673.14.674.14.675.14.676.14.677.14.678.14.679.14.680.14.681.14.682.14.683.14.684.14.685.14.686.14.687.14.688.14.689.14.690.14.691.14.692.14.693.14.694.14.695.14.696.14.697.14.698.14.699.14.700.14.701.14.702.14.703.14.704.14.705.14.706.14.707.14.708.14.709.14.710.14.711.14.712.14.713.14.714.14.715.14.716.14.717.14.718.14.719.14.720.14.721.14.722.14.723.14.724.14.725.14.726.14.727.14.728.14.729.14.730.14.731.14.732.14.733.14.734.14.735.14.736.14.737.14.738.14.739.14.740.14.741.14.742.14.743.14.744.14.745.14.746.14.747.14.748.14.749.14.750.14.751.14.752.14.753.14.754.14.755.14.756.14.757.14.758.14.759.14.760.14.761.14.762.14.763.14.764.14.765.14.766.14.767.14.768.14.769.14.770.14.771.14.772.14.773.14.774.14.775.14.776.14.777.14.778.14.779.14.780.14.781.14.782.14.783.14.784.14.785.14.786.14.787.14.788.14.789.14.790.14.791.14.792.14.793.14.794.14.795.14.796.14.797.14.798.14.799.14.800.14.801.14.802.14.803.14.804.14.805.14.806.14.807.14.808.14.809.14.810.14.811.14.812.14.813.14.814.14.815.14.816.14.817.14.818.14.819.14.820.14.821.14.822.14.823.14.824.14.825.14.826.14.827.14.828.14.829.14.830.14.831.14.832.14.833.14.834.14.835.14.836.14.837.14.838.14.839.14.840.14.841.14.842.14.843.14.844.14.845.14.846.14.847.14.848.14.849.14.850.14.851.14.852.14.853.14.854.14.855.14.856.14.857.14.858.14.859.14.860.14.861.14.862.14.863.14.864.14.865.14.866.14.867.14.868.14.869.14.870.14.871.14.872.14.873.14.874.14.875.14.876.14.877.14.878.14.879.14.880.14.881.14.882.14.883.14.884.14.885.14.886.14.887.14.888.14.889.14.890.14.891.14.892.14.893.14.894.14.895.14.896.14.897.14.898.14.899.14.900.14.901.14.902.14.903.14.904.14.905.14.906.14.907.14.908.14.909.14.910.14.911.14.912.14.913.14.914.14.915.14.916.14.917.14.918.14.919.14.920.14.921.14.922.14.923.14.924.14.925.14.926.14.927.14.928.14.929.14.930.14.931.14.932.14.933.14.934.14.935.14.936.14.937.14.938.14.939.14.940.14.941.14.942.14.943.14.944.14.945.14.946.14.947.14.948.14.949.14.950.14.951.14.952.14.953.14.954.14.955.14.956.14.957.14.958.14.959.14.960.14.961.14.962.14.963.14.964.14.965.14.966.14.967.14.968.14.969.14.970.14.971.14.972.14.973.14.974.14.975.14.976.14.977.14.978.14.979.14.980.14.981.14.982.14.983.14.984.14.985.14.986.14.987.14.988.14.989.14.990.14.991.14.992.14.993.14.994.14.995.14.996.14.997.14.998.14.999.14.1000.14.1001.14.1002.14.1003.14.1004.14.1005.14.1006.14.1007.14.1008.14.1009.14.1010.14.1011.14.1012.14.1013.14.1014.14.1015.14.1016.14.1017.14.1018.14.1019.14.1020.14.1021.14.1022.14.1023.14.1024.14.1025.14.1026.14.1027.14.1028.14.1029.14.1030.14.1031.14.1032.14.1033.14.1034.14.1035.14.1036.14.1037.14.1038.14.1039.14.1040.14.1041.14.1042.14.1043.14.1044.14.1045.14.1046.14.1047.14.1048.14.1049.14.1050.14.1051.14.1052.14.1053.14.1054.14.1055.14.1056.14.1057.14.1058.14.1059.14.1060.14.1061.14.1062.14.1063.14.1064.14.1065.14.1066.14.1067.14.1068.14.1069.14.1070.14.1071.14.1072.14.1073.14.1074.14.1075.14.1076.14.1077.14.1078.14.1079.14.1080.14.1081.14.1082.14.1083.14.1084.14.1085.14.1086.14.1087.14.1088.14.1089.14.1090.14.1091.14.1092.14.1093.14.1094.14.1095.14.1096.14.1097.14.1098.14.1099.14.1100.14.1101.14.1102.14.1103.14.1104.14.1105.14.1106.14.1107.14.1108.14.1109.14.1110.14.1111.14.1112.14.1113.14.1114.14.1115.14.1116.14.1117.14.1118.14.1119.14.1120.14.1121.14.1122.14.1123.14.1124.14.1125.14.1126.14.1127.14.1128.14.1129.14.1130.14.1131.14.1132.14.1133.14.1134.14.1135.14.1136.14.1137.14.1138.14.1139.14.1140.14.1141.14.1142.14.1143.14.1144.14.1145.14.1146.14.1147.14.1148.14.1149.14.1150.14.1151.14.1152.14.1153.14.1154.14.1155.14.1156.14.1157.14.1158.14.1159.14.1160.14.1161.14.1162.14.1163.14.1164.14.1165.14.1166.14.1167.

第2章 遺跡の概要と過去の発掘調査歴

第1節 下佐野遺跡の概要

下佐野遺跡は、昭和38年(1963)に発見されたが、同39年の下佐野地区一帯における区画整理事業により、旧地形は大きく改変され、遺跡上面も削平を受ける。

この時、表面採集も行われ、また最も採集量の多い地点には緊急発掘が行なわれることとなる。その結果、弥生時代中期から後期にかけての土器等を多量に採集することとなった。

これらの成果は、昭和42年(1967)に上野寧氏によって紹介され、広くその存在が知られることとなった。平成2年(1990)からの発掘調査を始めとする幾多の調査が行われ、下佐野遺跡をめぐっては、弥生時代後期のほか、古代・中世の歴史的様相を得るに至っている。

第2節 下佐野遺跡における既往の調査成果

下佐野遺跡は、過去に試掘調査を含め幾度も発掘調査が実施されている。以下では既往の調査成果を簡潔にまとめてみた。

明光電気地区(1990年)

下佐野遺跡における包蔵地内の北西部に位置する210m²の調査区である。主な遺構は1基の井戸であり、構造は縦板組横棟・縦板組無支持・曲物・素握りのものである。これらの中には接近し重複するものがある。推定される時期差は少なく15世紀を主流とし、一部は16世紀初頭にくだる可能性がある。

溝状遺構も井戸と同時期とみられる。比較的小型の土坑についてはやや古く14世紀代に遡るものもある。出土遺物は土器・陶磁器類をはじめ、土製品や木製品である。数量的には中世を主体とし、続いて古代・古墳時代と続く。遺構に伴う遺物はすべて中世である。14~15世紀を主体とし12~13世紀頃のものは少ない。

井波地区(1990年)

包蔵地内の北東部に位置し面積は487m²をはかる。主な遺構は竪穴住居である。出土遺物は弥生時代後期、古代・中世の3時期が確認できる。出土遺物の多くを弥生土器で占めるが、年代的にはすべて後期に属する。概してこの時期の集落跡の中心部か、もしくはそれに近い地点と推定される。

横田地区(1990年)

包蔵地内の北東部に位置し面積は387m²をはかる。竪穴住居のほか、土坑や溝状遺構を検出した。出土遺物については、弥生時代後期をはじめ、古代や中世のものが検出されている。当地区南東の「井波地区」でも竪穴住居を検出しており、周辺には集落が形成されていたとみられる。

新田地区(1990年)

下佐野遺跡の西端の一つに位置し面積は272m²をはかる。概して遺構上面の削平が著しかったためか遺構の深度は浅いが、土坑のほか、多くが南北方向の方位を呈する溝状遺構群を検出した。古代における土器器や須恵器が出土している。

なお、当地区は現在周知する下佐野遺跡の埋蔵文化財包蔵地の最西端に位置するが、この発掘調査成果に

よりその範囲はさらに西側に拡がるものとみられる。

中尾地区（1991年）

包蔵地の北西部に位置し面積は240m²をはかる。東側隣接地は平成2年度調査の「明光電気地区」である。太鼓を井戸枠に転用した中世後期の井戸1基のほか、溝状遺構2条を検出した。この溝状遺構は明光電気地区で検出したものと連結するとみられる。

出土遺物については、土師器・須恵器・珠洲・陶器類・木製品・石製品である。年代的には古墳時代から中世後期までのものが出土しているが、遺構に伴うものは中世のものである。

なお、当地区と明光電気地区からは計8基の井戸が確認されている。両地区は中世後期が主たる時期となり、下佐野遺跡における中世集落跡の一部を垣間見たものと考えられる。

さのクリニック地区（1996年）

包蔵地の北西部に位置する。圃場整備事業等による削平を受けており、遺構検出面より上位は約20cmの耕作土を残すのみであった。検出遺構は土坑1基と溝状遺構3条である。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲・勾玉である。概して中世の様相が主体と考えたい。

広瀬・堀地所地区（2006年）

下佐野遺跡の西端部の一つにある、本調査250m²、試掘75m²・85m²の地区である。

古代から中・近世にかけての遺構や遺物が検出されているが、平安時代前期が中心とみられる。主要な遺構は、古代の掘立柱建物1棟と中世の掘立柱建物1棟である。隣接の東木津遺跡でも古代の掘立柱建物を検出しており、前者については建物の方位・規模・時期などから双方の関連性が検討される。

一方の中世の掘立柱建物をはじめとする遺構群からは、本区南西の「井波地区」や「明光電気地区」の様相をふまえるに中世集落の存在が想定されよう。

富山県埋蔵文化財センターB地区

富山県埋蔵文化財センターが行った調査区である。下佐野遺跡の包蔵地の南東部にあたり、調査合計面積は10,917m²をはかる。

弥生時代後期から古墳時代前期のほか、古代・中世・近世の遺構や遺物が主に検出されている。主要な遺構としては、弥生時代後期から古墳時代前期に比定される墳墓と、弥生時代終末期の焼失住居が挙げられる。また、古代の川跡からは人面墨書き器や墨書き土器が出土している。

富山県埋蔵文化財センターC地区

富山県埋蔵文化財センターが行った調査区である。下佐野遺跡の南西部にあり調査合計面積は9,121m²をはかる。主として9世紀後半の遺構や遺物が確認されている。調査区の東側や南側には浅い谷を利用してつくられた水田跡や、両側に大畦畔を伴う水路や小畦畔、そして溝状遺構が検出されている。個々の水田はおよそ12~30m²の不整形なものである。

また、大型建物を含む計16棟以上の掘立柱建物が確認され、祭祀跡とみられる痕跡も複数確認されている。本調査区の西側からは、弥生時代終末期から古墳時代前期とみられる前方後方墳1基も検出されている。

富山県埋蔵文化財センター D 地区

富山県埋蔵文化財センターが行った調査区である。下佐野遺跡の南西部分にあり調査面積は 4,795 m²をはかる。主として 8 世紀後半から 9 世紀後半の遺構や遺物が確認されているが、祭祀に関連するとみられるものも確認されている。

祭祀関連とみられる検出物の大半は 8 世紀後半から 9 世紀初めと、9 世紀後半に分かれる。この中には馬具を装着した飾り馬を描く 9 世紀頃の墨画土器がある。墨画土器を出土した溝状遺構からは、人面墨画土器や、人形・馬形・牽牛なども出土しており、概してこの遺構は祭祀の場であったと考えられる。

富山県文化振興財団 A～C, E 2, F 地区

財団法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所が行った調査区である。下佐野遺跡を北東方向から南西方向にそらぬくように位置し、調査面積は 9,251 m²をはかる。

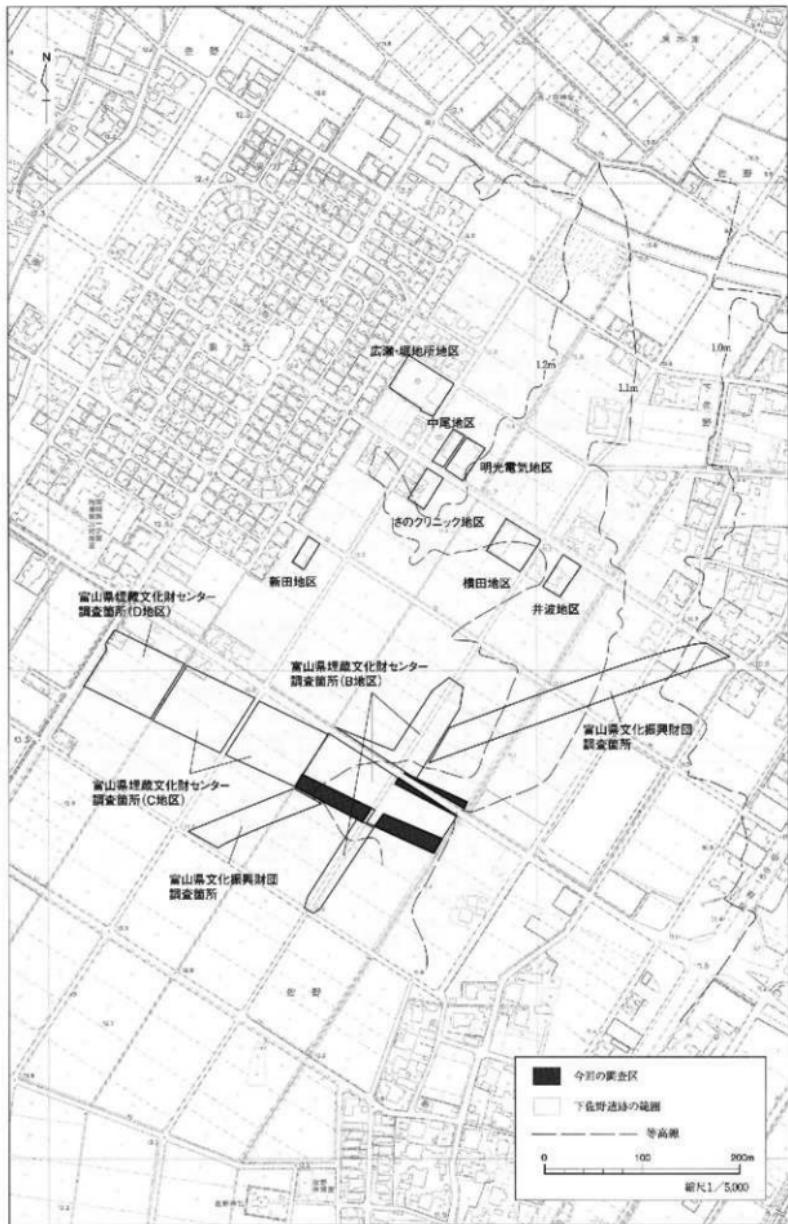
主体となる弥生時代終末期から古墳時代前期の遺構は、前方後方墳・方墳・方形周溝墓墳・堅穴住居・溝状遺構・土坑などからなり、古墳群と堅穴住居は B 地区に集中する。

主体部を残存する古墳時代初期とみられる前方後方墳が確認されている。主体部からは土師器の小破片を出土するのみであったが、周溝からは古墳時代の土器(煮、甕、高杯、器台等)が出土している。

なお、平成 19 年度から 21 年度にかけて富山県埋蔵文化財センターと財団法人富山県文化振興財団が行なった調査結果は、概要報告に基づくものであり、今後刊行される本報告で弥生時代後期から古墳時代前期における墓制の形態等変遷が明らかにされることを期待したい。

第 2 表 過去の調査区一覧表

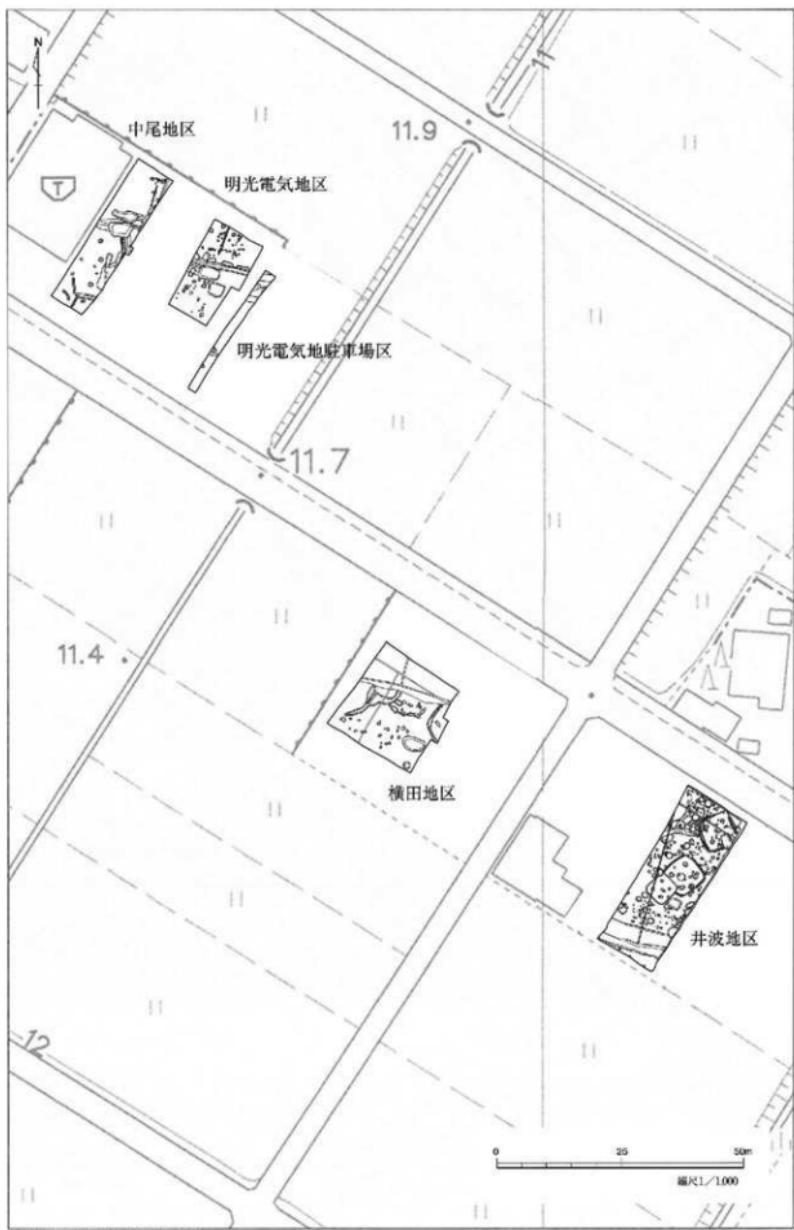
調査区名 基準地図 位置概要	調査期間	検査面積 測量面積	時代	遺構	遺物	報告書番号
明治堂地区 高井堂古墳群遺跡区	1990/04/15 ～1990/05/10	210 m ²	古代、平安 住宅遺構	長戸 5 号 士塚 1 号 墓 5 例 戸内 2 号 士塚 1 号 墓 1 例	1 号墳、2 号墳、3 号墳、4 号墳、5 号墳、6 号墳、7 号墳、8 号墳、9 号墳、10 号墳、11 号墳、12 号墳、13 号墳、14 号墳、15 号墳、16 号墳、17 号墳、18 号墳、19 号墳、20 号墳、21 号墳、22 号墳、23 号墳、24 号墳	市立歴史資料館調査報告Ⅰ
井波地区	1990/02/26 ～1991/12/16	587 m ²	弥生時代後 期、古代、中 世 住宅遺構	笠置山頂 3 例 上戸 22 例 墓 5 例 国地 2 例	利木上器、十品器、頭骨器、漆器、青白磁、白磁、越前焼の丸玉、鏡、骨片	市立歴史資料館報告Ⅱ
樺田地区	1990/05/06 ～1990/06/03	337 m ²	弥生時代後 期、古代、中 世 住宅遺構	堅穴 1 号 上戸 4 例 墓 3 例	坚穴上器、卜溝器、漆器等、漆器、青白磁、鏡	市立歴史資料館報告Ⅲ
轟地区	1990/04/13 ～1990/05/05	272 m ²	古坟平安 住宅遺構	上戸 9 例 墓 2 例	上部器、乳孔器	市立歴史資料館報告Ⅳ
上尾地区	1990/07/03 ～1990/08/30	240 m ²	古代、中世 住宅遺構	芦戸 1 号 上戸 4 例 墓 1 例	土壙壁、切妻造、瓦葺、草葺屋根、上 棟、火柱、火除造筋、剥落漆皮、柱 子、瓦被施	市立歴史資料館報告Ⅴ
さのクリニック地区	1990/11/01 ～1990/12/15	208 m ²	古代、中世 住宅遺構	上戸 1 例	勾三、卜溝器、乳孔器、漆器	市立歴史資料館報告Ⅵ
庄屋・漢池田地区	2000/06/14 ～2000/07/07	250 m ²	平安時代前 期、平安、近 代 住宅遺構	獨立式竪塗 2 例 墓 2 例 土坂 4 例 上戸 1 例、近代 1 例 ピット 12 例 上戸 2 例 墓 2 例 ピット 60 例	土壙壁、假面屋根、八足、漆器表面、漆 器底、漆器口、漆器芯、漆さい	市立歴史資料館報告Ⅶ
富山県埋蔵文化財センター B 地区	2007/04/17 ～2007/12/27	10,917 m ²	弥生時代～第 1 次 平安 時代 後半 ～近世 後半	方墳周溝 45 例、前方後方墳 4 例 墓 2 例 上戸 1 例、近代 1 例、堅穴 1 例(蓋 付)、漆器 1 例、瓶 1 例、水井 1 例	玉手形埴輪、兔、人面埴輪土器、漆 器土器	富山県埋蔵文化財センター 平成一平成一9年度一
富山県埋蔵文化財センター C 地区	2008/04/14 ～2008/12/14	9,151 m ²	令和前～令 和後 期、古代、中 世 遺構改修 遺構	前方後方墳 1 例、堅穴 1 例(蓋付) 土器 1 例、漆器 1 例、水井 1 例	上戸器(的、漆、甕)漆器器(甕、漆、 印)土器、漆盒土器、漆大冢、漆 器の漆舟土器、軽石器、金口	富山県埋蔵文化財センター 平成20年度一
富山県埋蔵文化財センター D 地区	2009/06/07 ～2009/12/14	5,397 m ²	令和前～令 和後 期、古代、中 世 遺構改修	堅穴造塗(堅穴造塗含む)、近道遺塗 堅穴 1 例、漆器 1 例	火打器(火打、漆、漆器)漆器器(甕、漆、 印)漆器、漆盒土器、漆大冢、漆 器の漆舟土器、軽石器、金口	富山県埋蔵文化財センター 平成21年度一
富士文化振興財團 A～C, E 2, F 地区	2009/05/05 ～2009/12/05	9,251 m ²	令和前～令 和後 期、古代、中 世 遺構改修	堅穴造塗～山 嶺新築、方墳、方水周溝馬、長弓 周溝馬、堅穴造塗、上戸、堅穴造 塗物、品	1 号墳(漆、收、漆器、漆甕)、「有(火大 の)者土器」、漆器、漆盒、三脚土器、 漆器、人形品、陶器、白磁、石器、 金漆製品、上戸名	平成22年度埋蔵文化財年報



第4図 下佐野遺跡の過去の調査区



第5図 下佐野遺跡各調査区1



第6図 下佐野遺跡各調査区2



第7図 下佐野遺跡各調査区3



第8図 下佐野遺跡各調査区4



第9図 下佐野遺跡各調査区5

法式	壺	高杯	器台
	壺	高杯	器台
月影一式 (昭和38年A地区出土)	壺	高杯	長頸壺 蓋
月影二式 (井波地区1・3号住居出土外)	壺	高杯	器台
白江式(井波地区2号住居出土)	壺	高杯	器台 蓋 有孔鉢
(古府クルビ式 昭和38年B地区出土)	壺	高杯	器台 蓋 鉢 有孔鉢

第10図 下佐野遺跡出土の弥生～古墳時代初頭の土器

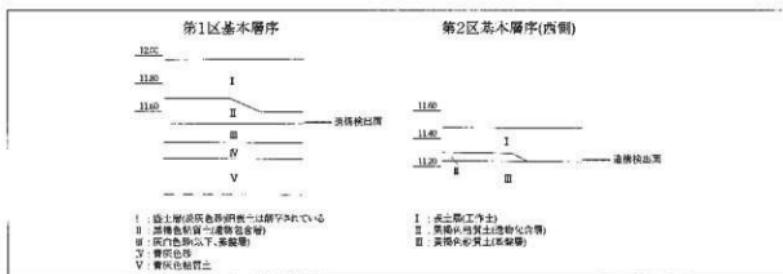
0 50cm

第3章 調査の概要

第1節 概要

1. 基本層序

基本層序は、耕作土及び盛土層が約20~30cm堆積し、そして部分的に黒褐色粘質土(遺物包含層)が堆積しており、その下は黄褐色砂質土・灰白色砂等(地山)である。調査区は、圃場整備に伴う削平を受けているが、佐野台地に立地しており西から東に向かって緩やかに傾斜している。



第1図 基本層序

2. 検出遺構概要

検出遺構は、方形周溝墓5基をはじめ、掘立柱建物11棟、橋4条、井戸5基、溝状遺構47条、土坑102基、凹地10基、ピット多数、自然流路2条である。年代的には弥生時代~古墳時代・古代・中世以降の3時期に区分できる。

第1区が本調査地区的西側に位置し、遺物包含層が堆積しており遺構検出面が高く、多くの遺構と遺物を検出した。弥生時代後期から古墳時代初頭の方形周溝墓が3基検出しているが、隣接する調査区でも幾つかの方形周溝墓が確認されており、その結果を踏まえると2基の方形周溝墓が確認できた。この調査区の中央部に重複する掘立柱建物、井戸を検出しており、東側には第2調査区に統く自然流路がある。弥生時代から古墳時代の遺構はこの調査区のみ確認した。

第2区では遺構数が減り、西側は遺物包含層が薄く表土下は地山が露出しており遺構が検出されたが、東側は腐植土層に覆われた凹地が占める。中央よりやや東側に、凹地の間に遺構を確認した。

第3区は狭小であり、搅乱と凹地が占めるが、わずかに遺構を検出している。凹地は第2区から統くものと考えられる。

第4区も狭小であるが、東側に遺構が密集しており、掘立柱建物や橋を検出している。

3. 出土遺物概要

遺物の出土は次の通りである。弥生時代後期からの遺物があり、古墳時代・古代・中世・近世の遺物が確認されている。

土器類 弥生土器、土師器、須恵器、青磁、珠洲焼、瀬戸・美濃焼、越中瀬戸、

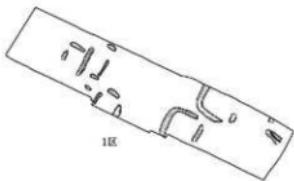
木製品 漆器、曲物、下駄、箸状木製品、部材(板・角材)ほか

土製品 土瓶

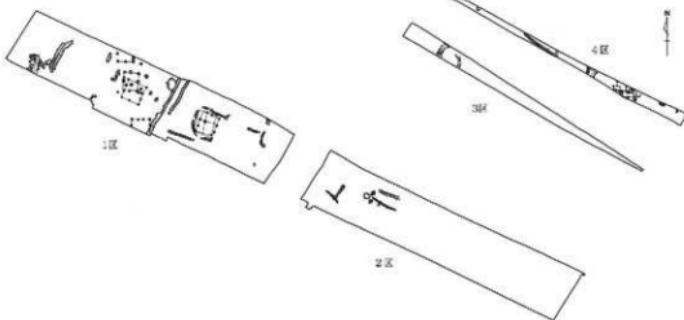
その他 キセル、古銭

調査区別に見ると、第1区からは弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、青磁、木製品が出土しており、第2区からは弥生土器、土師器、須恵器、木製品、土製品、古銭など、第3区は弥生土器、土師器、須恵器など、第4区は弥生土器、土師器、須恵器、中・近世陶磁器などが確認されている。

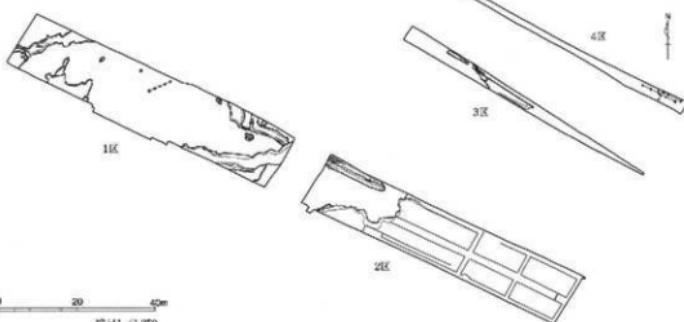
1.弥生～古墳



2.古代



3.中近世



第12図 時代別遺構配置図

第2節 遺構

1. 弥生時代～古墳時代

方形周溝墓

方形周溝墓 SZ01 (図面一二)

1区のグリッド6-7-11-13区で検出した方形周溝墓である。周溝のうち、北側周溝と東西側周溝を検出した。3隅以上に陸橋を有する。

周溝外側のところで東西7.6mをはかる。西側の周溝が他に比してやや狭い。西側周溝は全長3.32m・幅0.57~0.96m・深さ0.6mをはかる。北側周溝は全長3.33m・幅0.89~1.24m・深さ0.95mで、東側周溝は全長3m・幅1.08~1.72m・深さ0.6mである。

土層は周溝の外側から徐々に堆積した状況がみてとれ、自然堆積の可能性がある。遺構覆土からは土師器や須恵器が出土しているが、後世の流れ込みと思われる。

方形周溝墓 SZ02 (図面一三)

1区のグリッド9-11-10-12区で検出した方形周溝墓である。南側は調査区外に達し、北東側の周溝は自然流路N R01によって切られている。

墓の規模は周溝外側で東西10.2mをはかる。北東部にのみ陸橋を確認しているが、周辺調査区と照合するに陸橋はこの北東部のみの可能性がある。

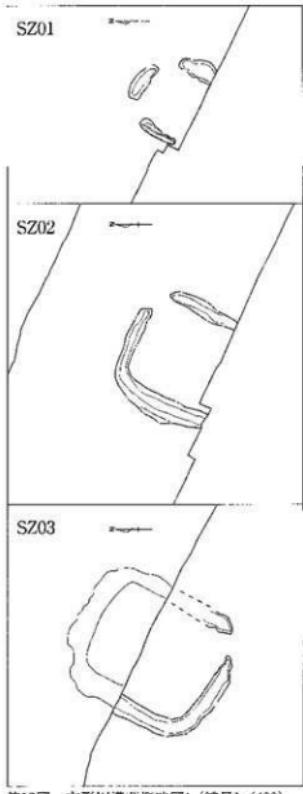
北東側周溝は全長12.7m・幅0.88~1.68m・深さ約0.9mである。西側周溝は全長4.88m・幅1.06~1.2m・深さ0.6mである。西側周溝が他に比してやや広く掘り込まれている。

土層の堆積状況は、周溝の底部にシルト質や砂質の土層が堆積しており自然堆積とみられる。遺物は弥生土器のか、土師器や須恵器が出土しているが、後世の流れ込みが含まれるものと考える。(図面四六・四七 24・41)

方形周溝墓 SZ03 (図面一四)

1区のグリッド11-13-11-13区で検出した方形周溝墓である。SZ02とは主軸を同じくし、同時期ないしは双方を意識して造営された可能性がある。北側は調査区外へと達するが、隣接する調査区ではこの延長部分が検出されている。遺構の規模は周溝の外側で東西11.2m・南北7.6mをはかる。陸橋は南東部に1箇所存在する。

各周溝は、幅1.2~1.7mとはほぼ同規格でつくられている。上層の堆積は他と同様に自然堆積とみられる。



第13図 方形周溝墓概略図(縮尺1/400)

周溝からは須恵器や陶磁器片が出土しているが、後世の混入と考えられる。(図面四四・五四 6・197)

方形周溝墓 S Z04 [S K13] (図面二三)

1区のグリッド6~7~15区で検出した方形周溝墓である。調査時は土坑としていたが、後年の隣接区の調査成果により、四隅に墻構を有する方形周溝墓の一部であることが判明した。主軸はS Z01と同様に西へ約30度傾く。

本調査区でみられた周溝の規模は、長軸2.48m・短軸1.08mの橢円形を呈する。深さは0.31mをはかり、S Z01等と比べると若干浅い。遺構覆土は粘質土を主とした自然堆積であり、周溝からは弥生土器が出土している。(図面四五 16)

方形周溝墓 S Z05 [S D38・40] (図面三八)

1区のグリッド15~10~11区で検出した方形周溝墓である。屋外調査の段階では2条の溝状遺構と認識していたが、後年に隣接地が発掘調査され、方形周溝墓であることが判明した。

北西側周溝となるS D38は、北側が調査区外に続き、南側はS D32に切られる。南西側周溝となるS D40は東側が自然流路N R01に切られる。並行するS D39との新旧関係は、断面観察の結果から本遺構の方が古いことが確認されている。

なお、この方形周溝墓の北隅と東隅には墻構がない。このためS D38とS D40の端部が注目されたが、中世以降に造営された溝状遺構S D32の存在により不明となっている。

S D38は全長1.19m以上・幅1.1~1.2m、S D40は全長3.2m・幅0.6~0.9mをはかり、深さは0.17mである。遺物は弥生土器のほか、後世の混入遺物とみられる土師器や須恵器が出土している。(図面四四 3・9)

その他の遺構

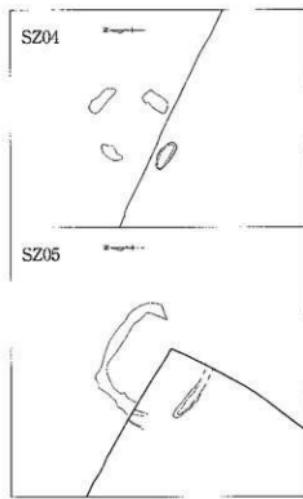
1区のS Z01付近では方形周溝墓と主軸の傾きをほぼ同じくする溝状遺構4条と土坑3基検出している。これらのうち、S D07・S D08・S K10とS K18・S K19は方形周溝墓となる可能性も考えられるが、それぞれの配置や断面形状など肯定し難い要素があるため、ここでは個別の遺構として以下に解説する。

溝状遺構 S D07 (図面三四)

1区のグリッド4~5~15区で検出した、北西から南東方向にはしる溝状遺構である。本遺構の主軸がS D08に対し垂直方向となるため双方の関連性も検討したい。全長4.26m・幅0.7~1.0mをはかり、深さは0.34mを呈する。土師器が出土している。

溝状遺構 S D08 (図面三四)

1区のグリッド5~6~14~15区で検出した、北東から南西方向にはしる溝状遺構である。



第14図 方形周溝墓概略図2 (縮尺1/400)

主軸が S D07 のそれと垂直となるが、北端は S D07 よりも北側に飛び出す格好となる。また、土層断面をみると二度にわたり掘削された可能性があり、拡張もしくは他の造構と重複をした可能性がある。S D05 及び 06 と並行しており、その関係性を視野に入れたい。

規模は、全長 8.08m・幅 0.9~1.3m・深さ 0.44m をはかる。遺構覆土は上層が黒色粘質土を呈するが、下層は黄色土が堆積する自然堆積とみられる。土層の断面形状をみると段差が存在する。西側が一段低く底面には平坦面をもつ。弥生土器や土師器が出土している。(図面四五 17)

溝状造構 S D09 (図面三四)

1 区のグリッド 6-14 区で検出した北東から南西方向にはしる溝状造構である。全長 4.74m・幅 0.4~0.6m・深さ 0.18m をはかる。遺構覆土は黒色粘質土の単一層であり、土師器片が出土している。

溝状造構 S D39 (図面三八)

1 区のグリッド 14~15-10~11 区で検出した、北西から南東方向に方位をとる溝状造構である。S D40 に沿うように東西方向にはしる。

北西側を S D32 に、そして南東側を自然流路 N R01 に切られる。S D38 との関連性も考えられるが、主軸の方位が S D38 を含む方形周溝墓のそれと若干異なるため、時期の似た別の造構であると思われる。S D40 を切っており、これより新しい溝状造構と判断できる。

規模は、全長 4.57m 以上・幅 0.6~1.1m・深さは 0.2m と浅い。遺構覆土の堆積状況は黒色の砂質土を主体とした自然堆積である。弥生土器のほか、土師器や須恵器が出土している。

土坑 S K10 (図面二三)

1 区のグリッド 4-14~15 区で検出した土坑である。長軸の方位は北東から南西方向を呈する。南側を凹地 S X01 に切られており、溝状造構 S D07 に対しては直面に、S D08 には平行関係にある。

規模は、長軸 2.7m 以上・短軸 0.99m・深さ 0.39m をはかり、概して S D07 や 08 と近似する。遺物は土師器や須恵器が出土しているが、後世の可能性が考えられる。

土坑 S K18 (図面二四)

1 区のグリッド 5~6-13~14 区で検出した、主軸を北西から南東方向にもつ土坑である。

完形に近い高杯 2 点が造構底面において横たわる状態で出土している。この出土状況から、土坑内に高杯が据え付けられたまま放置され、やがて転倒し年月とともに埋没したものと思われる。このことから、墓等に關連する祭祀造構の可能性を提起したい。

なお、上記をめぐっては副溝をもたない土坑墓の可能性もある。本造構については断面形が逆台形型を呈し、且つ底面に平坦面をもつなど、土坑墓とする要素も有する。

長軸 2.27m・短軸 0.83m・深さ 0.5m である。平面形は不整梢円を呈し、遺構覆土は黒色粘質土を主体とした自然堆積とみられる。上記した高杯以外にも、土師器や須恵器片が出土している。(図面四五 12・13)

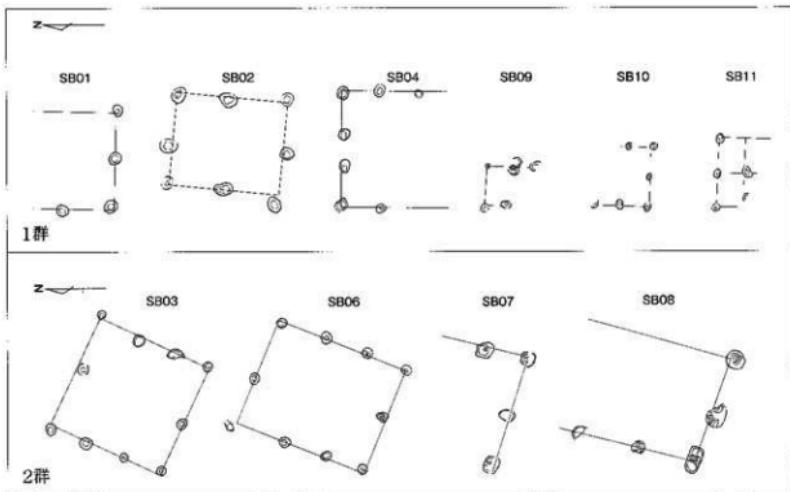
土坑 S K19 (図面二四)

1 区のグリッド 5-13 区で検出した、主軸を北西から南東方向にもつ土坑である。S K18 と並行し、北西側を S X01 に切られる。長軸 1.78m 以上・短軸 0.72m・深さ 0.49m をはかる。遺物は土師器が出土している。

2. 古代 掘立柱建物

今回の調査では、合計 11 棟の掘立柱建物を検出した。建物の方位やその配置からおおよそに大別が可能とみられる。正方位に対し 0~5 度ほど東方に傾く掘立柱建物 SB01・02・04・09・10・11 の一群と、同 20 度ほど東方に傾く SB03・06・07・08 の一群がそれである。

なお、SB05 のみ特異な方位を呈しこの 2 群に含まれない。以下、各掘立柱建物の概要を解説する。



第15図 掘立柱建物群概略図 (縮尺1/200)

掘立柱建物 SB01 (図面一五)

1 区のグリッド 7~8-14~15 区で検出した個柱構造の掘立柱建物である。調査区内では桁行は 1 間以上と梁行を 2 間検出したのみである。建物の北側は調査区外へと達する。が、隣接する調査区内ではこの延長部分が検出されていないため、2 間 × 2 間の規模を呈すると考えた。

調査区内で検出された範囲では桁行 2.0m 以上 (1 間以上)・梁行 4.0m (2 間) となる。ただし、上記の組立柱が正しければ柱間は桁・梁行とも 2.0m に達するため、他の事例に比して広いかと思われる。

建物の方位は N-2° - E で、SB02・04・09・10・11 とはほぼ同方位である。掘方ないし柱穴の向形は不整格円ないし不整凸形、断面形はすり鉢状を呈する。土師器が出土している。

掘立柱建物 SB02 (図面一六)

1 区のグリッド 7~8-13~14 区で検出した掘立柱建物である。2 間 × 2 間の個柱構造の建物であるが、東西方向に比して南北方向が長い。SB03 と平面的に重複するが新旧関係は不明である。全容が把握できる建物のうち最も床面積の小さい建物となる。

建物の規模は桁行 4.6m・梁行 3.6m、床面積は 16.56 m² をはかる。方位は N-6° - E を呈するが、SB01

とは建物の配置や方位などに意識的なものがみられ、S B01を考慮して建てられたものと考えられる。

掘方ないし柱穴は、不整円ないし不整円形の平面形を有し断面形はすり鉢状を呈する。柱間は不同であるが桁行はおよそ2.3m間隔である。遺物は出土しなかった。

掘立柱建物 S B03 (図面一六)

1区のグリッド7~8~12~14区で検出したS B02と切り合う掘立柱建物である。3間×2間の側柱構造の建物であるが、平面形は正方形に近い規格をもつ。

建物の方位はN-25°-Eで、S B06・07・08とほぼ同方位となる。掘方ないし柱穴の平面形は不整円ないし不整円形、断面形はすり鉢状を呈する。土師器片が出土している。

掘立柱建物 S B04 (図面一七)

1区のグリッド8~9~11区で検出した側柱構造の掘立柱建物である。建物の南側が調査区外に達しており全容は把握されていないが、現状では3間(4.8m)×2間以上(3.2m以上)の規模を呈することを確認した。

柱間は南北方向1.6mの等間隔であるのに対し、東西方向は1.8・1.2・1.8mと同一ではない。建物の方位はS B01と同様にはほぼ正方位である。掘方ないし柱穴の平面形は不整円ないし不整円形を呈する。遺物は出土しなかった。

掘立柱建物 S B05 (図面一五)

1区のグリッド11~12~11~12区で検出した2間×2間の側柱構造を呈する掘立柱建物である。桁行は5.6m・梁行は4.8mをはかり、床面積は26.88m²となる。柱間は一定ではない。

方形周溝墓S Z02及び03を切る。またS B06とも平面的に重複する。建物の方位はN-13°-Eである。今回の調査区内で検出された掘立柱建物は方位により二大別されるが、このS B05のみ特異な方位を呈しており、そのいずれにも該当しない。掘方ないし柱穴の平面形は不整円ないし不整円形、断面形は逆台形状を呈する。土師器が出土している。

掘立柱建物 S B06 (図面一七)

1区のグリッド11~12~10~12区で検出した3間×2間の側柱構造をもつ掘立柱建物である。桁行は5.6m・梁行4.6mを呈するが、柱間は一定ではない。床面積は25.76m²をはかる。

S B05とはその大部分が重複する。方形周溝墓S Z02及び03を切る。

建物の方位はN-22°-Eを呈し、S B03・07・08と共通する。掘方ないし柱穴の平面形は不整円ないし不整円形、断面形はすり鉢状を呈する。土師器が出土している。

掘立柱建物 S B07 (図面一八)

2区のグリッド18~19~8~10区で検出した側柱構造を呈するとみられる掘立柱建物である。北側大部分は調査区外に達しており、現状では梁行方向1間(4.6m)以上と桁行方向2間(4.4m)以上を確認したのみである。

柱間は現状では桁行・梁行とも2.2m前後である。S B08と重複するが新旧関係は不明である。

建物の方位はN-22°-Eを呈する。また他の建物に比してやや大きな掘方ないし柱穴で構成されている。これらの平面形は不整方形ないし不整円形、断面形は不整形を呈し、底面の高さは不揃いである。覆土は上

層に黒色粘質土と下層に暗黄灰色砂が堆積する。

掘立柱建物 S B08 (図面一九)

2区のグリッド17~18-8~9区で検出した鰐柱構造の掘立柱建物である。S B07と平面的に重複する。北側は調査区外に達しており、今回の調査では桁行方向2間(4.8m)以上と、梁行2間(4.4m)を確認したのみである。北側同様、西側も調査区外へと達するものと思われ、概して今回検出された建物の中では比較的大型の建物となる可能性をもつ。

梁行方向の柱間は1.8mをはかる。一方の桁行方向はいまのところ2.4mで一定する。建物の方位はN-18°-Eであり、S B03・S B06・S B07とは概ね同様の方位を呈する。掘方ないし柱穴は、不整形ないし不整円形の平面形を呈する。断面形は方形を呈し底面は楕円一定である。土師器や須恵器が出土している。

掘立柱建物 S B09 (図面一九)

1区のグリッド32~33-13区で検出した掘立柱建物である。全容は不明ながら概ね2間以上×1間以上の総柱構造を呈する可能性がある。

建物の規模は桁行方向1.9m・梁行方向1.6mをはかる。建物の方位はN-3°-Eを呈し、S B10や11と同方向となる可能性がある。掘方ないし柱穴の平面形は、不整円形ないし不整圓形、断面は逆台形状を呈し底面の高さは必ずしも一定ではない。遺物は出土しなかった。

掘立柱建物 S B10 (図面二〇)

4区のグリッド32~33-13区で検出した鰐柱構造の掘立柱建物である。建物の北側は調査区外へと達しており、今回の調査区では桁行2間(2.2m)以上×梁行2間(2.4m)を確認したのみである。

建物の方位はN-2°-Eを呈しS B09や11と同様である。掘方ないし柱穴平面形は、不整円形ないし不整圓形、断面は逆台形状を呈する。遺物は出土しなかった。

掘立柱建物 S B11 (図面二〇)

4区のグリッド33-12~13区で検出した掘立柱建物である。

総柱構造の可能性をもつが、南側が調査区外に達しており、現状では桁行1間(1.0m)×梁行2間(3.0m)を確認したのみである。柱間も一定ではない。

建物の方位はN-5°-Eであり、1区のS B01・02・03、また2区のS B09・10と同様の方位を呈する。掘方ないし柱穴の平面形は不整円形である。断面形は逆台形状が多く、底面は概ね一定である。遺物は出土しなかった。

溝状遺構

調査区内では多数の溝状遺構を検出している。このうち古代に属する可能性をもつものは28条である。1区では道路状遺構の側溝と思われるものなどを検出している。以下では、遺構の性格を想定できるものについて解説する。

溝状遺構 S D05・06 (図面三二)

1区のグリッド3-5-14-15区で検出した溝状遺構である。S D05と06は平面的に並走関係にあり、と

もに南北方向にはしる。

S D05 については、南北端をそれぞれ凹地 S X01 と S D02 により切られる。土師器や須恵器が出土しており古代に属する可能性がある。

規模は、S D05 が全長 8.28m 以上・幅 0.5~0.7m・深さ 0.28m を呈する。S D06 は全長 9.34m・幅 0.6~1.1m・深さ 0.32m である。S D05 の土層の堆積状況については黒色粘質土の單一層である。これに対し S D06 は 2 層に分層でき、上層は黒色粘質土層、下層は黄褐色粘質土層である。(図面四七~五〇・五三・五五 44・73・99・127・143・179・186・222)

溝状造構 S D17 (図面三五)

1 区のグリッド 8~10・11~14 区で検出した溝状造構である。北東方向から南西方向にはしる溝状造構であり、両端は調査区外へと達する。隣接する富山県教委の実施した発掘調査成果と照合するに、後述する S D18 と対をなし、道路状造構となる可能性が考えられる。

今回の調査区内では全長 16.7m 以上・幅 0.4~1.5m・深さ 0.3m を呈する。掘立柱建物 S B04 と土坑 S K48 に切られる。覆土 2 層に分層でき、上層が黒褐色粘質土であるのに対し、下層は黒褐色を主体としたシルト層が堆積している。須恵器の杯が多く出土している。(図面四四・四六・四八~五〇 5・31・34・77・81・82・132・133・137)

溝状造構 S D18 (図面三五)

1 区のグリッド 10~11・12~13 区で検出した溝状造構である。S D17 と同様に北東方向から南西方向に並走する溝状造構であり、双方で道路造構を構成していた可能性がある。また、S Z02 の掘方部分と重複しているため明瞭ではないが、S D19 もまた本溝状造構の続きにあたる可能性も考えられる。

本造構の北側は調査区外へと達する。が、確認できる範囲では全長 8.86m 以上・幅 0.5~0.7m・深さ 0.32m を呈しており上記の S D17 と同規模である。土層は暗灰色粘質土に黄褐色砂質土が混在する単一層である。土師器や須恵器の破片が出土している。

溝状造構 S D21 (図面三五)

1 区のグリッド 9~11・10~11 区で検出した溝状造構である。西北西方向から東南東方向に方位をとり、道路造構の可能性をもつ S D17 や 18 とは概ね直交する。この状況から、道路造構から派生する区画路となる可能性があるかと思われる。

確認できた範囲では全長 10.5m 程度・幅 0.3~0.6m・深さ 0.17m を呈する。覆土は黒褐色粘質土と黄褐色砂質土との混土層である。須恵器片が出土している。(図面四八 94)

なお、本造構から北東側に直交する S D20 と 24 についても、S D17 や 18 と平行するため、同様の性格を有すると考えられる。

溝状造構 S D22 (図面三六)

1 区のグリッド 12~13・12 区で検出した溝状造構である。西北西方向から東南東にはしり、東端付近で北側へと消曲し S D27 に切られる。

全長 5.54m 以上・幅 0.2~0.5m・深さ 0.24m を呈する。造構覆土は黒色粘質土の単一層である。須恵器の残塊が出土している。(図面四八 85)

溝状遺構 S D23 (図面三六)

1区のグリッド11~12-10~12区で検出した溝状遺構である。北西方向から南西方向へと湾曲し、南東に達する。

全長16.42m・幅0.45~0.5m・深さ0.16mをはかる。覆土は黒色粘質土の單一層である。周辺遺構との新旧関係については、方形周溝墓S Z02・03と溝状遺構S D26を切るが、S D25には切られる。とくに遺物は出土していない。

溝状遺構 S D37 (図面三八)

1区のグリッド14~10~11区で検出した南北方向にはしる溝状遺構である。北側はS D32に切られるが、S D36とは同一の遺構であった可能性が考えられる。

全長3.45m程度・幅0.2~0.5m・深さ0.15mの規模を呈する。遺構覆土は2層に分層でき、上層は黒褐色シルト質土、下層は黄褐色砂質土である。土師器や須恵器の杯が出土している。(図面四六・四七 32・42)

溝状遺構 S D46・47 (図面四〇)

2区のグリッド20~21-7~8区で検出した並行する2条の溝状遺構である。

北西方向から南東方向へとしり東端は凹地S X02に切られる。宮山県教委の発掘調査した隣接調査区からはこの延長上とみられる溝状遺構が検出されている。遺構の間隔などから区画溝の可能性が考えられる。ちなみにS D46とS D47のそれは2.0~2.4mである。

S D46については、全長6.8m以上・幅0.2~0.5m・深さ0.16mをはかる。S D47は幅0.5~0.6m、深さ0.23mをはかり、全長は調査区内では5.86mである。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

溝状遺構 S D51 (図面四一)

3区のグリッド24~14~15区で検出した南北方向にはしる溝状遺構である。僅かに東方へと湾曲し、南側は調査区外に達する。

規模は全長3.87m以上・幅0.45~0.65m・深さ0.23mをはかる。遺構覆土は黒色粘質土の單一層である。弥生土器や土師器が出土している。(図面四六 26)

溝状遺構 S D58

4区の33~34~12~13区で検出した南北にはしる溝状遺構である。平面形は不整形を呈し、北側は調査区外に達する。

規模は、全長2.46以上m・幅は0.3~1.4m・深さ0.11mをはかる。土師器の甕が出土している。(図面五二 168)

土坑

土坑 SK04 (図面二二)

1区のグリッド3~4~14~15区で検出した土坑である。平面形は梢円形を呈し、南側のSK05を切る。規模は長軸1.6m・短軸0.88m・深さ0.4mを呈する。弥生土器のほか、土師器や須恵器が出土している。(図面四五・四七 15・40・56)

土坑 SK20 (図面二四)

1区のグリッド6-13区で検出した土坑である。平面形は梢円形を呈し、規模は長軸1.00m・短軸0.50m・深さ0.26mをはかる。遺構覆土は黒色と黒褐色の粘質土が堆積し、土師器が出土している。(図面四四 10)

土坑 SK42 (図面二六)

1区のグリッド8-13区で検出した土坑である。SB02と切り合うが新旧関係は不明である。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸1.40m・短軸0.93m・深さ0.18mをはかる。土師器、須恵器が出土している。(図面四六 25)

土坑 SK43 (図面二六)

1区のグリッド8~9-13区で検出した土坑である。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸0.58m・短軸0.41m・深さ0.38mをはかる。須恵器のほか柱根も検出されている。

土坑 SK45 (図面二六)

1区のグリッド9-12~13区で検出した土坑である。南接するSK46を切る。規模は長軸0.54m・短軸0.52m・深さ0.14mを呈する。弥生土器と土師器が出土している。(図面四六 21)

土坑 SK48 (図面二七)

1区のグリッド9~10-13~14区で検出した土坑である。平面形は不整方形を呈し、規模は長軸3.53m・短軸2.18m・深さ0.28mをはかる。遺構覆土は2層に分層でき、上層は明灰色粘質土、下層は暗灰色粘質土が堆積する。土師器と須恵器が出土している。(図面四八 74)

土坑 SK72 (図面二九)

3区のグリッド19~20-7~8区で検出した土坑である。平面形は不整円形を呈し、規模は長軸1.56m・短軸1.4m・深さ0.12mをはかる。覆土は暗灰褐色砂質土を主体とする。土師器や須恵器が出土している。(図面四九 121)

3. 中・近世

今回の調査では、弥生時代や古代の遺構の他に、中世から近世に属するとと思われる遺構を確認している。複数の時期の遺物が混在するため、出土遺物からの明確な時代の特定は難しく、ここでは中・近世の遺構として取りまとめてこととする。ここで上げる遺構は、井戸、橋、溝状遺構、凹地、自然流路である。

井戸 (図面二一) (図面五五 209・224)

1区のグリッド12-13区から3基の井戸を確認した。これらは平面的に重複していることから2度の造り替えが行われたと考えられる。新旧関係についてはSE03が最も古く、ついでSE02となり、SE01が最も新しい。

それぞれの井戸の底面からは水溜として利用されたとみられる曲物が出土している。このうちSE01から

出土した曲物は比較的遺存状況が良く、井戸の断面形状を確認することができた。S E02 や 03 においても曲物の一部が残存していた。

3 基とも同様の規模を呈するとみられるが、最も遺存の良い S E01 では、長軸 0.84m・短軸 0.66m・深さ約 0.44m を呈する。出土遺物としては珠洲や中世漆器が主体であり、この時期に造られた井戸と考えられる。

(図面五五 209・224)

橋

橋 SA01 (図面二〇)

1 区のグリッド 8~10-13~14 区で検出した橋である。今回の調査区内では柱間は 4 間を検出したが、北端が調査区北壁に隣接するため全容は不明である。柱間は南西から 1.6m・1.4m・1.4m・1.6m である。傾きは E-5° - N を呈する。

掘方ないし柱穴の平面形は不整円形ないし不整円形で径 0.3~0.6m を呈し、深さは 0.1~0.29m をはかる。土師器片が出土している。

橋 SA02 (図面二一)

4 区のグリッド 34~35-12~13 区で検出した 4 間の橋である。柱間は、北西から 2.4m・2.4m・2.0m・2.6m と必ずしも一定ではない。傾きは E-28° - S となっている。

掘方ないし柱穴は不整円形ないし不整円形の平面形を呈する。規模は径 0.1~0.24m をはかるが、深さは 0.03~0.14m にとどまり、後世の削平を受けているものと思われる。土師器片が出土している。

橋 SA03 (図面二一)

4 区のグリッド 35~36-12 区で検出した 2 間の橋である。柱間は一定ではなく北西から 2.8m・3.4m となる。傾きは E-25° - S を呈し SA02 に近似する。

各掘方ないし柱穴の規模は、径 0.23~0.18m、深さ 0.05~0.27m と不揃いである。遺物の出土はなかった。

橋 SA04 (図面二一)

4 区のグリッド 35-12 区で検出し積極的に橋と考えた遺構である。南北端が調査区外に達する。ため全容は不明であるが、ここでは橋としてとりあげた。方位は N-56° - E を呈しており SA02 や 03 とはほぼ垂直に位置する。柱間は一定ではない。

掘方ないし柱穴の平面形は不整円形ないしは不整円形を呈し、径 0.3~0.45m・深さ 0.07~0.12m をはかる。遺物の出土はなかった。

溝状遺構

溝状遺構 SD01 (図面三二)

1 区のグリッド 2-15 区で検出した西北西から東南東の方向にはしる溝状遺構である。東側は SD02 に切れられ、西側は調査区外へと達する。ため全容は不明である。

確認された範囲では、全長 2.9m 以上・幅 0.5~0.9m・深さ 0.27m をはかる。土師器のほか、珠洲・陶器・焼管が出土している。(図面四四 2)

溝状遺構 S D02 (図面三二・三三)

1区のグリッド1~6・14~16区で検出した、主軸を西南西から東北東にとる溝状遺構である。両端は調査区外へと達するが、北接する富山県教委の調査区で片側の延長部分が検出されている。

全長 19.34m以上・幅 1.7~4.2m・深さ 0.51mをはかり、今回の調査区内にあっては比較的規模が大きい。S D01・05・06を切るため、これらよりも新しい。遺構内から珠洲や陶器を出土しており、中世以降に埋没したと考えられる。

なお、この溝状遺構は、調査区北壁に接する部分において塙とみられるものを確認している。(図面四九・五〇・五五・五六 124・152・206・254・257)

溝状遺構 S D27 (図面三七)

1区のグリッド12~13・11~13区で検出した、ほぼ南北方向に主軸をとる溝状遺構である。北側は調査区外に達しており全容は不明である。S Z03 や S D22 を切る。

全長 5.2m・幅 3.2~3.7m・深さ 0.31mをはかる。弥生土器のほか、土師器・須恵器・珠洲・陶器・石製品・木製品が混在して出土している。(図面四五・四九 18・102)

溝状遺構 S D32 (図面三八)

1区のグリッド14~16・10~12区で検出したし字形にはしる溝状遺構である。両端は調査区外に達するが、調査区北側で隣接する富山県教委の調査区でもこの延長部分が検出されている。周辺の遺構との切り合いについては S D36・37・38・39・40 を切るが、N R01 には切られる。

今回の調査区内で確認できる範囲では全長 12.3m以上・幅 1.8~2.4m・深さ 0.38mをはかる。S D27 と同様に、弥生土器のほか、陶器・古錢・木製品等が混在して出土している。(図面四五~五〇・五一・五四 19・22・35・37・61・62・80・112・130・151・170・198)

溝状遺構 S D41 (図面三九)

2区のグリッド17~22・8~10区で検出した西北西から東南東にはしる溝状遺構である。両端及び北側は調査区外に達する。隣接する富山県教委の調査区でも延長部分がみられないため、ちょうど本調査区北壁に沿って所在するものと思われる。

確認された範囲では、全長 22.0m・幅 1.2~2.6m・深さ 0.48mをはかる。土師器のほか、陶磁器・木製品が混在して出土している。(図面四七・四九・五〇・五一・五四・五六 58・117・138・140・141・146・155・195・248・250・256)

凹地

凹地 S X01 (図面〇六)

1区の3~6・13~14区で検出した凹地である。南側は調査区外に続き、また S D41・42・46 を切る。

規模は縦 11.8m・横 5.5mをはかり、平面形は不整形を呈する。出土遺物は須恵器のほか、珠洲・陶磁器・焼管などが出土している。(図面四七・四九・五〇・五一・45・46・103・105・128・134・136・173)

凹地 S X02 (図面四二)

2区の17~26・3~8区で検出した腐植土層をもつ凹地である。本址とS X03とにより2区の大部分を占有するが、北側に隣接する富山県教委の調査区においても延長部分検出されている。

出土遺物は土師器・須恵器・珠洲・陶磁器のほか、腐植土層から木製品が多数出土している。(図面四六・四七・四九~五一・五三~五六 38・39・52・125・149・154・180・181・188・194・211・215・216・219・223・258)

凹地 S X03 (図面四三)

2区の26~31・1~5区で検出した凹地である。S X02と同様に腐植土層をもつ遺構である。ともに後後にいて上層を削平されているとみられるため、S X02とS X03は本来同一の遺構であった可能性がある。

規模については、南北側と東側が調査区外に続くため明確ではない。深さについても0.76m以上の腐植土層の堆積を確認したのみである。腐植土層から多数の木製品が出土している。(図面四六・四八・五一~五三・五五・五六 29・93・158・167・184・208・217・226・229・230・234・235・240・241)

自然流路

1区では交差する2本の自然流路を確認した。1区の東端に位置し西方から東方にむけて緩やかに弧を描きながらはしる。両端は調査区外に達するが東接の2区では延長部分は確認されていない。幅3.2~4.2m・深さ0.63mをはかる。土師器のほか、須恵器・珠洲・陶磁器・土鍼が出土している。

N R01の南側に位置するN R02は、部分的な確認にとどまるため全容は明らかではないが、概してN R01と同種の流路と考えられる。確認した範囲では南東方向から北東方向にはしり北端はN R01と合流する。また深さ0.41mにとどまりN R01よりも若干浅い。接触する全ての遺構を切る。

(図面四四・四五~五〇・五二~五六 4・27・33・36・43・49・59・64・67・69・90・92・97・104・147・162・189・191・193・200・203・237・238・247・251・252)

第3節 遺物

1. 弥生～古墳時代

弥生時代

壺

1は有段口縁を呈する壺である。口縁部上方が欠損しており口径は不明である。口縁部下端は角張り、頭部が強く屈接している。内外面が屈曲する部分まで横ナデしおり、内面下方は斜めケズリしている。

2は幅の狭い有段口縁をなした長頸壺である。内面に粘土帯の繋ぎ痕が斜め上方に伸びており、表面にも対応した緩い凹凸がみられる。口縁部の先端は上方に丸く短く伸びる。外向は粗い間隔の縦ハケを施した後に器面に軽くナデを加えている。

3は完形の壺であり、口縁部は受口状で外間にヘラによる刻みを加えている。胎土には海綿骨針を含み、1mm以下の細砂を少量混入させる選練した粘土を用いている。底部は4cm程の大きさで平坦にしている。体部の最大径は大きく下半よりにある。土器の成形は、底部側下半と体部に二分して成形した跡痕が内面のハケとミガキの塊にみられる。体部の内面頸部より下にかけて縦ハケを行う。外面は斜めハケ後に、縦ミガキを全体に行なっている。体中央部付近から上部と、外底面や底近くにそれぞれ赤彩が残ることから、本米は外面赤彩の土器と推測される。

5については小破片であり壺の可能性も含む。色調が桜色をなし、丸みをもつ口縁外面内面には3条の擬円線文が引かれており古い時期の特色を有する。

壺

6は口縁部の幅が狭く4条の沈線がめぐり、壺と考えた5の断面形状とやや類似する。ともに桜褐色の色調を呈しており胎土に1mm大前後の砂粒は少ない。体部内面には斜めケズリにより器面厚の器薄化を行なっている。

7はやや内傾する口縁部に4条の凹線が引かれている。外面は煤状炭化物が付着する。

9は口縁部が「く」の字状を呈する壺であり、外底面に数方向からのハケを留める。外面には口縁部から底部にかけ煤状炭化物が付着する。体上部は斜めハケ、体中部から底部までは縦ハケを先に行なっている。内面の体上半は横ケズリ、体下半は縦ケズリであり、胎土には3~5mmの大い砂を多く混入している。

10は幅の狭い口縁端部にさらに横ナデを加え先細りさせた壺である。11は「く」字状に外半する月影期のものとみられる壺である。

高杯

12及び13は、短く外反する杯部と長い棒状部、それと安定した脚部をもつ。12は胎土が軟質であり、器面の剥落等により調整痕が不鮮明な部分がある。外反し厚みをもつ口縁部の直径は約25.3cmと大きく、内外面を横ミガキし口縁端部をやや肥厚させている。柱状部より下位は「ハ」の字状に開脚する。脚内面については、端部が横ハケとやや斜め方向のケズリを、柱状部は横ケズリの調整を行なっている。

13は保存状態がよく直径30.1cmの大きな杯部をもつ。対称となる位置に2個の半円形の環状粘土紐を取り付ける。脚の先端は屈折をさせ脚端部としている。器面の調整は外面全面を丹念にミガキ調整し、大きな杯部と棒状柱状部との接合は12のような半円球や粘土塊を柱状部に押し込み杯部を支えている。柱状部内面は横ケズリを行い、剥離した脚部との接合は漆(茶褐色)を接着材代わりに接合し再使用している。内面が横ハケ調整の脚部には4個の円孔があり、内面から外方に向け穿孔している。

16は、高杯の杯部内外面と棒状部が赤彩されている。杯部外反部との接合面で剥離し、さらに短めの棒状

部が杯部内面まで達する。杯部下端を伸ばして接合させた様子がわかる土器であり、杯部と棒状部の閉塞が剥がれています。

17は焼成のはか、胎土や赤彩などの点で16と類似する。同一個体の可能性をふくむが前出13と比較するならば小形となる。内面は横ナデと横ケズリがされている。

18は柱状部の下半部で脚部との屈曲部にある。遺存状態が悪く調整痕は不明瞭ではあるが、内面は横ケズリがわずかに残り外面は幅約2cmの平面を有する。内面に段を設けており12・13と同時期とみられる。器台

21は山陰地方にみられる鼓形の形態をしたものであり、厚みのある受部と脚部が相似している。器面を飾る擬凹線文は、1.5cmの幅に8本程のヘラ状具を一単位としたもので、受部と脚部に各3回ずつ施文する。

22は、2本の沈線を渦巻き状にした円形文を2個繋ぎ一単位としたスタンプ文である。破片の大きさから器台脚部に連續施文したもので、今回の調査で唯一の出土となる。

23は器台脚部の破片であり、鼓形の脚端部に7条以上の沈線を引いている。24は器台の脚端部にあたる小破片で、脚部内面をナデている。

古墳時代

土師器

壺

26はほぼ一周する壺の上半部であり、外面全体に漆状炭化物が付着する。幅広の口縁部は無文であるが、横ナデ後に弧状沈線が全長2.5cm以上にわたりヘラ先による沈線を引いているところが1箇所ある。口縁部の下端がやや突出する傾向にあり山陰系の影響を受けた壺であろう。体部の器厚は、斜めハケと斜めケズリで厚さ3mmと薄く仕上げている。胎土には2~3mm大の砂粒を多く含有している。

25は「く」の字口縁部で、先端が細くなっている。

須恵器

28の杯Gは1/12ほどの小さな破片で、口径約11.0cmである。II撇端部も同期の杯身に比べ厚作りであり、外向の受け部側外面も厚みをもっている。

29の杯Gは受け部にあたり、口径10.4cmで、立ち上りの高さも0.7cm程と低く、II径から7世紀第1四半期の中でも後半の時期のものであろう。

2. 古代

須恵器

杯A

杯Aにおいても概して破片が多い傾向にある。30・33・35・36・37については器高3.0cm前後を呈し、11.0~14.0cm台の口径をはかる。あまり外傾しない口縁部は8世紀中頃から末にかけての時期に該当する。

口縁部を欠きII径が不明のものは7点である。外底面には約1.0cm幅の粘土巻き上げ痕を残す。32・37については、外底面の中央において回転台から切り離した際にヘラを抜いた後が観察できる。

32・35・37・39・42・44・52・53などには底面に平行した線状痕が浅く付き、成形品を一時的に仮置した痕跡か、または乾燥時の置き台の条線であることが推測される。

31 は生焼け気味の薄茶色を呈する軟質焼成品である。口径 12.0 cm ほどで、8 世紀末から 9 世紀前半のものである。また、37・55 には「-」、34 には「×」のヘラ記号状の沈線が外底面に記されている。

底部の形態では、38・40 のように平坦なものや、34・35 などのように浅く内面が窪むものと、37・42 のようにやや丸味をもつて外面と連なるものがある。44 は口径 12.8 cm と大きく 8 世紀中頃から後半のものである。32 は口縁部が外面に丸く出る特異なものであり、今回の調査では 1 例のみの存在で 8 世紀末頃にあたる。

48 は器高が 2.4 cm と今回出土した坏 A の中では最も器高が低く、口径の小さな 42 及び 43、外傾度が強い 41・46 は 9 世紀中頃から後半の時期に含まれよう。

杯蓋

65 は口径 15.0 cm で摘みが宝珠形で、頂部外面には右回りヘラケズリを 2 回ほど行い、平坦面を成形する。胎土には 1~3 mm 大の砂を多く含む。

66 は口径 15.0 cm で外面頂部はヘラ切りし、摘みは中窪みである。63・66 は外面全体に自然釉がかかり、65 は口縁部外面の縁辺のみに釉がかかり、杯 B と組合せた焼成を示している。口縁端部の形状から 8 世紀中頃に属する。

69 の摘みは直径 2.5 cm と大きな宝珠形であり、67 は先の尖った宝珠摘みである。時期は 8 世紀中頃であり、尖った摘みは 8 世紀中頃~9 世紀初頭の例に類する。

64 は小ぶりのタン状の摘みを有し 9 世紀前半代に下る。62 は口径 11.4 cm の大きさで、外面全体に自然釉がかかり小さな摘みがつく。

60 は、内面の口縁端部をのぞき全体が黒褐色を呈する。墨状の炭化物が部分的に残存しており転用窯の可能性もある。61 は口径が 13.0 cm で黄褐色の生焼け品で、内面の一部に炭化物がつく 9 世紀前半の時期である。杯 B

82 は口径 16.2 cm・器高 7.0 cm を呈する。底部からの立ち上がりが直線的で傾きが少ない。83 は、口径 17.0 cm・器高推定 4.9 cm を呈する。立ち上がりは比較的垂直に近い。また口辺部中程に沈線を施させており 8 世紀中頃のものである。

口縁部を欠く 133 は高台径が 12.0 cm でヘラ切り後にナデしており、83 のような形の底面であると想定される。132 は高台径が 11.8 cm で内面全体をナデしており、体部への立ち上がりがおそらく 83 に近い形で外方への傾きが少ないものであろう。8 世紀中頃の時期に近いものであろう。

85 は口径 12.1 cm・器高 5.1 cm を呈する稜輪である。内面を丁寧にナデしているが、外面下半の調整をしておらず 8 世紀後半代のものとみられる。

84 も体部下半に鋭く角が張った稜線がめぐる小形の稜輪である。稜輪は金属器写しの須恵器とされ、各集落からの出土数は杯 B に比べ数点と少なく、特殊な用途に使用されたものであろう。

75・76 は外面にのみ自然釉を有しており、窓跡での焼成方法が身と蓋を交互に積み重ねたことを示している。74 はヘラ切り痕のヘラ抜き跡が深く、底中央に全長 3.0 cm に凹面が残り成形の未調整痕跡がみられる。

74・113 は丸みのある立ち上がりもつもので 8 世紀末頃の所産と考える。高台径が約 6.0 cm と比較的小型な 86・87・88・94 などは器面の内外面に自然釉のかかりがみられず、蓋の付かない杯 B の小形品にあたる。72・73・74・75・85 は底部からの立ち上がりの外傾度合いが少なく 8 世紀後半から末にかけての時期が考えられている。

このほか高台幅の狭い 90・92・99・104・121・122 は小形の杯 B であり 9 世紀末の時期にあたる。胎土は薄い灰色のやや軟質の焼成となっている。高台の取り付け位置は 88・94・117 など縁辺よりに片寄っているのも 9 世紀後半から末に属しよう。

なお、食器具の杯A・杯蓋・杯Bは、底面や内面中央が使用により滑らかになっており、使用頻度の高さを示すとみられる。

小形壺

134は短い口縁部端部を有する。体部が「く」の字状で、口縁から屈曲部は自然釉がかからず、蓋付きの状態で焼かれた短頸の壺である。

壺

135は底内面と体部外面に自然釉がかかった壺である。現状で高さ17.15cmを呈するが上部を失っている。胴下部の外面は斜めケズリされ、内面も同様な高さまでナデを施す。胴上半部は回転ナデであり、8世紀後半から末とみられる高台を有する。

壺・瓶類

140・141・142・143・147は、長頸瓶をはじめとする壺瓶類の底部であり、内面に自然釉がみられる。高台のみで器種の特定はできないが142・143が長頸瓶・短頸壺の高台の可能性があり、概ね8世紀中頃から9世紀前半のものであろう。140・141は短頸壺の高台とすれば8世紀末から9世紀前半とみられる。

152は平底であり内面に釉がかかっている。焼成は硬く8世紀後半のものであろう。148・149に底部下半部の外面に斜めケズリがある。150・151・152は双耳瓶をはじめとする器形の下半部と思われる。

横瓶

136は横瓶の口縁部かと思われる。口径12.4cmで短い口縁部を有する。

長頸瓶

137は長頸瓶の頸部であり自然釉が比較的多く付着している。8世紀中頃のものであろう。

平瓶

138は頸部から体上部にかけての平瓶である。口頭部の1/3強が残存し、口縁部や上部の閉塞用の円盤は遺存しない。口縁部の高さは6.0cmで、体部直径が19.5cmほどであり全形がない。石川県高松町八野古窯第2号窯跡で口縁部が大きく開いた同形をした平瓶が出土しており(折戸1985)、8世紀中頃のものにあたると考えたい。

双耳瓶

139は、体部の上半の肩に細い突帯が通り、凸帯の両側に長く伸びる板状の耳をもつ瓶の肩部の小片である。この破片は、焼成は軟質の淡灰色である。双耳瓶は9世紀になって普及し、底部は平底である。

壺

壺には次の二形態がみられる。一つは、口縁部を大きく外反し頸部からの長さが10cm余り伸びた153・154・155などであり、他は、軽く外反した頸部で屈折する156・157・158などである。年代的には8世紀後半から9世紀代と時期幅が広い。

153は上記前者の壺であり端部を外反させる。外面に幅2.5cmの沈線を描き、この間に4本の波状文を巡らす。154も口径約36cmをはかり、外反した口縁部の外面に4本以上の櫛状具で波状文を施す。

156は口径18.6cmを呈し、且つ口頭部の長さが4.0cmで頭部にいたる。頭部側にヘラ先による沈線を4cm以上にわたり1条引く。157は口径27.7cmの口縁部であり、内面が尖って肥厚している。

158は、口径23.2cmの口縁部がわずかに外反し、大きく球状に膨らむ体部をもつ。外面には3cm幅に8~9本の条線を掘り込み、条線内に右下がりの板目痕がある。

内面の当て具は棒状円盤の芯材を用いて先端に中心部から5本以上の同心円が施されている。内面の当て具による叩きは内外面同時に粘土の叩きしめを下方から上方に向かって逆時計回りに行い、外面は叩き後にカキ目を入れ成形している。

土師器

瓶

160は口径22.3cmの瓶である。口縁部の外側に2.5cmの薄い粘土帯を付け強度を増している。この粘土帯をつけた瓶の完成品は、小杉流通団地Na18A遺跡の土師器焼成遺構が多く調査され8世紀第3四半期の土師器が多く出土した谷部から4例が出土しており（池野他1993）、8世紀中頃から末頃の形態である。

鍋

161・162・163は、短い口縁部と、浅く丸みを帯びる胴部をもつ。161は口縁部の形状から8世紀後半から末の時期である。162は、口縁部が上方にやや突出し、且つ体部外面にカキメを加えており9世紀前半のものとみられる。163は内面全体と外面に煤状炭化物が厚く付着する。口縁部の端部を内側に折り返しており9世紀後半から末に属するとみられる。外面ではカキメの下方に斜めケズリ調整がつく。

甕

口径12.5～16.0cmの比較的小形のものと、口径20.0cm程度で器高30cm前後となるものがみられる。

164～169は規格的には小形の部類に属する。このうち168は8世紀末から9世紀初頭頃のものである。164は甕の体下半部の全体が残り、体部はヘラケズリ、外底面は回転糸切り痕があり、外面に煤状炭化物が厚く付着する。

171は口径16.8cmを呈する。口縁部先端が繊くなり8世紀中頃のものとみられる。166・169も外面に煤状炭化物が付着しており、回転ナデ調整で8世紀末頃のものである。165の口縁部はやや内面に傾き9世紀前半頃のものとみられる。

170は9世紀中頃に属し、167の口縁部は内面に屈折し9世紀中頃から後半期のものである。174は口径19.9cmをはかり8世紀後半のものとみられる。172は口径19.0cmで9世紀初頭頃のものであり、173は口径19.7cmで9世紀中頃のものとみられる。

椀・皿

175は低い高台をもち椀又は皿の可能性がある。176は外面のみを赤彩した皿とみられるものの底部で、底面中央に糸切り痕がある。

比較的明瞭に碗とみることができるものは、内外面無彩色でいずれも底面は回転ケズリである。概して食膳具については、9世紀後半以降は須恵器に変わり土師器の占める割合が徐々に多くなる。

177は口径12.0cm・器高4.0cmを呈する。9世紀末から10世紀初頭頃になるであろう。178は口径12.0cmで・器高3.3cm・底径が4.7cmを呈する。

179～186はいずれも糸切り痕があるが、底径にばらつきがある。180のみに外面赤影がわずかに残存するが、他は無彩色である。

縁釉陶器

187は底径6.1cm・残存高7mmを呈する蛇の口高台を有する縁釉陶器の碗である。幅1.5cmの高台が一周し中央が3mmほど窪みヘラケズリしてある。胎土には1mm以下の細かい砂粒をわずかに含む。底部内面を磨き直径5.5cmのところに低い園線がめぐる。焼成は良好で硬く焼きあげられており全体に淡灰色をなし、体部外面向に淡灰緑色の霜が少量見受けられる。京都産の収入品であり9世紀前半頃のものとみられる。

3. 中世

珠洲

壺

192・193は大型品で珠洲Ⅰ期の12世紀後半にあたる。192は口縁端部が下方に折れ肩部に段を有する。193は口縁部が大きく伸びる。

190・191は珠洲Ⅱ期に属し13世紀前半の時期のものとみられる。189はⅡ及びⅢ期の13世紀代に含まれるが、Ⅰ期に比べ口縁部が短く丸く変化する。188はⅢ期の13世紀後半にあたり、口径が30cm程とやや小型の壺である。194は大形壺の底部である。底部に細かな砂粒が付着しており砂粒は焼成の際の離れに利用している。

大壺・中壺

195・196は底部が外方に向かう立ち上りの状態から、壺の底部近くの破片にあたるとみられる。197は壺R種の壺である。

片口鉢

198は口径21.8cmの珠洲Ⅲ期の片口鉢である。片口部付近から卸し目(幅3.0cmに10条)を体下半に向かって施している。鉢の厚さは9mmと薄く成形されている。口縁端部は丸く内傾する。

すり鉢

203は底部破片であり、卸し目が間隔をあけ1.4cm幅に7本入れた状態が確認される。底部条痕は糸切であろうが、静止か回転かは判らない。

202は珠洲Ⅳ期の口縁端部である。口唇部に波状文をいた小破片で14世紀の後半にまで及ぶ。201は片口鉢付近の口縁部であり、わずかに卸し目が入る。

200は内傾する口縁部であり、2.2cm幅に8本の卸し目を施す。胎土も緻密で焼成もしっかりしている。時期は珠洲Ⅴ期の特色があり14世紀第4四半期から15世紀中頃までに属するとみられる。

208は幅2.4cmの箆条具に11本の卸し目を施す。底部外面に糸切り痕が若干残る。207・209は焼成の早い底部片である。胎土の砂粒の混入が多くⅠ・Ⅱ期に比べ粗雑な印象を残す。

207の卸し目は2.7cm幅に11本の器具を用い内面底部全体に卸し目が及ぶ。外底面の平行な静止糸切り痕が1/4にわたっている。

209は底部を1/2ほど残存しており、静止糸切り後に一部ナデが入る。卸し目の器具は幅3.4cmに11本と荒い目で入り、底部中心から7.0cmは摺り減り磨耗している。時期は珠洲VI・VII期であり15~16世紀の範疇におさまる。

土師器

皿

211は口径9.25cm・器高3.7cmを呈し、概して京都の土師器を模倣したものとみられる。糸切り底の柱状高台をもち12世紀末から13世紀前半の時期のものである。

また、212は口径17.0cmで大形の口縁部が二段ナデの非ロクロ形で京都の影響を受けしており、淡褐色で器壁は厚い。時期は12世紀末~13世紀に属する。213は口縁部両面にロクロ回転を利用し、下半を指頭痕及びナデ調整した14世紀の皿である。

ロクロ成形のまとめた資料は以下の小皿であり15世紀代のものである。214は口径8.44cm・器高2.0cmである。215は口径8.7cm・器高1.6cmを呈する。216は口径9.6cm・器高は2.42cmと高い。217は口径9.0cm

で器高 2.1 cm、219 は口径 9.7 cm で器高 2.5 cm となり法量差が少々ある。いずれも口縁部が外反し、底部は糸切りされた小皿である。

223 は口径 13.8 cm・器高 3.5 cm 前後で糸切りする大皿である。15 世紀末の時期とみられる。220 は、内外面に回転ナデを、底部には糸切りを施すものである。口縁部下半がふくらみ有段状となる。15~16 世紀の古い時期にある。

221 は数少ない橙色の胎土であり、器高 7.5 cm の口縁部のみの破片で 16 世紀前半になる。222 は底部が磨耗気味で糸切痕が不明瞭であるが、内面には回転によるナデを施しており器面が滑らかとなっている。

非ロクロ成形の皿は時期がロクロ成形品と若干ずれているが、このうち 224 はロクロ回転のナデが底部に及び、外底面は気泡状となっている。内面全体にタール状炭化物が付着している。

225~226 は非ロクロ成形の平底の皿で、口縁端部を押しナデしたものである。225 は残存率 1/4 の破片で、口縁部内外面に油状のタールが付着しき灯明皿として利用されたものである。時期は 14 世紀後半である。

227 は表面が風化し内面のナデがわずかに残る橙色の軟質の器面であり、228 は淡灰色の色調で口縁部内外面のみ押しナデし外面に指頭痕が残る。その形態から 14 世紀代のものであろうか。

230 は口径 6.5 cm で、口縁部内面全体にタール状炭化物が付く。底部は丸底となり内面をナデ外面に指頭痕が残る。231 にも口縁端部から内面を回転ナデし、外面は指頭で成形した 16 世紀前半頃のものである。

232 は口径 8.1 cm であり、全体が厚作りで丸い底部の厚さが 1.2 cm である。口縁内外面にタール状の炭化物が全体に付着し外面向に指頭痕がめぐる。16 世紀前半のものになる。

青磁碗

235 は口径 18.7 cm・器高 4.8 cm の中国龍泉窯の青磁であり 13 世紀後半代のものとみられる。外面に錆のある蓮弁が彫り込まれ淡緑色の釉薬が厚くかけられている。

染付け小皿

236 は小破片であり口径 13.2 cm と推定される。口縁部は緩く外反りし端部が丸くなっている。中国製であり白色の釉薬の上にうすい青色を彩色し、色が重なる部分がより濃い藍色になる。内面の口縁端部と底部近くに各一条の線が巡り時期は 16 世紀後半に含まれる。

瀬戸・美濃

237・238 は天目茶碗である。口径 13 cm 前後の大きさで口縁下に暗茶褐色で下半は黒色の釉がかかる。時期は 15 世紀代である。239 は口径 5.9 cm・器高 2.92 cm の小形碗であり、底部と底部近くは鉄釉のかからない生地のままである。底部は糸底状高台であり外面の底内はヘラ削りしている。時期は 17 世紀である。

240 は口径 6.4 cm・器高 4.1 cm の香炉で、口縁部が内傾して下半が膨らんだ形となる。胎土には精選された粘土を用いている。底部は糸切り後おそらく 3 個の小さな粘土塊を張付けて脚部にしている。鉄釉は外面体上部と内面の口縁部 0.5 cm にかかり、その他は生地のままである。口縁部と底部の割れを接ぎさしている。時期は 15~16 世紀である。241 は口径 26.6 cm の鉢であり茶褐色の鉄釉は内外面にかかる。胎土に 3~5 mm の砂粒が多く含み、時期は 16 世紀後半にあたる。

瓦器

242 の火鉢は体径が 19.8 cm の小形品であり、ロクロ回転を利用し成形している。色調は内面と外面が黄褐色で、外面の体部はうすい橙色をしている。また直径 2.0 cm の菊の印花文を押している。1.0 cm の円形で瘤状

の円盤形を脚部とする。時期は 15~16 世紀である。

243 は黒褐色の瓦質土器であり、焼成温度が低く軟質の黒褐色の色調をした破片である。底径が 18.0 cm であり、斜めに丸みをもった体部で火鉢の底部と思われる。内面には「大」の文字を焼成前に刻んでいる。底面から 1.7 cm の高さに水平な沈線が 1 条入る。時期は明確でないが近世の遺物であろう。

越中瀬戸

246 は鉄釉をかけた皿で、内底面を釉剥ぎし外周に圓線がみられる 16 世紀末の時期のものである。244 及び 246 は鉄釉の皿である。244 は内底面も有釉で直線を巡らし外底面は回転ナデしている。245 は内面を釉剥ぎし外周に圓線が入る。247 は底部の一部に白い灰釉がかかり、内面に釉剥ぎに外周に圓線があり、12 弁の菊花文の押し印を行う。244・246・247 はいずれも、16 世紀末から 17 世紀初めにかけての時期にあたる。249 は鉄釉をかけ内底面に釉剥ぎを行うが圓線がなく 17 世紀代に下る。

唐津・肥前他

251 は口径が 12.4 cm の唐津の碗であり、内外面に緑灰色の釉をかけ外面下部は淡茶褐色の無釉とする。252 は越中瀬戸の碗底部の破片で外面にロクロナデの痕をよく留めている。淡茶褐色の無釉の生地である。内底面のナデを行い平滑な器面に黒い斑点 2 個が 3.5 cm 間隔で残っている。時期は 17 世紀代である。

254 は口径 23.4 cm のうすい鼠色の釉がかかり、釉面が若干ざらざらした感触の器面となる。口縁部近くが緩く屈折した断面の肥前皿であり、17 世紀頃のものであろうか。

257 は口径 13.2 cm の備前の碗であり、白色の釉に淡緑色の松葉状の文様が描かれ、内面下は釉剥ぎされる。18 世紀後半で产地が不明である。258 は直径 3.0 cm の白磁の蓋の摘みであり、乳白色の釉がかかっている。蓋の器種が明らかでなく、時期は不明である。

木製品

木製品は、自然流路や凹地の腐植土層から出土したものが多く、箸状木製品のはか、板材・曲物・底板・下駄・漆器皿・祭祀用木製品などがある。いずれも遺存状況が芳しくはなく、且つ小片のものが多かった。

259 の板状木製品は、全長 22.7 cm、厚さ 0.8 mm の薄い針葉樹の板材を用いている。上端は斜めに加工されており下端が磨耗している。板の一面は刃物跡が多方向に付いており、本来は幅のある板材をまな板として利用されたものを二次使用していると考えられる。

260・261・262 は曲物の側板である。260 には縦と斜め方向のケビキあり、縦じ皮がわずかに残る。261 には細かいケビキがはいる。262 にはケビキはみられなかった。263 は口径 8.5 cm・器高 1.3 cm の内外面が黒色漆の浅い小皿である。264 の漆器碗は高台が欠損している。内外面は黒色漆で見込みには赤色漆で描かれた文様が残る。また見込み部分に意図的にあけられたと思われる孔がある。265 は全長 11.1 cm の箸状木製品である。上端近くが 5 mm の太さがあり先端を削り尖らせていている。266 は直径 13.9 cm・厚さ 0.7 cm の円形を呈する。柱目材であり 2/3 が残る。側面には木釘の痕跡が見られないことから容器の蓋に使用したものであろう。

267 は工具類の柄である。差込みの先端部分は丸く加工されており差込みは約 8.9 cm の深さがある。268 は一本造齒の下駄である。左半分を欠損している。縱に 2 箇所の小孔が穿たれている。

269 は男根状木製品である。270 の桿状木製品は先端と片側側面を加工しており、剣先のような形状となっている。

第4章　まとめ

本章では、周辺の調査区や遺跡の調査成果とあわせ、今回検出した遺構や遺物を検討し、また富山県全体を俯瞰した下佐野遺跡の位置づけを行うものとする。

県道高岡瑞穂線の建設工事にかかる平成16年度の調査区から検出された遺構は、調査区が矮小なため全体の把握が困難なものがある。また、出土遺物から弥生時代後期・古墳時代初め・古代・中世といった複数の時代に帰属するものと考えられる。ここでは主だった遺構の概要を述べることとしたい。

弥生時代後期の遺構について（第17図）

第1区では、弥生時代の方形周溝墓5基が調査区内に存在することが明らかとなった。墳丘部は後世の削平により盛土や土体部を失い、周溝のみが検出されている。5基の方形周溝墓の周溝からは弥生時代の土器や副葬品の出土はないが、周辺からは弥生後期後半の法仏期から古墳時代初頭のものが出土しており、築造時期はその前後と推測される。

次に、近年の研究成果をもとに、隣接調査区を含めた方形周溝墓群の分析を行いたい。

方形周溝墓の平面形態は第17図のように各種類に分類されており、下佐野遺跡ではこのうちの二形態が確認できる。すなわち周溝の四隅に陸橋部を設けるA1類と、一箇所に陸橋部を残す形態のC1類である。

下表は今回の調査区で確認された方形周溝墓の一覧表である。全容が不明なものについては、墳丘部が方形であることを前提に規模を復元し平面面積を推定した。また形態は「伊藤2005」の分類に従った。

今回の調査区では、小規模な方形周溝墓でA1形態のS Z01・S Z04(表No1・4)が10m余り隔てた近距離に存在し、一つの群とした。この西側にもS Z01・S Z04と方位等を同じくする溝状遺構や土坑が確認されており同形態の方形周溝墓が存在した可能性もあるが、後世の掘削の影響を受けており断定できる状況ではない。さらに、中規模で1箇所に陸橋部を有するC1の形態も、S Z02・03・05(表No2・3・5)の3基が30m程の範囲に存在し方向も同じであることから一つの群として捉えることができる。

隣接している富山県埋蔵文化財センター調査区で検出されたC1形態の方形周溝墓2基は、同方位を呈し、且つ周溝の東西辺が切り合って検出されている。これも一つの群として捉えることができよう。また、A1形態の方形周溝墓3基が、規模は若干違うものの同方位で、約30mの広さに群としてまとまる。こうして見ると、2ないし3基が一つの群として存在し、且つ規模や形態の同一性が認められよう。

なお、C1形態は下佐野遺跡の西方に位置する石塚遺跡（高田地区）の方形周溝墓にも類例がある。

県内の周溝墓について

県内の周溝墓の検出遺跡は現在20遺跡にのぼり、呉羽山を境とする県西部に多く、県東部では希少である。県内では弥生時代前期に遡る例はみられず、弥生時代中期のものが現状における県内最古の例となる。

なお、中期の例としては、高岡市石塚遺跡6基、石名瀬A遺跡9基、篠訪遺跡1基、下黒田遺跡2基、射水市高島A遺跡1基の計5遺跡19基の例がある。これらの平面形態はD1類・C1類・A1類に分類される。

残る15遺跡からは弥生時代後期から終末の周溝墓が検出されている。平面形態が円形のG類を探るものもあり、富山市杉谷A遺跡1基、百塚遺跡D区1基、清水宮南遺跡に1基と3遺跡で確認されている。

方形周溝墓の形態では各種類が存在するが、もっとも多く採用されているのは四隅の切れるA1類のものである。上市町飯坂遺跡では一辺の両端が切れる形態のB1類が4基と多い。23基の周溝墓が確認された射

水市布川沢北遺跡では四隅の切れた形態の A 1 で統一され、15 基の周溝墓が確認された富山市杉谷 A 遺跡でも 13 基が A 1 形態を採っている。

既往の発掘調査もふくめ下佐野遺跡からは計 27 基の周溝墓が検出されている。これは県内最多数の検出例であり、弥生時代から古墳出現期までの形態や墓域の変遷を把握するうえで良好な遺跡となるであろう。これらの周溝墓を分析していくことは、当時の社会を復元する重要な論点となる。さらに、被葬者たちが生活した集落の動態と合わせて分析することで、弥生時代から古墳時代への時代の動きを復元できるであろう。被葬者たちの集落の発見が待たれる。

古代・中近世の遺構について

古代の遺構としては、掘立柱建物のほか、清状遺構や土坑等が検出されているが、伴山遺物などが伴わないため詳細な時期判定が困難である。以下では年代が比較的明らかなものに限り示すこととした。

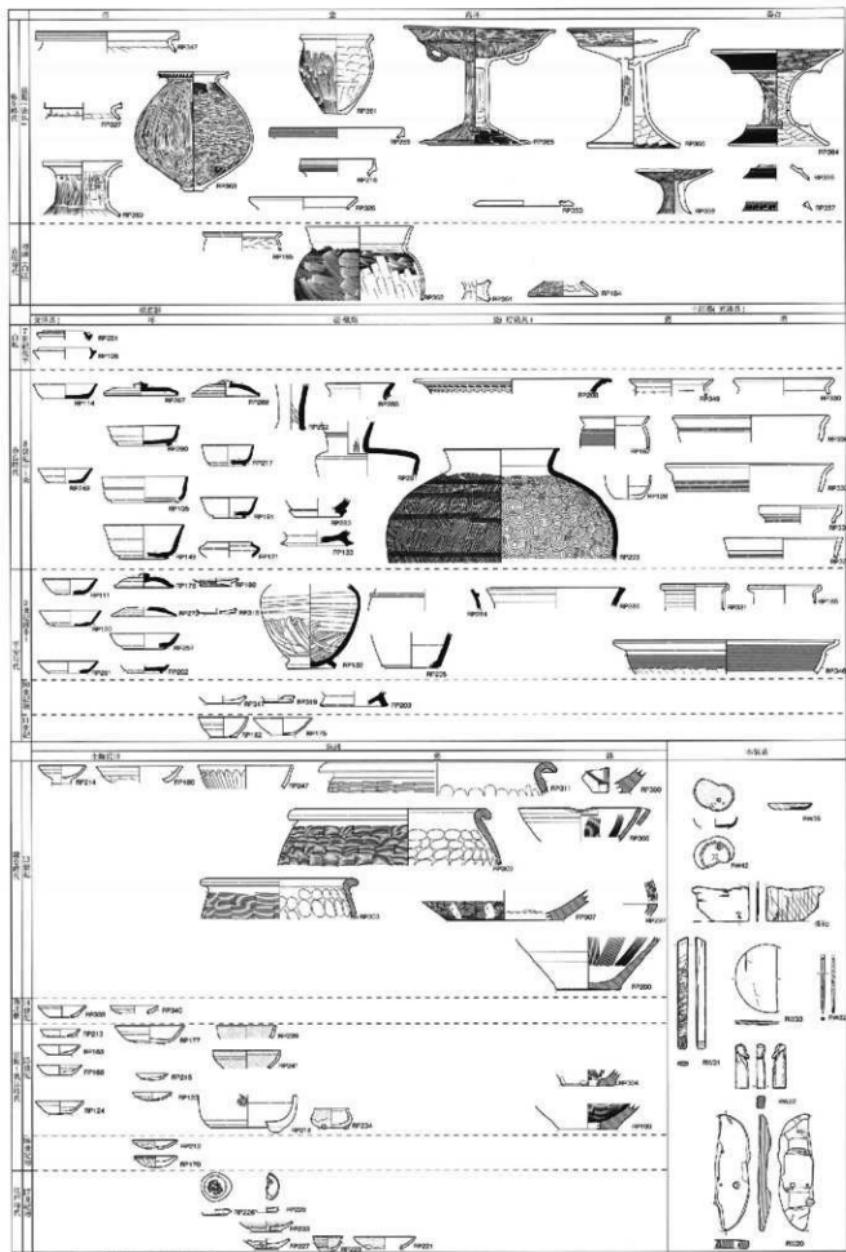
掘立柱建物については、S B01・03・05・06～08 が出土遺物により古代に属すると考えられる。また、遺物は出土していないが S B02 と 04 は柱穴の規模から古代に含めた。S B09 から 11 も、遺物の出土ではなく他の建物よりも小規模で柱穴の掘り形も小さい。

これらの建物をめぐっては、方位により S B01・02・04・09・10・11 らで構成する第 1 群と、S B03・06・07・08 の第 2 群、そして S B05 の計 3 群に分けられる。

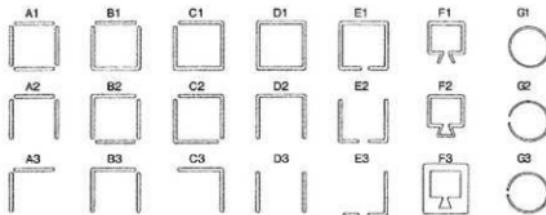
S B05・06 は重複関係等により建て替えと考えられ、8 世紀中頃から 9 世紀中頃までの須恵器や土師器が出土しており、間接的ながら上記の建物の存続時期を示していると思われる。

なお、隣接する富山県教委の調査区では掘立柱建物が 4 棟確認されている。このうち 3 棟の方位は今回の調査の第 1 群に属し、残る 1 棟は第 3 群に属するものと思われる。建物のほかに古代の遺構としては、人面墨書き土器や黒書き土器が出土した川跡が注目される。建物群とあわせて、祭祀行為を復元する良好な資料であるといえる。

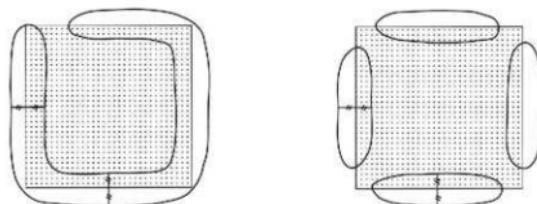
中近世の遺構は出土遺物の時期幅が大きく時代の特定が難しい。遺構は井戸をはじめ、橋・溝状遺構・門地・自然流路等を確認している。



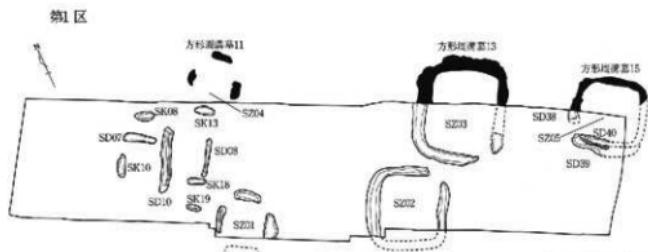
第16図 出土遺物の時期区分表



方形周溝基形態分類図



方形周溝基平面積計測位置



高岡市富山県埋蔵文化財センター調査合成図

■ 基跡文化財セイー調査
□ 市政委調査
□ 県令2種
○ 考古の場
— 墓

0 10 20m
縮尺1:600

	高岡市 遺構名	埋蔵文化財センター 遺構名	形態	墳丘部 (m)	墳丘横幅 (面積)	規模
1	S Z 01	—	A1	(5.0) × 4.6	33.0m ² (推定値)	小規模
2	S Z 02	—	C1	(9.0) × 8.6	77.4m ² (推定値)	中規模
3	S Z 03	方形周溝基13	C1	9.6 × 11.5	110.4m ²	中規模
4	S Z 04 (SK13)	方形周溝基11	A1	6.0 × 6.1	36.6m ²	小規模
5	S Z 05 (SD38-37)	方形周溝基15	C1	9.0 × (10.0)	99.0m ² (推定値)	中規模

高岡市富山県埋蔵文化財センター調査の方形周溝基一覧

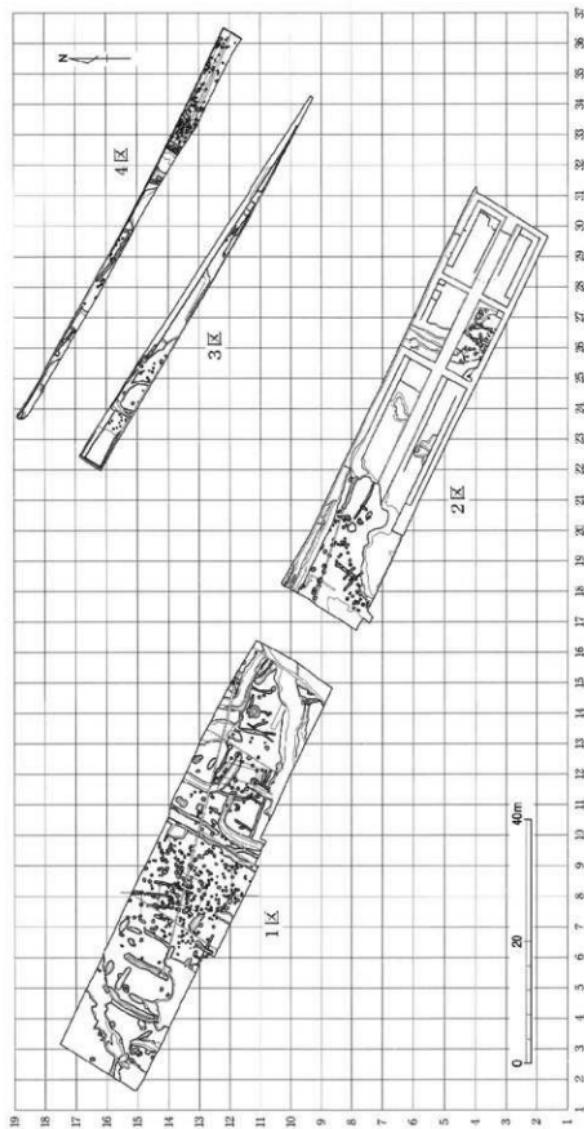
第17図 方形周溝基

引用・参考文献

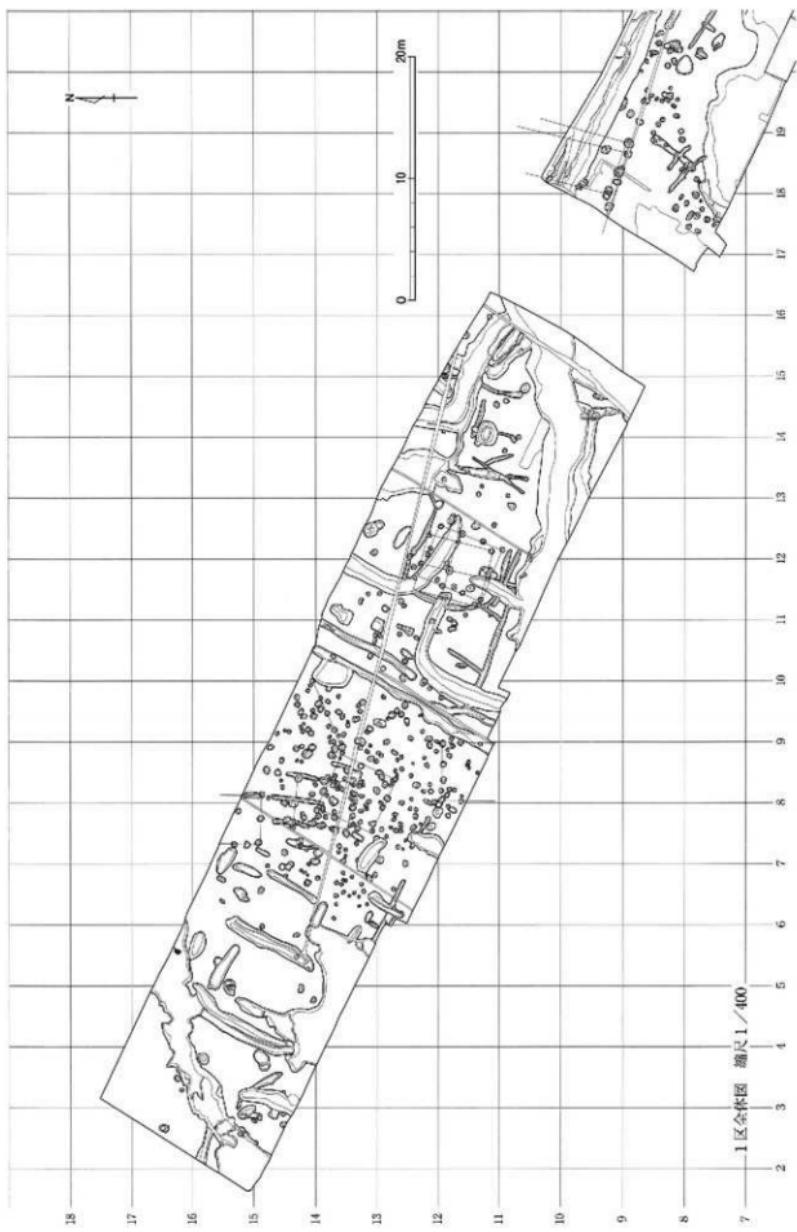
- 青山晃 2008 「下黒田遺跡」『平成 20 年度埋蔵文化財年報』財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
- 伊藤敏行 2005 「字諱木向井原遺跡と関東の方形周溝墓」『方形周溝墓研究の今』雄山閣
- 射水市教育委員会 2007 『本江焼田 I 遺跡発掘調査報告(3) 一個人住居建築に伴う埋蔵文化財調査―』
- 上野章 1967 「高岡市下佐野遺跡」『大境』第 3 号 富山考古学会
- 越前慶祐 2009 「古代の有力農民の屋敷地?—高岡市下佐野遺跡—」『墳文とやまと』106 号 富山県埋蔵文化財センター
- 岡田一広 2005 「富山平野における弥生墓制—中期から後期にかけて—」『季刊考古学』第 92 号 雄山閣
- 岡本淳一郎・三島道子・町田賢一・上田尚美 1999 「佐野台地における古墳出現期の土器について」
- 『富山考古学研究紀要』第 2 号 財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
- 廣島昌也ほか 2008 「[116.富山県]『日本考古学年報』—2006 年版—」日本考古学協会
- 上市町教育委員会 1981 「北陸自動車道遺跡調査報告—上市町遺構第一」
- 上市町教育委員会 1884 「北陸自動車道遺跡調査報告—上市町木製品・総括編—」
- 近畿弥生の会編 2007 「墓制から弥生社会を考える」六一書房
- 財団法人常山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2009 「とやまの発掘だより—平成 21 年度発掘調査速報—」
- 新潟市教育委員会 2003 「富山県新潟市高島 A 遺跡発掘調査概要—1999 年度—」2000
- 桃山林縕ほか 2005 「方形周溝墓研究の今」雄山閣
- 富山県教育委員会 1884 「都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(2) 一南太閤山 I・II 遺跡—」
- 富山県埋蔵文化財センター 1993 「富山県小杉町・大門町小杉流通地内遺跡群—第 10・11 次発掘調査報告概要—」
- 富山市教育委員会 2009 「富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉 B 遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書」
- 富山大学人文学部考古学研究室 1989 「越中・上末塙 富山大学考古学研究報告第 3 冊」
- 大門町教育委員会 1992 「大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(2) 一布目沢北遺跡第 3 次調査—」
- 大門町教育委員会 1993 「大門町企業団地内遺跡群調査報告(3) 一布目沢北遺跡第 4 次調査報告—」
- 大門町教育委員会 1999 「富山県大門町二口池免遺跡第 II 次発掘調査概要—七地区面整備事業に係る調査—」
- 高岡市 1957 「高岡市史 上」
- 高岡市教育委員会 1992 「下佐野遺跡調査概報 I—平成 2 年度、明光電気地区の調査—」
- 高岡市教育委員会 1993 「市内遺跡調査概報 I—平成 3 年度、石塚遺跡、下佐野遺跡の調査(井波地区)ー」
- 高岡市教育委員会 1993 「市内遺跡調査概報 II—平成 4 年度、下佐野遺跡(横田地区)、間尽遺跡の調査—」
- 高岡市教育委員会 1997 「市内遺跡調査概報 V—東木津、石塚遺跡、下佐野遺跡(さのクリニック地区)ー」
- 高岡市教育委員会 1997 「市内遺跡調査概報 VI—平成 10 年度、下佐野遺跡(新田地区)の調査はかー」
- 高岡市教育委員会 2001 「下佐野遺跡—黒越地区・荒木地区の調査—」
- 『市内遺跡調査概報 X Ⅱ—平成 14 年度東木津遺跡・越中国南岸連遺跡の発掘調査はかー』
- 高岡市教育委員会 2005 『中曾根西遺跡調査報告—県道姫野能町線改良事業に伴う発掘調査—』
- 高岡市教育委員会 2007 「下佐野遺跡調査報告—有限公司広瀬エスティート企画による造成工事に伴う平成 18 年度の調査—」
- 高瀬重雄はか 1994 「日本歴史地名大系第 16 卷 富山県の地名」平凡社
- 高橋浩二 2005 「北陸の弥生墳墓から古墳へ」『季刊考古学』第 92 号 雄山閣
- 高橋真実 2010 「ただいま、整理作業中—高岡市下佐野遺跡—」『墳文とやまと』110 号 富山県埋蔵文化財センター
- 高松町教育委員会 1985 「八野古窯跡群発掘調査概要報告書—農業構造改善事業に係る埋蔵文化財発掘調査—」

- 藤田富士夫 1975 「富山市における古墳発生期の調査とその成果」『古代学研究』76 古代学研究会
- 細辻真澄 2010 A 「下佐野遺跡の古墳群について」『富山考古学研究 紀要』第 13 号
財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 細辻真澄 2010 B 「下佐野遺跡の墳墓群」『埋文とやま』112 号 富山県埋蔵文化財センター
- 宮川進一 1997 「越中国における土師器の編年」
『中・近世の北陸—考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会編 桂香房
- 宮川進一 2007 「下佐野遺跡現地研究会」『埋文とやま』101 号 富山県埋蔵文化財センター
- 宮川進一 2008 「高岡市下佐野遺跡発掘調査」
『富山県埋蔵文化財センター午報—平成 19 年度一』 富山県埋蔵文化財センター
- 山岸良三 2005 「方形周溝墓研究 40 年」『方形周溝墓研究の今』 雄山閣
- 吉岡底暢 1994 「中世須恵器の研究」 吉川弘文館

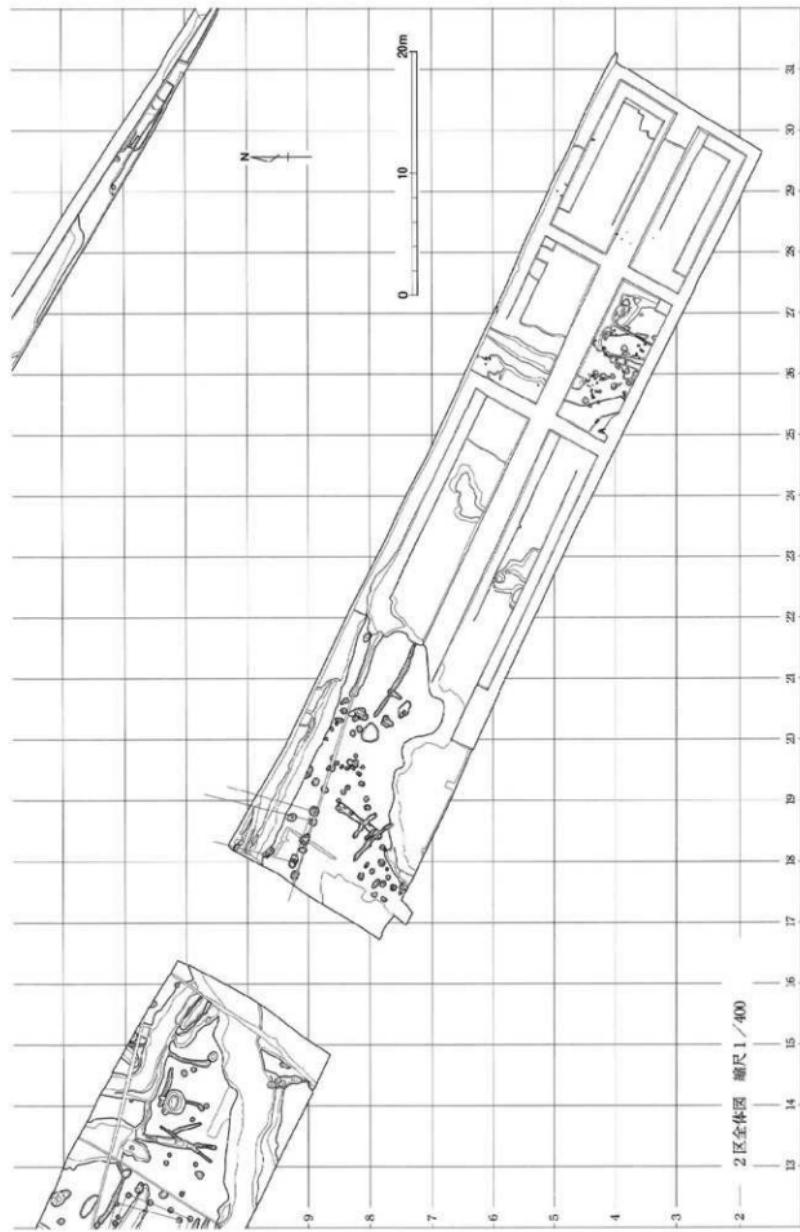
図 面



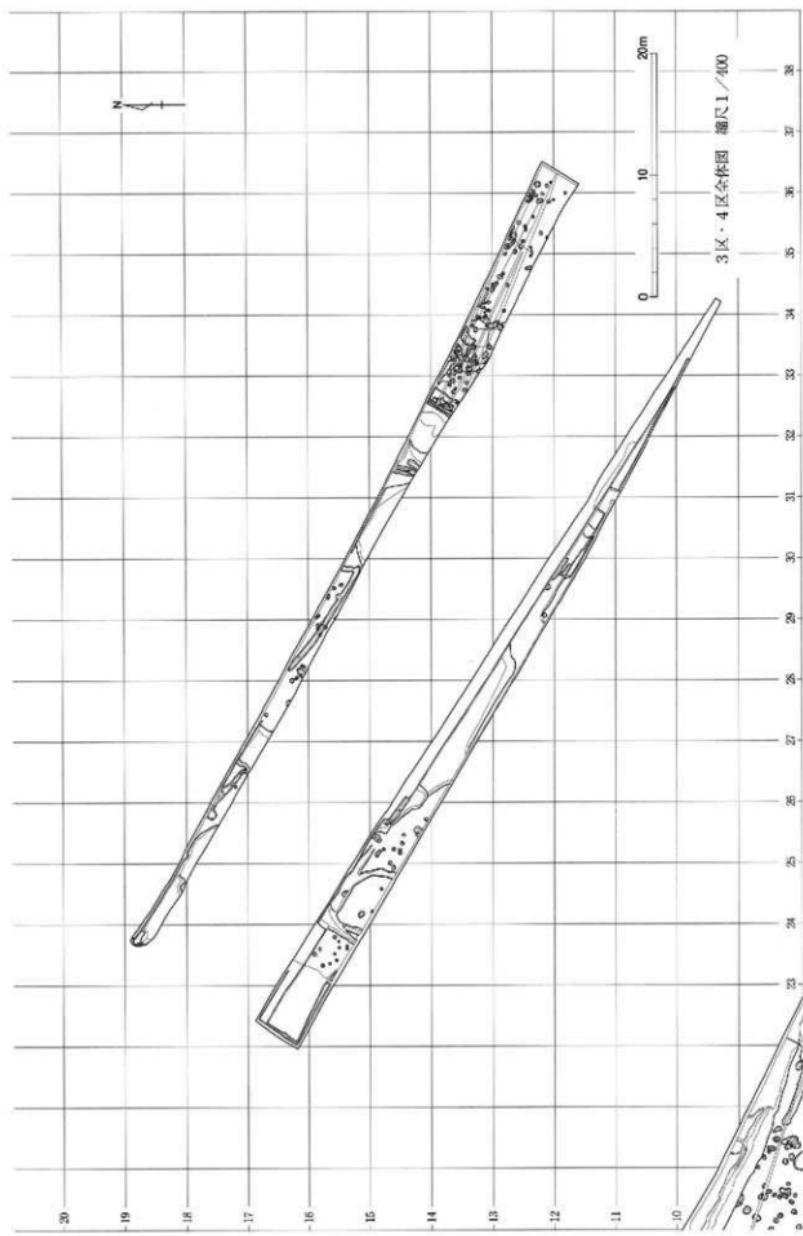
調査地区全體図 縮尺1/800



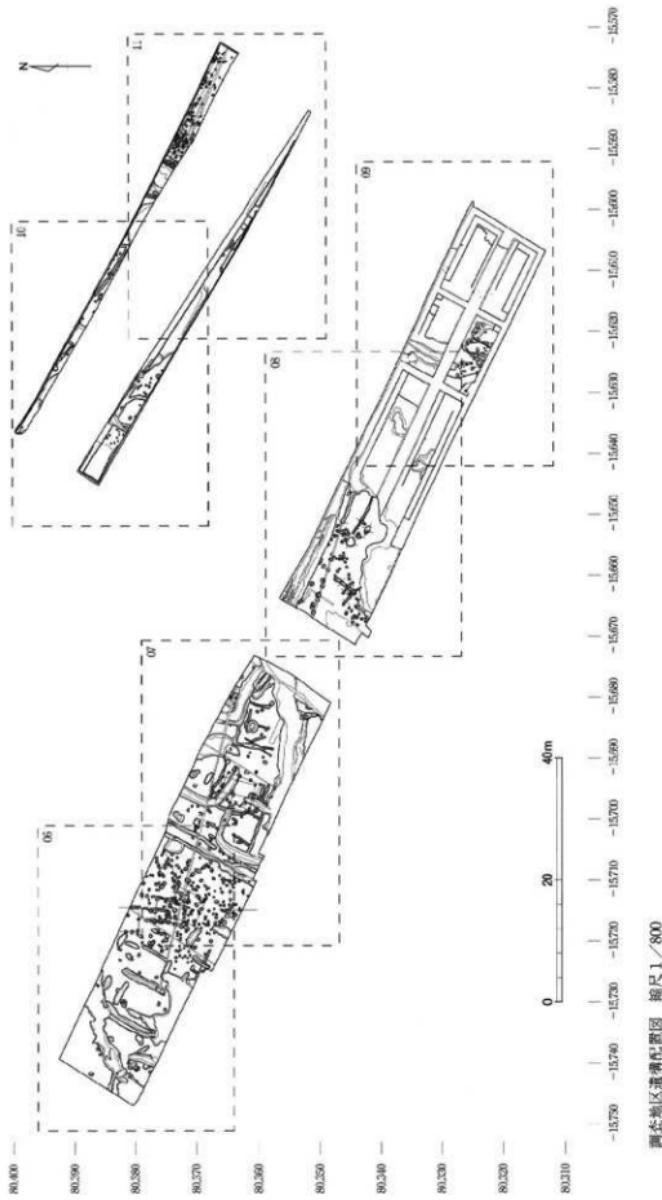
図面〇三 遺構実測図



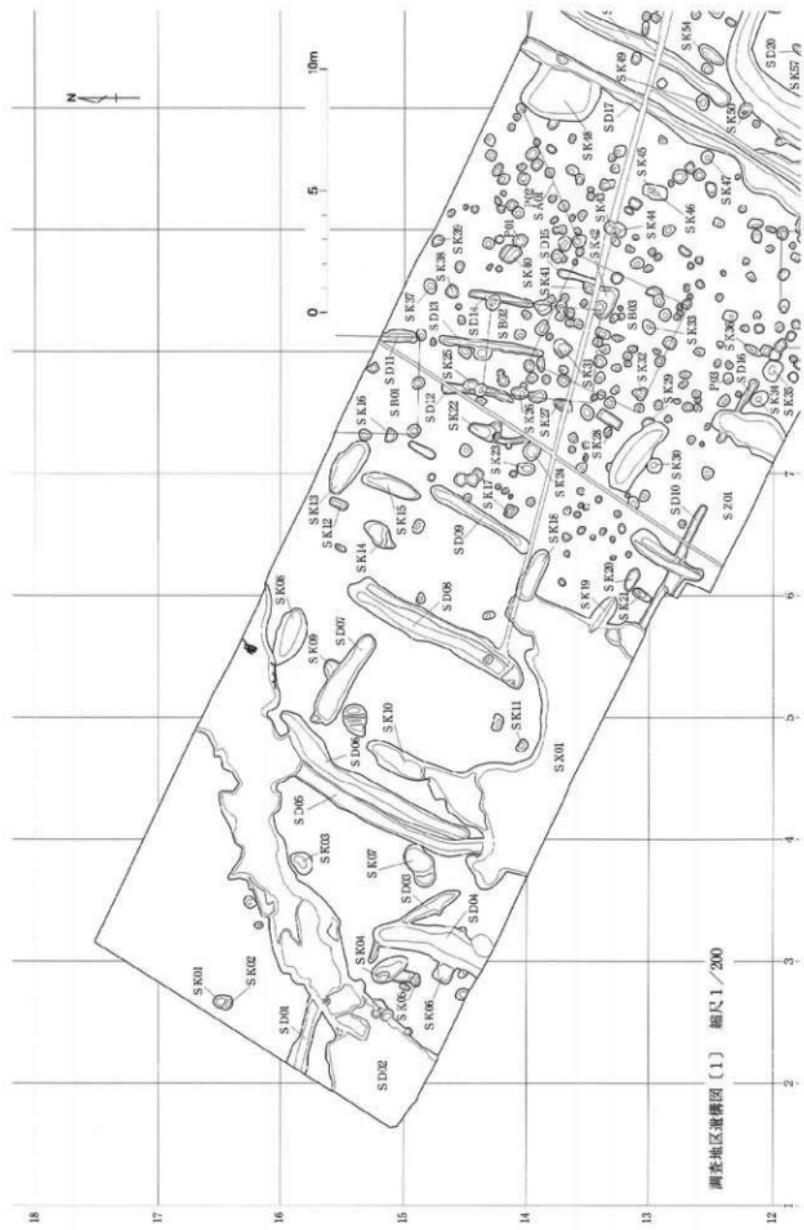
图〇四 桥隧实测图



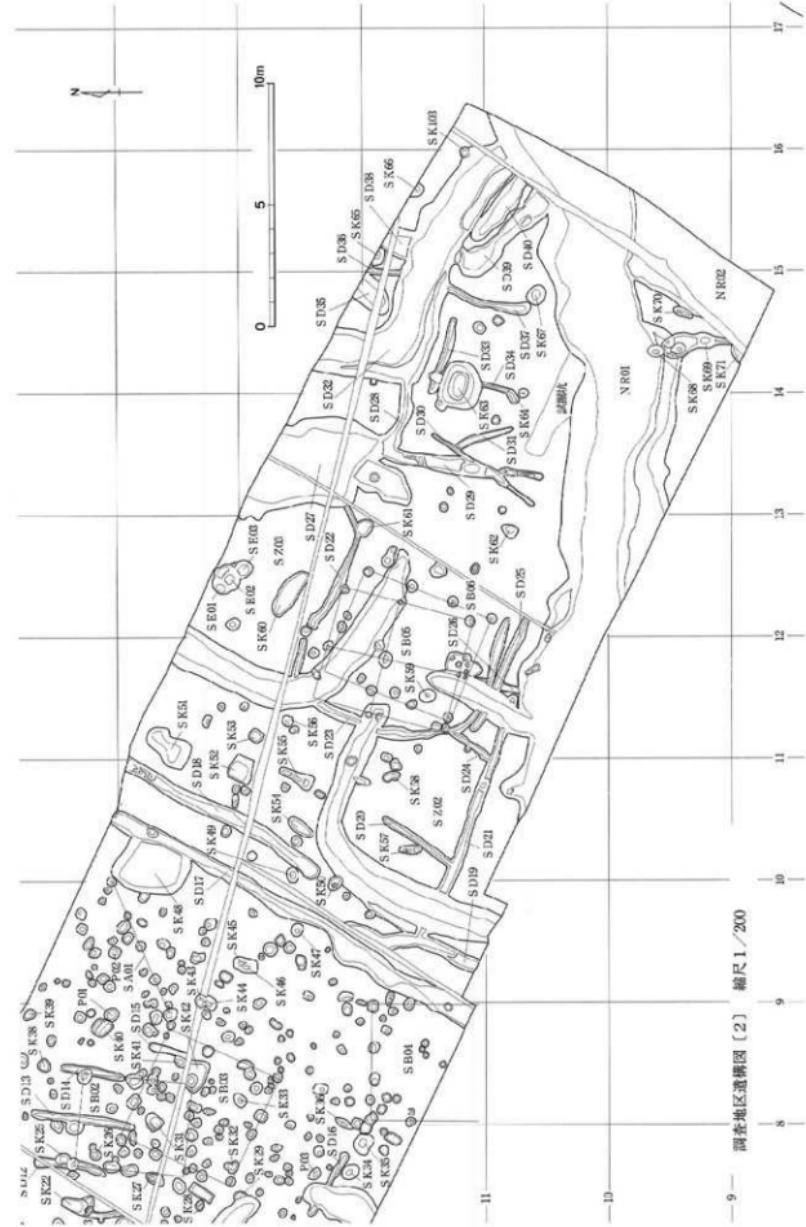
図面〇五
遺構実測図



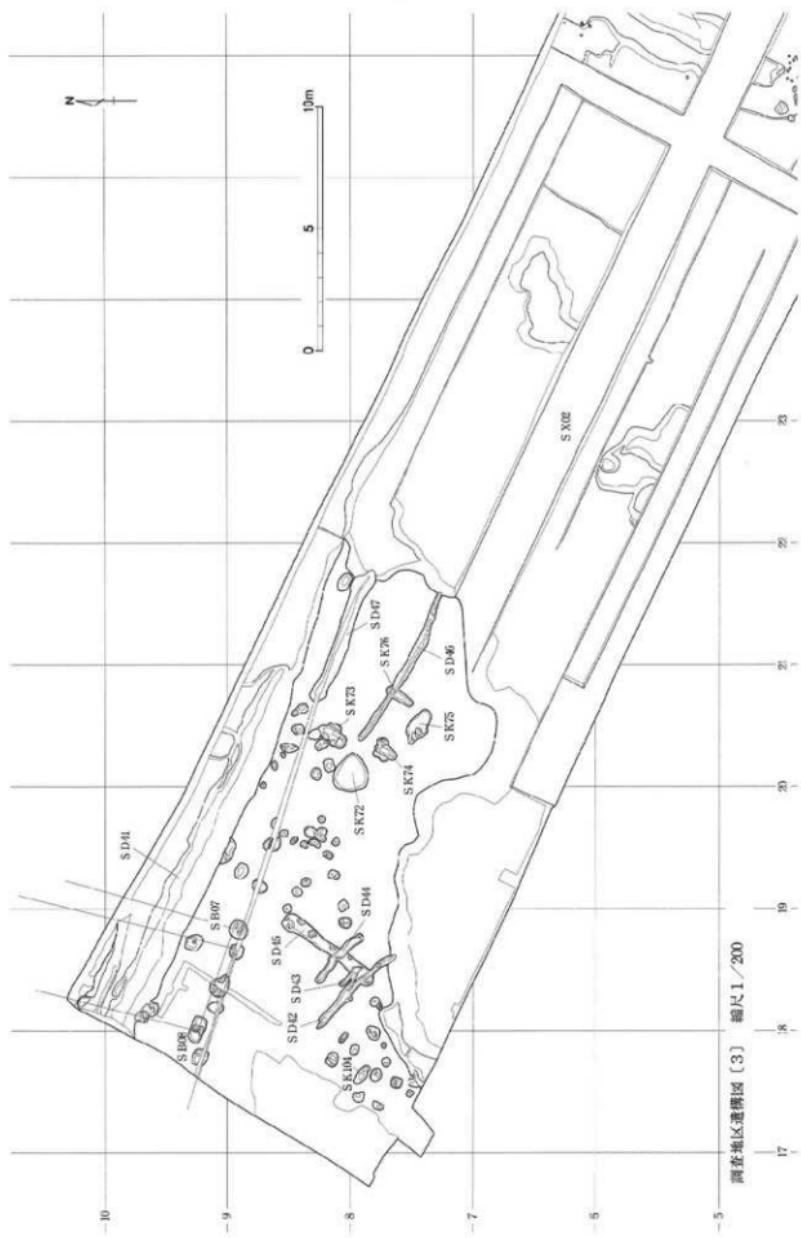
図六〇 遺構実測図



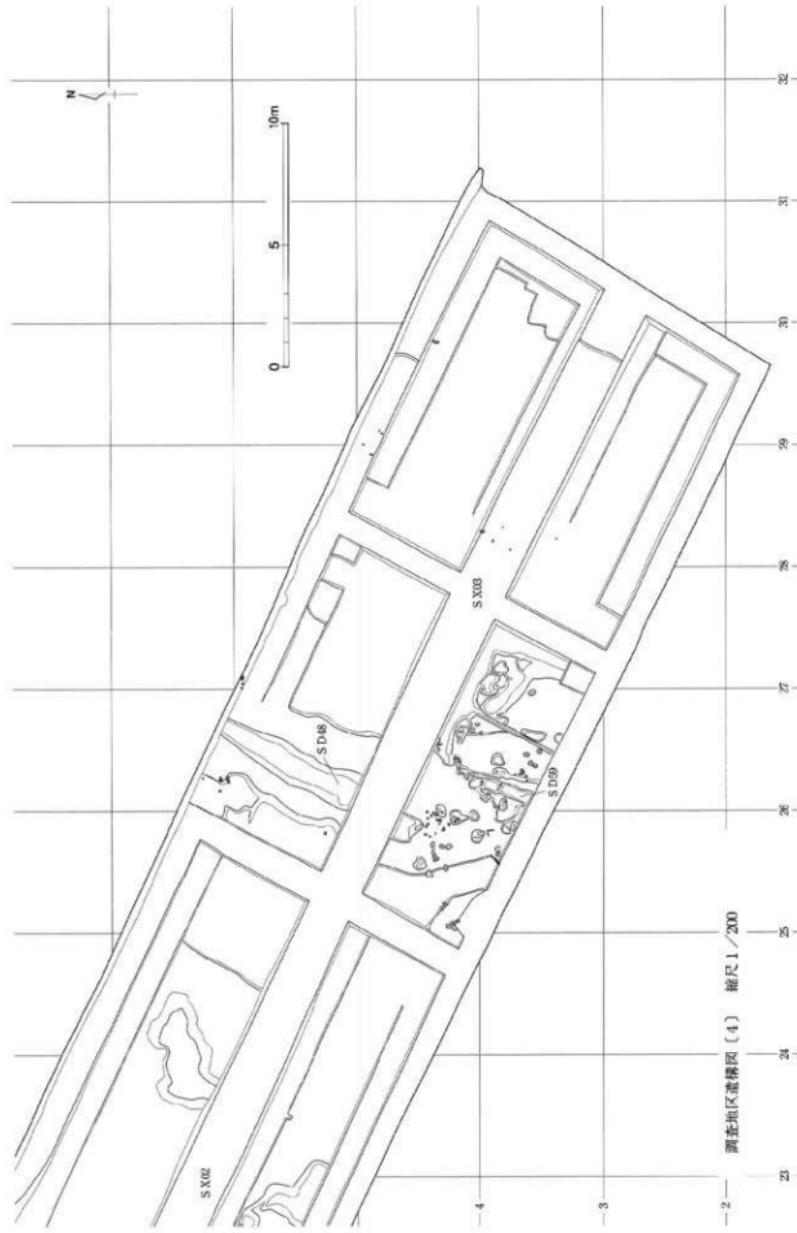
遺構実測図



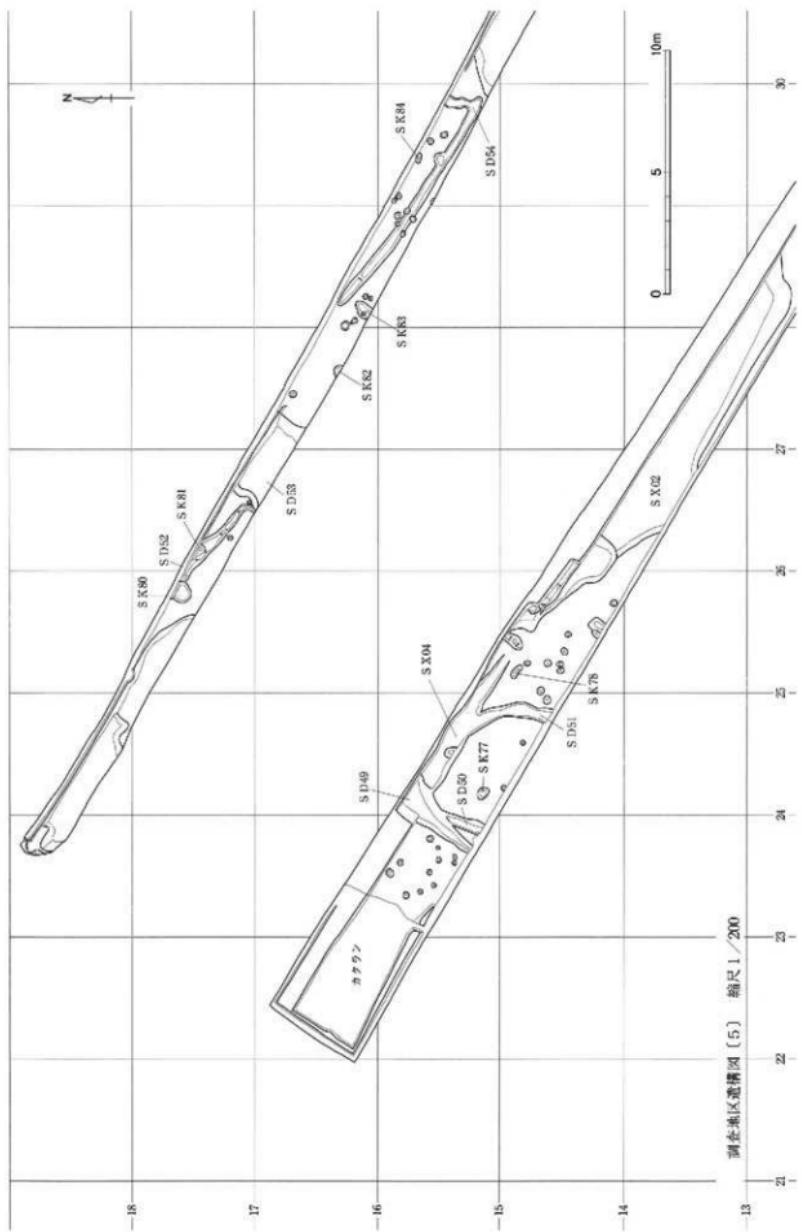
図面〇八 遺構実測図



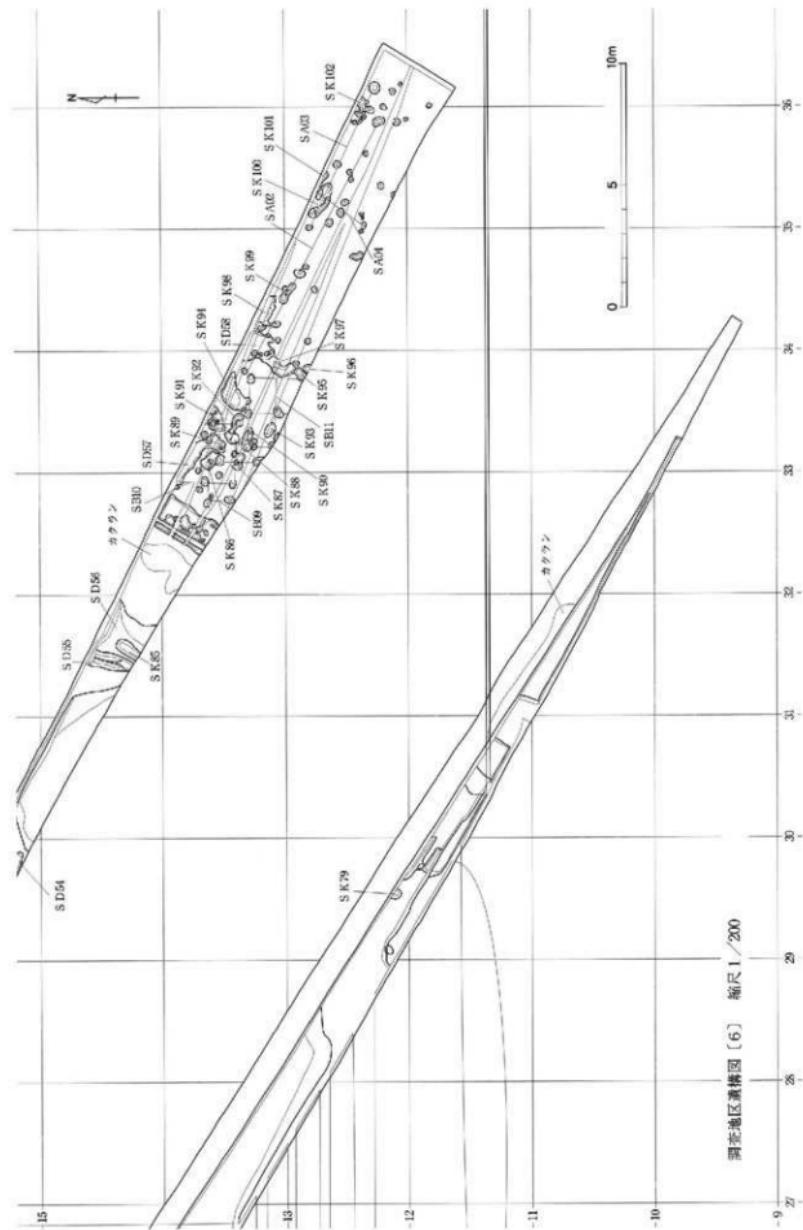
図面〇九
造構実測図

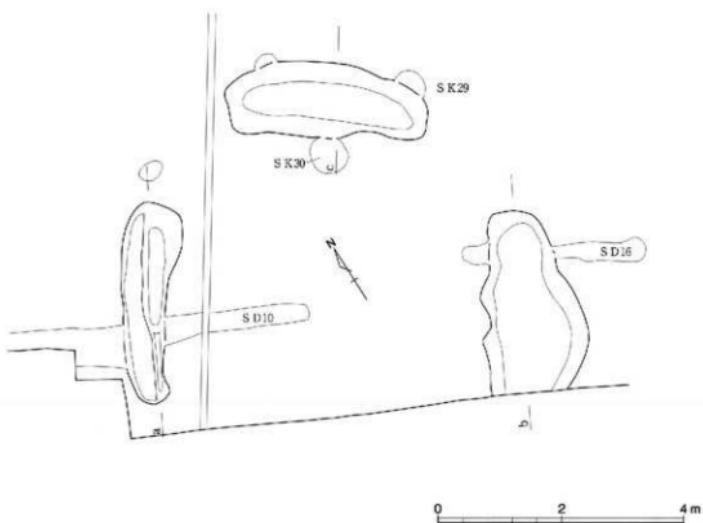


遺構実測図



図一 遺構実測図

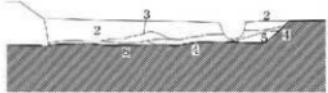




a 12.00m



b 12.00m



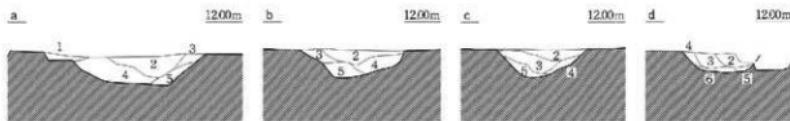
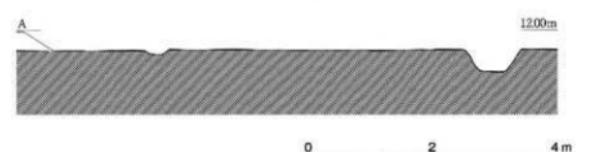
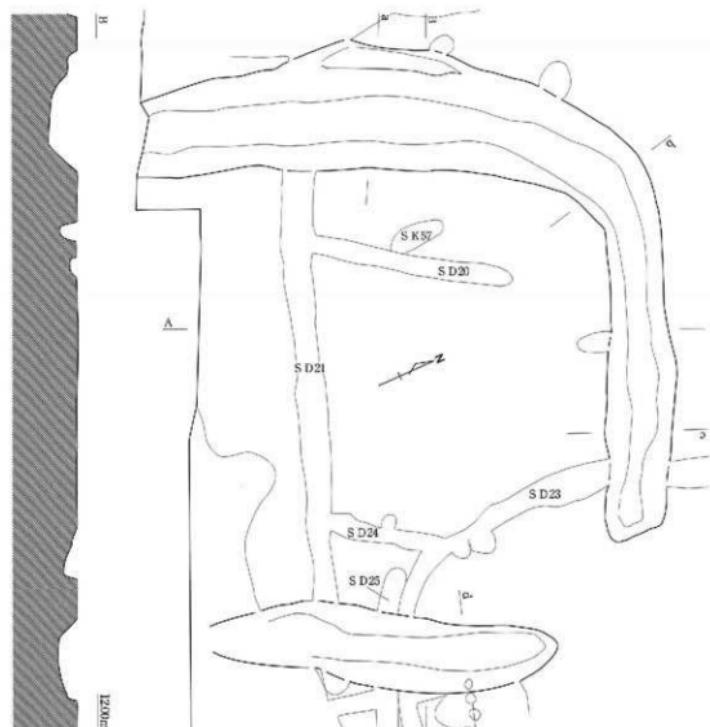
1. 黒色粘土。
2. 黒色シルト質土。
3. 黒色細砂質土。
4. 黑色細砂質土と青灰色砂質土の混土層。
5. 黑色細砂質土と黄褐色砂質土の混土層。
6. 黑色細砂質土と黄褐色砂質土と青灰色砂質土の混土層。

c 12.00m



0 1 2 m

図面一三 遺構実測図



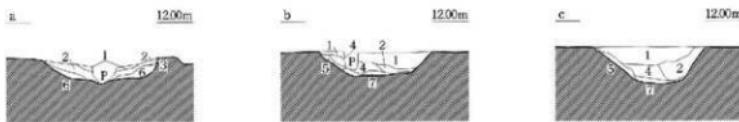
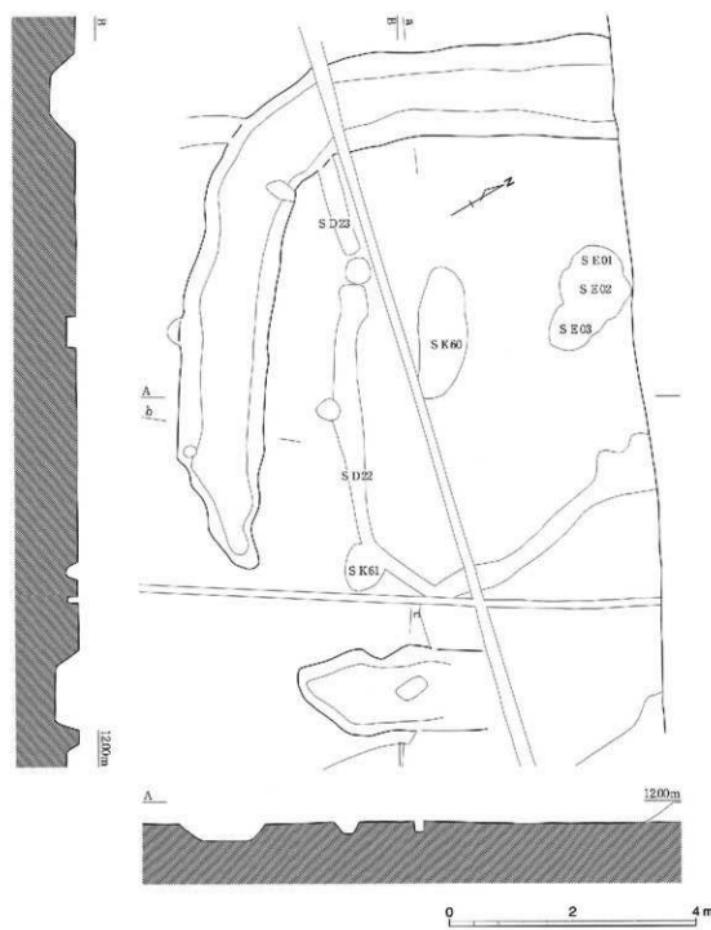
1. 黒褐色砂質土と黒褐色シルト質土の混土層。
2. 黒褐色砂質土。
3. 黒褐色シルト質土。

4. 黒色細緻質土。
5. 黑色シルト質土。
6. 黑色粘質土。

方形櫛溝墓 S Z 02実測図

縮尺 1/60・1/80

図面一四 遺構実測図

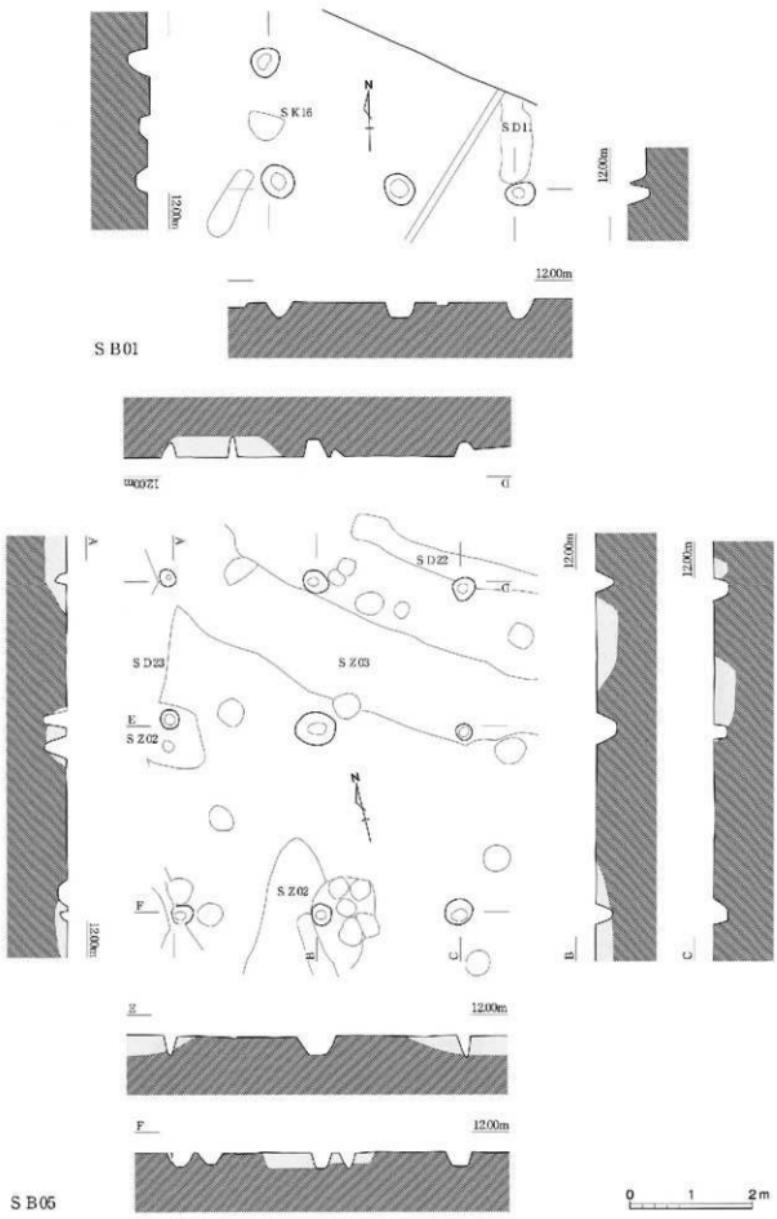


1. 黒褐色粘質土。
2. 黒褐色砂質土。
3. 暗灰色粘質土と暗灰色砂質土の混土層。
4. 黑色粘質土。

5. 黄褐色砂質土と黑色粘質土の混土層。
6. 暗灰色砂質土と青灰色砂質土の混土層。
7. 黑色粘質土と青灰色砂質土の混土層。

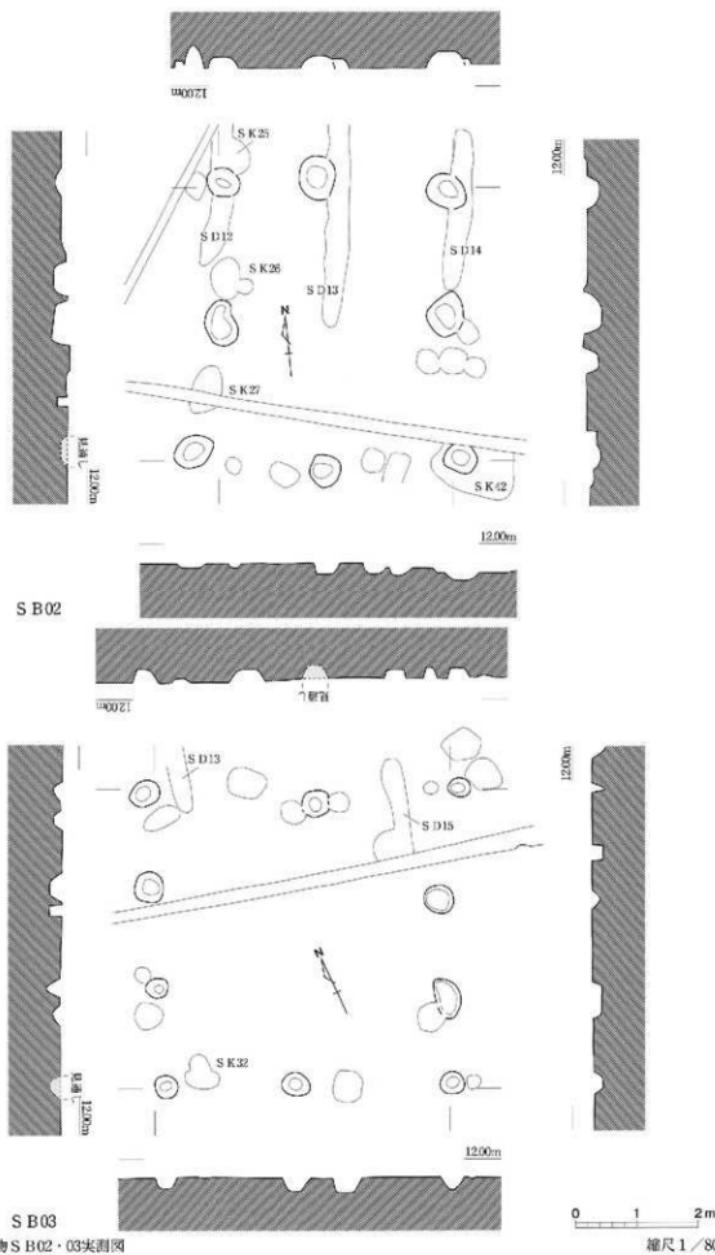
方形周溝墓 S-Z03実測図

縮尺 1/60・1/80

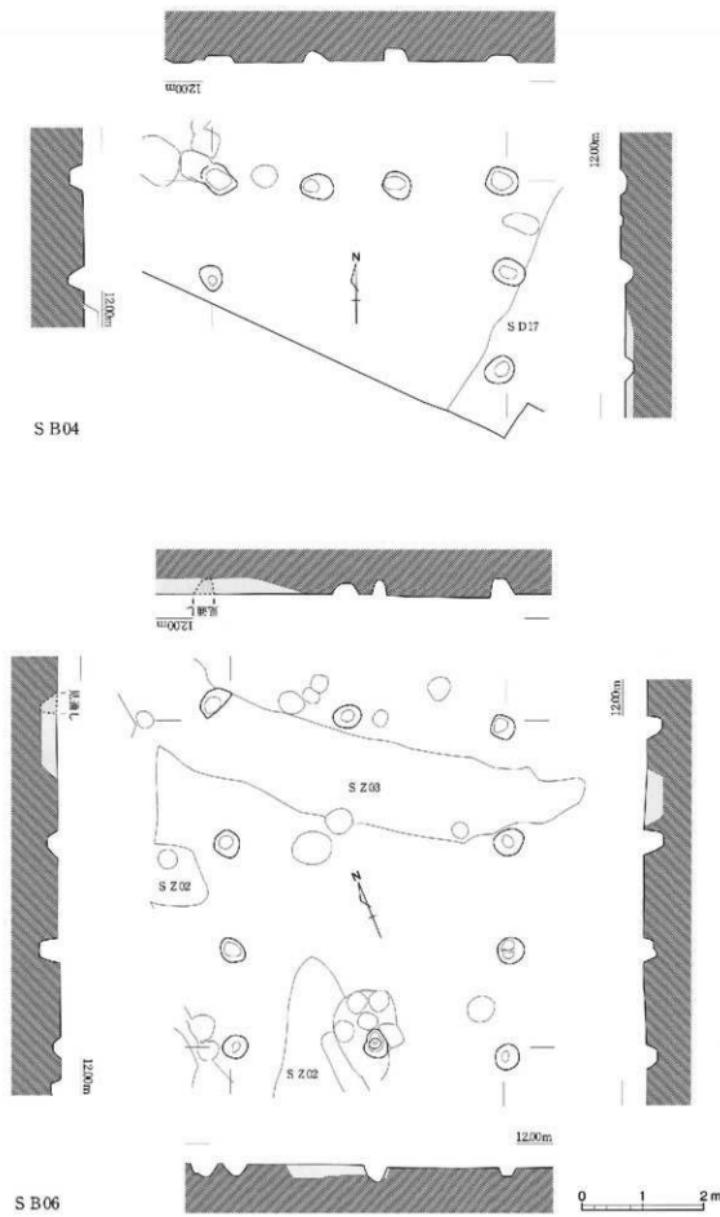


掘立柱遺物 S B01・05実測図

箱尺 1/80



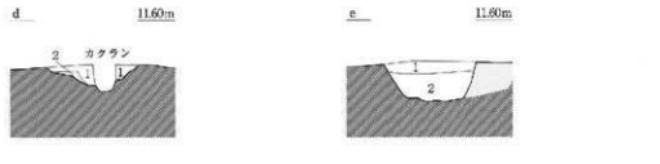
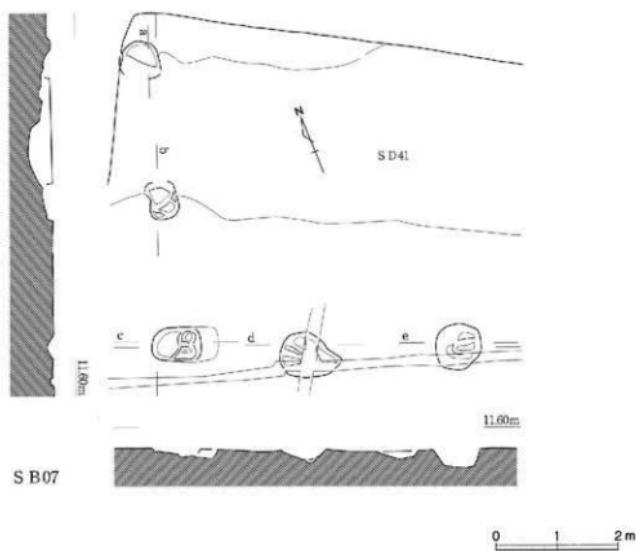
掘立柱建物 S B02・03実測図



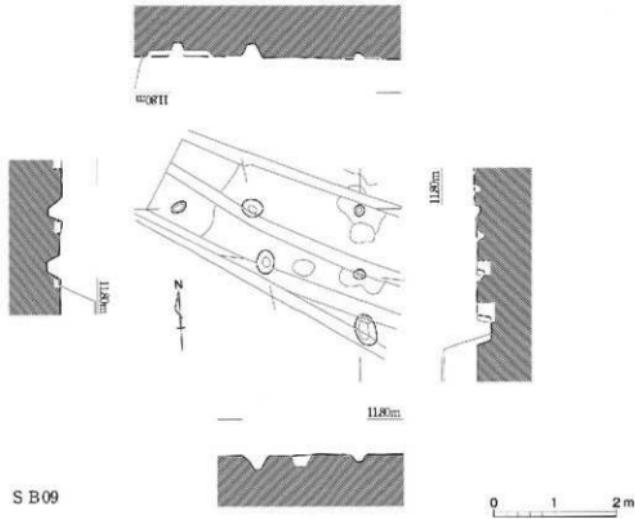
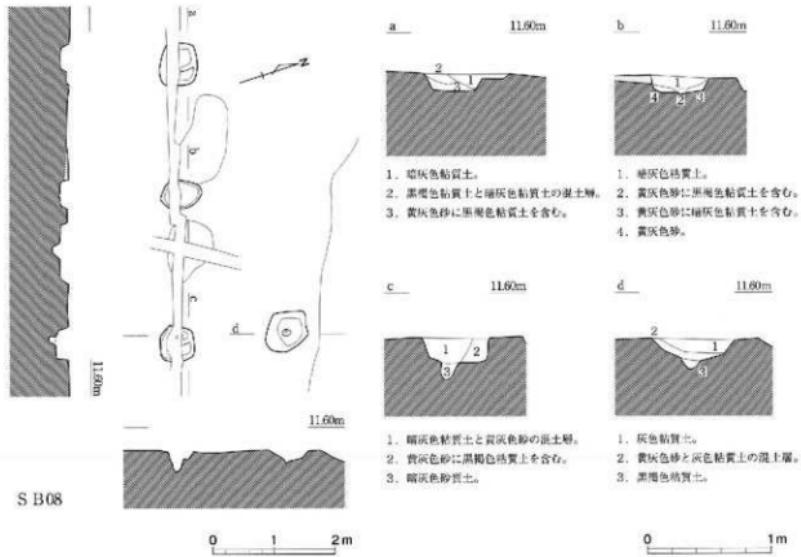
掘立柱建物 S B04・06実測図

縮尺 1/80

図面一八 道構実測図

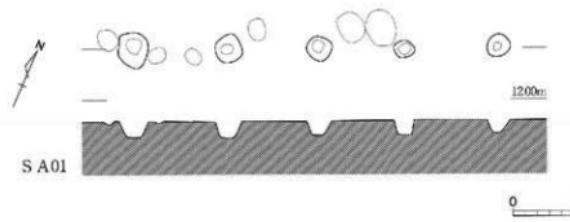
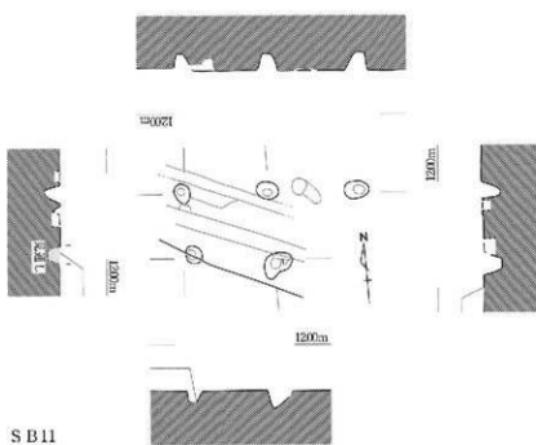
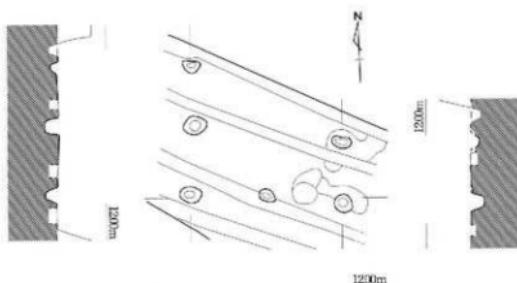


図面一九 遺構実測図



掘立柱建物 S B 08・09実測図

縮尺 1/60, 1/80



掘立柱建物 S B10・11、構 S A01実測図

縮尺 1/80

0 1 2 m

図二
遺構実測図

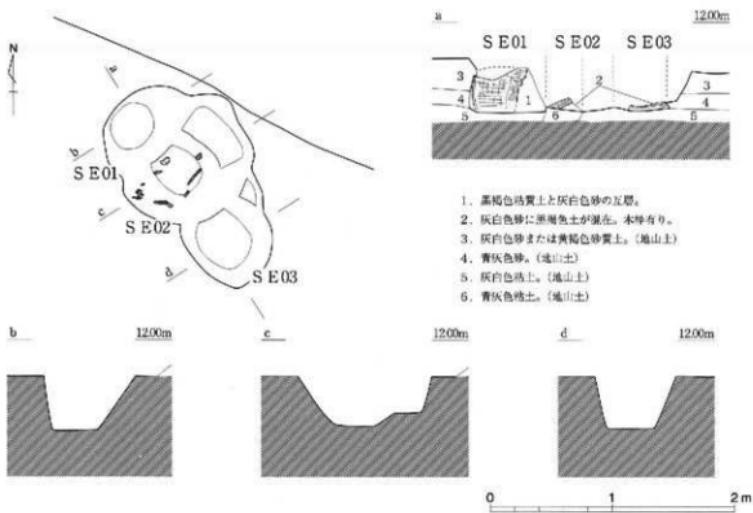
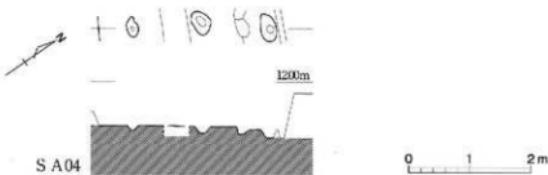
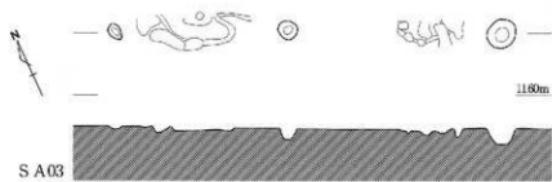
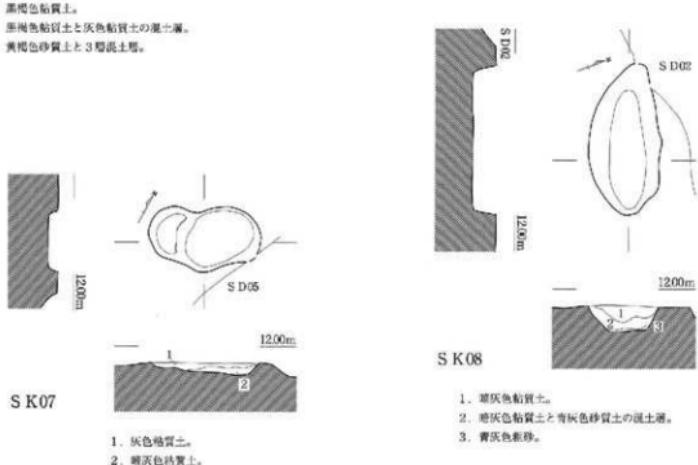
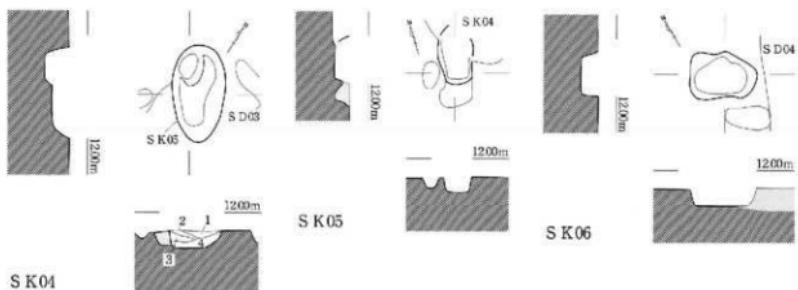
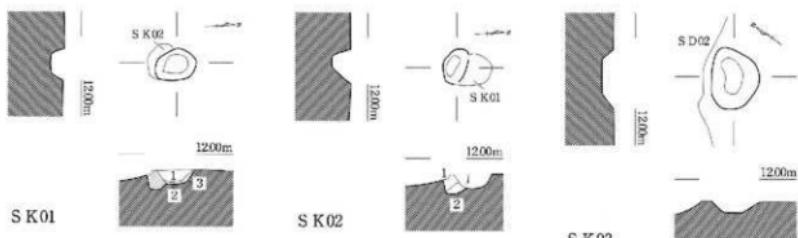


図 SA02~04、井戸 SE01~03実測図

縮尺 1/40・1/80

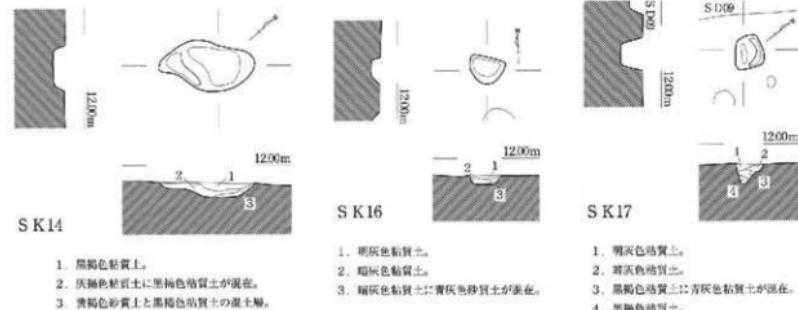
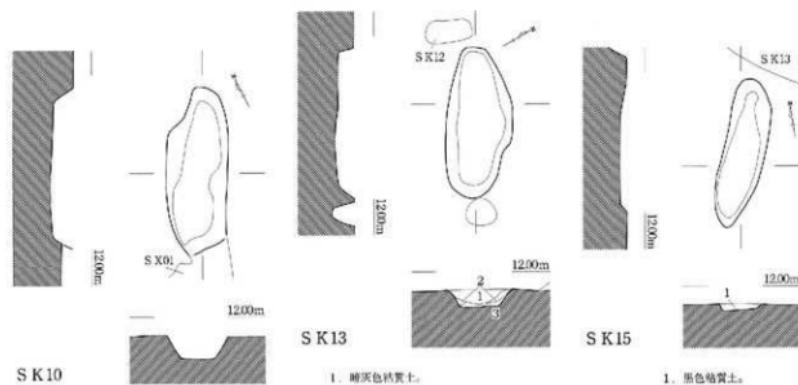
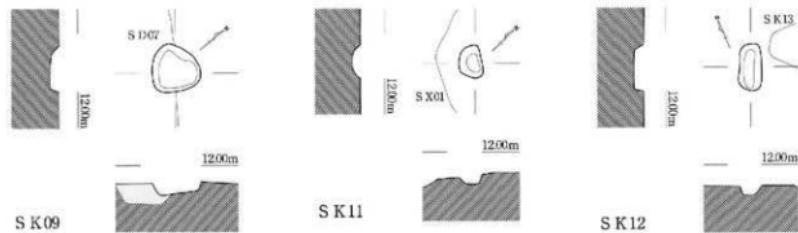
図面1-11 遺構実測図

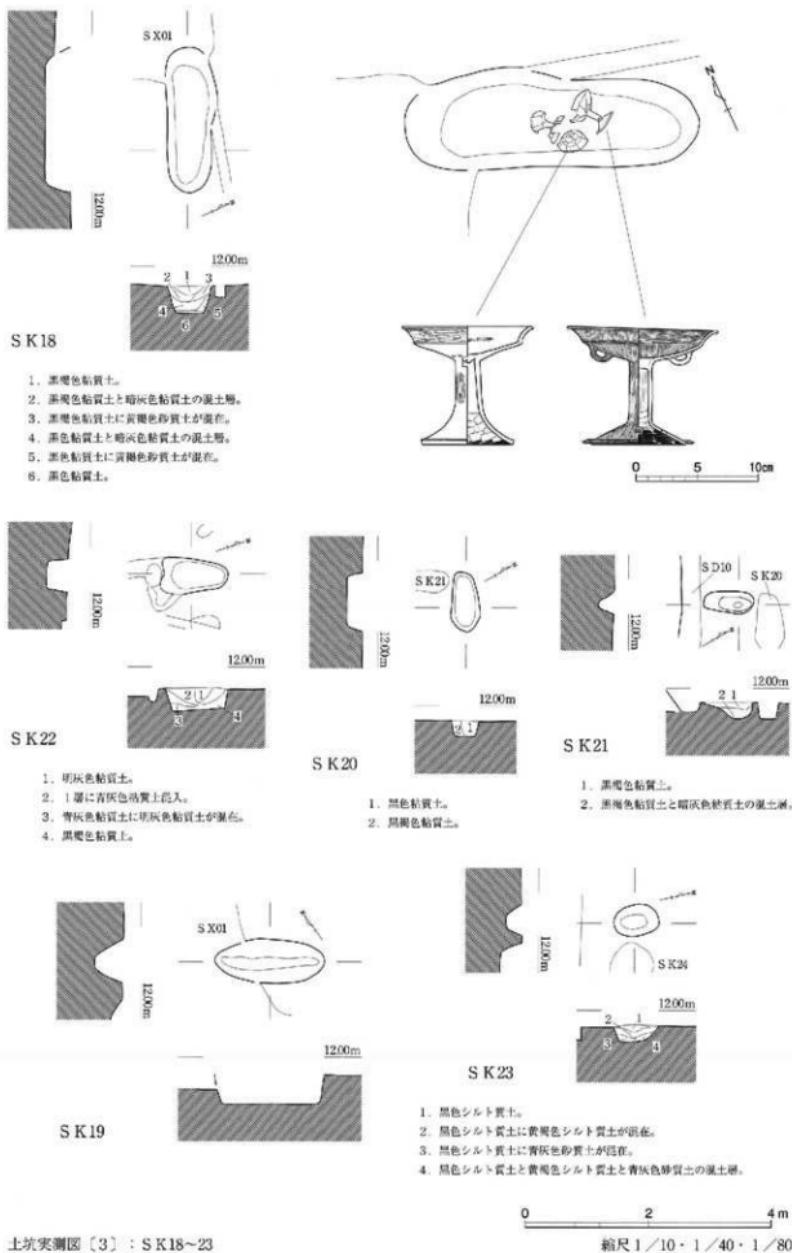


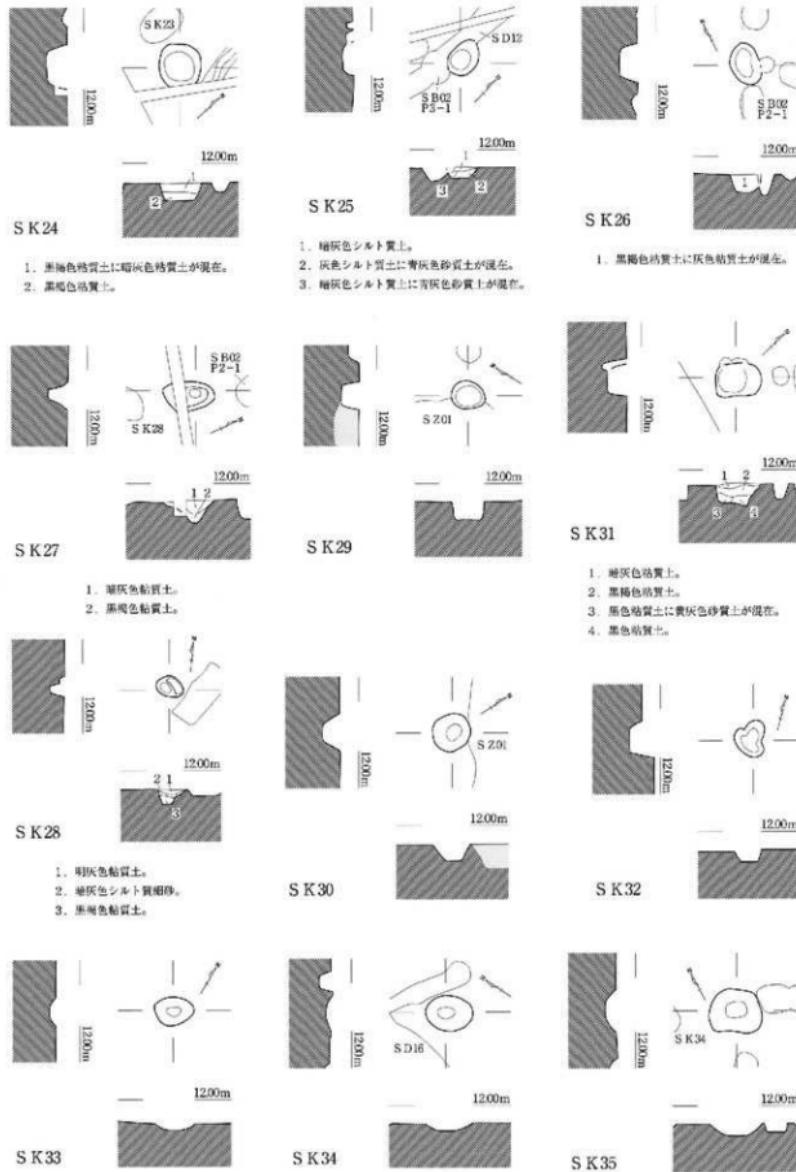
0 2 4 m
縮尺 1/80

土坑実測図〔1〕：SK01～08

図面二三 遺構実測図



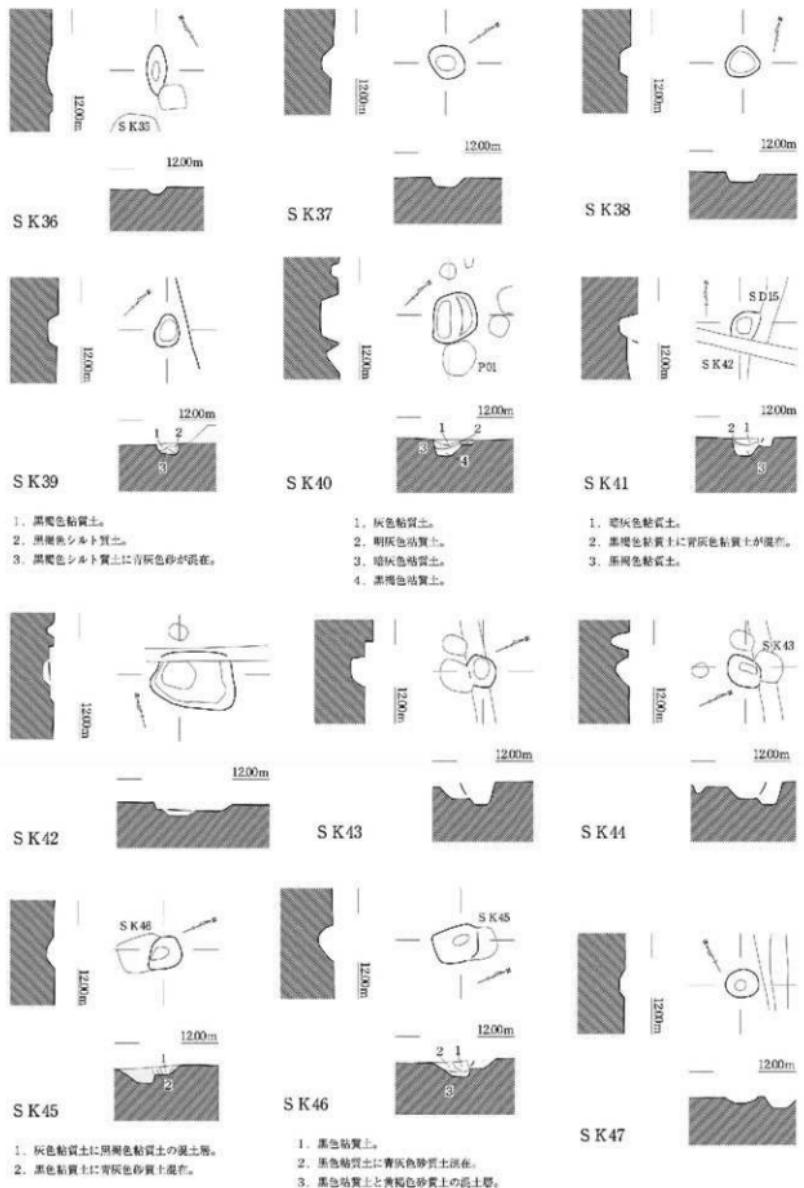




土坑実測図〔4〕：SK24～35

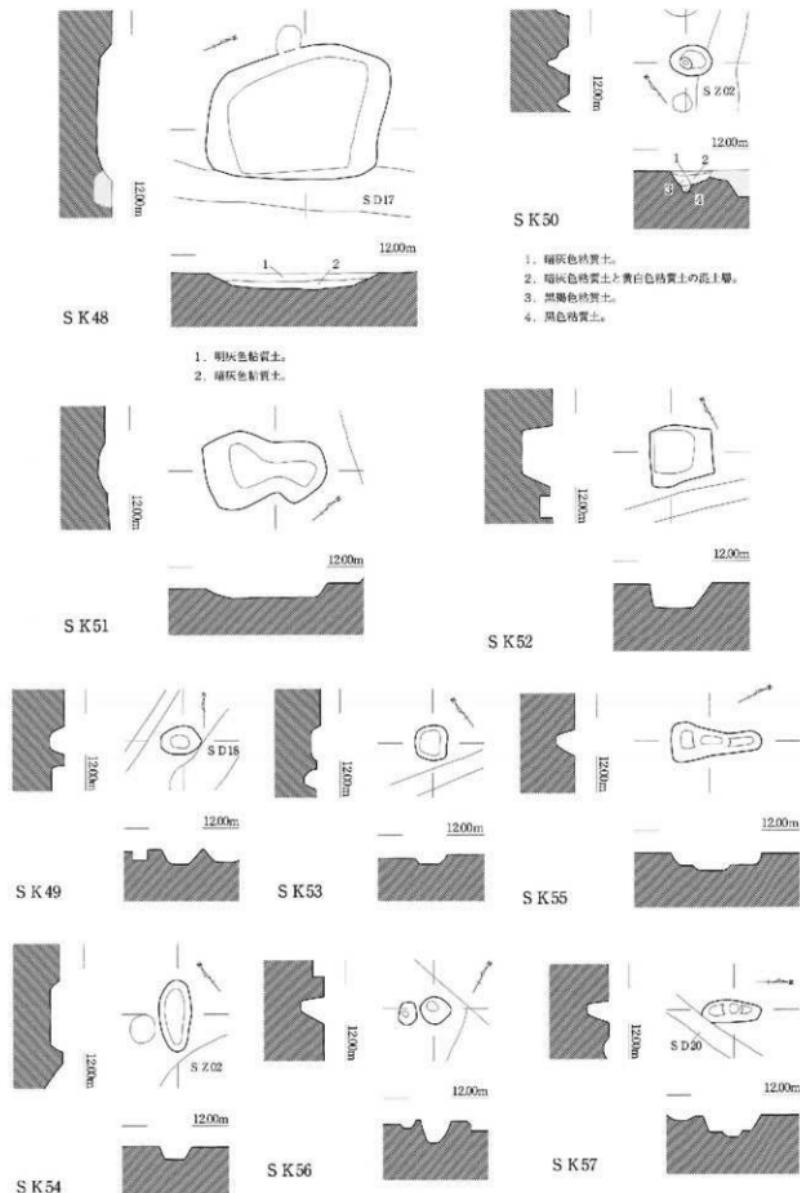
0 2 4
縮尺 1/80

図面二六 遺構実測図



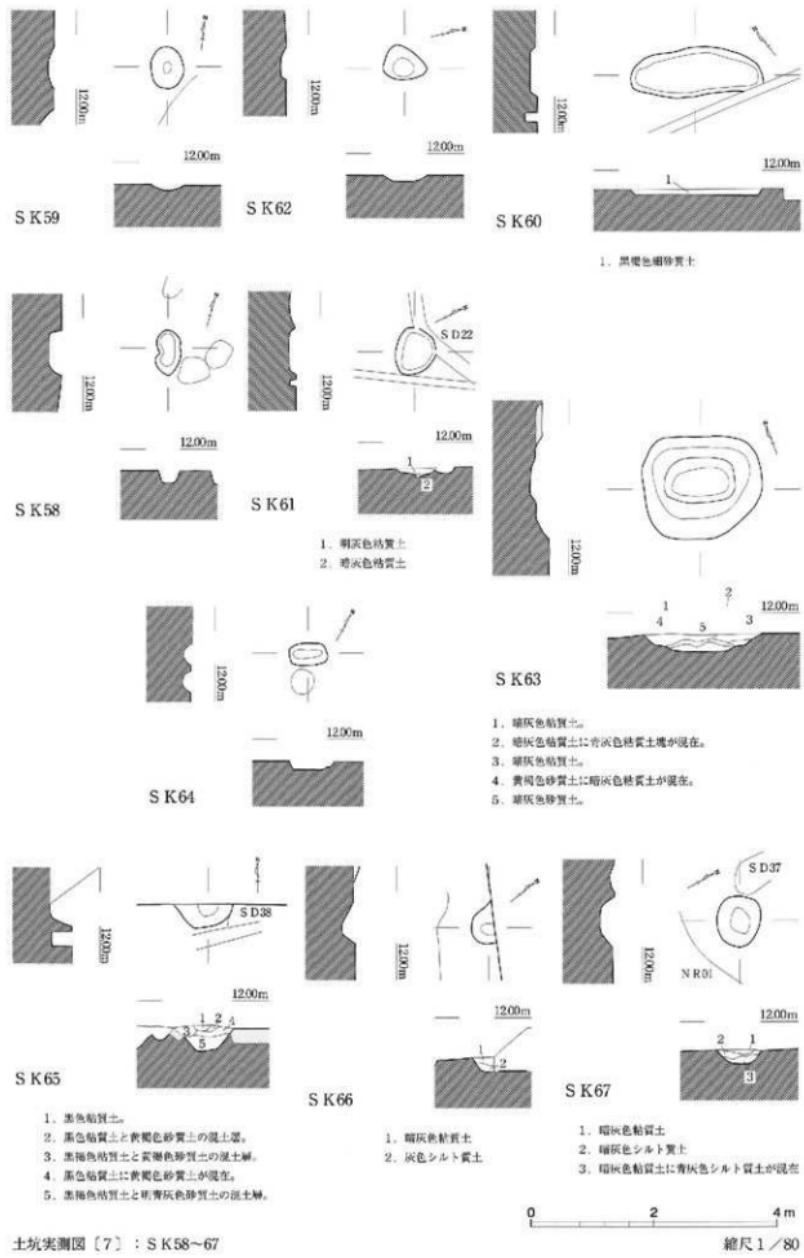
土坑実測図〔5〕：SK 36～47

0 2 4 m
縮尺 1 / 80

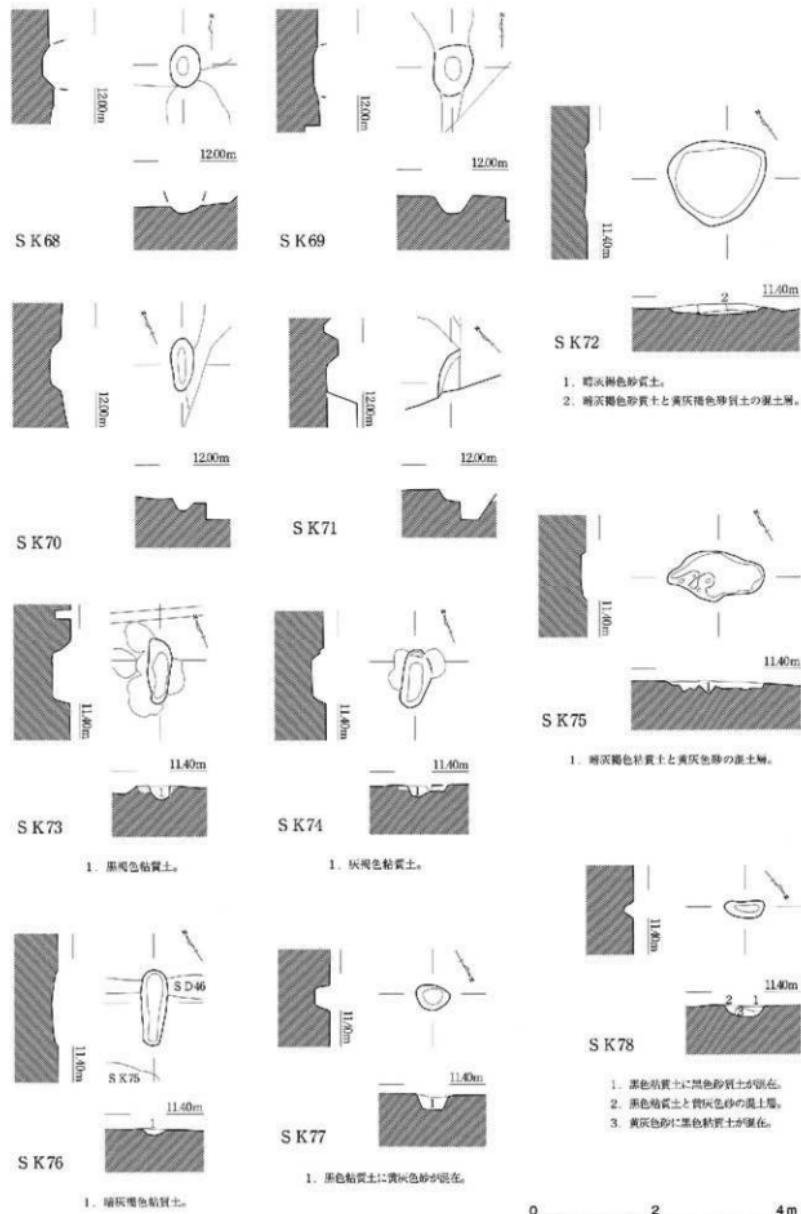


土坑実測図〔6〕：SK48～57

図面二八 遺構実測図



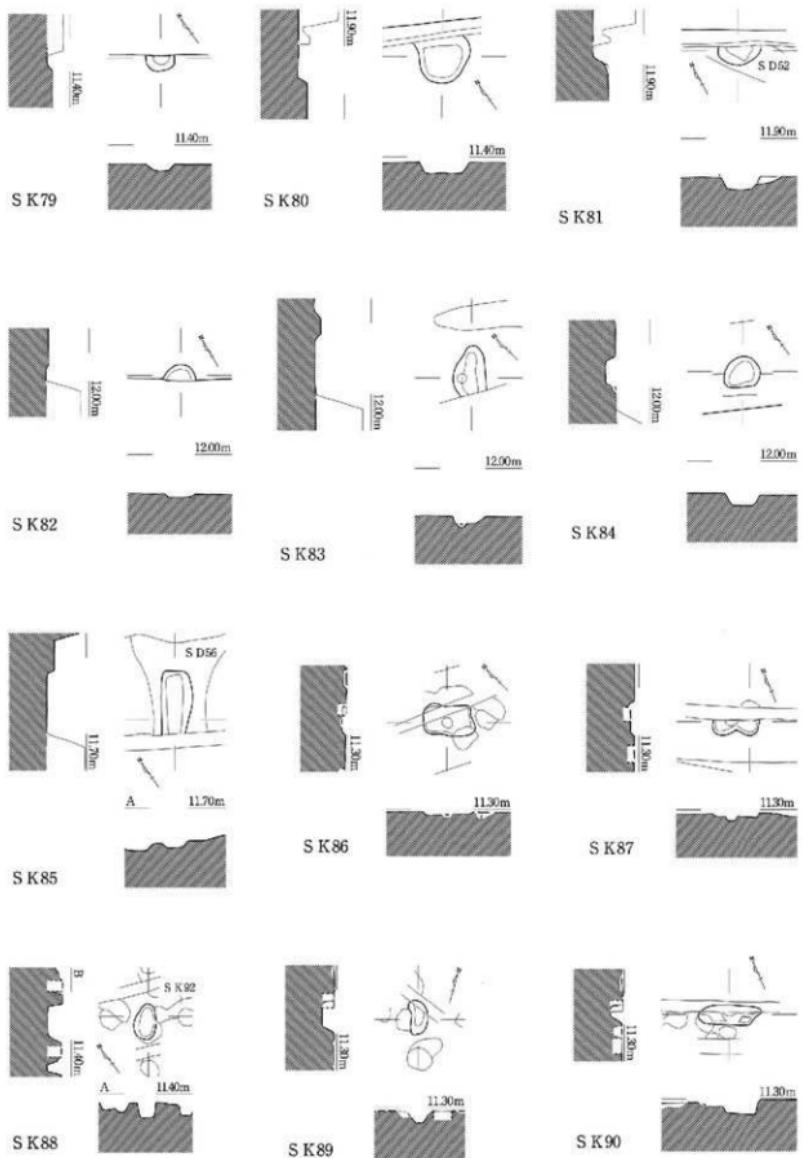
圖面一九 遺構実測図



土坑実測図〔8〕：S K68~78

0 2 4
縮尺 1/80

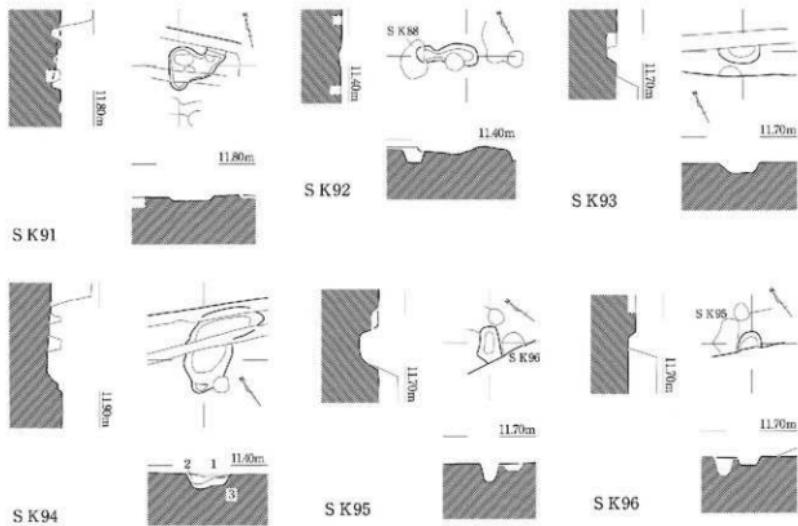
図面三〇 〇道構実測図



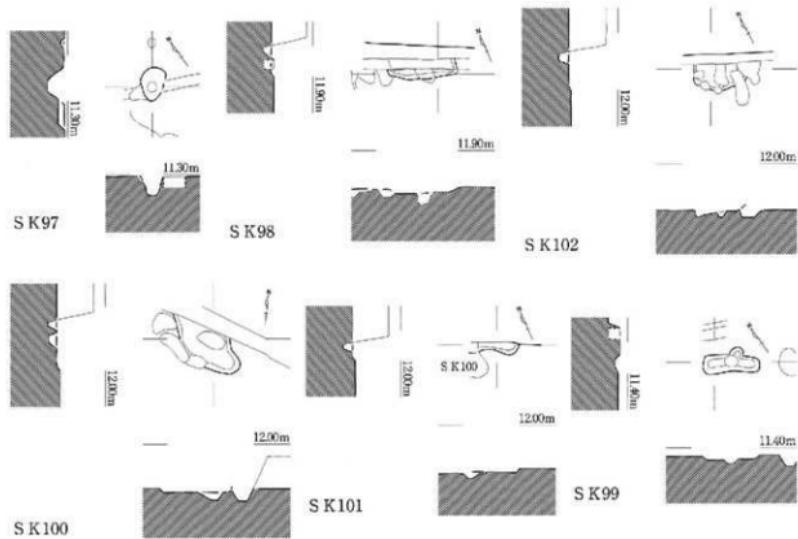
土坑実測図〔9〕：SK79～90

0 2 4 m
縮尺 1/80

図面三一 遺構実測図



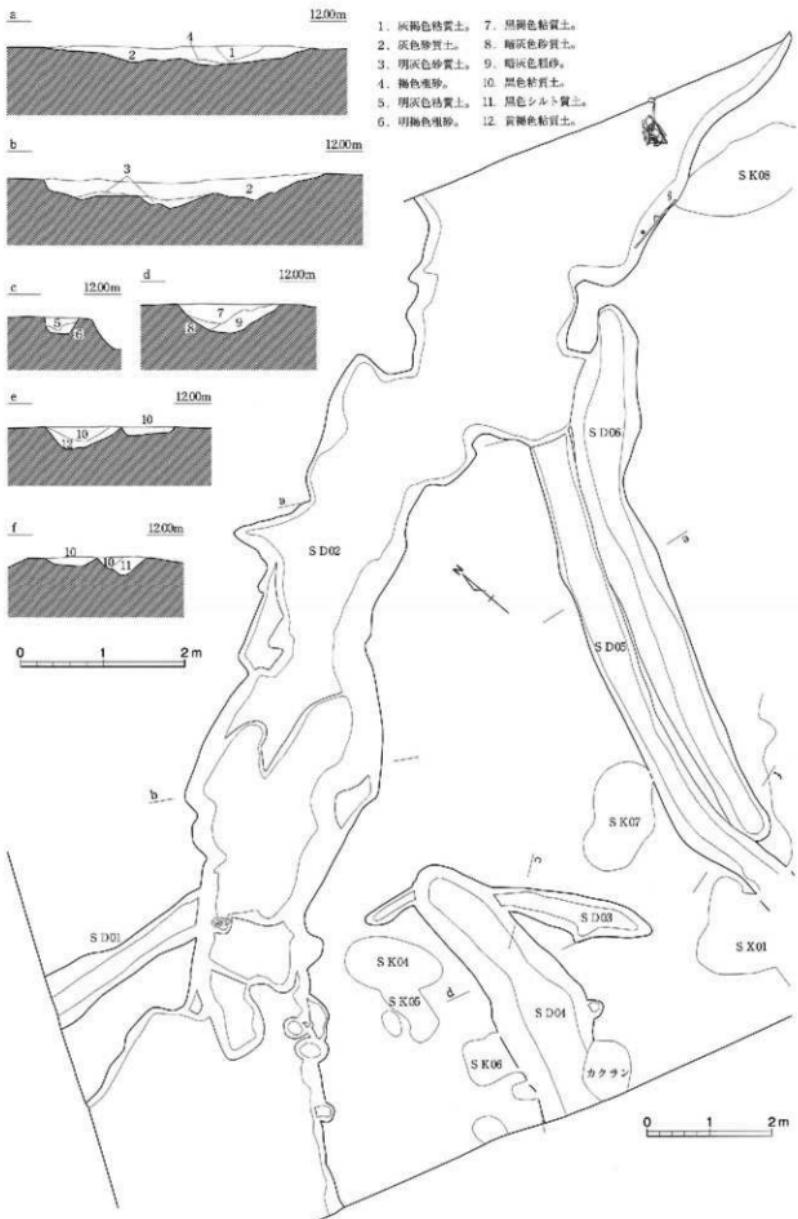
1. 黒色粘質土。
2. 黒色粘質土と褐色粘質土と青灰色粘質土の混土層。
3. 黒色粘質土上に黄灰色砂質土が窪在。



土坑実測図〔10〕：S K91～102

0 2 4 m
縮尺 1/80

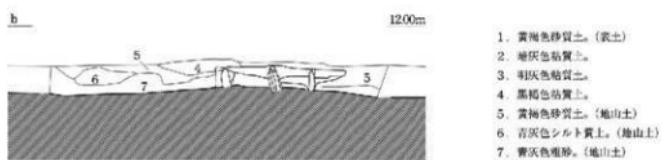
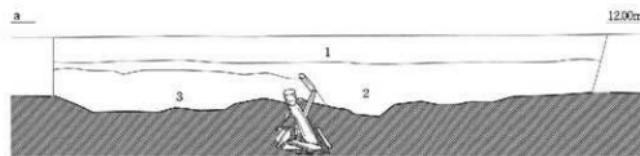
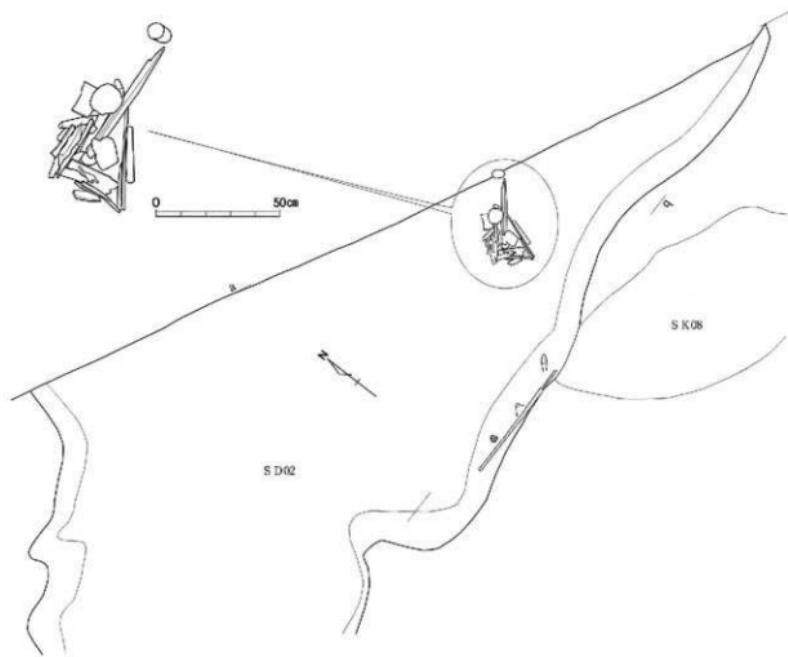
図面三一 遺構実測図



構造遺構実測図〔1〕：S D02～06

縮尺 1/60・1/80

図面三三
遺構実測図

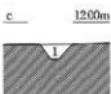
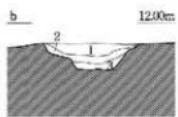
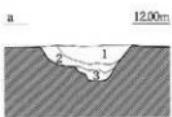
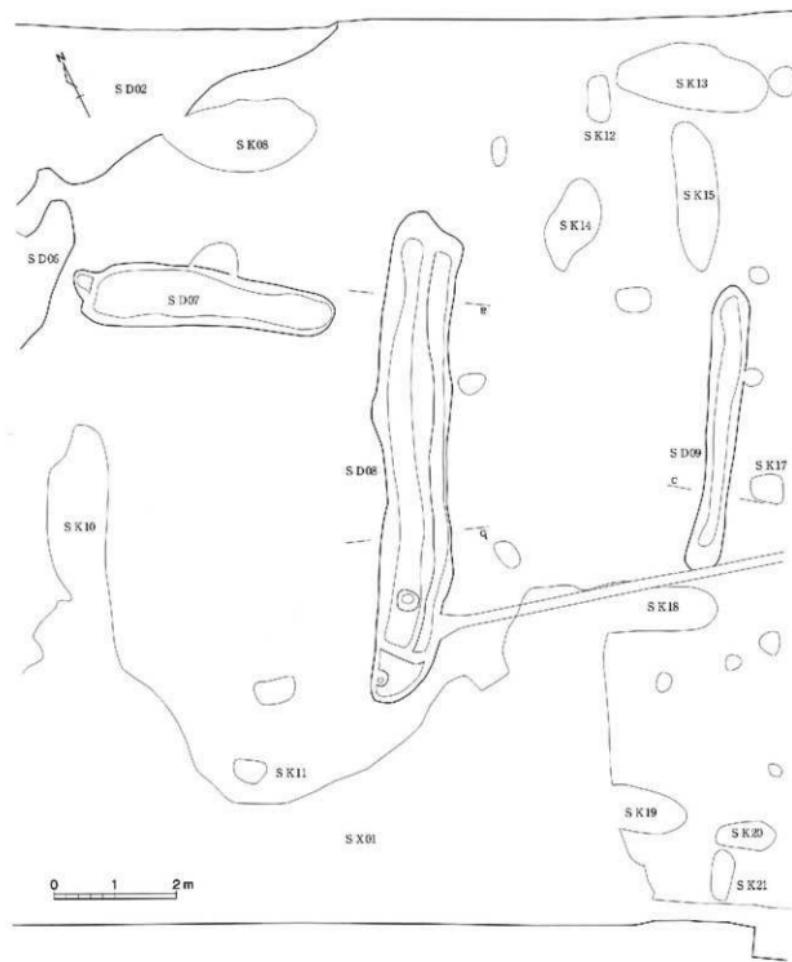


1. 黄褐色砂質土。(表土)
2. 灰色粘質土。
3. 利灰色粘質土。
4. 黑褐色粘質土。
5. 黄褐色砂質土。(地山土)
6. 青灰色シルト質土。(地山土)
7. 青灰色堆積。(地山土)

横断遺構実測図〔2〕：S D02

0 1 2m

縮尺 1/20・1/40

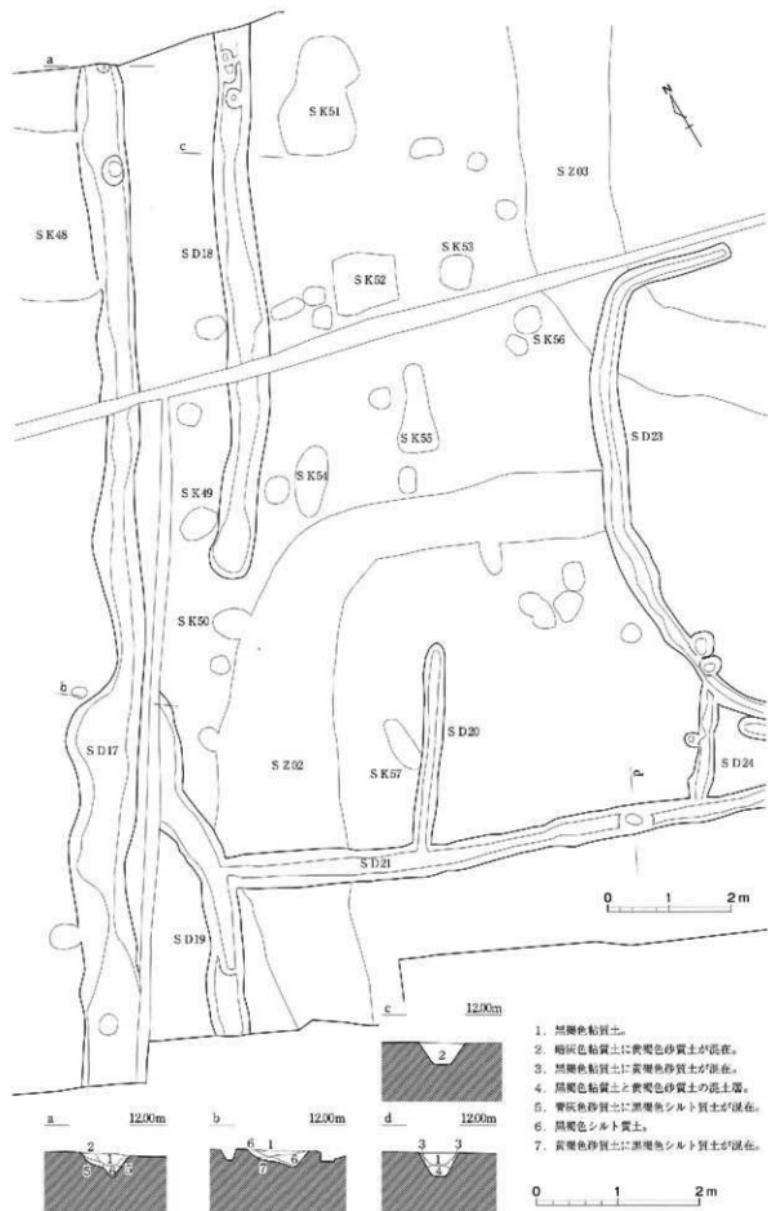


1. 黒色粘質土。
2. 黄褐色砂質土に黑色粘質土が混在。
3. 黄褐色粘質土に黑色粘質土と青灰色砂質土が混在。

溝状遺構実測図 [3] : S D08・09

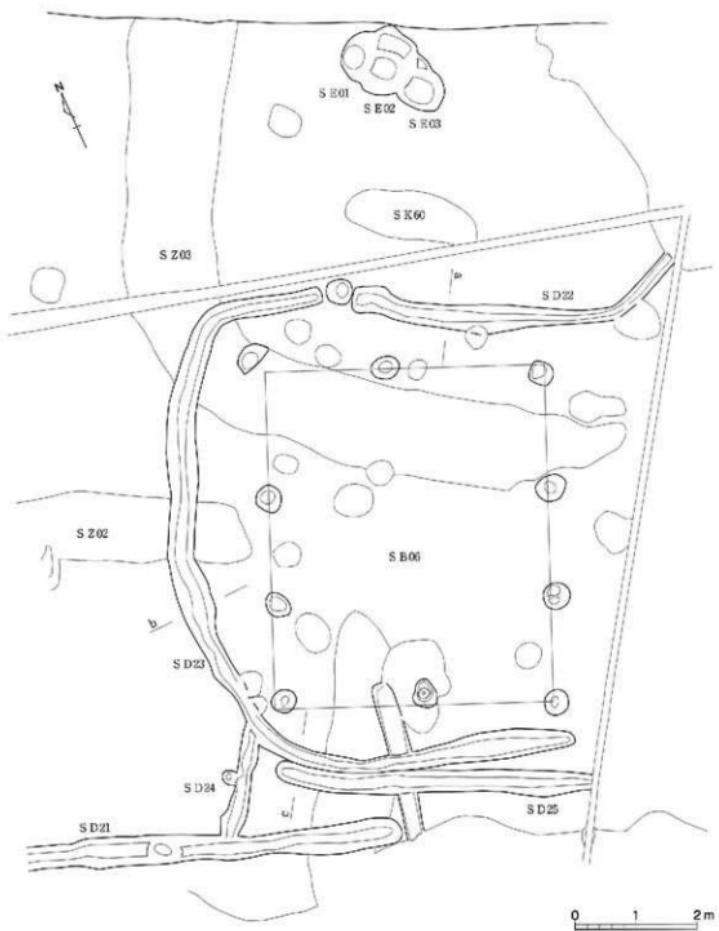


縮尺 1/60・1/80



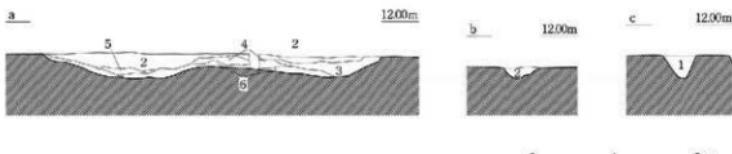
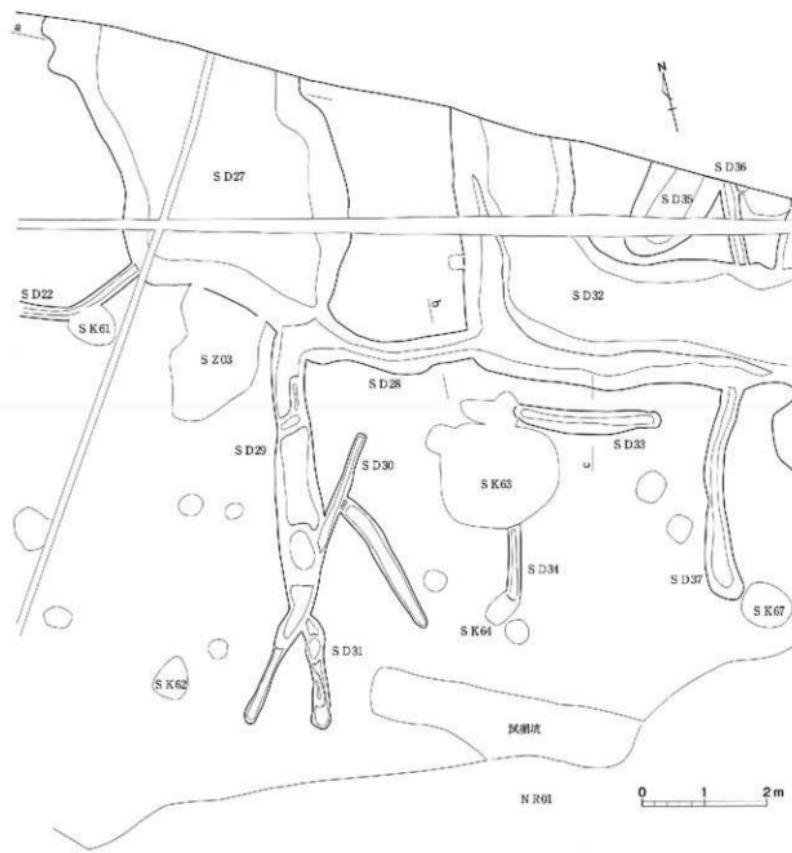
構造遺構実測図〔4〕：SD17・18・21

縮尺1/60・1/80



構造遺構実測図〔5〕：S D22・23・25

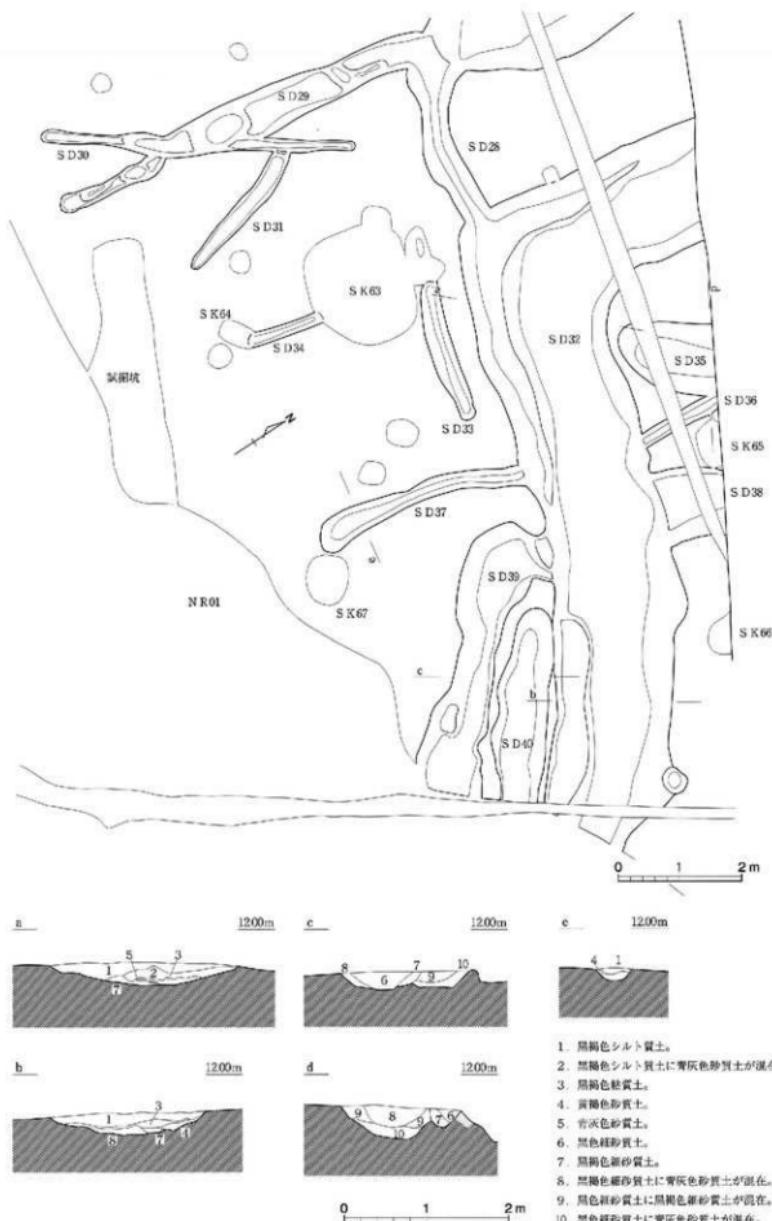
縮尺1/60・1/80



1. 灰色粘質土。
2. 黒褐色シルト質土。
3. 黒褐色粘質土。
4. 黑褐色シルト質土に黄褐色砂質土が混在。
5. 黑褐色粘質土。
6. 黑褐色粘質土に黄褐色砂質土が混在。

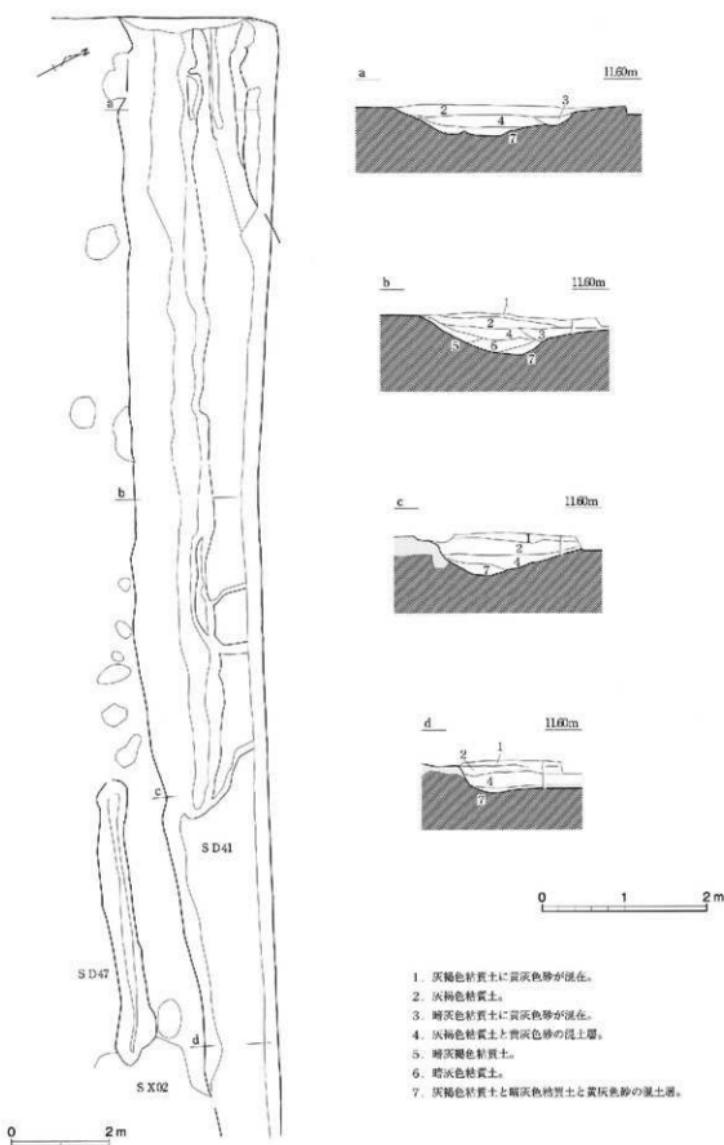
溝状造構実測図〔6〕：SD27・28・33

縮尺 1/60・1/80



溝状造構実測図 [7] : SD32・35~37・39・40

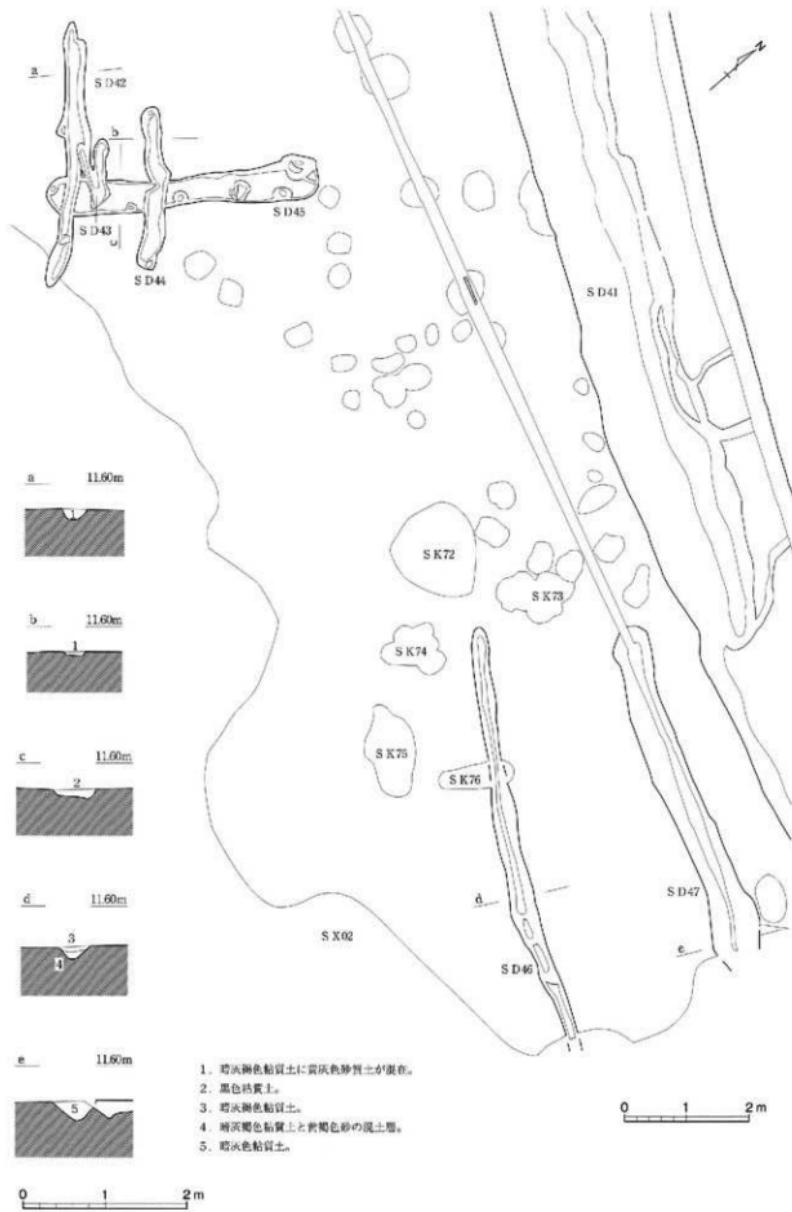
縮尺 1/60・1/80



溝状遺構実測図〔8〕：SD41

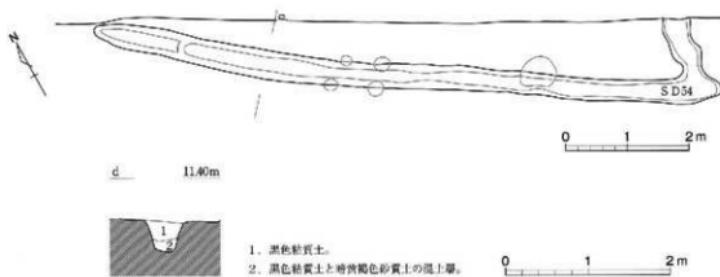
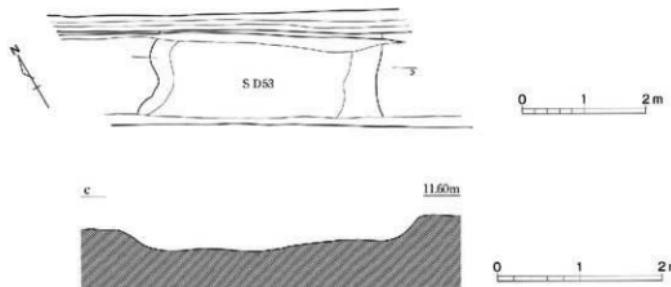
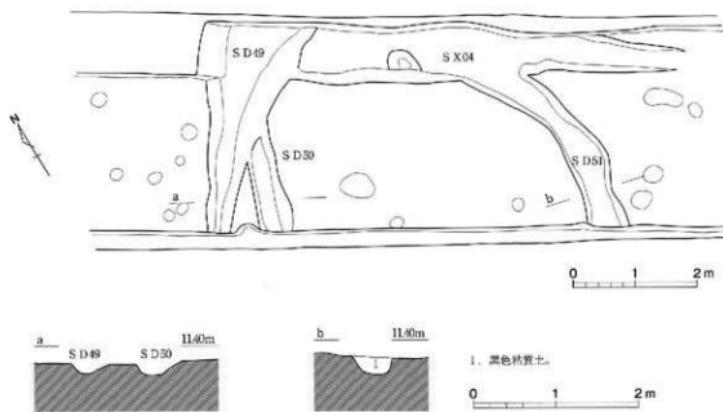
縮尺 1/60・1/100

図面四〇 造構実測図

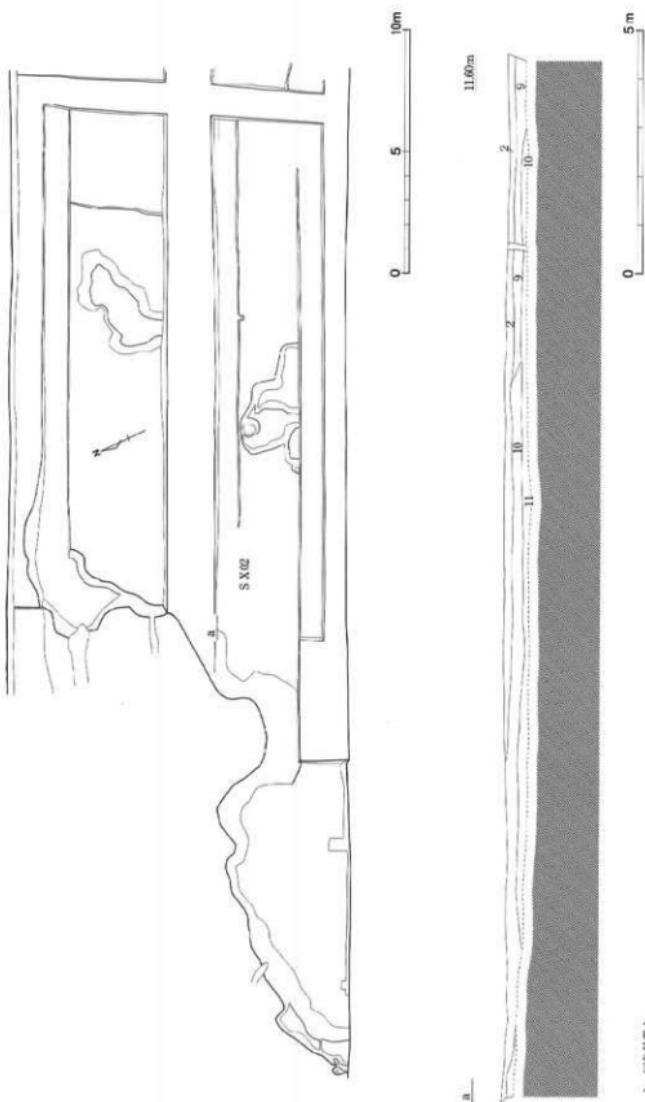


溝状造構実測図〔9〕：SD42・44～47

縮尺 1/60・1/80

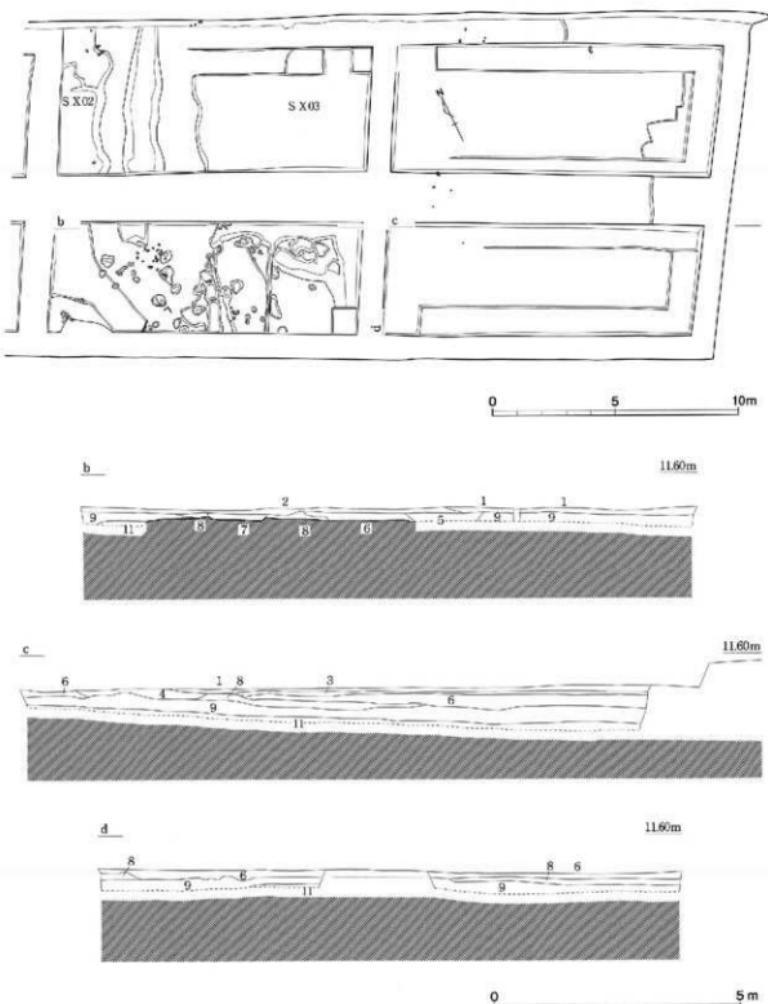


図面二四 遺構実測図

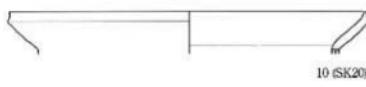
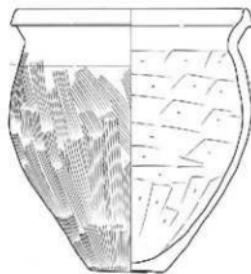
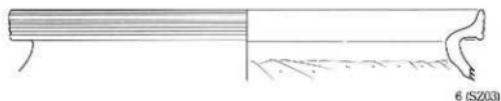
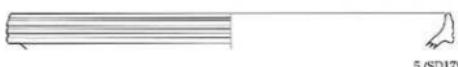
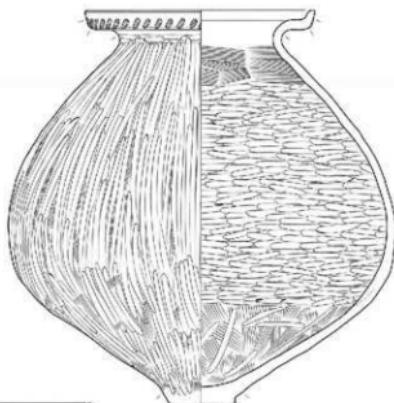
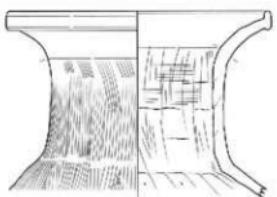
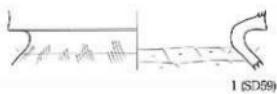


凹地 SX02実測図

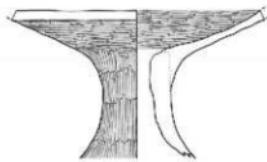
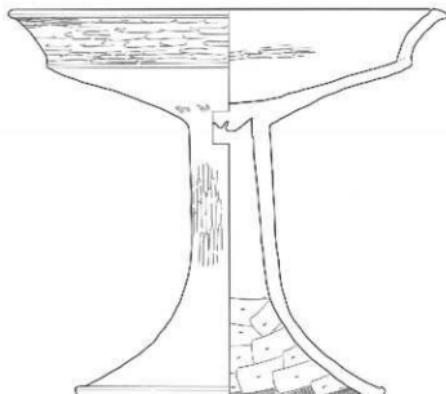
縮尺 1/100・1/200



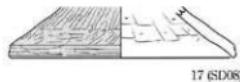
1. 灰色粘質土。
2. 暗灰色粘質土。
3. 黄白色粘質土。
4. 深褐色砂質土。
5. 黄褐色粘質土。
6. 暗灰色粘質土に暗灰色砂質土が混在。
7. 黄灰色砂質土と暗灰色粘質土の混土層。(S D覆土)
8. 暗灰褐色粘質土。
9. 黄色腐根土。
10. 褐色腐根土。
11. 黄色粘質土に葉植物が混在。



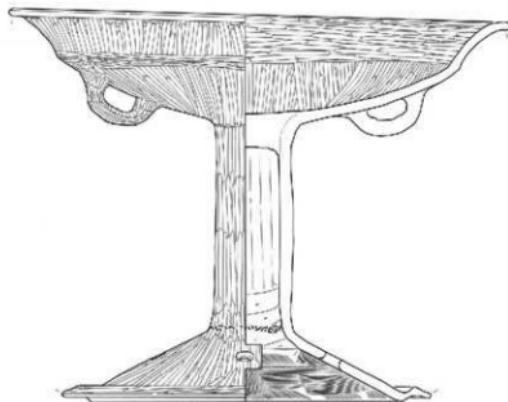
0 5 10cm
縮尺 1/3



16 (SK13)



17 (SD08)



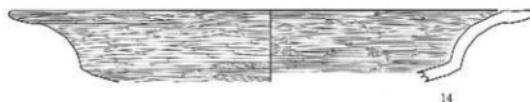
13 (SK18)



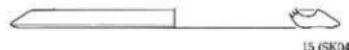
18 (SD27)



19 (SD32)



14



15 (SK04)



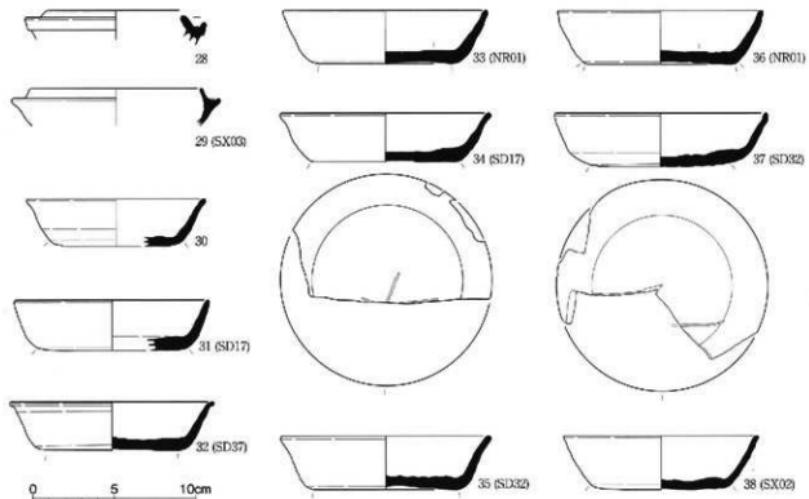
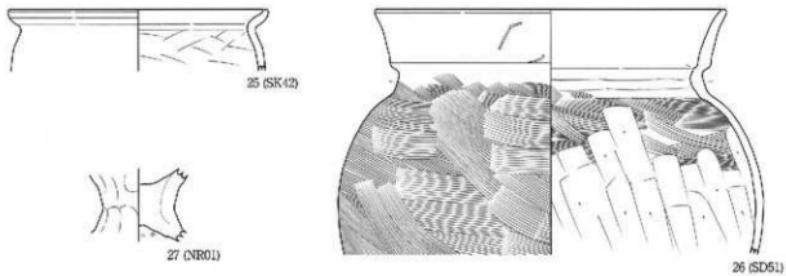
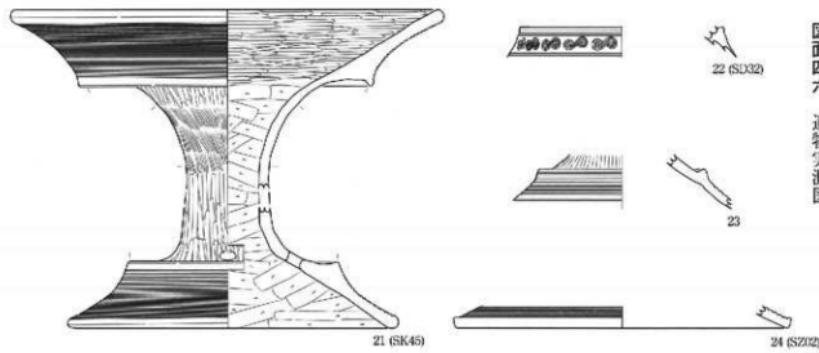
0

5

10cm

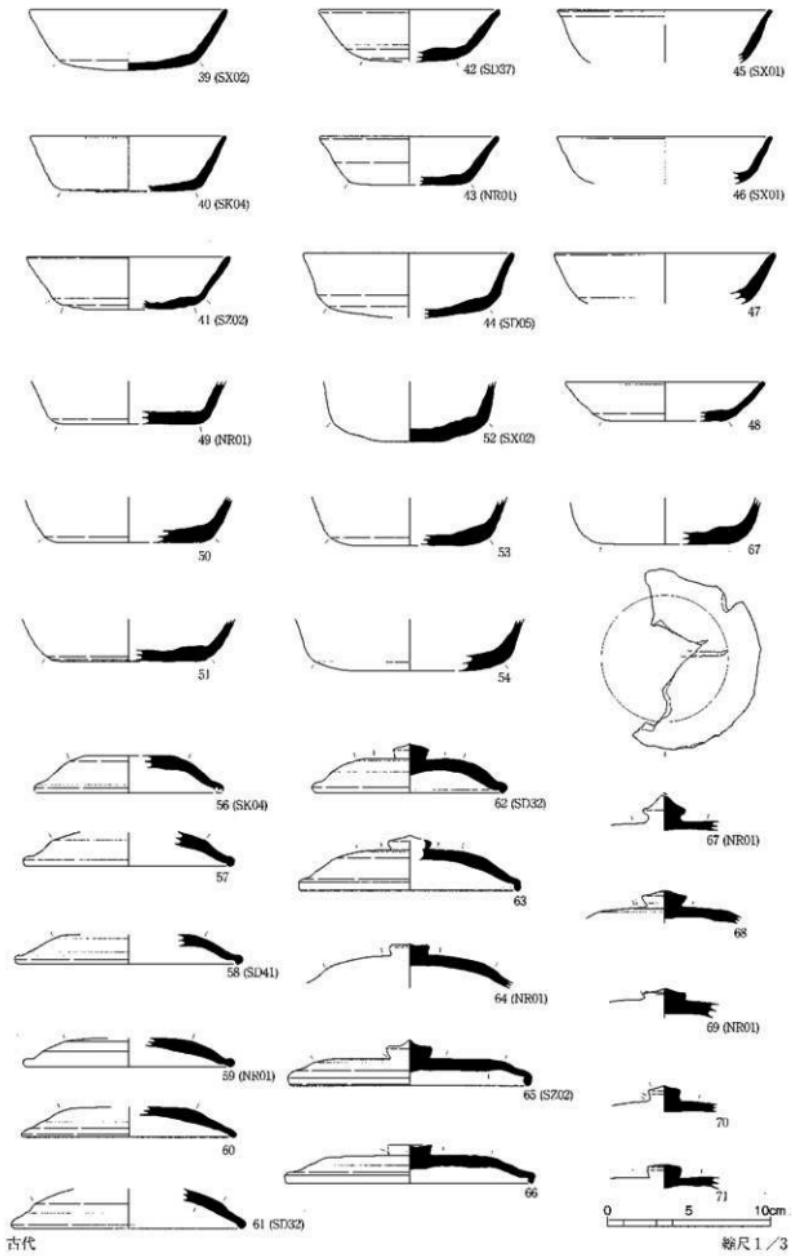
縮尺 1 / 3

図面四六 遺物実測図

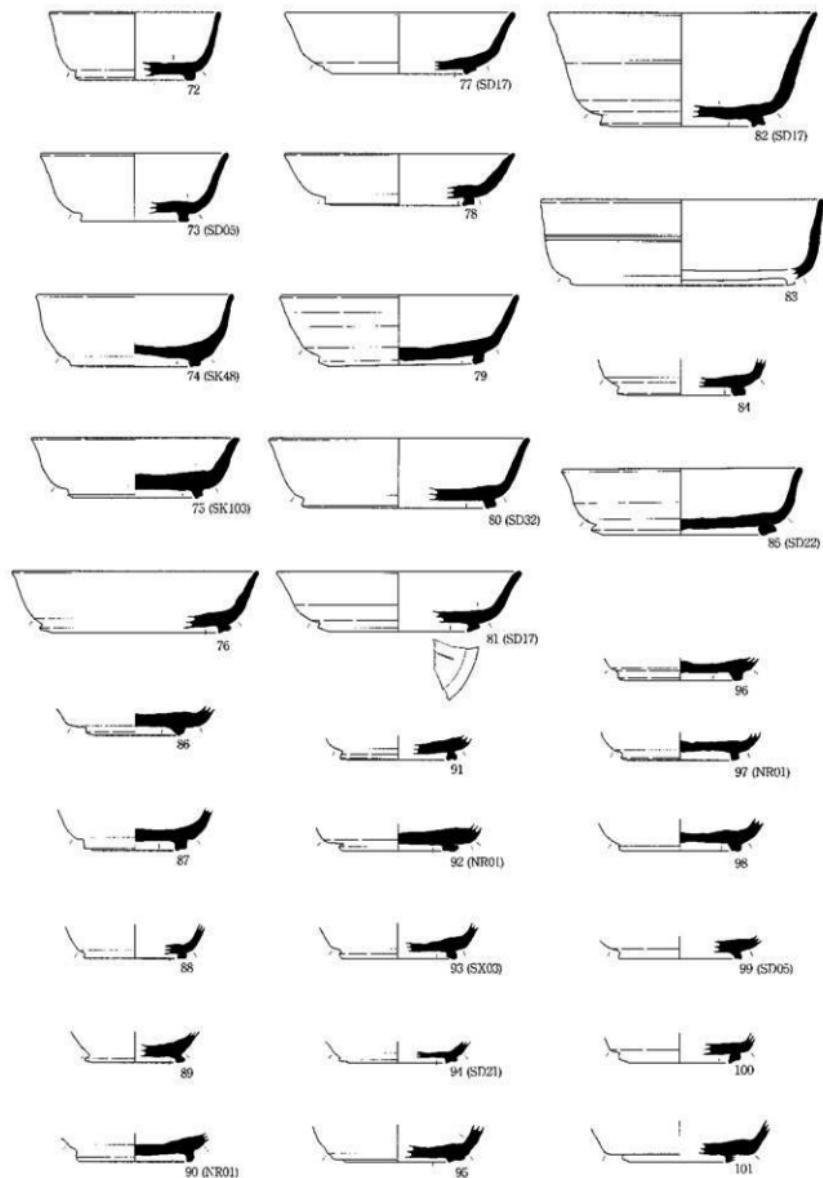


弥生時代・古墳時代・古代

縮尺 1/3

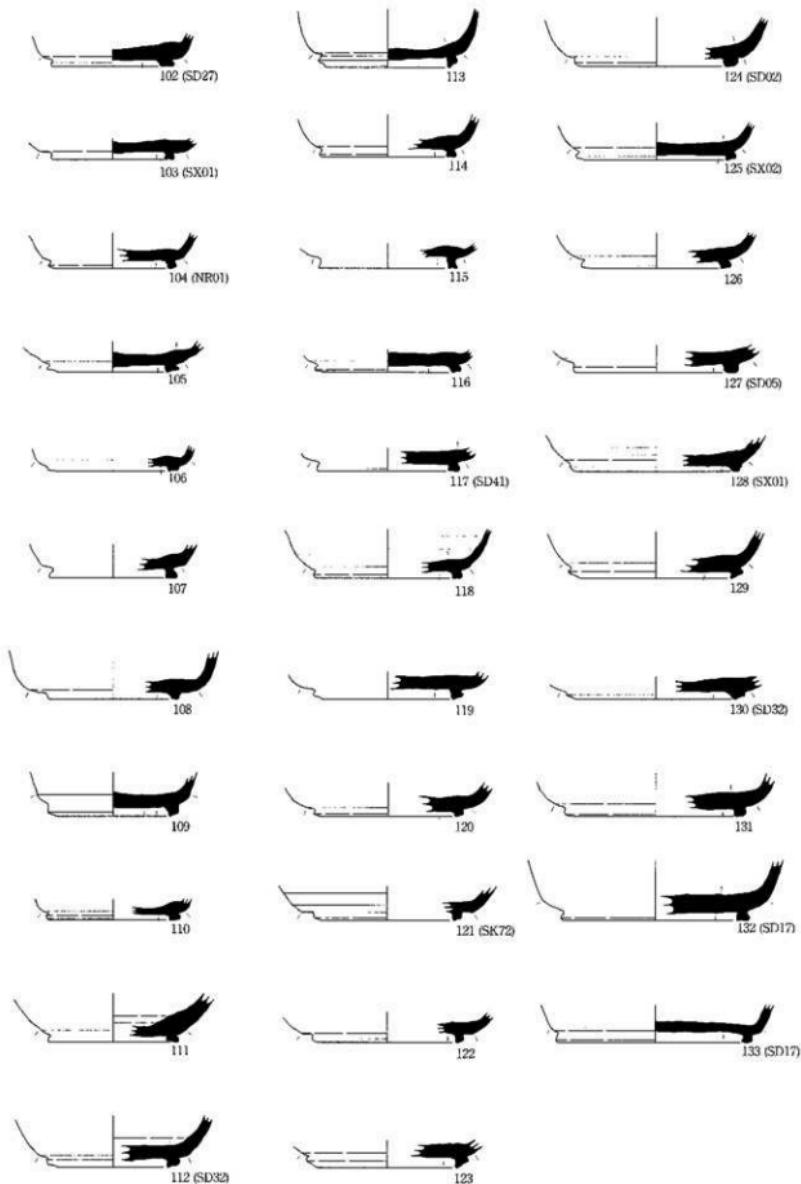


圖面四八 遺物実測図



0 5 10cm

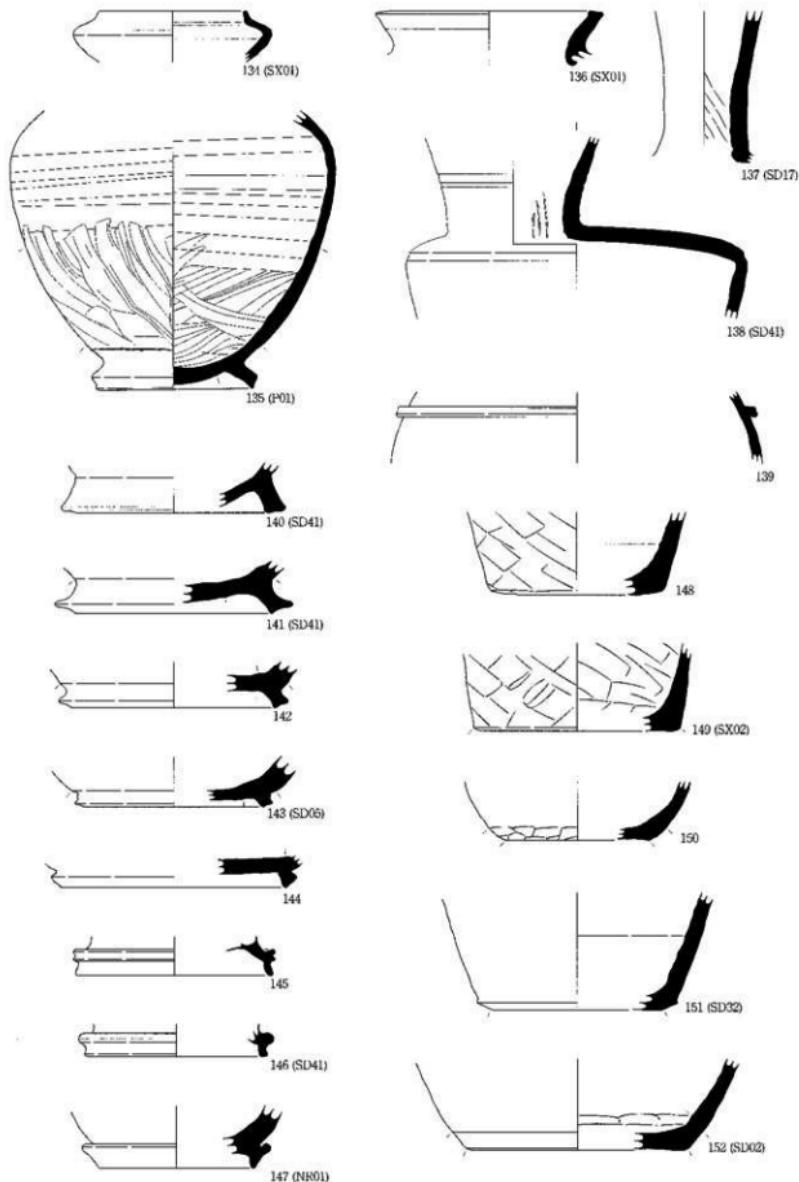
縮尺 1/3



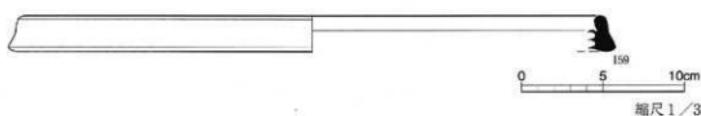
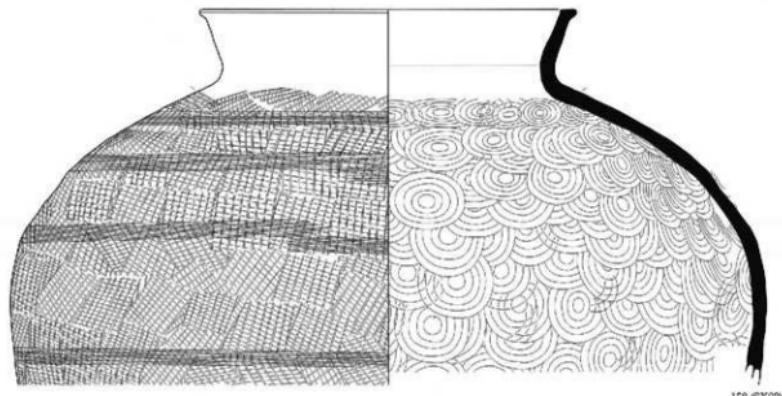
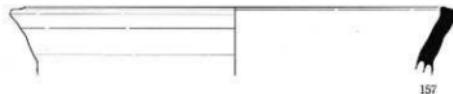
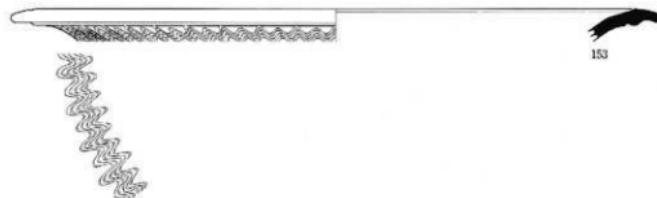
0 5 10cm

縮尺 1/3

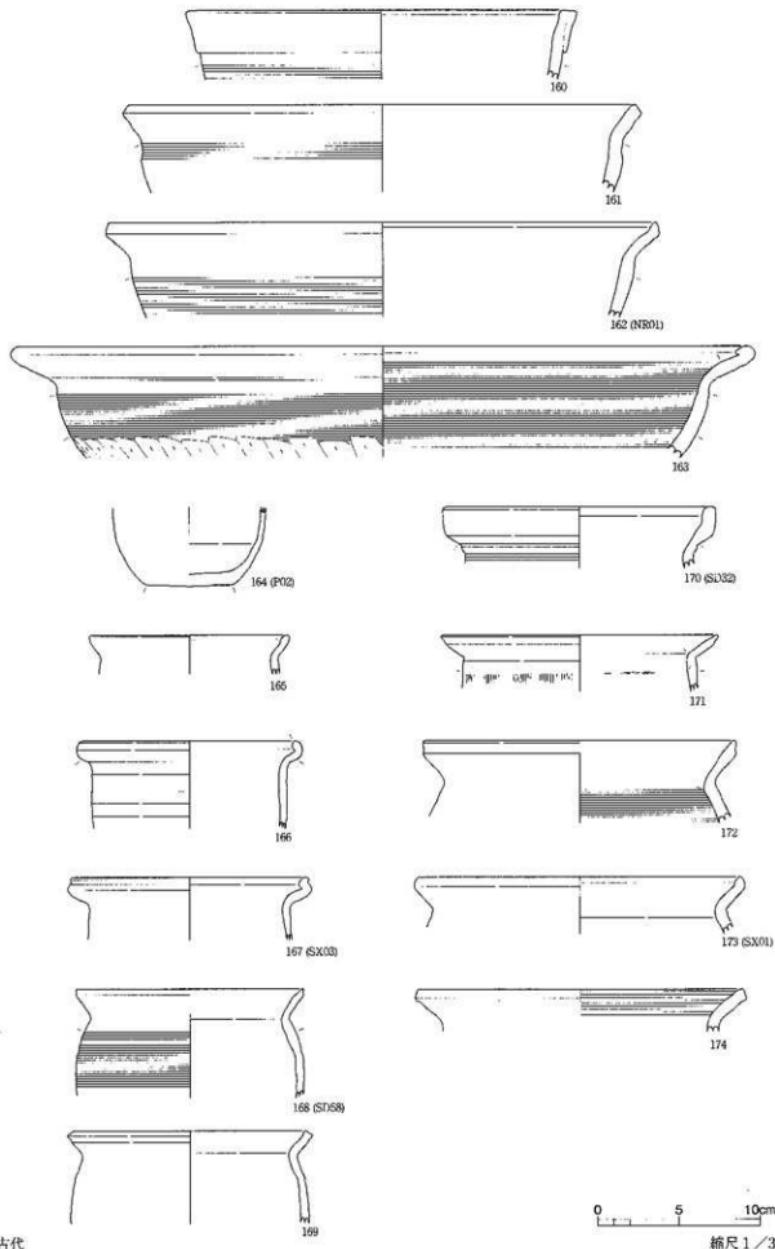
図面五〇 遺物実測図



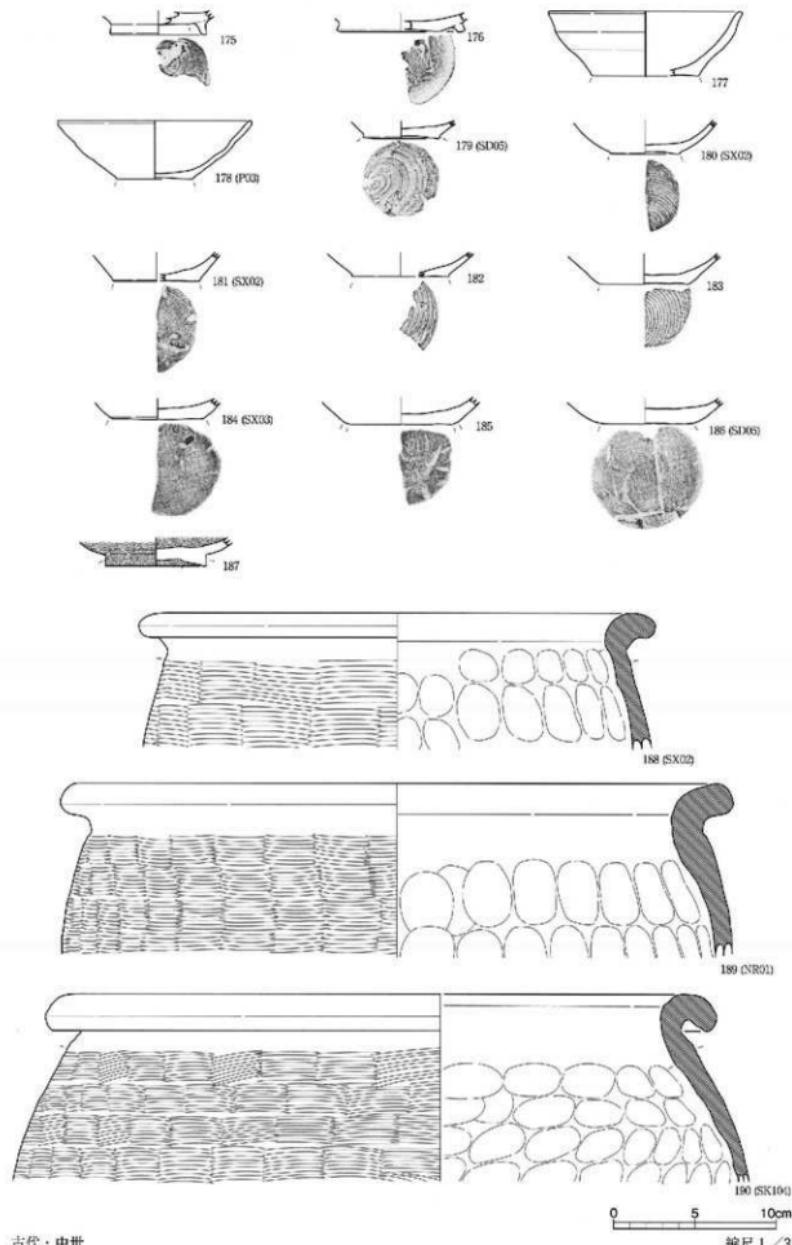
0 5 10cm
縮尺 1/3

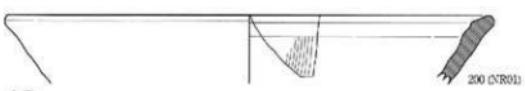
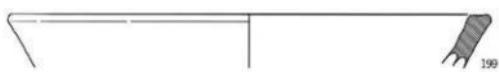
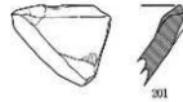
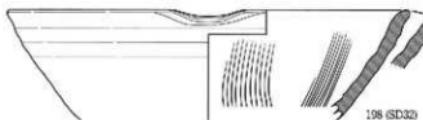
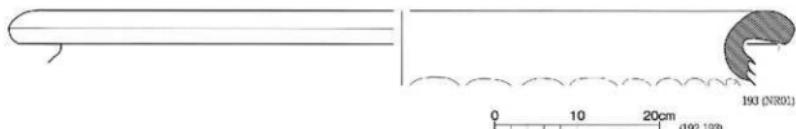
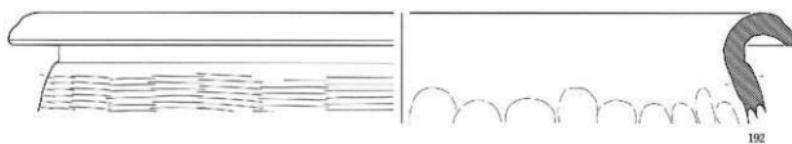
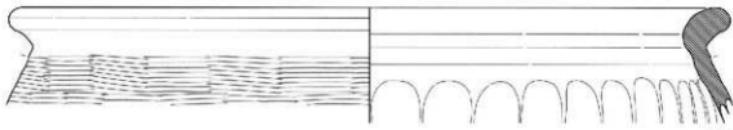


図面五二 遺物実測図

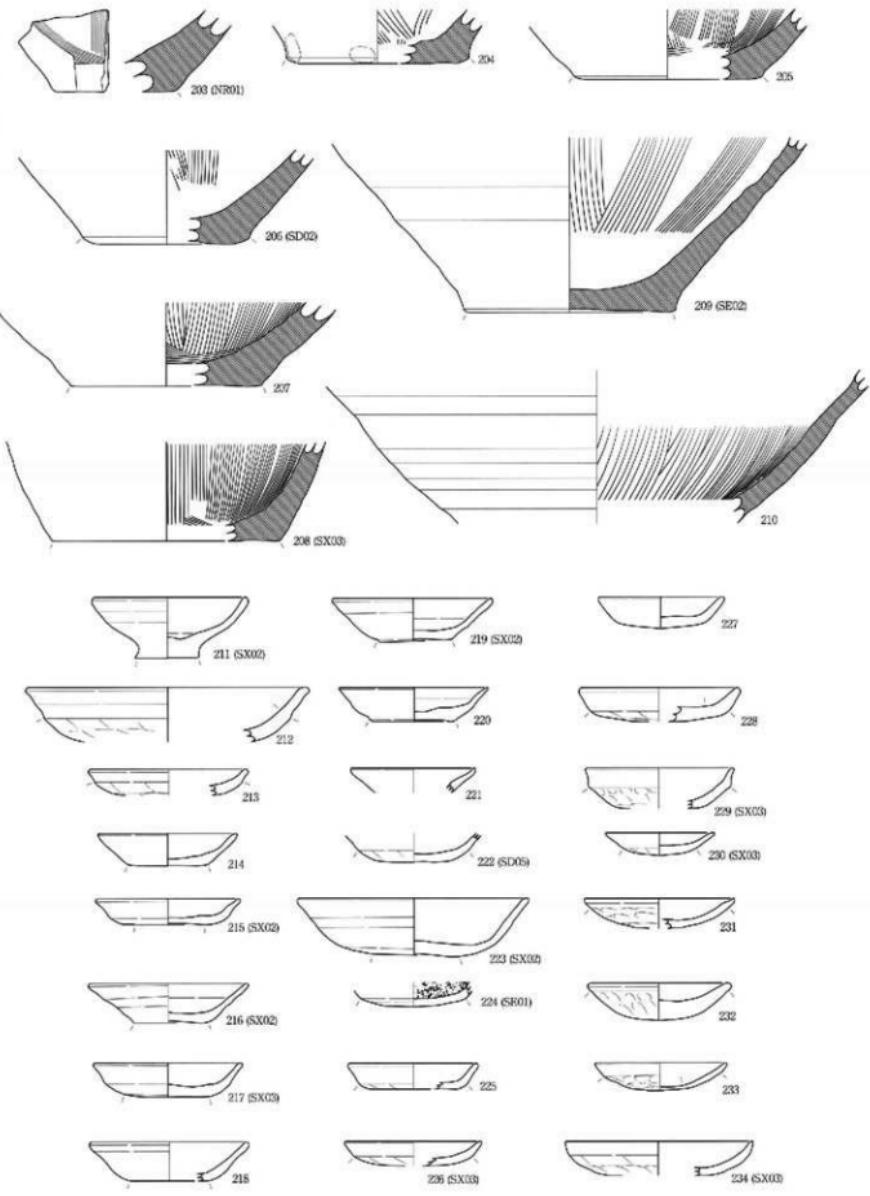


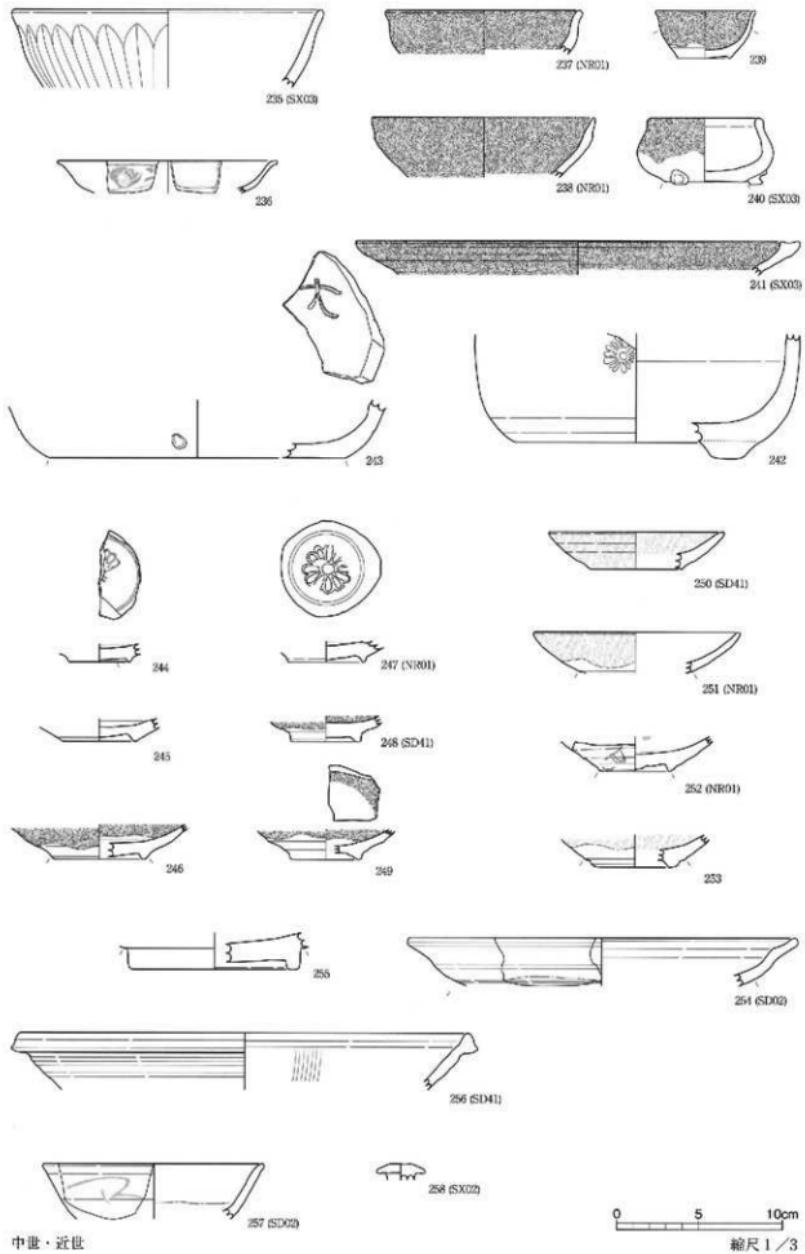
図面五三
遺物実測図





0 5 10cm
縮尺 1/3・1/6





0 5 10cm
縮尺 1/3

圖面五七 遺物実測図

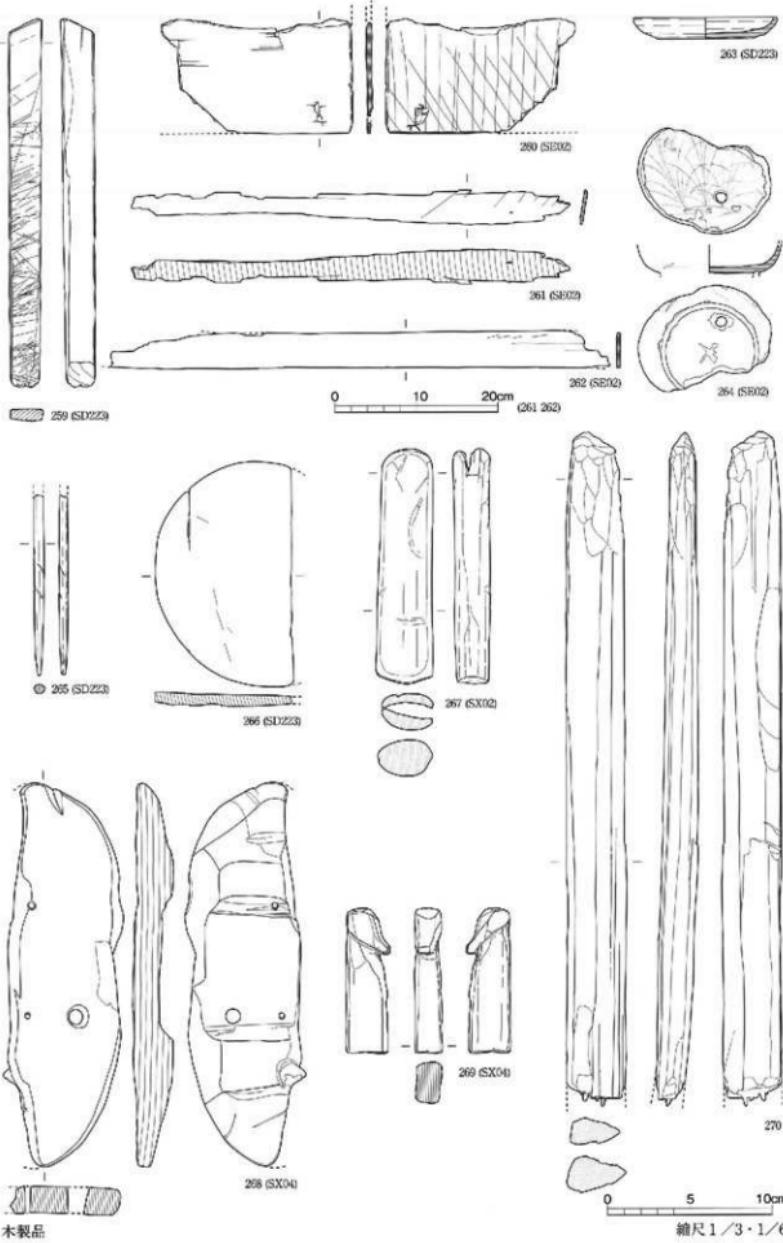


図 版



1. 大塗景（南）



2. 遺景（北西）



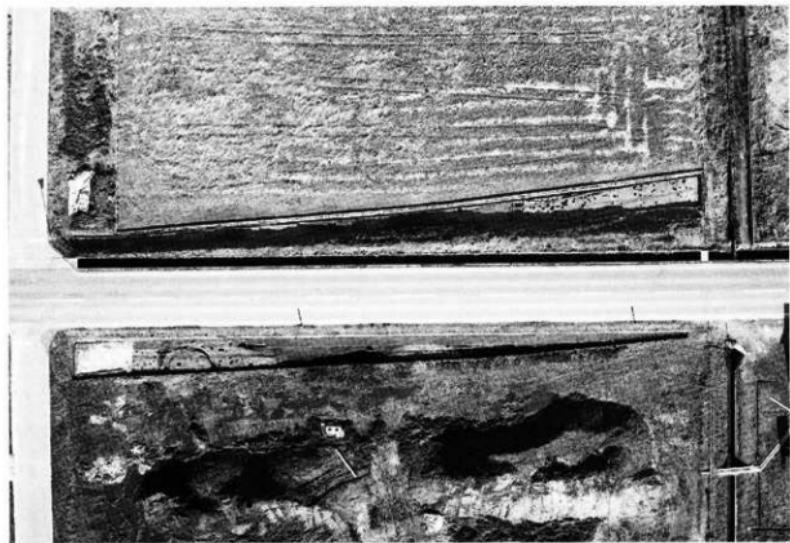
1. 調査地区全景（直上）



2. 1区全景（直上）



1. 2区全景（直上）



2. 3・4区全景（直上）



1. 1区検出状況（東南東）



2. 1区検出状況（西南西）



1. 1区掘削状況（南西）



2. 1区掘削状況（東北東）



1. 2区検出状況（西北西）



2. 2区検出状況（東南東）



1. 2区掘削状況（東南東）



2. 2区掘削状況（北西）



1. 3区検出状況（北西）



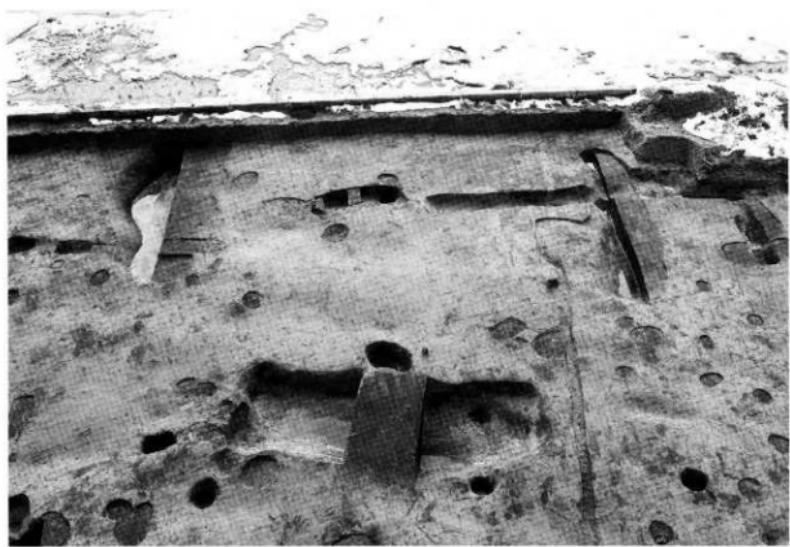
2. 4区検出状況（南東）



1. 3・4区掘削状況（北西）



2. 3・4区掘削状況（東南東）



1. 方形窯溝墓 S Z01掘削状況（北東）



2. 方形窯溝墓 S Z01掘削状況（北西）



1. 方形周溝墓 S Z02検出状況（東南東）



2. 方形周溝墓 S Z02検出状況（西北西）



1. 方形圓溝墓 S Z02掘削狀況（西北西）



2. 方形圓溝墓 S Z02掘削狀況（北西）



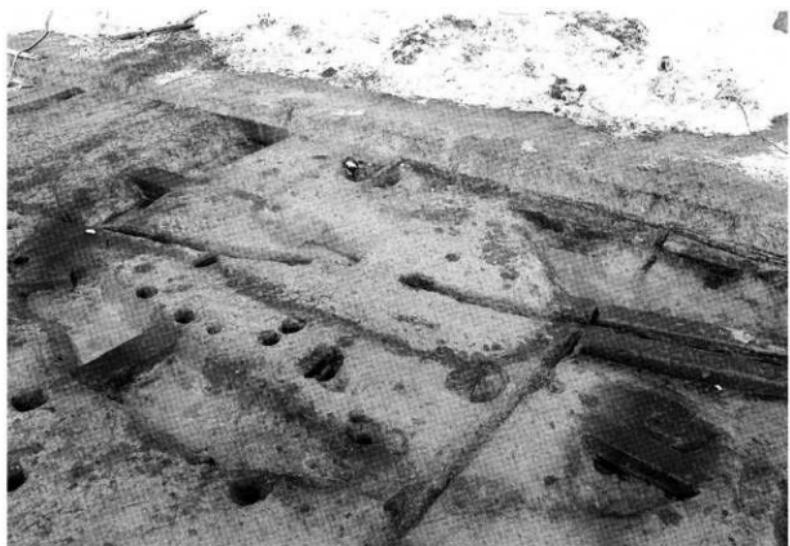
1. 方形周溝墓 S Z03検出状況（北東）



2. 方形周溝墓 S Z03検出状況（南）



1. 方形周溝墓 S Z03掘削状況（北西）



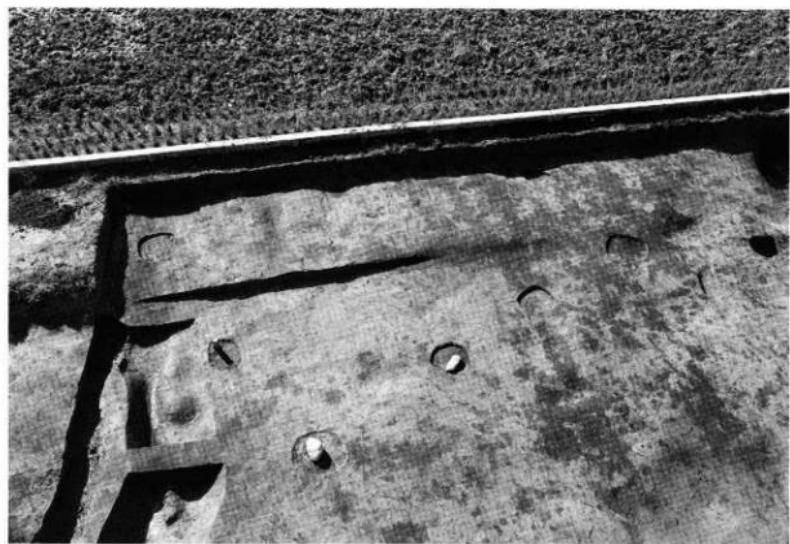
2. 方形周溝墓 S Z03掘削状況（南）



1. 挖立柱建物 S B01完掘状況（北）



2. 挖立柱建物 S B01完掘状況（北東）



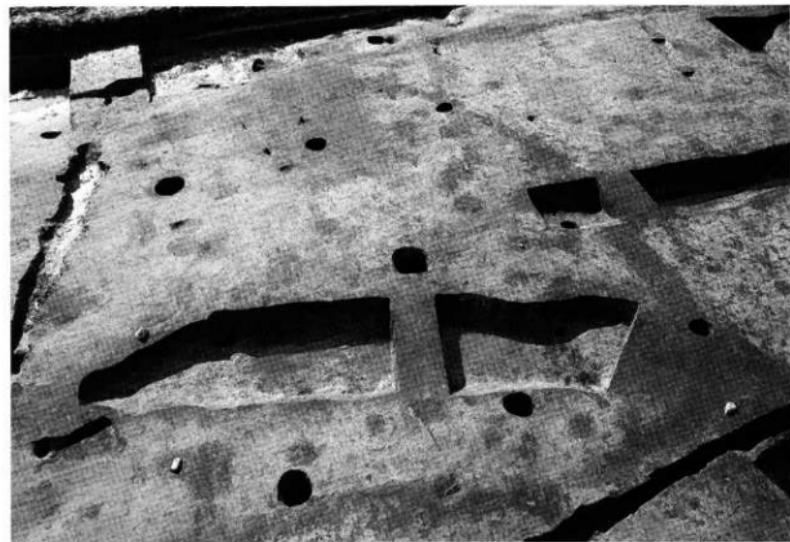
1. 掘立柱建物 S B04検出状況（北東）



2. 掘立柱建物 S B04完掘状況（北東）



1. 挖立柱建物 S B05・06検出状況（北東）



2. 挖立柱建物 S B05完掘状況（北東）



1. 掘立柱建物 S B07完掘状況（南東）



2. 掘立柱建物 S B08完掘状況（南東）



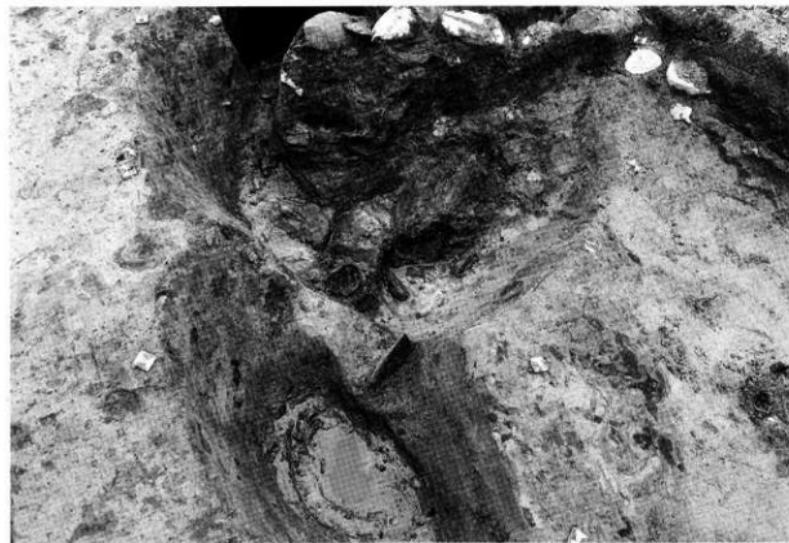
1. 井戸S E01~03完掘状況（東）



2. 井戸S E01~03断ち割り状況（北東）



1. 井戸 S E01完掘状況（北東）



2. 井戸 S E02遺物出土状況（北）



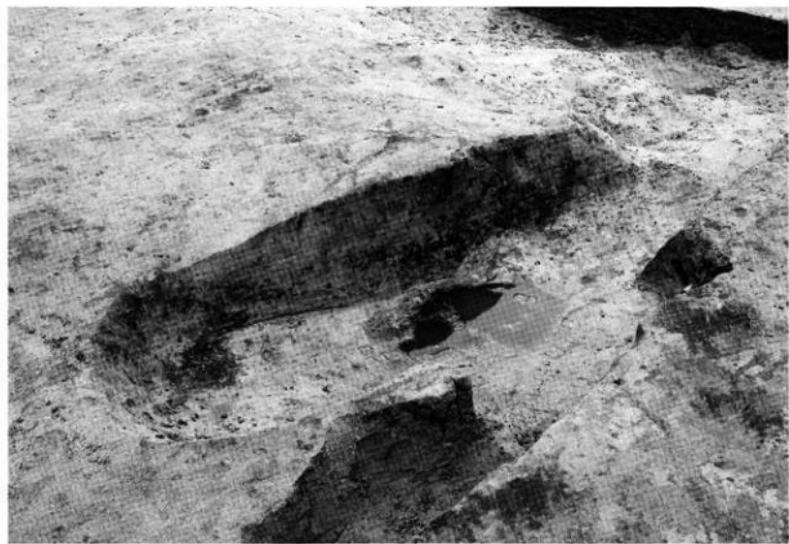
1. 土坑SK07完掘狀況（南）



2. 土坑SK14完掘狀況（北）



1. 土坑SK18完掘状況（北）



2. 土坑SK18完掘状況（北東）



1. 土坑S K18遺物出土狀況（南南東）



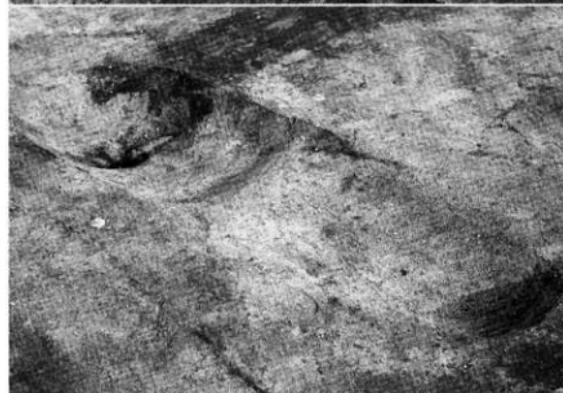
2. 土坑S K18遺物出土狀況（東南東）



1. 土坑SK73
完掘狀況（西）



2. 土坑SK74
完掘狀況（西）



3. 土坑SK76
完掘狀況（西）



1. 潢狀遺構 S D02・05・06掘削狀況（北東）



2. 潢狀遺構 S D05~09、土坑 S K08挖掘狀況（北東）



1. 溝状遺構 S D02
埋確認状況（北西）



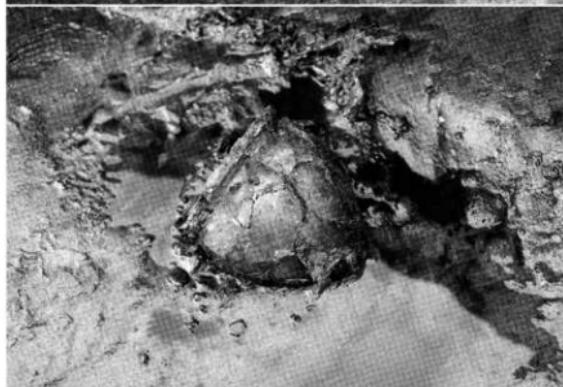
2. 溝状遺構 S D02
埋近景（北西）



3. 溝状遺構 S D02
埋近景（北）



1. 溝狀遺構 S D01
遺物出土狀況（東）



2. 溝狀遺構 S D32
遺物出土狀況（南東）



3. 溝狀遺構 S D51
遺物出土狀況（南東）





1. 四地S-X03全景（西北西）



2. 四地S-X03全景（東南東）



1. 溝狀遺構 S D32
遺物出土狀況（北西）



2. 凹地 S X03
遺物出土狀況（南）



3. 凹地 S X03
遺物出土狀況（北北西）



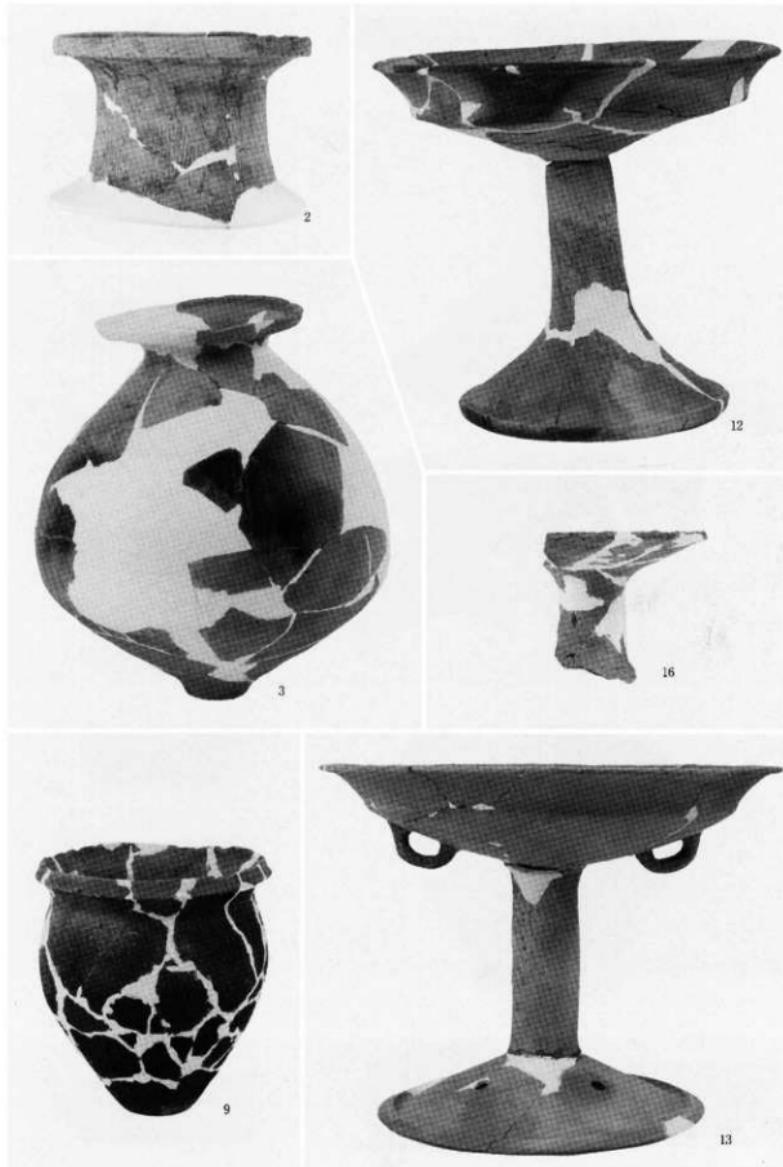
1. 作業風景（東）



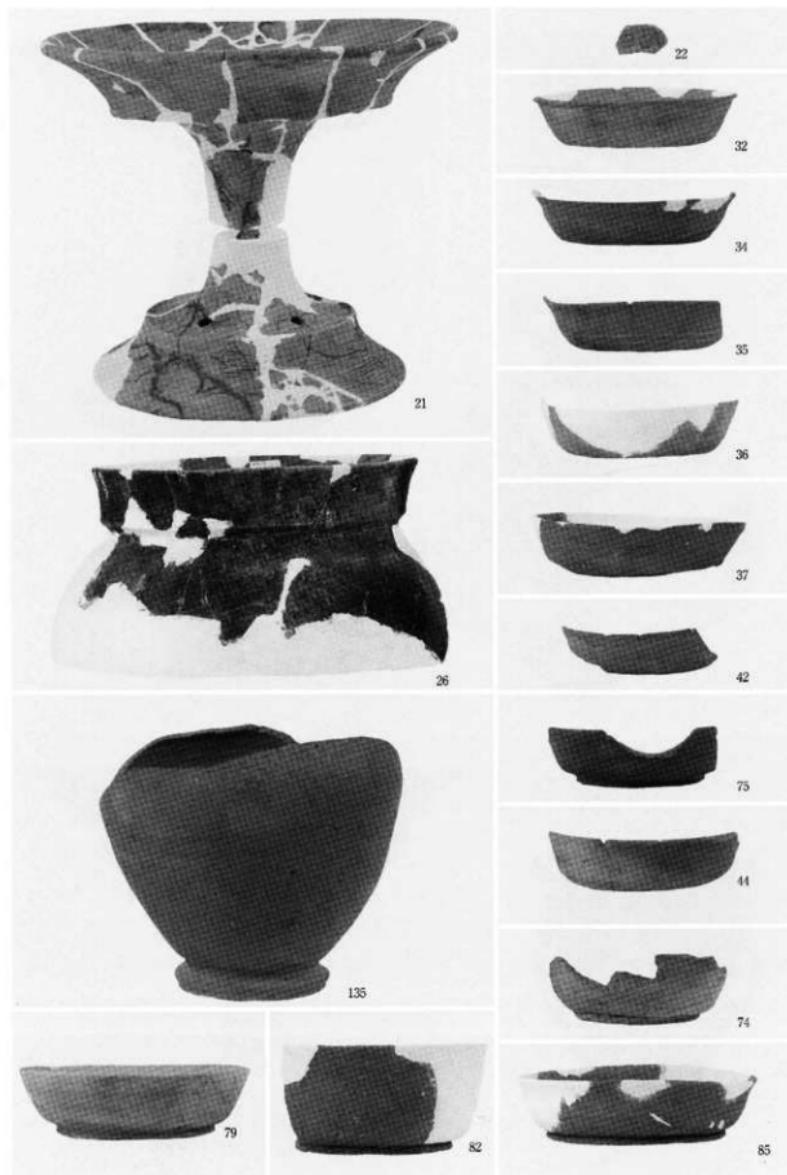
2. 作業風景（東）



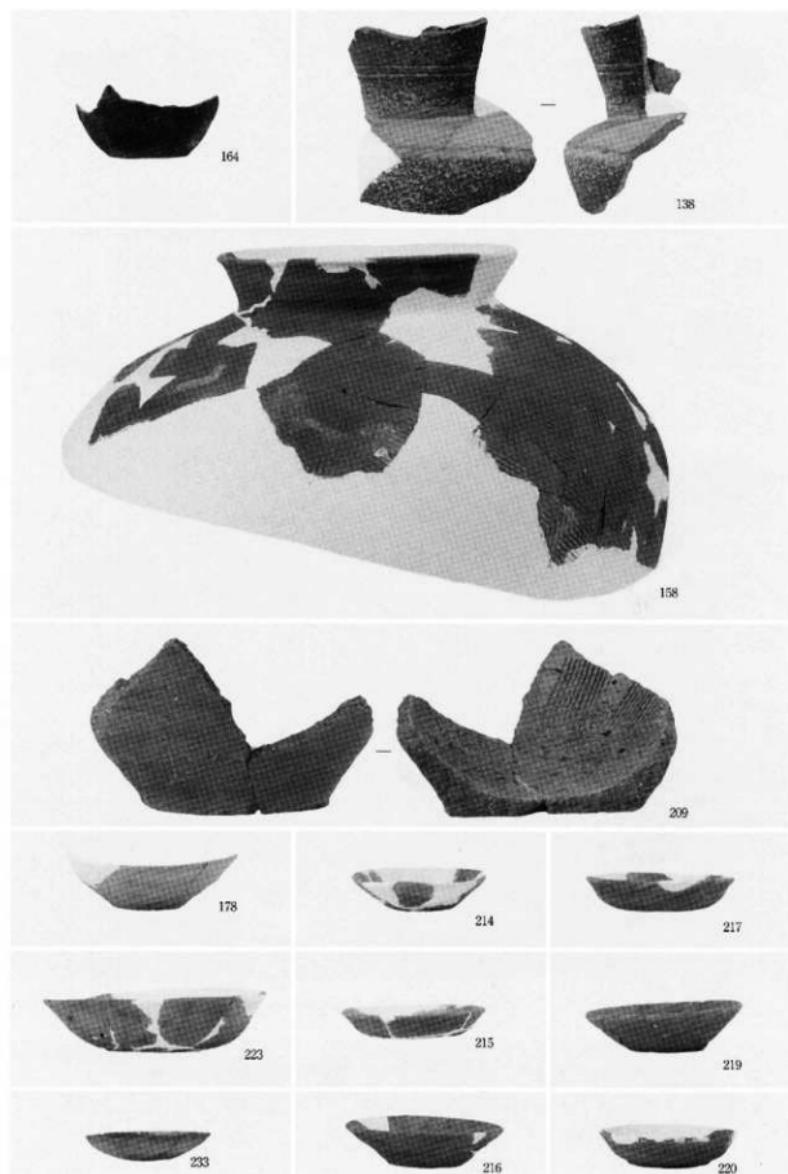
3. 作業風景（西北西）

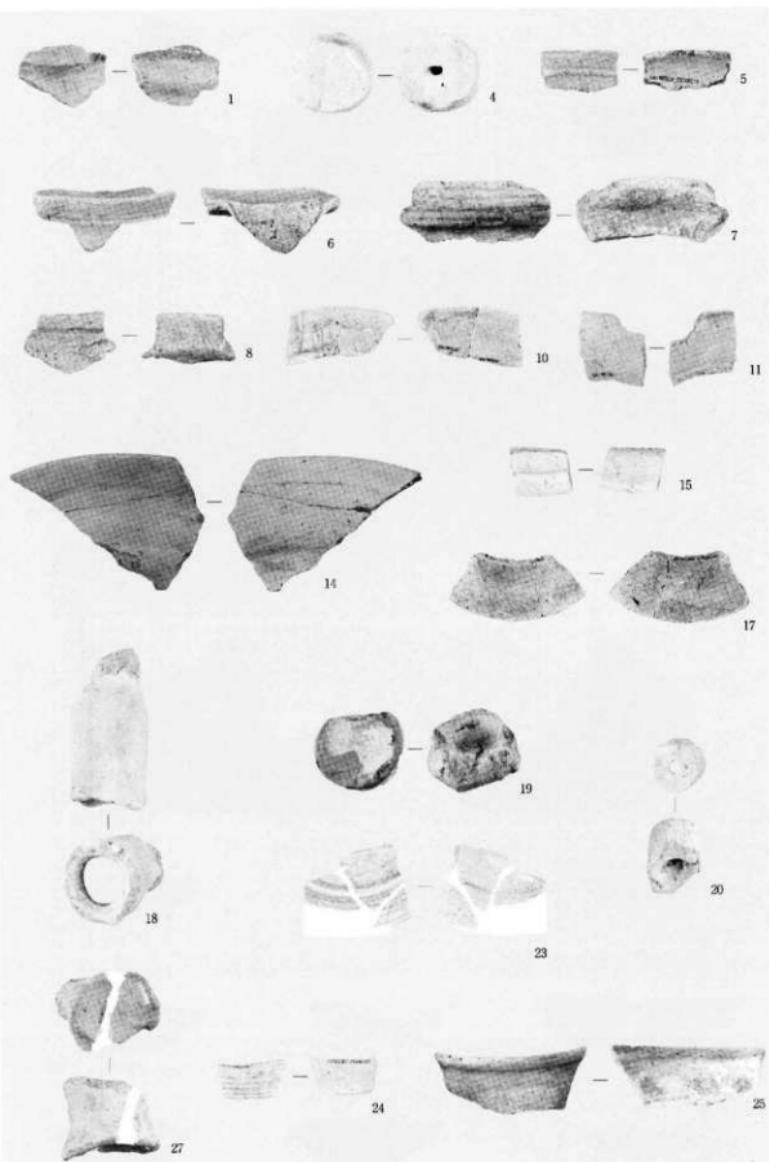


図版三三 遺物写真

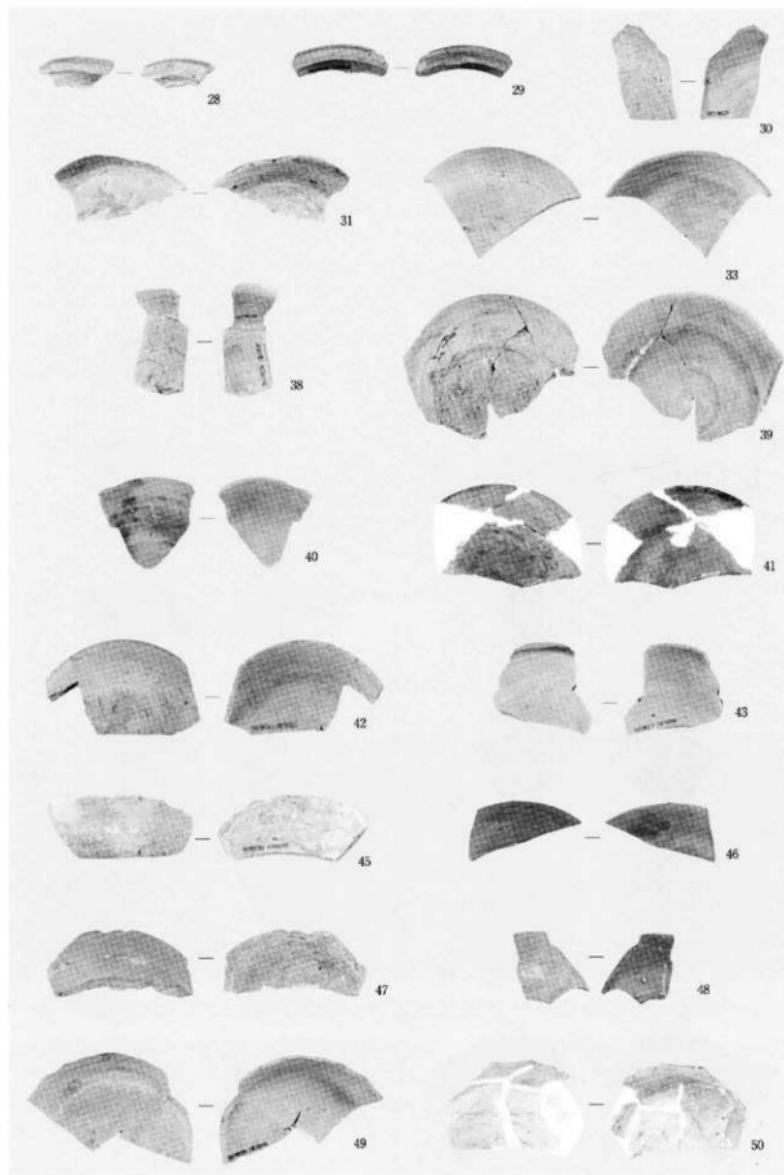


弥生時代・古墳時代・古代

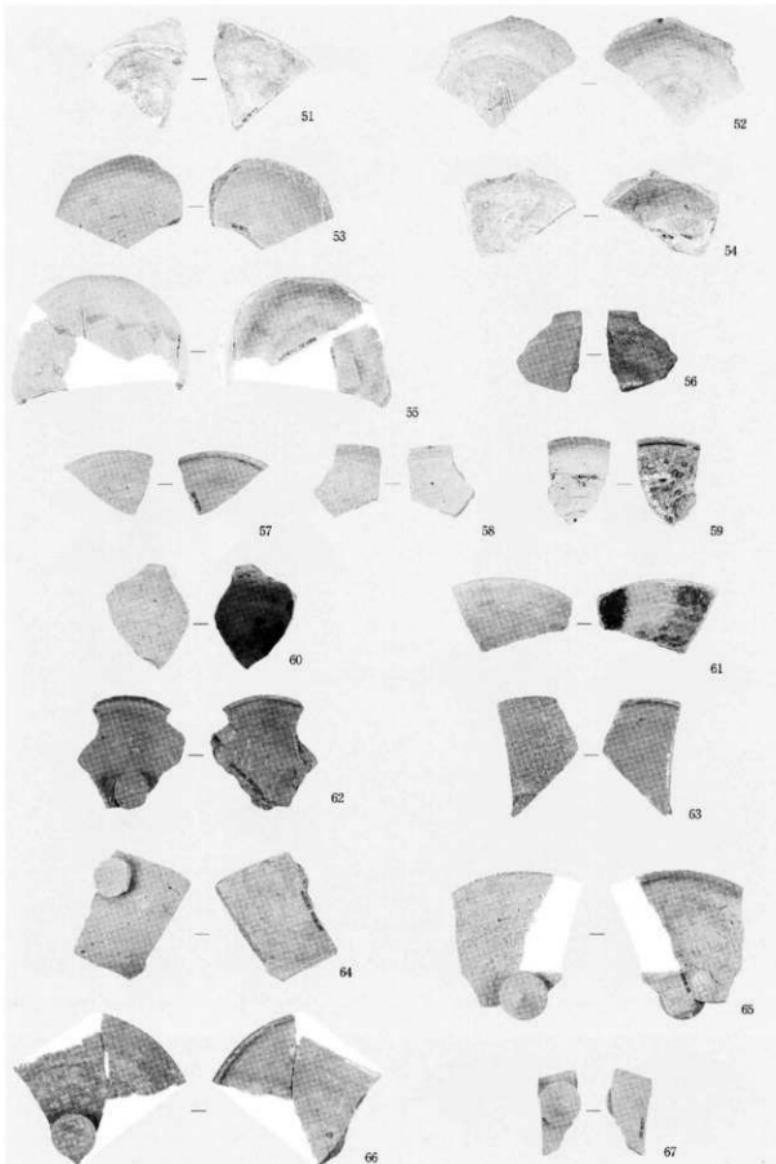




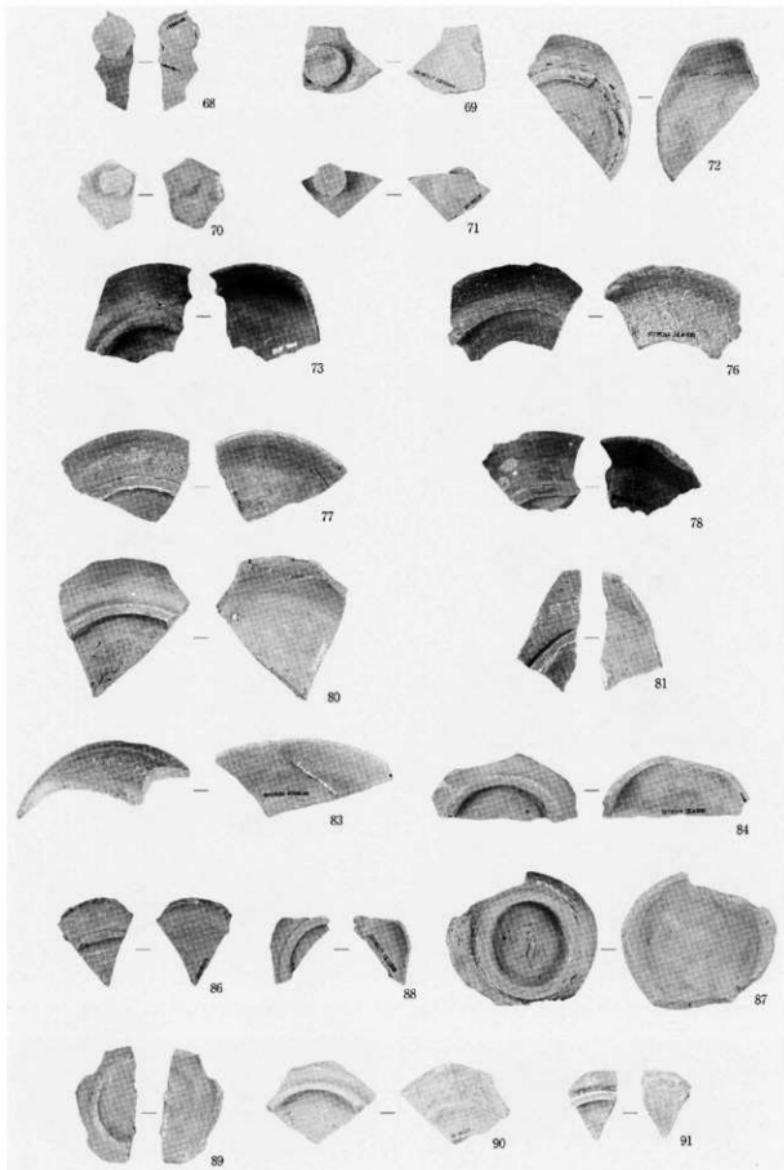
図版三六 遺物写真

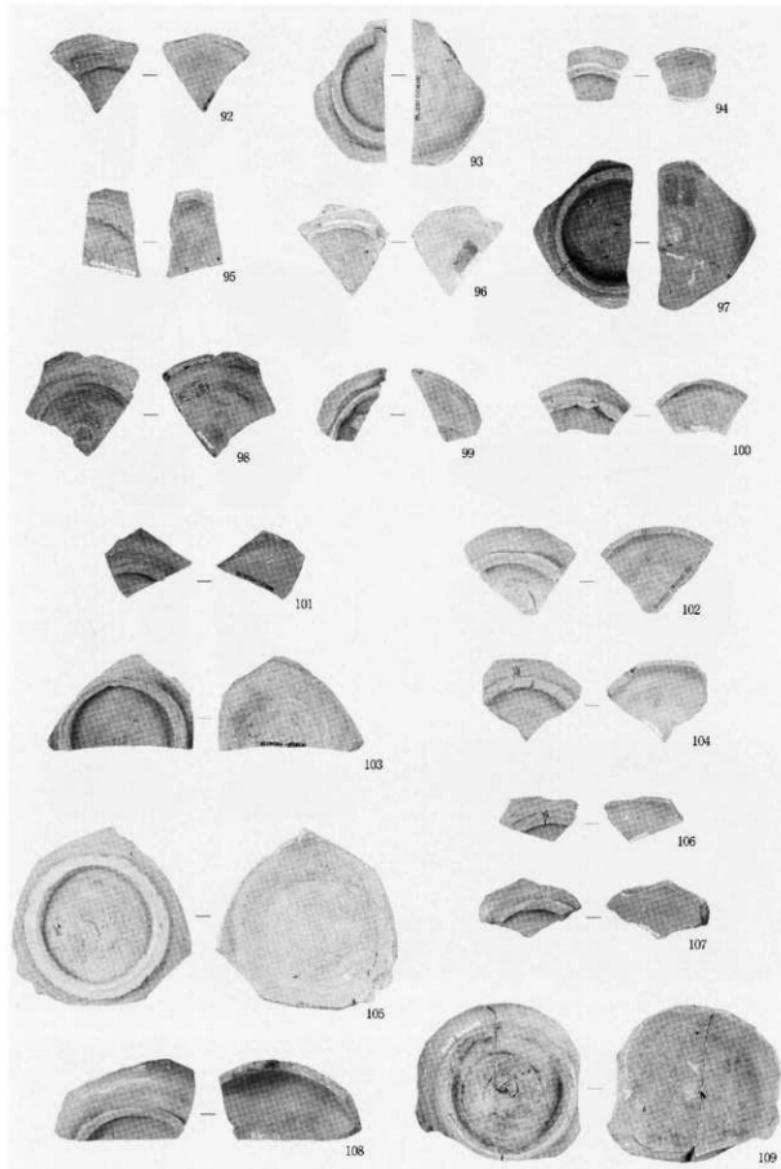


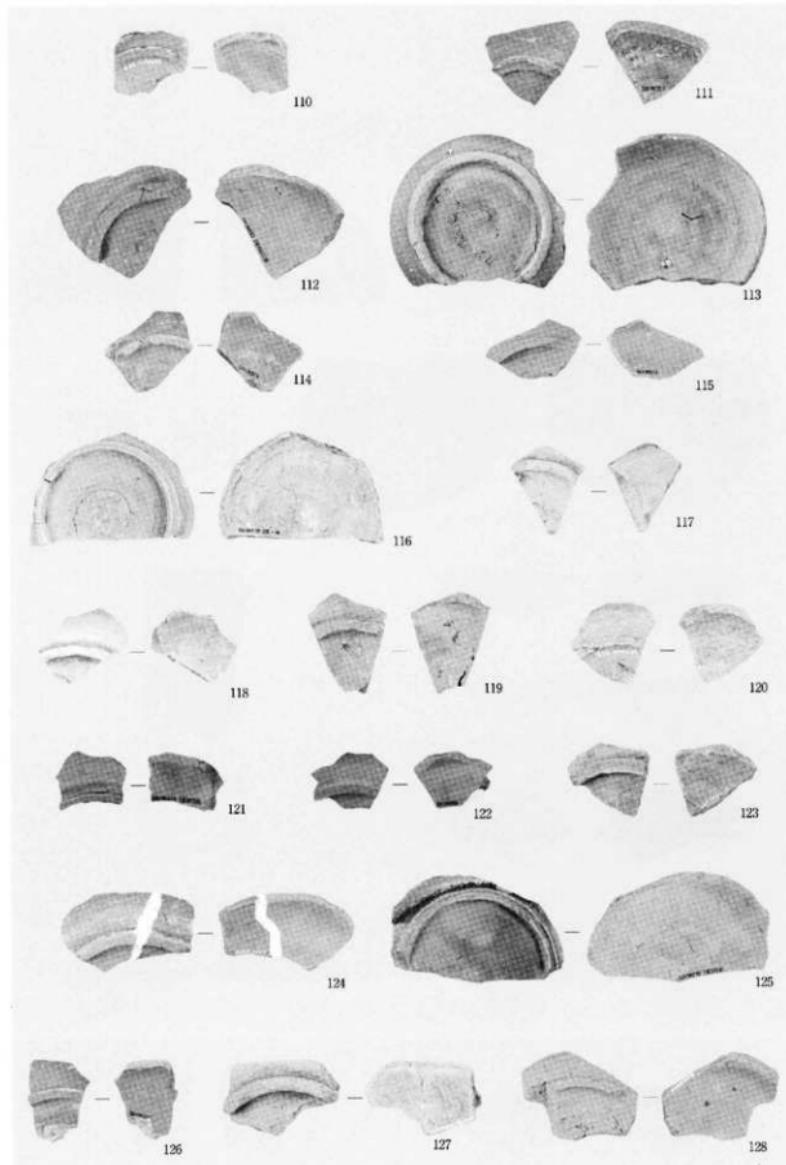
図版三七 遺物写真

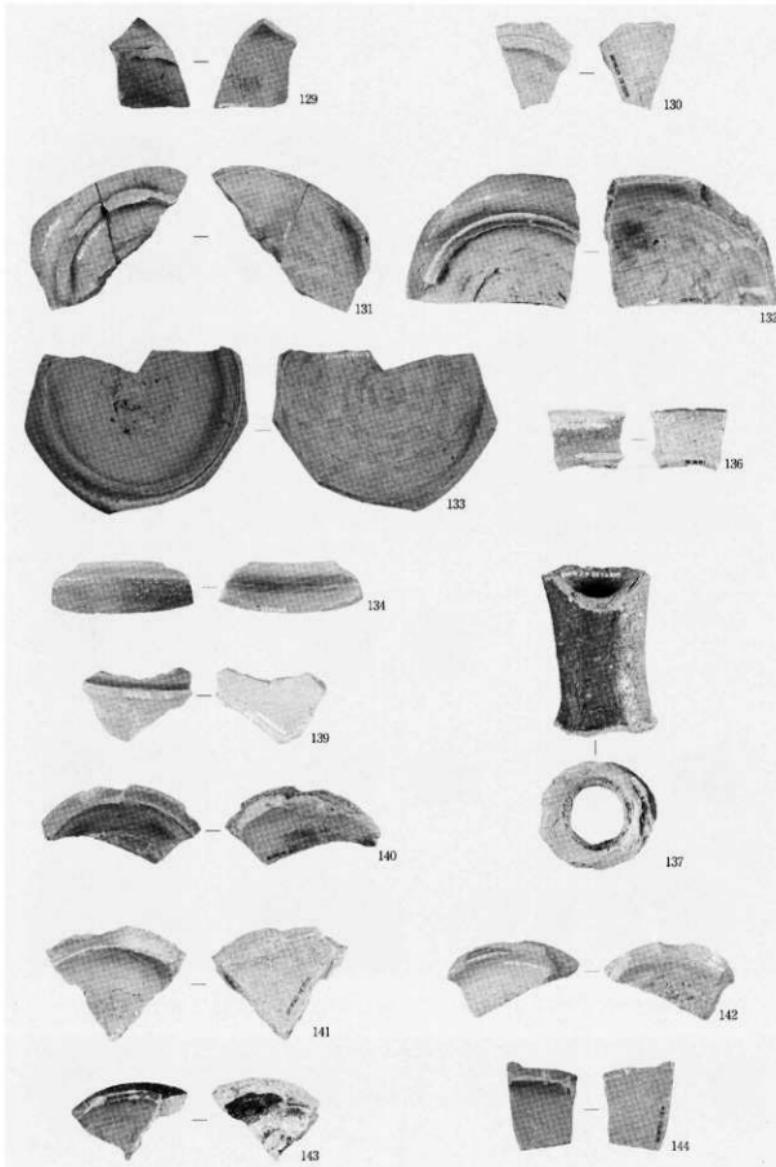


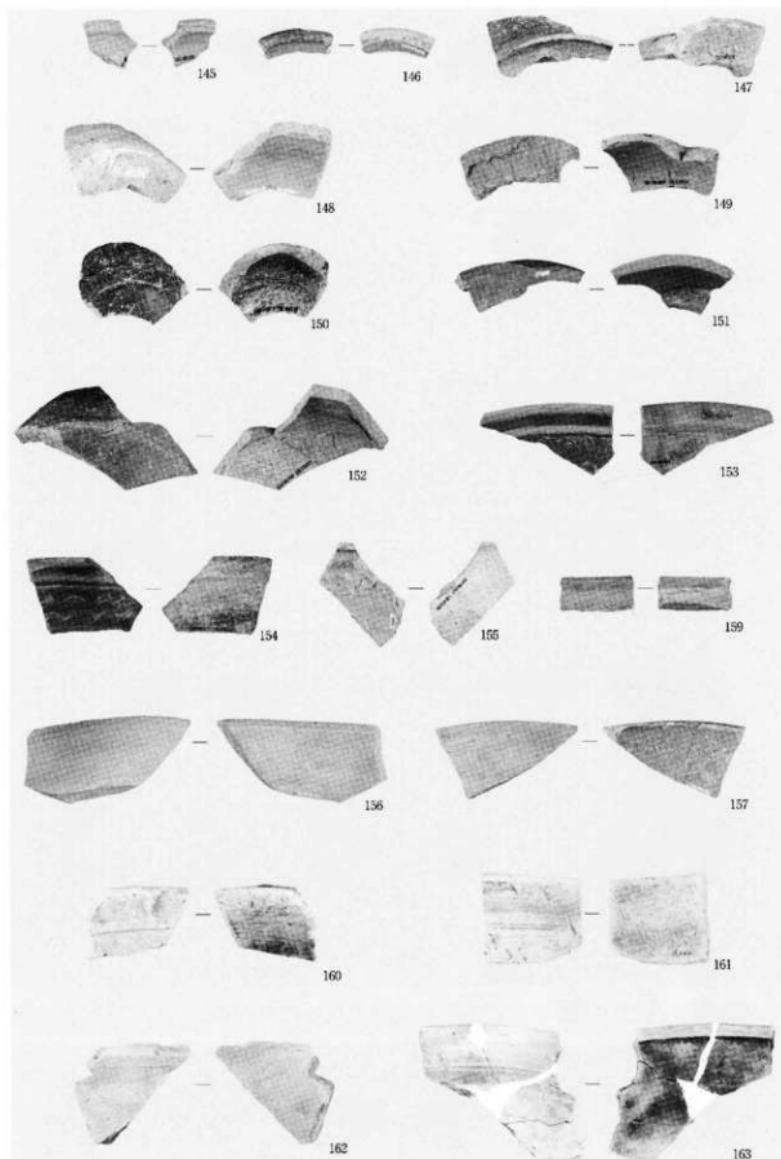
図版三八
遺物写真

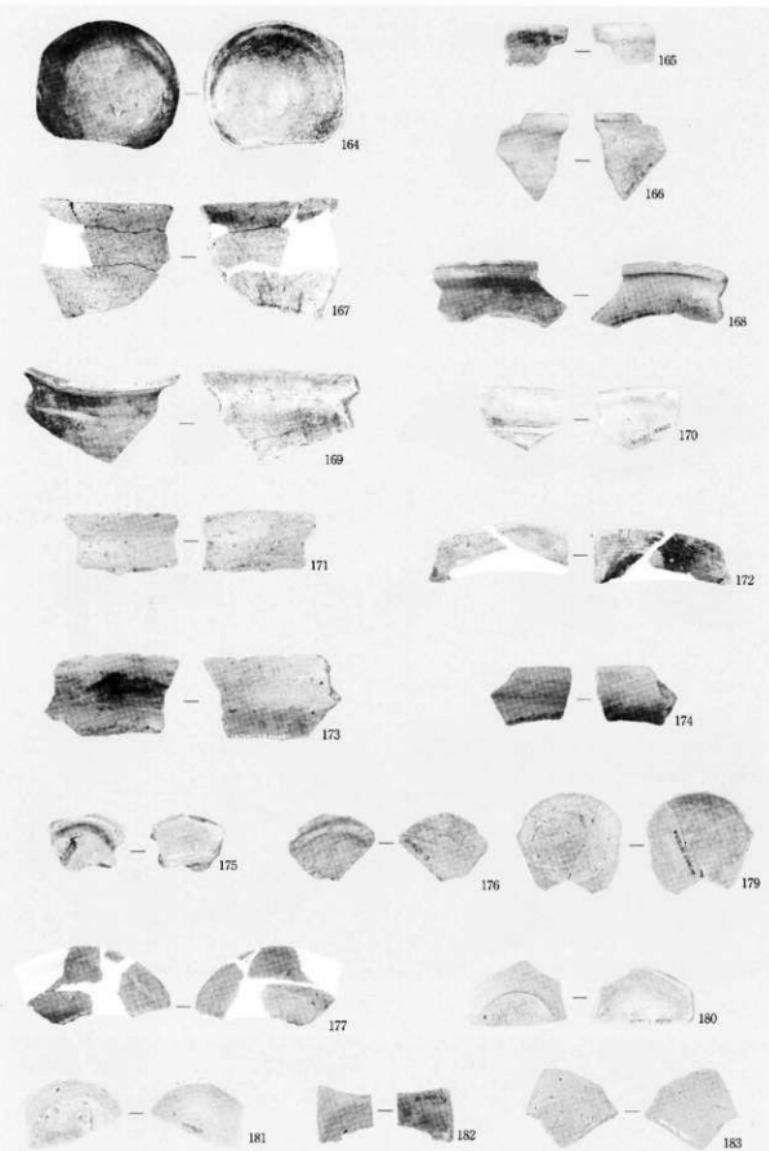




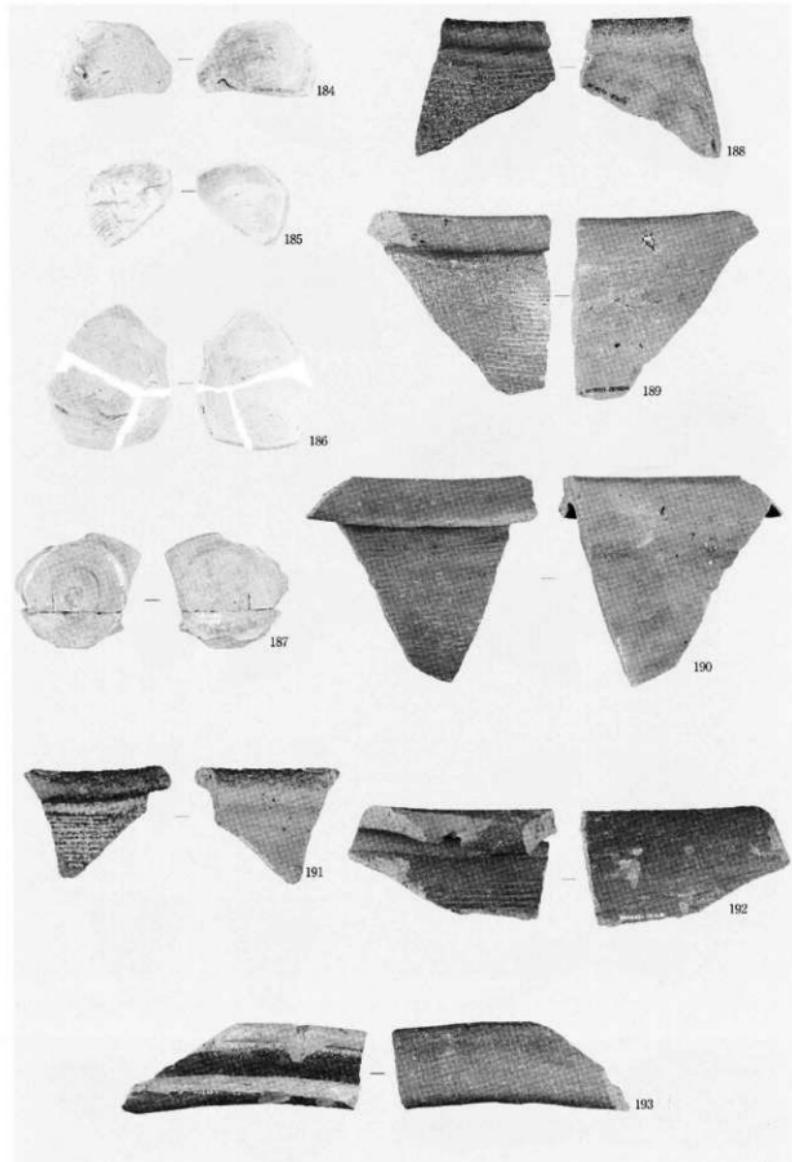


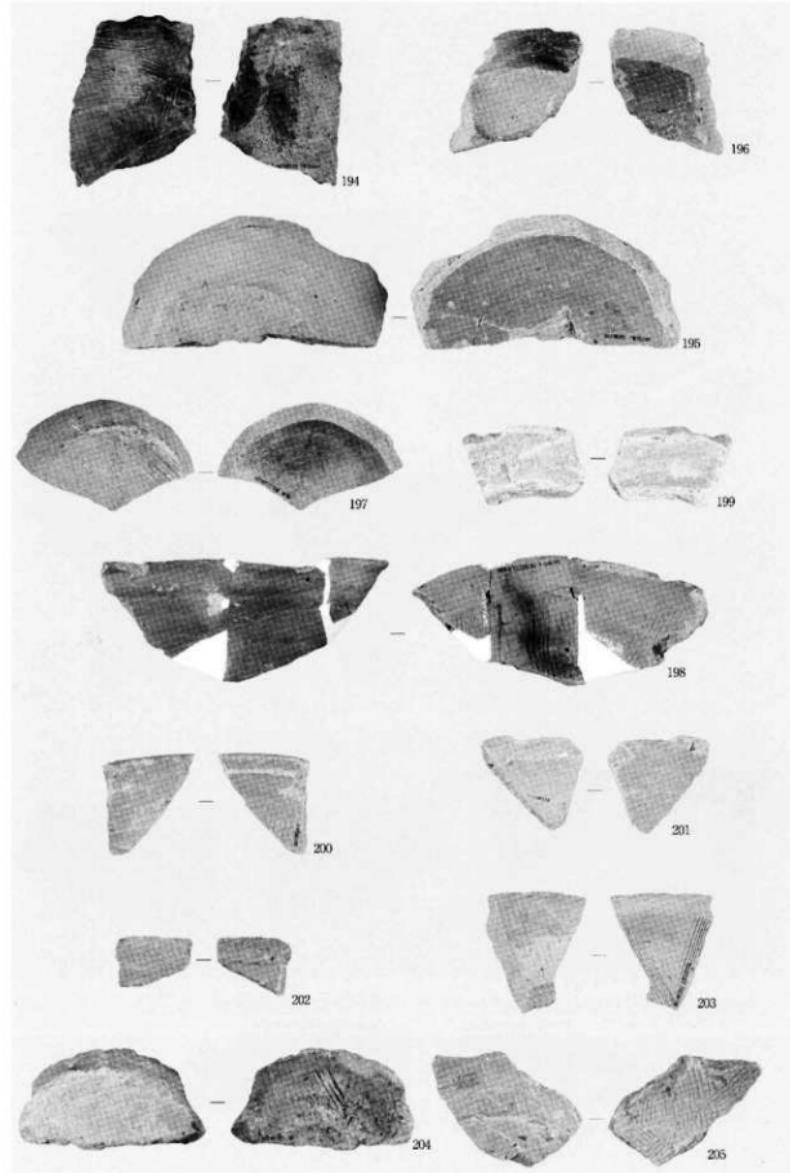


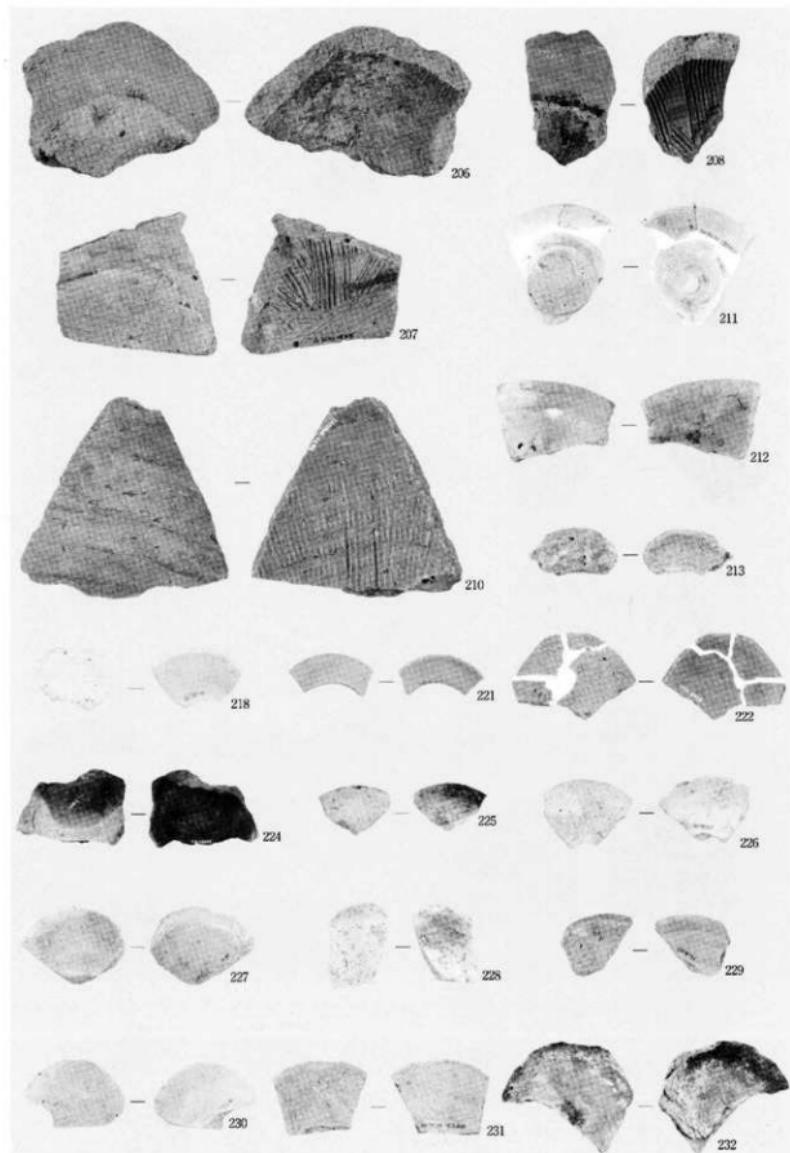


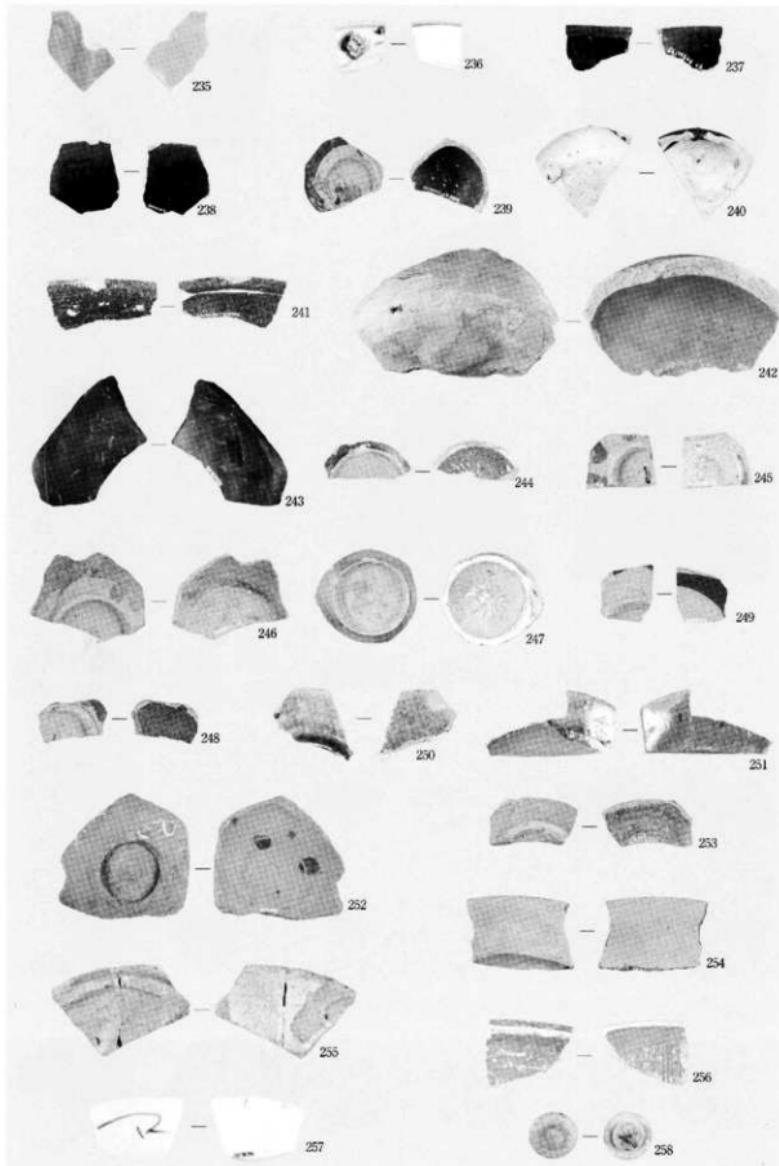


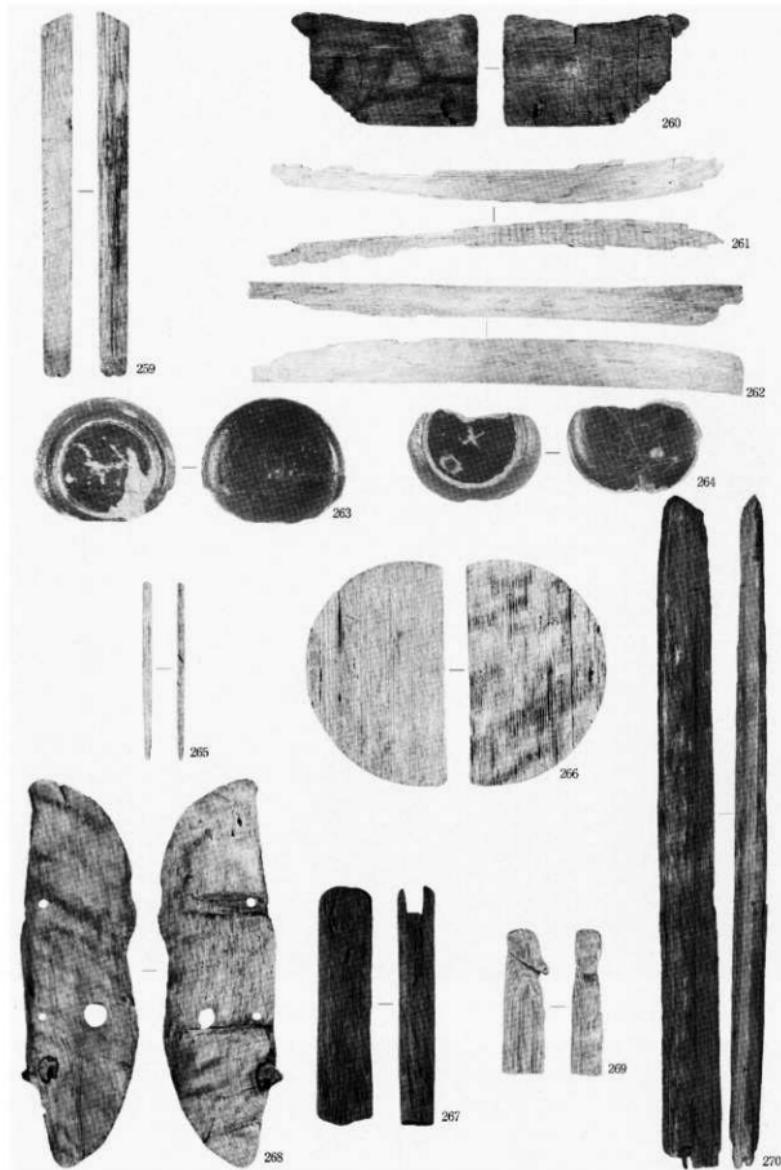
圖版四四 遺物寫真











木製品

別 表

別表1 遺構一覧

方形周溝墓

遺構名	グリッド	形状	個別基積	出土遺物	備考	図面No.
S Z 01.	(8~7, 11~13)	柱が独立した構造で 構成されている。1箇所の 軸轍部を確認。	(西)長さ:3.20m 幅:0.37~0.96m 深さ:60cm (北)長さ:3.33m 幅:0.39~1.24m 深さ:95cm (東)長さ:3.9m 幅:1.05~1.72m 深さ:60cm	土師器 灰瓦型	土体無層し。 SK 29・30, SD 10・16, ピットに 切られる。	図面〇六 図面一一
S Z 02	(9~11, 10~12)	1箇所の軸轍部を確認。	(北東)長さ:12.7m 幅:0.88~0.88m 深さ:90cm (南)長さ:1.88m 幅:1.06~1.2 深さ:60cm	浮生土器 上原形 須恵器 24 41	土体無層し。 SB 05・06, SD 21・23・25・26, N 1601, ピットに切られる。	図面〇七 図面一三
S Z 03	(11~12, 11~13)	1箇所の軸轍部を確認。	(西南)長さ:12.8m 幅:1.24~1.71m 深さ:90cm (東)長さ:2.68m 幅:1.2~1.4m 深さ:60cm	浮生土器 上原形 須恵器 陶磁器 6 197	土体無層し。 SB 05・06, SD 22・23・27, ピッ トに切られる。	図面〇七 図面一四
S Z 04	(6~7, 10)	構円形の壁、1箇所のみ 確認。	長軸:2.48m 幅:1.08m 深さ:31cm	浮生土器 上原形 16	隣接する調査区の結果から方形周溝 墓の断面であると考えられる。	図面〇六 図面二二
S Z 05 (S 03B + S 04B)	(13, 10~11)	横の、折の形の複雜。	(S 03B)長さ:1.9m以上 幅:1.1~1.2m 深さ:不明 (S 04B)長さ:3.2m 幅:0.6~0.9m 深さ:17cm	土師器 須恵器 3 9	(S 03B) SD 32, カクランに切られ る。 (S 04B) SD 39, NR 015に切られ る。	図面〇六 図面二八

掘立建物

遺構名	グリッド	概観	形態・裏方半圓形	出土遺物	備考	図面No.
S B 01	(7~8, 14~16)	折行2間(3m)× 施行2間(3m)以上	南北西傾、側柱の建物。 鹿鳴門へ向かう。 不整縫円ないし不整円形。	土師器	北側は調査区外へ延びる。 S B 04・09・10とは延び同様。	図面〇六 図面二五
S B 02	(7~8, 13~14)	折行2間(4.6m)× 施行2間(3.6m)	南北西傾、側柱の建物。 不整縫円ないし不整円形。	無し	SK 02・SD 12~14との切り合いで平 明。 SD 03と重複。	図面〇六 図面二六
S B 03	(7~8, 13~14)	折行3間(4.8m)× 施行2間(4.8m)	北東へ~南北西傾、側柱の建物。 不整縫円ないし不整円形。	土師器	S B 02と重複。 S B 07とは延び同様。	図面〇六 図面二六
S B 04	(9~9, 11)	折行3間(3.2m)以上	南北西傾、側柱の建物。 不整縫円ないし不整円形。	無し	ピット上の場り合いで不規 則側は調査区外へ延びる。 S B 01・09・10とは延び同様。	図面〇六 図面二七
S B 05	(11~12, 11~12)	折行2間(5.6m)× 施行2間(4.8m)	北東へ~南北西傾、柱柱の建物。 不整縫円ないし不整円形。	土師器	SK 02・03、SD 22・23を切る。 S B 05と重複。 S B 06より斬しいと 考えらる。	図面〇七 図面二五
S B 06	(11~12, 10~12)	折行2間(5.6m)× 施行2間(4.8m)	北東へ~南北西傾、柱柱の建物。 不整縫円ないし不整円形。	無し	SK 02・03を切る。	図面〇七 図面二七
S B 07	(8~9, 8~10)	折行2間(4.4m)×	北東へ~南北西傾、側柱の建物。 不整縫円なし不整円形。	土師器 須恵器 陶磁器	S D 01、カクランに切られる。北側 は調査区外へ延びる。 S B 03とは延 び同様。	図面〇八
S B 08	(17~18, 8~9)	折行3間(4.8m)以上× 施行2間(1.8m)	西北西へ~東南東傾、側柱の建物。 不整縫円なし不整円形。	土師器 須恵器	土師器 カクランに切られる。 北側は調査区外へ延びる。	図面〇八
S B 09	(32~33, 13)	折行2間(3.6m)×	東北西傾、側柱の建物。 不整縫円なし不整円形。	無し	SK 07との切り合いで不規 則側は調査区外へ延びる。 S B 01・09・10とは延 び同様。	図面一一
S B 10	(22~33, 13)	折行2間(2.4m)×	東北西傾、側柱の建物。 不整縫円なし不整円形。	無し	SK 01・92、SD 17との切り合いで不 規則。北側は調査区外へ延びる。 S B 01・09・10とは延び同様。	図面一一
S B 11	(33, 12~13)	折行2間(3.6m)×	東北西傾、側柱の建物。 不整縫円なし不整円形。	土師器	SK 06・95との切り合いで不規 則側は調査区外へ延びる。	図面一一

櫛

遺構名	グリッド	概観	方向・裏方半圓形	出土遺物	備考	図面No.
S A 01	(8~10, 13~16)	4間(6.0m)	東壁面に対し25°西に偏している。 不整縫円なし不整円形。	土師器	北側は調査区外へ延びる可能性も有 り。	図面〇六 図面一九
S A 02	(24~35, 12~13)	4間(9.4m)	東壁面に対し25°西に偏している。 不整縫円なし不整円形。	土師器	部分的復元のため、掘立の可能性も 有り。	図面一一 図面二一
S A 03	(35~36, 12)	2間(6.2m)	東壁面に対し25°西に偏している。 不整縫円なし不整円形。	無し	部分的復元のため、掘立の可能性も 有り。	図面一一 図面二一
S A 04	(36, 12)	2間(2.2m)	東壁面に対し50°西に偏している。 不整縫円なし不整円形。	無し	SK 010との切り合いで不規 則側は調査区外へ延びる。	図面一一 図面二一

井戸

遺構名	グリッド	平面形	規模	出土遺物	備考	図面№
S E01	(12, 13)	複円形	長軸 : 91cm 短軸 : 66cm 深さ : 44cm	土師器、木製品 224	S E02を切る。 水槽中に陶物を使用。薬食が進んでいたため取り上げできます。	図面〇七 図面二一
S E02	(12, 12~13)	複円形	長軸 : 51.6cm 短軸 : 56cm 深さ : 59cm	土師器、漆器 209	S E03を切り、S E01に埋られる。 前面で底板の無い複円形の曲げ物を確認。	図面〇七 図面二一
S E03	(12, 12~13)	不整複円形	長軸 : 93cm 短軸 : 76cm 深さ : 42cm	土師器、漆器	S E02に切られる。 底面で底板の無い複円形の曲げ物を確認。	図面〇七 図面二一

土坑

遺構名	グリッド	平面形	規模	出土遺物	備考	図面№
S K01	(2, 16)	複円形	長軸 : 0.70m 短軸 : 0.51m 深さ : 34cm	無し	S K02を切る。	図面〇六 図面二二
S K02	(2, 18)	複円形	長軸 : 0.60m 短軸 : 0.40m 深さ : 31cm	無し	S K01に埋られる。	図面〇六 図面二二
S K03	(3, 15)	複円形	長軸 : 1.20m 短軸 : 0.80m 深さ : 18cm	無し		図面〇六 図面二二
S K04	(3~4, 14~15)	複円形	長軸 : 1.60m 短軸 : 0.88m 深さ : 49cm 附生土器 上部器、漆器 15・40・56	無し	S K05を切る。	図面〇六 図面二二
S K05	(2, 14~15)	複円形	長軸 : 0.80m 短軸 : 0.45m 深さ : 25cm	漆器	ピットを切り、S K04に埋われる。	図面〇六 図面二二
S K06	(2, 14)	不整力形	長軸 : 1.10m 短軸 : 0.78m 深さ : 30cm	土師器 漆器	S D04を切る。	図面〇六 図面二二
S K07	(3, 14~15)	不整複円形	長軸 : 1.81m 短軸 : 1.05m 深さ : 24cm	土師器 漆器	S D05と切り合い不明。	図面〇六 図面二二
S K08	(5, 15~16)	複円形	長軸 : 2.50m 短軸 : 0.69m 深さ : 40cm	無し	S D02に埋れる。	図面〇六 図面二二
S K09	(5, 15)	不整円形	長軸 : 0.80m 短軸 : 0.80m 深さ : 26cm	無し	S D07を切る。	図面〇六 図面二三
S K10	(4, 14~15)	不整複円形	長軸 : 2.70m以上 短軸 : 0.99m 深さ : 39cm	土師器 漆器	S X01に埋られる。方形回溝基の一辺の可逆性。	図面〇六 図面二三
S K11	(4, 13~14)	不整複円形	長軸 : 0.54m 短軸 : 0.38m 深さ : 16cm	無し		図面〇六 図面二三
S K12	(6, 16)	隅丸方形	長軸 : 0.74m 短軸 : 0.37m 深さ : 16cm	無し		図面〇六 図面二三
S K13 (S Z04)	(6~7, 15)	複円形	長軸 : 2.48m 短軸 : 1.08m 深さ : 31cm	附生土器 上部器 16	S 204の方形回溝基の一辺。	図面〇六 図面二三
S K14	(6, 15)	不要複円形	長軸 : 1.56m 短軸 : 0.79m 深さ : 28cm	土器		図面〇六 図面二三
S K15	(6, 14~15)	複円形	長軸 : 2.46m 短軸 : 0.71m 深さ : 12cm	土師器 漆器		図面〇六 図面二三
S K16	(7, 15)	小窓円形	長軸 : 0.88m 短軸 : 0.44m 深さ : 14cm	無し		図面〇六 図面二三
S K17	(6, 14)	隅丸方形	長軸 : 0.62m 短軸 : 0.52m 深さ : 36cm	無し		図面〇六 図面二三
S K18	(6~6, 13~14)	複円形	長軸 : 2.27m 短軸 : 0.83m 深さ : 50cm	附生土器 土師器 13	S X01、カクランに埋られる。S K19と方形回溝基となる可逆性。	図面〇六 図面二四
S K19	(5, 13)	複円形	長軸 : 1.78m以上 短軸 : 0.72m 深さ : 49cm	土器	S X01に埋される。S K18と方形回溝基となる可逆性。	図面〇六 図面二四
S K20	(6, 13)	複円形	長軸 : 1.00m 短軸 : 0.50m 深さ : 26cm	土師器 漆器 10(SK21と接合)		図面〇六 図面二四
S K21	(5~6, 12~13)	複円形	長軸 : 0.84m 短軸 : 0.38m 深さ : 35cm	上漆器 漆器 10(SK20と接合)		図面〇六 図面二四
S K22	(7, 14)	複円形	長軸 : 1.12m 短軸 : 0.62m 深さ : 37cm	上漆器		図面〇六 図面二四
S K23	(6~7, 13~14)	複円形	長軸 : 0.74m 短軸 : 0.62m 深さ : 26cm	上漆器		図面〇六 図面二四
S K24	(7, 13~14)	隅丸方形	長軸 : 0.74m 短軸 : 0.66m 深さ : 28cm	上漆器	カクランに埋される。	図面〇六 図面二五
S K25	(7, 14)	複円形	長軸 : 0.56m 短軸 : 0.50m 深さ : 18cm	無し	S D13に埋られる。 S B02との切り合い不明。	図面〇六 図面二五
S K26	(7, 14)	複円形	長軸 : 0.70m 短軸 : 0.48m 深さ : 30cm	上漆器	ピットに埋られる。	図面〇六 図面二五

S K27	(7, 13)	楕円形	長軸 : 0.84m 短軸 : 0.50m 深さ : 33cm	無し	カクランに切られる。	図面〇六 図面二五
S K28	(7, 13)	不整円形	長軸 : 0.68m 短軸 : 0.52m 深さ : 16cm	上部切 削工具		図面〇六 図面二五
S K29	(7, 12~13)	円形	長軸 : 0.53m 短軸 : 0.34m 深さ : 26cm	無し	S Z01を切る。	図面〇六 図面二五
S K30	(7, 12~13)	円形	長軸 : 0.56m 短軸 : 0.46m 深さ : 31cm	無し	S Z01を切る。	図面〇六 図面二五
S K31	(7~9, 13)	不整方形	長軸 : 0.78m 短軸 : 0.66m 深さ : 35cm	十脚器	ピットに切られる。	調査〇六 調査二七
S K32	(7, 13)	不整形	長軸 : 0.60m 短軸 : 0.46m 深さ : 40cm	無し		図面〇六 図面二五
S K33	(8, 12~13)	楕円形	長軸 : 0.65m 短軸 : 0.49m 深さ : 30cm	無し		図面〇六 図面二五
S K34	(7, 12)	楕円形	長軸 : 0.78m 短軸 : 0.68m 深さ : 12cm	無し		図面〇六 図面二五
S K35	(7, 11~12)	不整方形	長軸 : 0.56m 短軸 : 0.72m 深さ : 15cm	無し		図面〇六 図面二五
S K36	(7~8, 12)	楕円形	長軸 : 0.82m 短軸 : 0.32m 深さ : 10cm	無し	ピットに切られる。	図面〇六 図面二六
S K37	(8, 14)	不整円形	長軸 : 0.63m 短軸 : 0.53m 深さ : 19cm	上部切 削工具		図面〇六 図面二六
S K38	(8, 14)	円形	長軸 : 0.58m 短軸 : 0.51m 深さ : 18cm	陶器鋸		図面〇六 図面二八
S K39	(8, 14)	楕円形	長軸 : 0.54m 短軸 : 0.41m 深さ : 18cm	無し		図面〇六 図面二八
S K40	(8, 14)	不整方形	長軸 : 0.92m 短軸 : 0.49m 深さ : 26cm	上部切 削工具		図面〇六 図面二八
S K41	(8, 13)	横丸刀盤	長軸 : 0.57m 短軸 : 0.64m 深さ : 30cm	土軋器	S D15. カクランに切られる。	図面〇七 図面二九
S K42	(8, 13)	横丸刀盤	長軸 : 1.40m 短軸 : 0.93m 深さ : 8cm	土軋器 酒呑器 25	カクランに切られる。 S B02とは切り合ひ不明。	図面〇七 図面二九
S K43	(8~9, 13)	横丸刀盤	長軸 : 0.58m 短軸 : 0.44m 深さ : 38cm	酒呑器 柱根	カクランに切られる。 S K43とは切り合ひ不明。	図面〇七 図面二九
S K44	(8~9, 13)	横丸刀盤	長軸 : 0.66m 短軸 : 0.48m 深さ : 22cm	十脚器	カクランに切られる。 S K43とは切り合ひ不明。	図面〇七 図面二九
S K45	(8, 12~13)	横丸刀盤	長軸 : 0.54m 短軸 : 0.52m 深さ : 14cm	十脚器 21	S K46を切る。	図面〇七 図面二九
S K46	(9, 12~13)	横丸刀盤	長軸 : 0.72m 短軸 : 0.58m 深さ : 26cm	十脚器	S K46に切られる。	図面〇七 図面二九
S K47	(9, 13)	円形	長軸 : 0.54m 短軸 : 0.46m 深さ : 19cm	無し		図面〇七 図面二九
S K48	(9~10, 13~14)	不整方形	長軸 : 0.53m 短軸 : 0.38m 深さ : 28cm	十脚器、彌生器 74	S D17を切る。 ピットとの切り合ひ不明。	図面〇七 図面二七
S K49	(9~10, 13~14)	不整円形	長軸 : 0.68m 短軸 : 0.46m 深さ : 44cm	無し		図面〇七 図面二七
S K50	(9~10, 13)	楕円形	長軸 : 0.70m 短軸 : 0.56m 深さ : 35cm	彌生器	S Z02を切る。	図面〇七 図面二七
S K51	(10~11, 13)	不整形	長軸 : 2.06m 短軸 : 1.31m 深さ : 36cm	無し		図面〇七 図面二七
S K52	(10~11, 12~13)	方形	長軸 : 1.03m 短軸 : 1.19m 深さ : 50cm	無し		図面〇七 図面二七
S K53	(11, 12)	横丸刀盤	長軸 : 0.58m 短軸 : 0.52m 深さ : 26cm	無し		図面〇七 図面二七
S K54	(10, 12)	楕円形	長軸 : 1.18m 短軸 : 0.53m 深さ : 22cm	無し		図面〇七 図面二七
S K55	(10, 12)	不整形	長軸 : 1.46m 短軸 : 0.66m 深さ : 30cm	無し		図面〇七 図面二七
S K56	(11, 12)	円形	長軸 : 0.50m 短軸 : 0.45m 深さ : 38cm	無し		図面〇七 図面二七
S K57	(10, 11)	楕円形	長軸 : 0.94m 短軸 : 0.38m 深さ : 66cm	無し	S D20との切り合ひ不明。	図面〇七 図面二七
S K58	(10, 11)	不整椭円形	長軸 : 0.77m 短軸 : 0.40m 深さ : 20cm	無し		図面〇七 図面二八
S K59	(11, 12)	楕円形	長軸 : 0.69m 短軸 : 0.62m 深さ : 10cm	無し		図面〇七 図面二八
S K60	(12, 12)	楕円形	長軸 : 2.17m 短軸 : 0.87m 深さ : 11cm	無し	カクランに切られる。	図面〇七 図面二八
S K61	(12, 11~13)	楕円形	長軸 : 0.77m 短軸 : 0.66m 深さ : 17cm	彌生土器 彌生器	S D23に切られる。	図面〇七 図面二九

S K62	(12, 10)	不整縁円形	長軸 : 0.72m 短軸 : 0.56m 深さ : 10cm	無し		図面〇七 図面二八
S K63	(13~14, 11)	不整形	長軸 : 2.00m 短軸 : 1.72m 深さ : 32cm	上部茎、葉裏部 茎基部	S D34、ピットを壊る。	図面〇七 図面一八
S K64	(13~14, 16)	横丸方形	長軸 : 0.62m 短軸 : 0.37m 深さ : 14cm	無し	S D34を切る。	図面〇七 図面一八
S K65	(15, 11)	円形	長軸 : 0.96m 短軸 : 0.37m 深さ : 45cm	子葉器 頂生葉	S D38、ピットを壊る。 北側は調査区外へ延びる。	図面〇七 図面一八
S K66	(15, 11)	円形	長軸 : 0.70m 短軸 : 0.37m 深さ : 25cm	無し	北側は調査区外へ延びる。	図面〇七 図面二八
S K67	(14, 16)	円形	長軸 : 0.84m 短軸 : 0.72m 深さ : 25cm	子葉器		図面〇七 図面一八
S K68	(14, 9)	横円形	長軸 : 0.68m 短軸 : 0.59m 深さ : 12cm	土師器	N R01に切られる。	図面〇七 図面二九
S K69	(14, 9)	横円形	長軸 : 0.86m 短軸 : 0.64m 深さ : 28cm	木製器		図面〇七 図面二九
S K70	(14, 9)	横円形	長軸 : 0.87m 短軸 : 0.37m 深さ : 18cm	無し	N R01に切られる。	図面〇七 図面二九
S K71	(14, 8)	横円形	長軸 : 0.60m 短軸 : 0.35m 深さ : 51cm	無し	N R02、カクランに切られる。東側 は調査区外へ延びる。	図面〇七 図面二九
S K72	(19~20, 7~8)	不整縁円形	長軸 : 1.56m 短軸 : 1.4m 深さ : 12cm	上部茎 頂生葉		図面〇八 図面一九
S K73	(20, 8)	横円形	長軸 : 1.08m 短軸 : 38cm 深さ : 22cm	上部茎	ピットを壊る。	図面〇八 図面一九
S K74	(20, 7)	横円形	長軸 : 96cm 短軸 : 68cm 深さ : 18cm	土師器 頂生葉	ピットを切り、ピットに壊される。	図面〇八 図面一九
S K75	(20, 7)	不整縁円形	長軸 : 1.56m 短軸 : 80cm 深さ : 26cm	無し		図面〇八 図面一九
S K76	(20, 7)	横円形	長軸 : 1.24m 短軸 : 44cm 深さ : 10cm	無し	S D36を切る。	図面〇八 図面一九
S K77	(21, 15)	小笠内形	長軸 : 56cm 短軸 : 40cm 深さ : 28cm	無し		図面一〇 図面二九
S K78	(21, 14)	横円形	長軸 : 64cm 短軸 : 28cm 深さ : 16cm	無し		図面一〇 図面二九
S K79	(21, 12)	円形	長軸 : 46cm 短軸 : 26cm以上 深さ : 12cm	無し	北側は調査区外へ延びる。	図面一一 図面一〇
S K80	(25, 17)	圓丸方形	長軸 : 85cm以上 短軸 : 66cm以上 深さ : 18cm	球心器	S D37を切る。 北側は調査区外へ延びる。	図面一〇 図面一〇
S K81	(26, 17)	横円形	長軸 : 58cm 短軸 : 30cm以上 深さ : 22cm	無し	S D38との切り合い不明。	図面一〇 図面一〇
S K82	(27, 16)	円形	長軸 : 54cm以上 短軸 : 27cm以上 深さ : 6cm	無し	背面は調査区外へ延びる。	図面一〇 図面一〇
S K83	(28, 16)	横円形	長軸 : 89cm以上 短軸 : 63cm深さ : 12cm	無し	背面は調査区外へ延びる。	図面一〇 図面一〇
S K84	(29, 12)	横円形	長軸 : 60cm 短軸 : 53cm 深さ : 20cm	無し	北側は調査区外へ延びる。	図面一一 図面一〇
S K85	(31, 14)	横円形	長軸 : 1.04cm以上 短軸 : 81cm以上 深さ : 14cm	無し	S D39との切り合い不明。 有柄部は調査区外へ延びる。	図面一一 図面一〇
S K86	(33, 13)	不整形	長軸 : 0.69m 短軸 : 0.56m 深さ : 6cm	無し	カクランに切られる。 ピットとの切り合い不明。	図面一一 図面一〇
S K87	(33, 13)	不整形	長軸 : 0.74m 短軸 : 0.24m以上 深さ : 7cm	土師器	カクランに切られる。	図面一一 図面一〇
S K88	(33, 13)	横円形	長軸 : 0.58m 短軸 : 0.36m 深さ : 24cm	子葉器	S K90との切り合い不明。	図面一一 図面一〇
S K89	(33, 13)	横円形	長軸 : 0.87m 短軸 : 0.26m 深さ : 20cm	無し	ピットとの切り合い不明。	図面一一 図面一〇
S K90	(33, 13)	横円形	長軸 : 1.00m 短軸 : 0.32m 深さ : 23cm	無し	カクランに切られる。 S B11との切り合い不明。	図面一一 図面一〇
S K91	(33, 13)	不整形	長軸 : 1.00m 短軸 : 0.62m 深さ : 24cm	無し	カクランに切られる。S B10との 切り合いで不明。 北側は調査区外へ延びる。	図面一一 図面三一
S K92	(33, 13)	不整縁円形	長軸 : 1.00m 短軸 : 0.34m以上 深さ : 10cm	無し	S K88、ピットとの切り合い不明。	図面一一 図面一〇
S K93	(33, 13)	横円形	長軸 : 0.68m 短軸 : 0.36m以上 深さ : 18cm	無し	カクランに切られる。	図面一一 図面一〇
S K94	(33, 13)	不整形	長軸 : 1.29cm以上 短軸 : 7cm以上 深さ : 24cm	土師器	カクラン、ピットに切られる。北側 は調査区外へ延びる。	図面一一 図面一〇
S K95	(33, 12)	不整方形	長軸 : 0.60m 短軸 : 0.51m 深さ : 31cm	無し	S D39との切り合いで不明。 南側は調査区外へ延びる。	図面一一 図面一〇
S K96	(33, 12)	不整形	長軸 : 0.38m 短軸 : 0.26m以上 深さ : 34cm	無し	背面は調査区外へ延びる。	図面一一 図面一〇

SK97	(3, 13)	不整地地形	長軸：0.86m 短軸：0.38m 深さ：36cm	無し	SD33との切り合いで不規。	画面一 画面二
SK98	(3, 13)	楕円形	長軸：1.16m 短軸：0.22m 深さ：9cm	無し	ピットとの切り合いで不明。 北側は調査区外へ延びる。	画面一 画面三
SK99	(3, 12~13)	不整地地形	長軸：0.93m 短軸：0.39m 深さ：8cm	無し	ピットとの切り合いで不明。	画面一 画面三
SK100	(3, 12)	不整形	長軸：1.00m以上 幅幅：85cm以上 深さ：4cm	土師器	SK101、ピットの切り合いで不明。 北側は調査区外へ延びる。	画面一 画面三
SK101	(3, 12)	不整地地形	長軸：74cm以上 短軸：21cm以上 深さ：4cm	無し	SK100とカタ切り合いで不明。 北側は調査区外へ延びる。	画面一 画面三
SK102	(3~36, 13)	不整方形	長軸：70cm以上 幅幅：45cm 深さ：12cm	土器器	ピットとの切り合いで不明。 北側は調査区外へ延びる。	画面一 画面三
SK103	(3, 11)	片形	長軸：41cm 短軸：40cm 深さ：12cm	測定器	SD32を切る。	画面〇七
SK104	(17, 7)	不整地地形	長軸：80cm 短軸：49cm 深さ：26cm	旗掛		画面〇八

構造遺構

遺構名	グリッド	方向	規模	出土遺物	備考	画面No.
SD01	(2, 15)	西北西～東北東	長さ2.90m以上 幅0.3～0.9m 深さ27cm	土師器、灰陶 瓦陶、漆器、2 個	SD02に切られる。 南側は調査区外へ延びる。	画面二
SD02	(1~6, 14～ 16)	西南西～東北東	長さ19.34m以上 幅1.7～4.2m 深さ51cm	土器器 瓦陶	S D01・05・06を切る。 124・152・206・ 207・257 南側は調査区外へ延びる。	画面〇八 画面三 画面一
SD03	(3~14, 15)	西～南東	長さ4.81m 幅0.3～0.8m 深さ21cm	土器器	SD04を切る。	画面〇六 画面一二
SD04	(2~3, 14～ 15)	北～南南西	長さ4.79m以上 幅1.7～1.5m 深さ36cm	土器器	S D06、SD03に切られる。 南側は調査区外へ延びる。	画面〇六 画面一二
SD05	(3~4, 14～ 15)	北北東～東	長さ8.28m以上 幅0.3～0.7m 深さ28cm	土師器44-73-99 127・143・179・ 186・222	SD02、S X01に切られる。	画面〇六 画面三
SD06	(1~6, 14~15)	北北東～南南西	長さ9.34m 幅0.6～1.1m 深さ32cm	土器器	SD02に切られる。 SD05との切り合いで不明。	画面〇六 画面三
SD07	(4~6, 15)	北西～南東	長さ4.26m 幅0.7～1.0m 深さ34cm	土器器	S K06に切れる。SD08～SK10 で方形西隅基の可変性が考えられ る。	画面〇六
SD08	(3~6, 14~15)	北東～南西	長さ8.09m 幅0.9～1.3m 深さ44cm	土器器	カクランに切られる。SD07～SK 10で方形西隅基の可変性が考えられ る。	画面〇六 画面三
SD09	(6, 14)	北東～南西	長さ4.74m 幅0.4～0.6m 深さ18cm	土器器	カクラン、ピットに切られる。	画面〇六 画面三四
SD10	(5~6, 12~13)	北面～南東	長さ5.60m 幅0.3～0.6m 深さ1cm	無し	S D01を切り、S X01、カクランに 切られる。	画面〇六
SD11	(8~14, 15)	南北	長さ1.44m以上 幅0.3～0.5m 深さ29cm	土器器、泥炭層	北側は調査区外へ延びる。	画面〇六
SD12	(7, 14)	南北	長さ3.9m 幅0.3～0.6m 深さ19cm	土器器、粘土層	S D02、S X03を切り、カクランに 切られる。SD11～13～16と南北向 に走り、環状も組んでいる。底の粒 度の可変性がある。	画面〇六
SD13	(7, 8, 13, 14)	南北	長さ4.2m 幅0.3～0.4m 深さ16cm	土器器	S D03を切る。SD11～13～16と南北 に走り、段成も見られ、底の粒 度の可変性もある。	画面〇六
SD14	(8, 13~14)	南北	長さ2.64m 幅0.3～0.4m 深さ16cm	無し	S K01を切り、カクランに切られ る。SD11～15と南北に走り、底 の粒度の可変性もある。	画面〇六
SD15	(8, 13)	ほぼ南北	長さ1.08m 幅0.2～0.4m 深さ15cm	無し	S K01を切り、カクランに切られ る。SD11～15と南北に走り、底 の粒度の可変性もある。	画面〇六
SD16	(7, 12)	北西～南東	長さ3.0m 幅0.2～0.4m 深さ21cm	無し	S Z01を切る。	画面〇六
SD17	(8~10, 11~14)	北東～南西	長さ16.7m以上 幅0.4～1.5m 深さ30cm	土器器、灰陶器 5-3・5-6・7-7-8- 8-2・132・133・ 137	S F04、SK48、カクランに切られ る。南側は調査区外へ延びる。	画面〇七 画面三五
SD18	(10~11, 12~13)	北東～南西	長さ8.86m以上 幅0.5～0.7m 深さ42cm	土器器、漆器	カクランに切られる。 北側は調査区外へ延びる。	画面〇七 画面三五
SD19	(9, 11~12)	北西～南西	長さ1.76m以上 幅0.5～0.7m 深さ22cm	無し	S Z02を切り、カクランに切られ る。SD12は切り合いで複数。 南側は調査区外へ延びる。	画面〇七
SD20	(10, 11)	北東～南西	長さ5.31m以上 幅0.2～0.35m 深さ10cm	無し	S Z07を切り。SD20とは切り合 いで不明。SD21と同時期の可能性 がある。	画面〇七
SD21	(9~11, 10~11)	西北西～東北東	長さ10.90m 幅0.3～0.6m 深さ17cm	測定器 91	S Z02を切り。SD19・20・24とは 切り合いで不明。	画面〇七 画面三五
SD22	(12~13, 12)	東北東～南南西 西北西～東北東	長さ5.54m以上 幅0.2～0.6m 深さ25cm	測定器	S Z01を切り。SB05、SD07に切 られる。	画面〇七

S D23	(11~12, 10~12)	西北東~東南東 北北東~南南西	長さ16.42m 幅0.45~0.53m 深さ16cm	無し	S Z02・03、SD20を切り、SD25に切りられる。SD24は切り合いで不明。北側は手形ではなし。	国画〇七 国画三八
S D24	(11, 10~11)	北東~南西	長さ1.78m 幅0.2~0.4m 深さ10cm	無し	ビットで切られる。 SD21・23との切り合いで不明。	国画〇七
S D25	(11~12, 10~11)	北西~南東	長さ3.12m 幅0.35~0.4m 深さ10cm	無し	S Z02、SD23を切り、カクランに切りされる。	国画〇八 国画三六
S D26	(11, 10~11)	ほぼ南北	長さ1.98m 幅0.25~0.3m 深さ15cm	無し	S Z02を切り、SD23・25、N R01に切りられる。	国画〇七
S D27	(12~13, 11~12)	ほぼ南北	長さ5.20m以上 幅3.7m 深さ31cm <small>上端部、表面剥離部、表面剥離部有品目、木製品 18~162 (SD29の付近)</small>	土師器 陶器 石器	S Z03、SD22を切り、カクランに切りされる。SD20・29は切り合いで不明。北側は調査区外へ延びる。	国画〇七 国画二七
S D28	(13~14, 11)	ほぼ東西	長さ3.00m 幅0.4~0.8m 深さ14cm <small>下端部、表面剥離部</small>	土師器 陶器 石器	S D27・29・32との切り合いで不明。	国画〇七 国画二七
S D29	(13, 10~11)	ほぼ南北	長さ4.6m以上 幅0.6~0.8m 深さ不明	土師器 陶器 石器	S D27・29・30との切り合いで不明。	国画〇七
S D30	(13, 10~11)	北東~南西	長さ5.10m 幅0.2~0.4m 深さ不明	土師器	S D29・31との切り合いで不明。	国画〇七
S D31	(13, 10~11)	北北東~南南東	長さ3.42m 幅0.2~0.3m 深さ不明	無し	S D30との切り合いで不明。	国画〇七
S D32	(14~16, 10~12)	南北 西~東南東	長さ12.30m以上 幅1.8~2.4m 深さ36cm <small>下端部、表面剥離部、表面剥離部古款、木製品 104~115・140~153・175~196 200~300・336~357 337~352・367</small>	土師器 陶器 石器	S D36・37・38・39・40を切り、N R01、カクランに切りされる。1字形にはなし。北側は調査区外へ延びる。	国画〇七 国画三八
S D33	(15~14, 11)	西北西~東南東	長さ2.34m 幅0.3~0.4m 深さ27cm	土師器 陶器 石器	ビットに切られる。	国画〇七 国画三七
S D34	(14, 10~11)	ほぼ南北	長さ1.23m 幅0.2m 深さ10cm	無し	S K63・64に切られる。	国画〇七
S D35	(14, 11~12)	北東~南西	長さ1.63m以上 幅1.0~1.5m 深さ42cm	土師器 陶器 石器	S D36、カクランで切られる。北側は調査区外へ延びる。1字形の陶器の可能性も有り。	国画〇七 国画二八
S D36	(14~15, 11)	南北	長さ1.45m以上 幅0.2~0.3m 深さ28cm	無し	S D35、カクランに切られる。北側は調査区外へ延びる。S D35と同様の可能性も有り。	国画〇七八 国画二九
S D37	(14, 10~11)	北北東~南南西	長さ3.45m 幅0.2~0.5m 深さ15cm	土師器 陶器 石器	S D32に切られる。SD36と同一遺構の可能性も有り。	国画〇七八 国画二九
S D38 (S Z06)	(15, 11)	ほぼ南北	長さ1.19m以上 幅1.1~1.2m 深さ8cm	無し	S D32に切られる。北側は調査区外へ延びる。S D39と同様の可能性も有り。	国画〇七
S D39	(14~15, 10~11)	北西~南東	長さ4.07m以上 幅0.6~1.1m 深さ20cm	新生土器 土器 陶器 石器	S D38を切り、SD32・N R01に切りられる。北側は調査区外へ延びる。SD32は、遺構の可視性もあり。	国画〇七八 国画二八
S D40 (S Z05)	(15, 10~11)	北西~南東	長さ3.2m 幅0.6~0.9m 深さ17cm	土師器 陶器 石器	S D39・N R01に切られる。方形容溝帯に有る可視性有り。	国画〇七八 国画二九
S D41	(7~22, 8~10)	西北東~東南東	長さ22.00m以上 幅1.2~2.6m以上 深さ48cm	土師器 陶器 木製品 土器	S B07・08を切る。内壁及び北側は調査区外へ延びる。	国画〇九 国画二〇
S D42	(8, 7~8)	北西~南東	長さ4.40m 幅0.2~0.4m 深さ14cm	新生土器 土器 陶器 大豊器	S D45に切り、SD43・S X03に切られる。	国画〇九 国画二〇
S D43	(8, 7~8)	北西~南東	長さ1.47m 幅0.2~0.3m 深さ10cm	無し	S D42・SD45を切る。Vの字にはなし。	国画〇八
S D44	(8, 7~8)	北西~南東	長さ2.68m 幅0.2~0.4m 深さ7cm	無し	S D45を切る。	国画〇九 国画二〇
S D45	(8, 7~8)	北北東~南南西	長さ4.44m 幅0.4~0.7m 深さ10cm	土師器 陶器 石器	S D42~44に切られる。	国画〇九 国画二〇
S D46	(20~21, 7)	北西~東南東	長さ6.80m 幅0.2~0.5m 深さ16cm	新生土器 陶器 木製品 土器	S K76、S X02に切れる。	国画〇八 国画二〇
S D47	(26~21, 7~8)	西北東~東南東	長さ5.80m 幅0.3~0.6m 深さ22cm	土師器 陶器 石器	S X02、カクランで切られる。	国画〇九 国画二〇
S D48	(25~26, 4~6)	北北東~南南西	長さ9.00m以上 幅0.7~1.6m 深さ25cm	無し	北側は調査区外へ延びる。	国画〇九
S D49	(23~24, 15)	北東~南西	長さ3.74m以上 幅0.3~1.3m 深さ17cm	土師器 陶器 石器	S D10、S X04との切り合いで不明。内壁は調査区外へ延びる。	国画〇〇 国画四一
S D50	(23~24, 15)	北北東~南南西	長さ1.6m以上 幅0.4~0.6m 深さ18cm	土師器 陶器 石器	S D10、S X04との切り合いで不明。内壁は調査区外へ延びる。	国画〇〇 国画四一
S D51	(24, 14~15)	北東~南南西	長さ3.87m以上 幅0.45~0.65m 深さ23cm	土師器	S X04に切られる。両端では有る。南端は調査区外へ延びる。	国画〇〇 国画四一
S D52	(25~26, 17)	北西~南東	長さ4.02m以上 幅0.25~0.55m 深さ22cm	無し	S K46に切り、SK61・SD53との切り合いで不明。南端は調査区外へ延びる。	国画〇一
S D53	(26~27, 16~17)	北東~南西	長さ4.00m以上 幅1.4~1.45m 深さ45cm	無し	S D52の切り合いで不明。両端は調査区外へ延びる。	国画〇〇 国画四一
S D54	(25~29, 15~16)	北西~南東 南北	長さ10.40m以上 幅0.5~0.6m 深さ40cm	土師器	ビットに切られる。L字形にはなし。北側は調査区外へ延びる。	国画〇〇 国画四一

SD55	(31、14)	南北	長さ1.76m以上 幅0.3~0.7m 深さ21cm	上野町	周辺は側溝地区外へ延びる。	図面一一
SD56	(31、14)	北東～南南西	長さ1.91m以上 幅1.6~2.2m 深さ19cm	七郷町	SK55以上の切り合い不規則な堆積層へ延びる。	図面一一
SD57	(92~33、13)	北西～南	長さ1.54m以上 幅0.3~0.6m 深さ5cm	無し	SK59との切り合い不明。北側に溝渠区へ延びる。	図面一一
SD58	(03~34、12~13)	北東～南南西	長さ2.46m以上 幅0.3~1.4m 深さ11cm	十ヶ谷町	SK59・97との切り合い不明。北側は側溝地区へ延びる。	図面一一
SD59	(26、3~4)	北東～南西	長さ2.3m以上 幅0.6m 深さ20cm	野生土器 1	南側は測量区外へ延びる。	図面〇九

団地

遺構名	グリッド	規模	壁や柱状	出土遺物	切り合い	図面No
SX01	(3~6、13~14)	幅：11.8m 横：3.5m以上 深さ：80cm	1. 墓灰色粘質 2. 黄灰色砂質 3. 墓灰 色粘質 4. 墓灰褐色粘質 5. 黄色粘質 6. 墓灰色粘質 7. 黑褐色粘質	墓灰層、灰褐色、黒褐色、堆積物	SK10・14・19、SD05・06・21を 切る。埋設段階では疊となっていた が、新蓋などから5堆積に変更。	図面〇六
SX02	(17~26、 3~8)	幅：44.4m 横：13.8m以上 深さ：48cm以上	1. 墓灰色粘質 2. 黄色粘層 3. 黄色粘 層 4. 黄色粘質上に埋積物が混在	土堆層、墓灰層、疊層、木製品、陶器 等	SD11・12・15・16・17とピットを切る。S X03と同時期のものと考える。底 土から古製品が出土。途中で削削を 止めた所。深さは確認済みになってい ない。	図面〇八 図面四二
SX03	(26~31、 1~5)	幅：23.4m 横：14.2m以上 深さ：76cm以上	1. 灰色粘質 2. 黄色粘質 3. 黄褐色砂 質 4. 黄褐色粘質 5. 墓灰色粘質上に埋 積 6. 墓灰色粘質 7. 墓灰 色粘質 8. 黄色粘質上に埋積物が混在	三軸器、灰層、疊層、陶器、木製品、土 器、漆器、瓦器、小形馬、牛頭、鹿頭、	S X02と同時期のものと考える。底 土から多くの人骨が出土。途中 で削削を始めた所。深さは確認済みになっ ている。	図面〇九 図面四一
SX04	(24~25、 14~15)	幅：6.4m 横：1.1m以上 深さ：27cm	平野	上野町	SD56を切り、SD59とは切り合い 不明。	図面一〇

自然流路

遺構名	グリッド	規模	出土遺物	方面	切り合い	図面No
NR01	(10~16、 9~10)	長さ：20.6m以上 幅：3.2~4.2m 深さ：65cm	上野町 黒褐色 疊層 陶器層 土壠 4・27・33・36・43・49・59・64・67・69・ 90・92・97・101・117・122・189・191・ 193・200・203・231・238・247・25・ 252	西～東北東	SK02、SK06、SD26・32・39・ 40を切り、カクランに切られる。被 覆土から多くの人骨が出土。周辺 は測量区外へ延びる。東側の2区では 確認されなかった。	図面〇七
NR02	(14~15、 8~9)	長さ：6.8m以上 幅：2.4~2.8m以上 深さ：41cm	無し	北東～南西	SK76を切り、カタランに切られ る。北側で人骨出土。東側・南 側には測量区外へ延びる。部分的な被 覆のために堆積は複雑ではないが現段 階では流路と考える。	図面〇七

別表2 遺物観察表

No.	地区	遺物名	種類	特徴	法面(cm)			現存率	出土	地質	色調		測量	備考
					口径	脚高	底面				内壁	外壁		
1	2区	S009	弥生土器	壺	—	3.7	—	—	漆	灰	にぼい黄褐色	ケズリ、擦れのため調整不明		
2	1区	S011	弥生土器	壺	16.1	11.5	—	12/12	漆	灰	にぼい黄褐色	ココナラ、ハケメの痕跡あり		
3	1区	S018	弥生土器	壺	13.9	24.3	4.1	4/12	漆	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラ、ケズリ		
											にぼい黄褐色	ヨコナラ、ハケメ		
4	1区	S011	弥生土器	甲	—	1.8	4.7	12/12	漆	灰	にぼい黄褐色	擦れの調整が明確		
5	1区	S017	弥生土器	壺	26.6	2.2	—	1/12以下	漆	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラ		
6	1区	S024	弥生土器	壺	26.6	4.4	—	1/12以下	漆	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラ、ケズリ		
											にぼい黄褐色	ヨコナラ		
7	2区		弥生土器	壺	14.8	3.65	—	2/12	漆	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラ		
											にぼい黄褐色	ヨコナラ		
8	2区		弥生土器	壺	—	3.5	—	—	漆	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラ、ハケメ		
											にぼい黄褐色	ヨコナラ		
9	1区	S016	弥生土器	壺	14.0	16.2	4.7	12/12	粗	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラ、ケズリ		
											にぼい黄褐色	ヨコナラ		
10	1区	S021 S020	弥生土器	壺	21.8	2.6	—	1/12	漆	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラ		
											にぼい黄褐色	ヨコナラ		
11	2区		弥生土器	壺	19.5	3.5	—	1/12	やや漆	灰	にぼい黄褐色	ハケメ		
											にぼい黄褐色	ハケメ		
12	1区	S018	弥生土器	壺	25.3	24.3	18.3	11/12	漆	灰	にぼい黄褐色	擦れの跡		
											にぼい黄褐色	ヨコナラ、ハケメ		
13	1区	S010	弥生土器	壺	30.1	24.2	18.9	12/12	漆	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラのミガキ		
											にぼい黄褐色	ミガキ		
14	不明		弥生土器	壺	31.6	4.4	—	1/12	漆	灰	にぼい黄褐色	ミガキ		
											にぼい黄褐色	ミガキ		
15	1区	S004	弥生土器	壺	—	1.2	20.1	1/12以下	漆	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラ		
											にぼい黄褐色	ヨコナラ		
16	1区	S019 (S01 2)	弥生土器	壺	—	9.1	—	—	漆	灰	丸褐色	ミガキ、透彩、最終ナラ		
											丸褐色	ヘラミガキ、半透明		
17	1区	S008	弥生土器	壺	—	3.15	13.5	3/12	やや粗	灰	透明	ヨコナラ、ハリ葉り		
											透明	ヨコナラ、ハリ葉り		
18	1区	S027	弥生土器	壺	—	9.2	—	1/12	漆	灰	丸褐色	ナラ		
											丸褐色	ミガキか？擦れのため調整不明		
19	1区	S002	弥生土器	壺	—	2.6	—	—	漆	灰	丸褐色	ナラ		
											丸褐色	ミガキか？擦れのため調整不明		
20	1区		弥生土器	壺	—	3.7	—	—	やや粗	灰	透明	透明の調整が明確		
											透明	透明の調整が明確		
21	1区	S005	弥生土器	壺	26.1	19.6	19.3	12/12	漆	灰	丸褐色	ヘラケズリ、ミガキ	塗装の厚塗から4ヶ月の人が推定できる10ヶ月の経過による変化	
											丸褐色	ミガキ、ハケメ	経過による変化	
22	1区	S002	弥生土器	器	—	4.9	—	—	漆	灰	にぼい黄褐色	擦れのため調整不明	「あの花瓶、スタンプ」	
											にぼい黄褐色	ミガキ	火	
23	1区		弥生土器	器	—	3.9	—	—	漆	灰	丸褐色	ミガキ		
											丸褐色	ミガキ		
24	1区	S022	弥生土器	器	—	1.35	20.3	1/12以下	漆	灰	にぼい黄褐色	ヨコナラ		
											にぼい黄褐色	ヨコナラ		
25	1区	S042	二岐器	壺	15.8	5.7	—	3/12	漆	灰	透明	ヨコナラ		
											透明	ヨコナラ		
26	1区	S001	二岐器	壺	21.7	15.1	—	9/12	漆	灰	にぼい黄褐色	擦削ハサ（は複数の一具使用）。頭コカツー部コクリ	金属的にスル响き	
											透明	ヨコナラ、ハタケ		
27	1区	S001	二岐器	高杯	—	4.5	—	—	漆	灰	にぼい黄褐色	擦削不規則、ハケメの複数あり		
											にぼい黄褐色	ハケ削除後のナラ、後退角度あり		
28	1区		灰陶器	杯	11.0	1.6	—	1/12	漆	灰	丸褐色	ロクナラ		
											丸褐色	ロクナラ		
29	1区	S003	灰陶器	杯	10.4	2.3	—	2/12	漆	灰	丸褐色	ロクナラ		
											丸褐色	ロクナラ		
30	1区		灰陶器	杯	11.0	2.9	—	1/12	漆	灰	丸褐色	ロクナラ		
											丸褐色	ロクナラ		
31	1区	S017	灰陶器	杯	11.0	3.1	9.2	3/12	漆	灰	透明	ロクナラ。ヨコナラ		
											透明	ロクナラ。ヘラ切り		
32	1区	S007	灰陶器	杯	12.4	3.0	8.9	9/12	漆	灰	透明	ロクナラ		
											透明	ロクナラ		

No	生名	通称名	種類	評価	寸法(cm)			持存率	耕土	地被	色調	西面		備考
					口径	軸高	底径					内面 外面	内面 外面	
33	1区	SB01	須恵器	杯A	12.4	3.5	6.20	3/12	岩	灰	灰色、黒灰色 灰黑色	ナグ、ロクナナグ コクコナグ、ヘラ切り		
34	1区	SD17	須恵器	杯A	12.5	3.0	8.6	6/12	岩	灰	灰色、黒灰色 灰黑色	ロクコナグ ロクコナグ、ヘラ切り		
35	1区	SB02	須恵器	杯A	12.6	3.5	8.8	2/12	岩	灰	灰色、黒灰色 灰黑色、灰灰色	ロクナナグ ロクナナグ、ヘラ切り		
36	1区	NB03	須恵器	杯A	12.6	3.3	9.2	4/12	岩	灰	灰色、黒灰色 灰黑色、灰灰色	ナグ、ロクナナグ ロクナナグ、ヘラ切り		
37	1区	SD02	須恵器	杯A	12.9	3.5	8.6	7/12	岩	灰	灰色、黒灰色 灰黑色、灰灰色	ロクナナグ ロクナナグ、ヘラ切り		
38	2区	SD03	須恵器	杯A	12.0	3.3		1/12以下	岩	灰	に近い黒褐色 灰色	ロクナナグ、ヘラ切り		
39	2区	SD02	須恵器	杯A	12.0	3.5	8.5	8/12	岩	灰	灰色、黒灰色 灰黑色	ロクナナグ (ハクロ開裂) ロクナグ (ハクロ開裂)、ヘラ切り		
40	1区	SB04	須恵器	杯A	11.84	3.4	8.2	1/12	岩	灰	灰色	ロクナナグ、ヘラ切り		
41	1区	SD02	須恵器	杯A	12.1	3.23	8.0	3/12	岩	灰	灰色	ミニナグ	内面沿内外に津波	
42	1区	SD07	須恵器	杯A	11.9	2.2	5.5	4/12	岩	灰	灰色、黒灰色 灰黑色	ロクナナグ ロクナナグ、ヘラ切り		
43	1区	SB01	須恵器	杯A	10.8	3.0	—	2/12	岩	灰	灰色、 灰黑色	ロクナナグ、ヘラ切り、墨跡の痕がある		
44	1区	SD05 SD06	須恵器	杯A	12.8	4.0	9.9	4/12	岩	灰	灰色、 灰黑色	ロクナグ (ハクロ開裂) ロクナグ (ハクロ開裂)、ヘラ切りナグ		
45	1区	SD01	須恵器	杯A	13.0	3.2		3/12	岩	灰	灰白色	ロクナナグ		
46	1区	SD01	須恵器	杯A	13.0	2.9	—	2/12	岩	灰	灰色、 灰黑色	ロクナナグ ロクナナグ		
47	2区	SD01	須恵器	杯A	13.4	3.1	—	2/12	岩	灰	淡黄色	ミニナグ		
48	2区	SD01	須恵器	杯A	12.2	2.4	—	1/12	岩	灰	灰黑色	ロクナナグ、ヘラ切り		
49	1区	SB01	須恵器	杯A	—	2.65	9.7	3/12	岩	灰	灰色	ロクナナグ、ヘラ切り		
50	1区		須恵器	杯A	—	2.8	—	3/12	岩	灰	心灰色	ロクナナグ		
51	2区		須恵器	杯A	—	2.7	9.6	3/12	岩	灰	灰白色、 明灰色	ロクナナグ ロクナナグ、ヘラ切り		
52	2区	SD02	須恵器	杯A	—	3.7	—	4/12	岩	灰	灰黑色、 明灰色	ロクナナグ、ヘラ切り ロクナナグ、ナグ		
53	1区		須恵器	杯A	—	3.2	—	2/12	岩	灰	に近い黃色	ロクナナグ		
54	1区		須恵器	杯A	—	2.97	9.7	3/12	岩	灰	灰白色、 灰黑色	ロクナナグ、ヘラ切り ロクナナグ、ナグ		
55	1区	SB01	須恵器	杯A	—	2.9	7.8	4/12	岩	灰	灰色	ロクナナグ、ヘラ切り	近縁外縁へ記号	
56	1区	SD04	須恵器	杯A	—	2.2	—	—	岩	灰	灰色、 灰黑色	ロクナナグ、 ロクナナグ、ヘラ切りナグ		
57	1区		須恵器	杯A	12.5	2.1	—	1/12	岩	灰	灰黑色、 明灰色	ロクナナグ、 ロクナナグ、ヘラ切り		
58	2区	SD01	須恵器	杯A	13.5	1.8	—	1/12	岩	灰	灰黑色、 明灰色	ロクナナグ ロクナナグ、ヘラ切り		
59	1区	SB01	須恵器	杯A	12.5	1.9	—	1/12	岩	灰	灰黑色、 明灰色	着然等付青帯に上り複雑不規 灰白色		
60	1区		須恵器	杯A	13.0	1.85	—	1/12	岩	灰	灰色	ロクナナグ、 ロクナナグ、ヘラ切り	内面:ススキ着	
61	1区	SD02	須恵器	平盤	13.8	2.4	—	2/12	岩	平盤	に近い黄褐色、 に近い黄褐色	ロクナナグ、ナグ ロクナナグ、ヘラ切りナグ	内面ススキ着	
62	1区	SD02	須恵器	杯A	11.4	3.0	—	1/12	岩	灰	青灰色、 青灰色	ナグ、ロクナナグ ロクナナグ、ヘラ切り		
63	1区		須恵器	杯A	13.4	3.1	—	1/12	岩	灰	暗褐色、 暗褐色	ロクナナグ、 ロクナナグ、ヘラ切り、つまみ筋にナグ		
64	1区	SB01	須恵器	杯A	—	2.7	—	—	岩	灰	灰色	ロクナナグ、 ロクナナグ、ナグ		
65	1区	SD01	須恵器	杯A	15.0	2.0	—	2/12	岩	灰	灰白色	ロクナナグ、ヘラ切り、つまみ筋にナグ		

No	地区	被験名	種類	特徴	寸法(cm)				色調 赤茶 茶紅	原産 内苔 外苔	備考	
					高さ	幅	側面	底土				
66	1区		渕慈鰐	背巻	16.0	2.50	-	2/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロシロナデ、ヘラ切り、ツヌル輪切りナデ	
67	1区	SH01	渕慈鰐	平巻	-	2.15	-	-	南	灰色 灰色	ナデ ロクヒナデ、つまみ踏け海ナデ	
68	1区		渕慈鰐	背巻	-	2.0	-	-	南	灰色 灰色	ロクロナデ ヘラ割り、つまみ踏け竹持ナデ	
69	1区	SH01	渕慈鰐	背巻	-	1.9	-	-	南	灰色 灰色	ナデ つまみ踏け海ナデ	
70	1区		渕慈鰐	背巻	-	1.6	-	-	南	黒底色 黒底色	ナデ つまみ割け海ナデ、薄葉六筋	
71	1区		渕慈鰐	背巻	-	1.5	-	-	南	黒底色 黒底色	ロクヒナデ つまみ割け海ナデ	
72	1区		渕慈鰐	背巻	16.2	4.2	6.8	1/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
73	1区	SD05 SD06	渕慈鰐	背巻	11.3	4.2	6.4	2/12	南	黒底色 黒底色	ナデ ロシロナデ ロシロナデ、ヘラ切り	
74	1区	SH01	渕慈鰐	背巻	11.9	4.45	6.8	9/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクヒナデ、ヘラ切り	
75	1区	SH03	渕慈鰐	背巻	12.4	3.7	7.6	4/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
76	1区	包含層	渕慈鰐	背巻	14.8	3.8	10.2	2/12	南	灰色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	西面導斜
77	1区	SD17	渕慈鰐	背巻	-	2.8	8.0	9/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
78	1区		渕慈鰐	背巻	13.6	3.2	7.6	1/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ	
79	1区	包含層	渕慈鰐	背巻	14.56	4.3	8.25	12/12	南	白色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
80	1区	SH02	渕慈鰐	背巻	15.7	4.3	11.5	2/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
81	1区	SD17	渕慈鰐	背巻	14.7	3.7	9.8	1/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
82	1区	SD17	渕慈鰐	背巻	16.2	7.0	8.6	3/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	体側に比翼1本
83	1区	包含層	渕慈鰐	背巻	17.0	4.9	-	4/12	南	灰色 灰色	ロシロナデ ロシロナデ	体側に比翼2本
84	1区	包含層	渕慈鰐	横巻	-	2.35	6.5	4/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
85	1区	SD02	渕慈鰐	横巻	12.4	5.1	11.3	9/12	南	灰色 黒底色	ロクロナデ、底曳りクロナデ尾ナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
86	2区		渕慈鰐	背巻	-	1.8	5.2	2/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
87	2区		渕慈鰐	背巻	-	2.7	6.0	4/12	南	灰色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
88	2区		渕慈鰐	背巻	-	2.1	6.0	1/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ	
89	1区		渕慈鰐	背巻	-	1.9	6.0	1/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
90	1区	SH01	渕慈鰐	背巻	-	2.2	6.9	3/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
91	不規	不規	渕慈鰐	背巻	-	1.6	6.0	1/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
92	1区	SH01	渕慈鰐	背巻	-	1.65	6.6	2/12	南	灰色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
93	2区	SD03	渕慈鰐	背巻	-	2.2	6.6	1/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ	
94	1区	SD17	渕慈鰐	背巻	-	19.0	6.0	1/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
95	4区		渕慈鰐	背巻	-	2.25	6.3	1/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ	
96	2区		渕慈鰐	背巻	-	1.1	6.8	2/12	南	灰色 灰色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
97	1区	SH01	渕慈鰐	背巻	-	1.7	6.4	7/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	
98	1区		渕慈鰐	背巻	-	1.98	7.1	3/12	南	黒底色 黒底色	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り	

No	地区	遺傳子	種類	基準	測定(cm)			性別	年齢	頭蓋	骨頭	頭蓋外観	備考
					白毛	黒毛	表被毛						
99	1区	S005	黒毛種	ホホ	—	1.45	7.3	1/12	雄	良	黒毛灰色 黒毛灰色	ロクロナダ、ナダ ロクリナダ	
100	2区		黒毛種	ホホ	—	1.95	6.1	2/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ ロクロナダ、ヘツ切り	
101	2区		黒毛種	ホホ	—	2.05	6.8	2/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ、ヘラ切り	
102	1区	S027 S029	黒毛種	ホホ	—	1.85	7.4	3/12	雌	良	灰色 灰色	ロクロナダ ロクロナダ、ヘン切り	
103	1区	S031	黒毛種	ホホ	—	1.3	7.3	6/12	雌	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ ロクロナダ、ヘラ切り	
104	1区	NB01	黒毛種	ホホ	—	2.2	6.9	3/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ、ヘラ切り	
105	1区	S031	黒毛種	ホホ	—	1.9	6.6	4/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ、ナダ ロクロナダ、ヘラ切り	
106	1区	表二	黒毛種	ホホ	—	1.55	6.9	1/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ ロクロナダ、ヘラ切り	
107	1区	表二	黒毛種	ホホ	—	2.05	7.8	2/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ ロクロナダ、ヘツ切り	
108	1区	白毛種	黒毛種	ホホ	—	2.95	7.8	2/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ、ナダ ロクロナダ、ヘラ切り	
109	1区	白毛種	黒毛種	ホホ	—	2.7	7.0	10/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ ロクロナダ、ヘン切り	飼育用
110	4区		黒毛種	ホホ	—	1.3	6.9	2/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ ロクロナダ、ヘラ切り	
111	1区	白衣種	黒毛種	ホホ	—	3.0	7.5	1/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ ロクロナダ	飼育用耐熱性付帯
112	1区	S032	黒毛種	ホホ	—	3.2	6.7	3/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ ロクロナダ、ヘツ切り	
113	2区		黒毛種	ホホ	—	3.6	7.4	9/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ、ナダ ロクロナダ、ヘラ切り	
114	1区		黒毛種	ホホ	—	2.6	8.4	1/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ ロクロナダ、ヘツ切り	
115	1区		黒毛種	ホホ	—	1.5	8.4	2/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ ロクロナダ	
116	1区		黒毛種	ホホ	—	1.45	8.1	6/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ、黒毛の黒加かワ ヘラ切り	飼育用耐熱性付帯
117	2区	S041	黒毛種	ホホ	—	1.43	8.4	1/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ナダ、ロクロナダ ロクロナダ	
118	1区		黒毛種	ホホ	—	3.0	6.0	1/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ、ヘツ切り	
119	不明	不育	黒毛種	ホホ	—	1.7	5.0	1/12	雄	成	灰色 灰色	ロクロナダ ロクロナダ、ヘラ切り	
120	4区		黒毛種	ホホ	—	2.1	6.2	1/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ ロクロナダ、ヘツ切り	
121	2区	S072	黒毛種	ホホ	—	2.1	8.2	1/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ ヘラ切り	
122	2区		黒毛種	ホホ	—	1.85	8.5	1/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ、ナダ ロクロナダ	
123	1区	表二	黒毛種	ホホ	—	1.7	8.5	1/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ、ヘツ切り	
124	1区	S032	黒毛種	ホホ	—	3.04	8.9	2/12	やや雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ ロクロナダ、ヘラ切り	
125	2区	S002	黒毛種	ホホ	—	23	9.7	4/12	雄	成	黒灰毛 黒灰毛	ナダ、ロクロナダ ロクロナダ、ヘツ切り	
126	1区		黒毛種	ホホ	—	2.2	—	1/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ、度無ヨロナダ ロクロナダ	
127	1区	S005 S006	黒毛種	ホホ	—	1.7	10.1	2/12	雄	小弱	にぶい黒灰毛 にぶい黒灰色	度無著しく度無不明 ヘラ切りか? 頭部の角膜部不鮮	
128	1区	S031	黒毛種	ホホ	—	2.0	9.8	3/12	雄	成	黒青灰毛 黒青灰毛	ロクロナダ ロクロナダ、ヘツ切り	
129	1区	表二	黒毛種	ホホ	—	2.0	9.2	2/12	雄	良	黒灰毛 黒灰毛	ロクロナダ、ナダ ロクロナダ、ヘラ切り	
130	1区	S032	黒毛種	ホホ	—	1.4	9.8	1/12	雄	良	灰色 灰色	ロクロナダ、ヘツ切り ロクロナダ	
131	1区	表二	黒毛種	ホホ	—	265	1.0	4/12	雄	良	安毛 安毛	ロクロナダ、ヘラ切り	

番	行政区	遺傳名	種類	特徴	寸法(cm)			生存率	胎土	地質	色別	西端		備考			
					ヨリ	ヨリ	ヨリ					一	二	三			
132	1区	SD47	原発種	背8	—	3.7	11.6	4/12	密	黒	褐色(やや赤褐色)	ロクロナゲ、コロナゲ	—	—	—		
											褐色(やや灰褐色)	ロクロナゲ、ヘラギリ					
133	1区	SD47	原発種	背9	—	2.3	12.1	7/12	密	黒	黒色	コクロナゲ	—	—	—		
											灰色	コクロナゲ、ヘラギリ					
134	1区	SD41	原発種	小型背	9.0	3.19	—	4/12	密	黒	褐色	コクロナゲ	—	—	—		
											灰色	コクロナゲ					
135	1区	P01	原発種	原	—	17.13	9.5	9/12	密	黒	褐色	ロクロナゲ	外羽茎無船(鷺灰色)、 メタカラゲ、浜地もヘラギリ。ナゲ	—	—	—	
											灰色	メタカラゲ、浜地					
136	1区	SD41	原発種	横背	12.4	4.3	—	1/12	密	黒	褐色	ロクロナゲ、導葉	自然吹付帶	—	—	—	
											褐色	ロクロナゲ					
137	1区	SD41	原発種	長頭原	—	9.3	—	—	密	黒	ナシープ褐色	ロクロナゲ	自然吹付帶	—	—	—	
											黑色	ロクロナゲ					
138	2区	SD41	原発種	平級	—	11.2	—	—	病	魚	黒灰褐色	黒灰褐色	篠尻により倒壊不倒段	—	—	—	
											灰色	ロクロナゲ					
139	1区		原発種	双玉粒	—	4.4	—	—	密	黒	褐色	ロクロナゲ	細削上方に吹付	—	—	—	
											灰色	ロクロナゲ					
140	2区	SD41	原発種	並・頭原	—	30.1	13.9	3/12	密	黒	黒色	ナゲ	—	—	—		
											灰色	ロクロナゲ					
141	2区	SD41	原発種	並・底原	—	3.2	12.0	2/12	密	黒	褐色	ナゲ	—	—	—		
											灰色	ロクロナゲ					
142	1区	SD41	原発種	後・頭原	—	2.8	21.6	1/12	密	魚	黒	黒	ロクロナゲ、ナゲ	—	—	—	
											灰色	ロクロナゲ					
143	1区	SD05 SD06	原発種	並・板原	—	2.1	11.0	2/12	密	魚	黒灰褐色	ナゲ	—	—	—		
											褐色	ロクロナゲ	自然吹付帶	—	—		
144	1区		原発種	並・尾原	—	1.9	13.8	1/12	密	魚	黒灰褐色	ナゲ	—	—	—		
											褐色	ロクロナゲ					
145	1区		原発種	並・板原	—	2.4	11.9	1/12以下	密	魚	黒灰褐色	ロクロナゲ	—	—	—		
											褐色	ロクロナゲ					
146	2区	SD41	原発種	並・板原	—	2.0	10.6	1/12	密	魚	黒灰褐色	ロクロナゲ	—	—	—		
											褐色	ロクロナゲ					
147	1区	SD01	原発種	並・尾原	—	3.85	9.4	2/12	密	魚	黒	黒	篠尻により倒壊不倒	—	—	—	
											灰色	ロクロナゲ、ナゲ					
148	1区		原発種	並・尾原	—	5.1	10.6	1/12	密	魚	黒	黒	ロクロナゲ	—	—	—	
											灰色	ロクロナゲ					
149	2区	SD02	原発種	並・底原	—	6.4	12.7	1/12	密	魚	黒	黒	ヘラギリ、底部無調整	—	—	—	
											灰色	ロクロナゲ					
150	1区		原発種	並・板原	—	3.6	8.9	3/12	所	魚	黒	黒	ロクロナゲ	内木屋に導葉	—	—	
											褐色	ロクロナゲ、ヘラギリ					
151	1区	SD02	原発種	並・板原	—	6.6	12.3	1/12	密	魚	黒	黒	ロクロナゲ	ナゲ、ロクロナゲ	—	—	—
											褐色	ロクロナゲ					
152	1区	SD02	原発種	並・尾原	—	5.6	13.6	1/12	密	魚	黒	黒	ロクロナゲ	—	—	—	
											褐色	ロクロナゲ					
153	2区		原発種	並・尾原	—	36.8	2.0	1/12	密	魚	黒	黒	ロクロナゲ	被覆文	—	—	—
											褐色	ロクロナゲ					
154	2区	SD02	原発種	並	36.1	3.05	—	1/12	密	魚	黒	黒	ロクロナゲ	被覆文	—	—	—
											褐色	ロクロナゲ					
155	2区	SD41	原発種	並	—	5.8	—	1/12以下	密	魚	黒	黒	ロクロナゲ	被覆文	—	—	—
											褐色	ロクロナゲ					
156	1区		原発種	並	—	18.6	4.8	—	2/12	魚	黒	黒	ロクロナゲ	—	—	—	
											褐色	ロクロナゲ					
157	1区		原発種	並	—	27.7	4.2	—	1/12	密	魚	黒	黒	篠尻により倒壊不倒	—	—	—
											褐色	ロクロナゲ					
158	2区	SD03	原発種	並	23.2	29.1	—	9/12	密	魚	黒	黒	ロクロナゲ、カキメ、平野タキメ	—	—	—	
											褐色	ロクロナゲ					
159	平野	平野	原発種	平原	26.4	2.2	—	1/12以下	密	魚	黒	黒	ロクロナゲ	—	—	—	
											褐色	ロクロナゲ					
160	1区	十郎番	原	22.3	4.0	—	1/12以下	密	魚	黒	在 bei 黄褐色	ロクロナゲ	—	—	—		
											褐色	ロクロナゲ、カキメ					
161	1区	々	二郎番	原	5.4	31.0	—	1/12以下	密	魚	在 bei 黄褐色	ロクロナゲ	—	—	—		
											褐色	ロクロナゲ					
162	1区	SD01	土駒駅	駒	33.5	2.93	—	1/12	密	魚	在 bei 黄褐色	ロクロナゲ	—	—	—		
											褐色	ロクロナゲ、カキメ					
163	1区		土駒駅	駒	44.6	6.9	—	1/12	密	魚	在 bei 黄褐色	ロクロナゲ	—	—	—		
											褐色	ロクロナゲ、カキメ					
164	1区	P02	土駒駅	駒	—	5.0	5.4	9/12	密	魚	在 bei 黄褐色	ロクロナゲ	内面ヌス付青	—	—	—	

No.	地区	地名	種類	群衆	生長(cm)			種	形	地質	地質 内面 外層	地質 内面 外層	備考	
					下葉	茎葉	花柱							
165	1区	三野屋	葉	12.0	2.4	—	1/12	舌	魚	にぶい真緑色 にぶい黄緑色 にぶい黄褐色	ロコナツデ 羅阿ツデ、鶴葉ヘザ ロコナツデ			
166	1区	三野屋	葉	13.0	5.4	—	1/12	舌	魚	にぶい黄褐色	ロコナツデ、白蘿井側面不規			
167	2区	SBD3	土野屋	葉	14.2	3.85	—	1/12	舌+唇	魚	灰褐色 灰黑色 灰黑色	ロコナツデ ロコナツデ ロコナツデ	外輪や中腹	
168	4区	SBD5	土野屋	葉	14.0	6.7	—	2/12	粗	魚	灰褐色 灰褐色 灰褐色	ロコナツデ、サギ ロコナツデ、カキモ		
169	1区	上野屋	葉	14.2	5.7	—	3/12	舌	魚	淡褐色 淡褐色	ロコナツデ ロコナツデ			
170	1区	SBD2	土野屋	葉	15.0	3.8	—	1/12	舌	魚	淡黃褐色 淡黃褐色	ロコナツデ、カキモ		
171	1区	土野屋	葉	16.8	2.5	—	2/12	粗	魚	灰褐色 にぶい暗赤色	ロコナツデ、頭鈍基しく側面小筋 ロコナツデ、ハタツ			
172	1区	土野屋	葉	19.0	5.1	—	1/12	舌	魚	灰褐色 灰褐色	ハケヌアツミによるナデ			
173	1区	SBD1	土野屋	葉	19.7	2.5	—	1/12以下	舌	魚	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ロコナツデ ロコナツデ		
174	1区	上野屋	葉	19.9	2.6	—	1/12	舌	魚	淡黃褐色	ロコナツデ			
175	1区	土野屋	根	—	1.5	3.9	3/12	舌	魚	淡褐色 淡褐色	ロコナツデ 羽軸柄毛なり			
176	2区	上野屋	根	—	1.25	7.7	3/12	舌	魚	淡黃褐色 淡黃褐色	ロコナツデ?側面不規 羽軸柄毛なり	外輪に赤筋		
177	2区	土野屋	根	10.0	4.1	3.4	3/12	舌	魚	褐色	ロコナツデ			
178	1区	P03	二野屋	根	11.8	2.6	4.6	6/12	舌	魚	網状物色 網状物色	ロコナツデ ロコナツデ		
179	1区	SBD6	二野屋	根	—	1.4	4.7	11/12	舌	魚	にぶい青緑色 淡褐色	ロコナツデ、頭軸毛切り		
180	2区	SBD2	土野屋	葉	—	2.1	4.3	6/12	舌	魚	淡黃褐色 淡黃褐色	ロコナツデ 頭軸毛切り		
181	2区	SBD2	土野屋	葉	—	1.8	5.2	5/12	舌	魚	にぶい暗赤色 にぶい暗赤色	ロコナツデ、底和葉切引		
182	2区		土野屋	葉	—	1.5	6.0	3/12	舌	魚	灰黃褐色 灰黃褐色	ロコナツデ		
183	1区		土野屋	根	—	1.9	5.4	3/12	舌	魚	にぶい暗赤色 にぶい暗赤色	ロコナツデ、頭軸毛切引		
184	2区	SBD3	土野屋	根	—	1.3	5.9	6/12	舌	魚	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	頭軸著しく側面不規、未分化		
185	2区		土野屋	根	—	1.7	7.0	3/12	舌	魚	にぶい黃褐色 淡褐色	ロコナツデ、頭軸毛切引		
186	1区	SBD5	上野屋	根	—	1.7	6.7	7/12	舌	魚	にぶい青緑色 にぶい青緑色	ロコナツデ?側面の葉側面不規		
187	1区		上野屋	根	—	1.75	6.2	1/12	舌	魚	淡褐色 淡褐色	ロコナツデ ロコナツデ、ハラビリ	船の日高台	
188	2区	SBD2	上野屋	葉	31.0	5.4	—	1/12以下	舌	魚	灰褐色 灰褐色	ナダ ナダ、タタキメ	山側部自然林行軍、駒 駒ヶ岳原生林	
189	1区	NB01	鷺洲	葉	41.4	10.7	—	1/12以下	舌	魚	灰色 灰色	ロコナツデ、複葉さき		
190	2区	NB104	鷺洲	葉	48.6	11.3	—	1/12以下	舌	魚	灰色 灰色	ナダ、複葉さき ナダ、タタキメ		
191	1区	SBD1	鷺洲	葉	42.7	6.2	—	1/12以下	舌	魚	淡黃褐色 淡黃褐色	ナダ ナダ、タタキメ	コモロ自然林行軍、駒 駒ヶ岳原生林	
192	2区		鷺洲	葉	106.8	6.8	—	1/12以下	舌	魚	灰色 灰色	ロコナツデ、複葉さき ロコナツデ、鷺洲鳥坂		
193	1区	SBD1	鷺洲	葉	97.6	4.9	—	1/12以下	舌	魚	灰色 灰色	ロコナツデ、複葉さき ロコナツデ、複葉さき		
194	2区	SBD2	鷺洲	葉	—	6.1	22.2	1/12以下	舌	魚	淡黃褐色 淡黃褐色	ロコナツデ ロコナツデ	三次林に適として被 用か?背面に硬毛でシ テウス葉になつてい	
195	2区	SBD1	鷺洲	葉	—	4.8	3.6	5/12	舌	魚	灰色 灰色	ロコナツデ ロコナツデ		
196	2区		鷺洲	葉	—	5.3	12.2	1/12	舌	魚	灰色 灰色	ロコナツデ、静止角方々 ロコナツデ		
197	1区	SBD3	鷺洲	葉	—	3.6	5.6	4/12	舌	魚	深紫色 深紫色	ロコナツデ ヘソ折り、静止角方々		

番	地名	種類	坪数	面積(cm)			販売年	施工年	施工M	位置 戸番 外観	便益 内刈 外刈	備考
				面積	深さ	幅						
199	1区	SD02	南側	片口耕	24.4	7.0	-	1/12	街	奥 底 高	ロクナガデ+オコシメ ロクナガデ	1条 1年=1年位
200	1区		南側	すり鉢	29.1	3.3	-	1/12以下	街	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ	3箇所オサエ、西側広 い
201	1区	SD01	北側	すり鉢	29.6	4.1	-	1/12	街	奥 底 高	ロクナガデ+オコシメ ロクナガデ	1条5本の単位のオロシ メ入り
202	1区		北側	片口耕	-	4.9	-		街	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ	3箇所狭めに段状
203	1区	SD01	東側	すり鉢	-	2.6	-	1/12以下	街	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ	ロクナガデ、オコシメ ロクナガデ、静止点切?
204	2区		東側	すり鉢	-	6.0	-	-	街	奥 底 高	ロクナガデ+オコシメ ロクナガデ、静止点切?	オシメ 5~7年半位 C1年位 (1条) か?
205	1区		東側	すり鉢	-	4.3	10.9	2/12	街	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ	
206	1区	SD02	東側	すり鉢	5.2	-	9.9	3/12	街	奥 底 高	ロクナガデ+オコシメ ロクナガデ	施用しているがオロシメアフ モロシメ
207	1区		東側	すり鉢	-	6.15	11.7	3/12	街	奥 底 高	ロクナガデ+オコシメ ロクナガデ	ロクナガデ、静止点切?
208	2区	SD03	東側	すり鉢	-	6.1	13.9	1/12	街	奥 底 高	ロクナガデ+オコシメ ロクナガデ	スス行方、おし日1条 1年で1年位か?
209	1区	SD02	東側	すり鉢	-	10.36	12.6	6/12	やや高	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ+オコシメ ロクナガデ	内刈地被使用による度 度か?
210	2区		東側	すり鉢	-	9.4	-	1/12	街	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ	ロクナガデ、オコシメ ロクナガデ
211	2区	SD02	土崎筋	丘	9.25	3.7	2.85	9/12	街	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ	
212	1区		土崎筋	丘	17.0	3.35	-	1/12	街	奥 底 高	ナダ+ヨコナガ ヨコナガ	
213	2区	SD02	土崎筋	丘	9.4	1.6	-	5/12	街	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ	
214	2区		土崎筋	丘	8.44	2.0	4.9	9/12	街	奥 底 高	ロコナガ ロコナガ	
215	2区	SD02	土崎筋	丘	8.7	1.6	6.2	1/12	街	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ	
216	2区	SD02	二郷筋	丘	9.6	2.42	4.5	11/12	石	奥 底 高	ロクナガデ+ナダ ロクナガデ	
217	2区	SD03	二郷筋	丘	9.9	2.1	5.23	1/12	街	奥 底 高	ロコナガ ロコナガ	
218	2区		二郷筋	丘	2.4	9.5	4.3	2/12	街	奥 底 高	ロコナガ ロコナガ	ロコナガ、西側不明
219	2区	SD02	二郷筋	丘	9.75	2.55	4.8	12/12	街	奥 底 高	ロクナガデ ロクナガデ	ロクナガデ、ナダ ロクナガデ
220	2区		七郷筋	丘	9.0	2.1	6.7	8/12	街	奥 底 高	ロクナガ ロコナガ	
221	2区		土崎筋	丘	1.6	7.5	-	3/12	街	奥 底 高	ロコナガ ロコナガ	ロコナガ、内刈り
222	1区	SD06	土崎筋	丘	-	1.9	-	6/12	街	奥 底 高	ロコナガ ロコナガ	ロコナガ
223	2区	SD02	土崎筋	丘	13.8	3.6	5.2	12/12	街	奥 底 高	ロクナガ ロクナガ	ロクナガ、ナダ
224	1区	SD01	土崎筋	丘	-	1.5	-	6/12	街	奥 底 高	ロコナガ ロコナガ	ロコナガ、ハケ状工具によるナダ
225	2区		土崎筋	丘	2.7	1.6	8.4	2/12	街	奥 底 高	ロコナガ ロコナガ	ロコナガ、ナダ+ヨコナガ
226	2区	SD03	七郷筋	丘	8.2	1.6	7.2	3/12	街	奥 底 高	ロクナガ ロクナガ	ロコナガ
227	2区		土崎筋	丘	7.4	1.95	-	3/12	街	奥 底 高	ロクナガ ロクナガ	ロクナガ
228	2区		土崎筋	丘	9.4	2.1	-	2/12	街	奥 底 高	ナダ+ヨコナガ ロコナガ	
229	2区	SD03	土崎筋	丘	8.8	2.5	-	2/12	街	奥 底 高	ロクナガ ロコナガ	ロコナガ、ナダ+オチエ
230	2区	SD03	土崎筋	丘	8.5	1.4	2.7	4/12	街	石 底 高	ロコナガ ロコナガ	整理している

No.	学名	被検名	標記	羽種	尺度(cm)			性別	繁殖期	個體	個體	個體	備考
					口幅	脚長	尾長						
231	2区		土井草	雄	9.0	1.95	4.7	♀	1/12	老	灰褐色	コクコナヅ	
										鳥	灰褐色	コクコナヅ、ナガ、白三	
232	2区		土井草	雄	8.1	2.3	—	♂	3/12	老	暗皮褐色	ココナヅ	
										鳥	暗皮褐色	ココナヅ、ナゲ	日暮鶴作風
233	1区	生吉浦	土井草	雄	7.8	1.7	—	♂	12/12	老	暗褐色	ナゾ、ココナヅ	
										鳥	暗褐色	ココナヅ、指サキ丸	
234	2区	5803	土井草	雄	11.3	2.1	—	♂	1/12以降	老	灰褐色	ココナヅ、指サキ丸	
										鳥	灰褐色	ココナヅ、指サキ丸	
235	2区	3804	青道	雄	18.7	4.8	—	♂	1/12	老	オリーブ灰褐色	—	
										鳥	オリーブ灰褐色	—	
236	3区		魚吹け	小雀	13.2	2.0	—	♂	1/12	老	灰褐色	—	
										鳥	灰褐色	—	
237	1区	3801	西戸平瀬	天子平瀬	11.6	2.7	—	♂	1/12	老	板調・灰白毛	—	
										鳥	板調・灰白毛	—	
238	1区	3801	酒戸美濃	天子茶碗	13.5	3.7	—	♂	1/12	老	板調・灰白毛	—	内外区分局
										鳥	板調・灰白毛	コクコナヅ	
239	1区		源戸高瀬	小野柳	6.9	2.92	3.15	♂	6/12	若	灰褐色	コクコナヅ	基部外側以外赤緋
										鳥	灰褐色	コクコナヅ、ヘラ削り	
240	2区	3803	南刀美瀬	音伊	6.4	4.1	6.9	♂	2/12	老	灰白色	コクコナヅ、赤毛り	外側上部赤緋
										鳥	灰白色	コクコナヅ	
241	2区	3803	南戸美濃	林	26.6	2.1	—	♂	1/12	老	灰褐色	コクコナヅ	赤緋
										鳥	灰褐色	コクコナヅ	
242	4区	北戸土器	火知	—	7.7	—	—	♂	3/12	老	暗褐色	コクコナヅ	
										鳥	暗褐色	コクコナヅ、梅花印	
243	1区	北戸土器	火知	—	3.65	18.0	1/12	老	鳥	墨色	コクコナヅ	西面	
										鳥	墨色	コクコナヅ、ナゲ	西面に「火」の跡跡
244	1区		浦中瀬戸	里	—	1.1	3.6	4/12	若	灰	板調・灰色	コクコナヅ、墨羽文	
										灰	板調・灰色	剥り	
245	2区		浦中瀬戸	里	—	1.4	4.2	4/12	若	鳥	にぶい墨色	コクコナヅ	
										鳥	にぶい墨色	剥り出し	
246	2区		浦中瀬戸	里	—	2.15	3.6	4/12	若	灰	半褐色	コクコナヅ	赤緋
										灰	半褐色	コクコナヅ	
247	1区	3801	越斗瀬戸	江	—	1.3	4.6	1/12	老	灰	板調・灰褐色	コクコナヅ	内面汚染重ね焼きの跡、口輪、花形
										鳥	板調・灰褐色	コクコナヅ、赤毛り	
248	2区	3801	越斗瀬戸	江	—	1.6	4.2	3/12	若	真	板調	コクコナヅ、毛だら高台	赤緋
										鳥	板調	コクコナヅ、毛だら高台	
249	1区		越斗瀬戸	里	—	1.95	3.9	2/12	若	灰	板調	コクコナヅ	赤緋
										鳥	板調	コクコナヅ、ヘラ削り	赤部以外赤緋
250	2区	3801	越斗瀬戸	里	10.6	2.3	5.6	1/12	老	灰	板調・リブ色	コクコナヅ	内外区分局
										鳥	板調・リブ色	コクコナヅ	
251	1区	3801	越斗瀬戸	里	12.4	2.5	7.0	9/12	老	真	板調	コクコナヅ	内外区分局、淡褐色
										鳥	板調	コクコナヅ、ヘラ削り	赤緋
252	1区	3801	越斗瀬戸	里	—	2.15	4.1	1/12	老	板調・赤褐色	コクコナヅ	赤込みに達ね焼きの跡	
										鳥	板調	コクコナヅ、ヘラ削り	
253	不明	不明	越斗瀬戸	里	—	2.0	4.2	—	若	真	板調・リブ色	不明	内面灰褐色
										鳥	板調	ケズリ	
254	1区	3803	越斗瀬戸	里	23.4	2.95	—	1/12	密	真	板調灰褐色	コクコナヅ	
										鳥	板調灰褐色	コクコナヅ	
255	2区		唐津	鰐	—	2.25	9.6	3/12	若	真	板調灰褐色	コクコナヅ	
										鳥	板調灰褐色	コクコナヅ、ケズリ	
256	2区	3801	唐津	鰐	27.2	3.5	—	1/12	老	真	板調	コクコナヅ	
										鳥	板調	コクコナヅ	
257	1区	3802	唐津	鰐	13.54	3.4	—	1/12	密	鳥	板白	コクコナヅ	
										鳥	板白	コクコナヅ	
258	2区	3802	唐津	つまみ	—	1.1	—	—	密	鳥	板褐色	—	合子なし水槽の荷
										鳥	板褐色	—	合子なし

木製品

No.	地区	遺構名	種別	測量			備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	
268	2区	S303	下駄	23.6	6.7	1.6	半分欠損
269	2区	S303	系地	8.9	2.7	1.6	下端欠損
267	2区	S302	削物	14.5	3.5	2.2	上長辺の所か、奥辺の厚さは3.9cm
259	1区	S303	腰袋大薙刀	22.7	3.0	0.8	刃面にキズ多岐、軸用の凹部生存
261	1区	S303	腰袋大薙刀	11.1	6.7	0.6	刃部分が欠缺
266	1区	S303	魚物(玉板)	15.9	8.3	0.7	縦じ目一剖壊る
262	1区	S302	漆器皿	口径 8.5	器高 1.3	底径 3.9	漆色暗、部分欠損
264	1区	S302	漆器皿	口径 3.9	器高 1.8	底径 一	器台とこねは欠缺、裏側は素地。内外面は黒色厚、底面の火は漆器のものか?
261	1区	S303	六芦柿(直物)	53.5	3.3	0.4	カビキあり
262	1区	S303	六芦柿(直物)	60.3	4.3	0.4	
260	1区	S303	直物	7.1	11.6	0.4	カビキあり
270	2区	包含層	串状木製品	41.4	3.6	2.5	一部壊化

報告書抄録

ふりがな	しもさのいせきらようさほうこく						
書名	下佐野遺跡調査報告Ⅱ						
副書名	県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査						
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第23冊						
発行機関	高岡市教育委員会						
編集機関	高岡市教育委員会						
原案等作成	19~21年度 株式会社エイ・テック 楠谷 潤 22年度 株式会社アーキジオ 上野 章・鈴谷 恵子・渡辺 哲氣						
発行年月日	西暦2011年3月						
ふりがな 所収遺跡名	所在地 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° °'	東経 ° °'	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
しもさのいせき 下佐野遺跡	富山県 高岡市 佐野	16202 202151	36° 43° 41°	136° 59° 30°	040801 ~ 050330	2,925m ²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
下佐野遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 平安時代 中世 近世	方形周溝墓5基、掘立柱建物11棟、櫛4 条、井戸5基、溝状 遺構47条、土坑102 基、自然流路2条	弥生土器、土師器、 須恵器、珠洲、中世 土師器、漸戸美濃、 越中瀬戸、土鉢、木 製品、金属製品	弥生時代後 期の方形周 溝墓と古代 の掘立柱建 物の検出		

高岡市埋蔵文化財調査報告 第23冊

下佐野遺跡調査報告Ⅱ

— 県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査 —

2011年3月

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

印刷所 平田印刷株式会社

富山県高岡市野村1485番地

